

---

久喜市

---

# 栗橋宿跡 VI

---

首都圏氾濫区域堤防強化対策における  
埋蔵文化財発掘調査報告  
(第2分冊)

2022

国土交通省 関東地方整備局  
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 目次

## (第1分冊)

巻頭写真

序

例言

凡例

目次

### I 発掘調査の概要 ..... 1

1 発掘調査に至る経過 ..... 1

2 発掘調査・報告書作成の経過 ..... 2

(1) 発掘調査 ..... 2

(2) 整理・報告書の作成 ..... 2

3 発掘調査・報告書作成の組織 ..... 3

### II 遺跡の立地と環境 ..... 5

1 地理的環境 ..... 5

2 歴史的環境 ..... 7

(1) 中世の栗橋とその周辺 ..... 7

(2) 近世の栗橋とその周辺 ..... 11

(3) 栗橋宿の様子 ..... 14

(4) 近世から近代への栗橋 ..... 17

### III 遺跡の概要 ..... 19

### IV 遺構と遺物 ..... 39

1 第一面の遺構と遺物

(1) 建物跡 ..... 39

(2) 基礎状遺構 ..... 65

(3) 埋設桶 ..... 70

(4) 埋設甕 ..... 84

(5) 杭列 ..... 85

(6) 木樋 ..... 92

(7) 溝跡 ..... 92

(8) 焼土遺構 ..... 109

(9) 土壇 ..... 115

①区画AAの土壇 ..... 115

②区画ABの土壇 ..... 115

③区画ACの土壇 ..... 148

④区画ADの土壇 ..... 205

### (第2分冊)

⑤区画AEの土壇 ..... 255

⑥区画AFの土壇 ..... 360

⑦区画AGの土壇 ..... 441

(10) ビット ..... 500

(11) 遺構外出土遺物 ..... 502

### 2 第二面の遺構と遺物

(1) 建物跡 ..... 516

(2) 埋設桶 ..... 517

(3) 井戸跡 ..... 525

(4) 溝跡 ..... 547

(5) 性格不明遺構 ..... 550

### (第3分冊)

(6) 土壇 ..... 551

①区画AAの土壇 ..... 551

②区画ABの土壇 ..... 572

③区画ACの土壇 ..... 631

④区画ADの土壇 ..... 669

⑤区画AEの土壇 ..... 677

⑥区画AFの土壇 ..... 699

⑦区画AGの土壇 ..... 710

(7) ビット ..... 715

(8) 遺構外出土遺物 ..... 719

### 3 第三面の遺構と遺物

(1) 建物跡 ..... 733

(2) 溝跡 ..... 734

(3) 畝跡 ..... 743

(4) 小鍛冶跡 ..... 745

(5) 土壇 ..... 746

①区画 AA の土壌	746
②区画 AB の土壌	756
③区画 AC の土壌	759
④区画 AD の土壌	766
⑤区画 AE の土壌	894
⑥区画 AF の土壌	904
⑦区画 AG の土壌	920
(6) ビット	925
(7) 遺構外出土遺物	925
4 文字資料	933
5 出土遺物一覧表と遺構の時期	941

V 自然科学分析	997
1 堆積物微細構造軟X線分析 (1)	997
2 砂粒組成分析・粒度分析 (1)	1003
3 堆積物微細構造軟X線分析 (2)	1008
4 砂粒組成分析・粒度分析 (2)	1012
5 火山灰分析	1017
6 寄生虫卵分析	1019
7 花粉分析	1025
VI 調査のまとめ	1027
(第4分冊)	
写真図版	

## 挿図目次

### (第2分冊)

第179図 区画 AE 土壌 (1)	257
第180図 第269号土壌出土遺物	258
第181図 区画 AE 土壌 (2)	260
第182図 区画 AE 土壌 (3)	261
第183図 区画 AE 土壌 (4)	262
第184図 区画 AE 土壌 (5)	263
第185図 区画 AE 土壌 (6)	264
第186図 区画 AE 土壌 (7)	265
第187図 区画 AE 土壌 (8)	266
第188図 区画 AE 土壌 (9)	267
第189図 区画 AE 土壌出土遺物 (1)	268
第190図 区画 AE 土壌出土遺物 (2)	269
第191図 区画 AE 土壌出土遺物 (3)	270
第192図 区画 AE 土壌出土遺物 (4)	271
第193図 区画 AE 土壌出土遺物 (5)	272
第194図 区画 AE 土壌出土遺物 (6)	273
第195図 区画 AE 土壌出土遺物 (7)	274
第196図 区画 AE 土壌出土遺物 (8)	275
第197図 区画 AE 土壌出土遺物 (9)	276
第198図 区画 AE 土壌出土遺物 (10)	277
第199図 区画 AE 土壌出土遺物 (11)	278
第200図 区画 AE 土壌出土遺物 (12)	279
第201図 区画 AE 土壌出土遺物 (13)	280
第202図 区画 AE 土壌出土遺物 (14)	281
第203図 区画 AE 土壌出土遺物 (15)	282
第204図 区画 AE 土壌出土遺物 (16)	283
第205図 区画 AE 土壌出土遺物 (17)	284
第206図 区画 AE 土壌出土遺物 (18)	285
第207図 区画 AE 土壌出土遺物 (19)	286
第208図 区画 AE 土壌出土遺物 (20)	287
第209図 区画 AE 土壌出土遺物 (21)	288
第210図 区画 AE 土壌出土遺物 (22)	289
第211図 区画 AE 土壌出土遺物 (23)	290
第212図 区画 AE 土壌出土遺物 (24)	291
第213図 区画 AE 土壌出土遺物 (25)	292
第214図 区画 AE 土壌出土遺物 (26)	293
第215図 区画 AE 土壌出土遺物 (27)	294
第216図 区画 AE 土壌出土遺物 (28)	295
第217図 区画 AE 土壌出土遺物 (29)	296
第218図 区画 AE 土壌出土遺物 (30)	297
第219図 区画 AE 土壌出土遺物 (31)	298
第220図 区画 AE 土壌出土遺物 (32)	299
第221図 区画 AE 土壌出土遺物 (33)	300
第222図 区画 AE 土壌出土遺物 (34)	301
第223図 区画 AE 土壌出土遺物 (35)	302
第224図 区画 AE 土壌出土遺物 (36)	303

第225图	区画 AE 土墙出土遗物 (37) ……	304	第282图	区画 AE 土墙出土遗物 (74) ……	357
第226图	区画 AE 土墙出土遗物 (38) ……	305	第283图	区画 AE 土墙出土遗物 (75) ……	358
第227图	区画 AE 土墙出土遗物 (39) ……	306	第284图	区画 AE 土墙出土遗物 (76) ……	360
第228图	区画 AE 土墙出土遗物 (40) ……	307	第285图	区画 AF 土墙 (1) ……	363
第229图	区画 AE 土墙出土遗物 (41) ……	308	第286图	第154号土墙出土遗物 ……	364
第230图	区画 AE 土墙出土遗物 (42) ……	309	第287图	第156号土墙出土遗物 ……	365
第231图	区画 AE 土墙出土遗物 (43) ……	310	第288图	第160号土墙出土遗物 (1) ……	366
第232图	区画 AE 土墙出土遗物 (44) ……	311	第289图	第160号土墙出土遗物 (2) ……	367
第233图	区画 AE 土墙出土遗物 (45) ……	312	第270图	第229号土墙出土遗物 (1) ……	369
第234图	区画 AE 土墙出土遗物 (46) ……	313	第271图	第229号土墙出土遗物 (2) ……	370
第235图	区画 AE 土墙出土遗物 (47) ……	314	第272图	第229号土墙出土遗物 (3) ……	371
第236图	区画 AE 土墙出土遗物 (48) ……	324	第273图	第229号土墙出土遗物 (4) ……	372
第237图	区画 AE 土墙出土遗物 (49) ……	325	第274图	第229号土墙出土遗物 (5) ……	373
第238图	区画 AE 土墙出土遗物 (50) ……	326	第275图	第245号土墙出土遗物 ……	376
第239图	区画 AE 土墙出土遗物 (51) ……	327	第276图	第259号土墙出土遗物 (1) ……	377
第240图	区画 AE 土墙出土遗物 (52) ……	329	第277图	第259号土墙出土遗物 (2) ……	378
第241图	区画 AE 土墙出土遗物 (53) ……	330	第278图	第259号土墙出土遗物 (3) ……	379
第242图	区画 AE 土墙出土遗物 (54) ……	331	第279图	第259号土墙出土遗物 (4) ……	380
第243图	区画 AE 土墙出土遗物 (55) ……	333	第280图	第259号土墙出土遗物 (5) ……	381
第244图	区画 AE 土墙出土遗物 (56) ……	334	第281图	第259号土墙出土遗物 (6) ……	382
第245图	区画 AE 土墙出土遗物 (57) ……	335	第282图	区画 AF 土墙 (2) ……	387
第246图	区画 AE 土墙出土遗物 (58) ……	336	第283图	第220号土墙出土遗物 (1) ……	388
第247图	区画 AE 土墙出土遗物 (59) ……	338	第284图	第220号土墙出土遗物 (2) ……	389
第248图	区画 AE 土墙出土遗物 (60) ……	339	第285图	第220号土墙出土遗物 (3) ……	390
第249图	区画 AE 土墙出土遗物 (61) ……	340	第286图	第221号土墙出土遗物 (1) ……	393
第250图	区画 AE 土墙出土遗物 (62) ……	341	第287图	第221号土墙出土遗物 (2) ……	394
第251图	区画 AE 土墙出土遗物 (63) ……	342	第288图	第221号土墙出土遗物 (3) ……	395
第252图	区画 AE 土墙出土遗物 (64) ……	343	第289图	第221号土墙出土遗物 (4) ……	396
第253图	区画 AE 土墙出土遗物 (65) ……	344	第290图	第221号土墙出土遗物 (5) ……	397
第254图	区画 AE 土墙出土遗物 (66) ……	346	第291图	第221号土墙出土遗物 (6) ……	398
第255图	区画 AE 土墙出土遗物 (67) ……	347	第292图	第253号土墙出土遗物 (1) ……	402
第256图	区画 AE 土墙出土遗物 (68) ……	348	第293图	第253号土墙出土遗物 (2) ……	403
第257图	区画 AE 土墙出土遗物 (69) ……	349	第294图	区画 AF 土墙 (3) ……	405
第258图	区画 AE 土墙出土遗物 (70) ……	350	第295图	区画 AF 土墙 (4) ……	406
第259图	区画 AE 土墙出土遗物 (71) ……	351	第296图	区画 AF 土墙 (5) ……	407
第260图	区画 AE 土墙出土遗物 (72) ……	355	第297图	区画 AF 土墙 (6) ……	408
第261图	区画 AE 土墙出土遗物 (73) ……	356	第298图	区画 AF 土墙 (7) ……	409

第299区	区画AF土壌(8)……………	410	第336区	第264号土壌出土遺物(4)……	455
第300区	区画AF土壌出土遺物(1)……	411	第337区	区画AG土壌(2)……………	458
第301区	区画AF土壌出土遺物(2)……	412	第338区	第203号土壌出土遺物(1)……	459
第302区	区画AF土壌出土遺物(3)……	413	第339区	第203号土壌出土遺物(2)……	460
第303区	区画AF土壌出土遺物(4)……	414	第340区	第203号土壌出土遺物(3)……	461
第304区	区画AF土壌出土遺物(5)……	415	第341区	第203号土壌出土遺物(4)……	462
第305区	区画AF土壌出土遺物(6)……	416	第342区	第203号土壌出土遺物(5)……	463
第306区	区画AF土壌出土遺物(7)……	417	第343区	第203号土壌出土遺物(6)……	464
第307区	区画AF土壌出土遺物(8)……	418	第344区	第203号土壌出土遺物(7)……	465
第308区	区画AF土壌出土遺物(9)……	419	第345区	第203号土壌出土遺物(8)……	466
第309区	区画AF土壌出土遺物(10)……	420	第346区	第203号土壌出土遺物(9)……	467
第310区	区画AF土壌出土遺物(11)……	421	第347区	第203号土壌出土遺物(10)…	468
第311区	区画AF土壌出土遺物(12)……	422	第348区	第203号土壌出土遺物(11)…	469
第312区	区画AF土壌出土遺物(13)……	423	第349区	第203号土壌出土遺物(12)…	470
第313区	区画AF土壌出土遺物(14)……	424	第350区	第203号土壌出土遺物(13)…	471
第314区	区画AF土壌出土遺物(15)……	429	第351区	第203号土壌出土遺物(14)…	472
第315区	区画AF土壌出土遺物(16)……	430	第352区	第203号土壌出土遺物(15)…	473
第316区	区画AF土壌出土遺物(17)……	432	第353区	第203号土壌出土遺物(16)…	474
第317区	区画AF土壌出土遺物(18)……	432	第354区	第203号土壌出土遺物(17)…	475
第318区	区画AF土壌出土遺物(19)……	433	第355区	第203号土壌出土遺物(18)…	476
第319区	区画AF土壌出土遺物(20)……	434	第356区	区画AG土壌(3)……………	484
第320区	区画AF土壌出土遺物(21)……	435	第357区	区画AG土壌(4)……………	485
第321区	区画AF土壌出土遺物(22)……	437	第358区	区画AG土壌(5)……………	486
第322区	区画AF土壌出土遺物(23)……	438	第359区	区画AG土壌出土遺物(1)……	487
第323区	区画AF土壌出土遺物(24)……	439	第360区	区画AG土壌出土遺物(2)……	488
第324区	区画AF土壌出土遺物(25)……	440	第361区	区画AG土壌出土遺物(3)……	489
第325区	区画AF土壌出土遺物(26)……	441	第362区	区画AG土壌出土遺物(4)……	490
第326区	区画AG土壌(1)……………	443	第363区	区画AG土壌出土遺物(5)……	492
第327区	第194号土壌出土遺物(1)……	444	第364区	区画AG土壌出土遺物(6)……	493
第328区	第194号土壌出土遺物(2)……	445	第365区	区画AG土壌出土遺物(7)……	494
第329区	第194号土壌出土遺物(3)……	446	第366区	区画AG土壌出土遺物(8)……	495
第330区	第261号土壌出土遺物(1)……	448	第367区	区画AG土壌出土遺物(9)……	496
第331区	第261号土壌出土遺物(2)……	449	第368区	区画AG土壌出土遺物(10)……	498
第332区	第262号土壌出土遺物……………	451	第369区	区画AG土壌出土遺物(11)……	499
第333区	第264号土壌出土遺物(1)……	452	第370区	区画AG土壌出土遺物(12)……	499
第334区	第264号土壌出土遺物(2)……	453	第371区	区画AG土壌出土遺物(13)……	500
第335区	第264号土壌出土遺物(3)……	454	第372区	ビット……………	501

第373図	ピット出土遺物	502	第394図	井戸跡(2)	527
第374図	遺構外出土遺物(1)	503	第395図	井戸跡(3)	528
第375図	遺構外出土遺物(2)	504	第396図	井戸跡(4)	529
第376図	遺構外出土遺物(3)	505	第397図	井戸跡(5)	530
第377図	遺構外出土遺物(4)	507	第398図	井戸跡(6)	531
第378図	遺構外出土遺物(5)	508	第399図	井戸跡(7)	532
第379図	遺構外出土遺物(6)	509	第400図	井戸跡(8)	533
第380図	遺構外出土遺物(7)	510	第401図	井戸跡(9)	534
第381図	遺構外出土遺物(8)	511	第402図	井戸跡(10)	535
第382図	遺構外出土遺物(9)	512	第403図	井戸跡(11)	536
第383図	遺構外出土遺物(10)	514	第404図	井戸跡(12)	537
第384図	第二面区画参考図	515	第405図	井戸跡(13)	538
第385図	第5号建物跡	516	第406図	井戸跡出土遺物(1)	539
第386図	第5号建物跡出土遺物	517	第407図	井戸跡出土遺物(2)	540
第387図	埋設桶(1)	518	第408図	井戸跡出土遺物(3)	541
第388図	埋設桶(2)	519	第409図	井戸跡出土遺物(4)	542
第389図	埋設桶(3)	520	第410図	井戸跡出土遺物(5)	543
第390図	埋設桶出土遺物(1)	521	第411図	井戸跡出土遺物(6)	544
第391図	埋設桶出土遺物(2)	522	第412図	溝跡	548
第392図	埋設桶出土遺物(3)	523	第413図	溝跡出土遺物	549
第393図	井戸跡(1)	526	第414図	性格不明遺構	550

## 表目次

### (第2分冊)

第50表	第一面区画AE土壌一覧表	256	第57表	区画AE土壌出土遺物観察表(6)	344
第51表	第269号土壌出土遺物観察表	259	第58表	区画AE土壌出土遺物観察表(7)	352
第52表	区画AE土壌出土遺物観察表(1)	315	第59表	区画AE土壌出土遺物観察表(8)	355
第53表	区画AE土壌出土遺物観察表(2)	324	第60表	区画AE土壌出土遺物観察表(9)	359
第54表	区画AE土壌出土遺物観察表(3)	327	第61表	区画AE土壌出土遺物観察表(10)	360
第55表	区画AE土壌出土遺物観察表(4)	332	第62表	第一面区画AF土壌一覧表	361
第56表	区画AE土壌出土遺物観察表(5)	336	第63表	第154号土壌出土遺物観察表	364

第64表	第156号土壌出土遺物観察表 …	365	第88表	区画AG土壌出土遺物観察表(2)	492
第65表	第160号土壌出土遺物観察表 …	367	第89表	区画AG土壌出土遺物観察表(3)	493
第66表	第229号土壌出土遺物観察表 …	374	第90表	区画AG土壌出土遺物観察表(4)	497
第67表	第245号土壌出土遺物観察表 …	376	第91表	区画AG土壌出土遺物観察表(5)	498
第68表	第259号土壌出土遺物観察表 …	383	第92表	区画AG土壌出土遺物観察表(6)	499
第69表	第220号土壌出土遺物観察表 …	391	第93表	区画AG土壌出土遺物観察表(7)	499
第70表	第221号土壌出土遺物観察表 …	399	第94表	区画AG土壌出土遺物観察表(8)	500
第71表	第253号土壌出土遺物観察表 …	403	第95表	第一面ビット一覧表 ……	500
第72表	区画AF土壌出土遺物観察表(1)	425	第96表	ビット出土遺物観察表 ……	502
第73表	区画AF土壌出土遺物観察表(2)	429	第97表	遺構外出土遺物観察表(1) ……	506
第74表	区画AF土壌出土遺物観察表(3)	431	第98表	遺構外出土遺物観察表(2) ……	507
第75表	区画AF土壌出土遺物観察表(4)	432	第99表	遺構外出土遺物観察表(3) ……	508
第76表	区画AF土壌出土遺物観察表(5)	436	第100表	遺構外出土遺物観察表(4) ……	508
第77表	区画AF土壌出土遺物観察表(6)	438	第101表	遺構外出土遺物観察表(5) ……	511
第78表	区画AF土壌出土遺物観察表(7)	438	第102表	遺構外出土遺物観察表(6) ……	513
第79表	区画AF土壌出土遺物観察表(8)	440	第103表	遺構外出土遺物観察表(7) ……	514
第80表	区画AF土壌出土遺物観察表(9)	441	第104表	第二面建物跡一覧表 ……	516
第81表	第一面区画AG土壌一覧表 ……	442	第105表	第5号建物跡出土遺物観察表 …	517
第82表	第194号土壌出土遺物観察表 …	447	第106表	第二面埋設桶一覧表 ……	517
第83表	第261号土壌出土遺物観察表 …	450	第107表	埋設桶出土遺物観察表 ……	524
第84表	第262号土壌出土遺物観察表 …	451	第108表	第二面井戸跡一覧表 ……	525
第85表	第264号土壌出土遺物観察表 …	456	第109表	井戸跡出土遺物観察表 ……	545
第86表	第203号土壌出土遺物観察表 …	477	第110表	第二面溝跡一覧表 ……	547
第87表	区画AG土壌出土遺物観察表(1)	491	第111表	溝跡出土遺物観察表 ……	549
			第112表	第二面性格不明遺構一覧表 ……	550

#### ⑤区画 AE の土壌 (第 179～264 図)

区画 AE は第 2 号溝跡より南、第 5 号杭列より北に位置し、『絵図』にみえる「旅籠屋 / 太左衛門」、『営業便覧』にみえる「吉田作二郎」の区画である。「太左衛門」は、文政十年 (1827) に編纂された『諸國道中商人鑑』にみえる「吉田屋 / 太左衛門」であり、栗橋宿第 8 地点の遺構からは、「吉田屋」、「田」等の染付銘磁器が多数出土している。

敷地面積は AA～AD の各区画のおおよそ 2 倍に相当し、出土している「吉田屋」銘染付磁器の存在から、宿内でも特徴的な区画であり、『絵図』との対比においても対比の基準とすることができる区画である。

土壌は 70 基検出された。AB～AD の各区画より検出土壌数が多いが、これは敷地の広さに比例しているためと考えられる。検出された土壌のうち、第 329 号土壌は区画施設である第 5 号杭列と重複する。

遺構は敷地の南側に集中するが、北西部にある第 1 号建物跡と極めて多くの土壌との重複がみられる。一方で第 6 号建物跡の重複土壌は少ない。平面形態はおおよそ長方形を呈するものが多く、長軸方向は日光道中と直交する方向に向く傾向がある。

本区画で抽出した土壌は第 269 号土壌で、第 179 図に遺構図、第 180 図に出土遺物を示した。非抽出となった土壌は第 181～188 図に遺構図、第 189～264 図に出土遺物を示した。第 50 表には位置・規模等の基本的な情報を示した。

#### 第 269 号土壌 (第 179・180 図)

F 7-E 8 グリッドに位置し、第 135・267・268 号土壌と重複する。多くの土壌と重複するため、平面形は不詳であるが、隅丸方形・長方形を呈する可能性がある。検出長軸 1.6 m、短軸 0.85 m、深さ 0.65 m を測り、長軸方位は N-15°-W を指す。

出土遺物は一定量あり、瀬戸美濃系磁器の湯呑

形碗、端反形碗を主体とし、瀬戸美濃系磁器の陽刻文型皿 (第 180 図 7) を最新とする。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 180 図 1 は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。口縁部の反りが強い。焼継痕がみられ、高台内に朱書きの焼継印が認められる。2 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。外面に陰刻文染付が施される。

3・4 は肥前系磁器の内面染付一枚絵の手塩皿である。3 は 4 と同様に輪花状の口縁を呈する可能性がある。5 は肥前系磁器で、高台高が高い蛇ノ目凹形高台の皿である。内面に山水樓閣文染付がみられ、口縁部は輪花状に成形されている。

6 は肥前系磁器の中皿で、内面染付一枚絵の墨弾き文染付がみられる。焼継痕がみられる。

7 は瀬戸美濃系磁器の型皿である。型成形で、内面に陽刻状文染付がみられる。焼継痕がみられ、高台内に朱書きの焼継印が認められる。

8 は瀬戸美濃系磁器の瓶子形御神酒徳利である。外面に瑠璃釉が施軸される。

9 は貫入が大きく入る糠白釉が施軸された土瓶の蓋で、大塚相馬系陶器の可能性がある。

10 はかわらけ小皿で、強い酸化焙焼成で赤褐色を呈する。胎土は角閃石を含む砂質である。

11～13 は木製品で、11 は漆椀の蓋である。横木取りで、内面に赤漆、外面に黒漆が塗布される。12 は木札と推定され、墨痕が認められる。13 は行灯の部材で、黒漆が塗布されている。裏面に横木を付けた痕跡がみられる。

14 は銅製の新寛永通寶である。

#### 第 128 号土壌 (第 187・220・236・238・241・249・257・262 図)

F 7-E 6・E 7 グリッドに位置する。第 127 号土壌より古く、第 256 土壌より新しい。平面形は、隅丸長方形と推定され、検出長軸 1.25 m、短軸 0.65 m、深さ 0.6 m を測る。長軸方位は N-18°-W を指す。



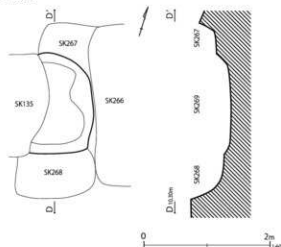
第50表 第一面区画AE土壌一覧表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	棟号
60	F7-D7	隅丸長方形	2.90	1.35	0.45	N-73° -E	SB3より新 SK286と重複	181
70	F7-D6・7	不整形	2.00	1.40	0.35	N-68° -E	SB3より新	181
80	F7-D・E6	不整形	3.75	2.50	0.50	N-22° -W	SB3より新 SK84と重複 SK86と隣接	181
83	F7-E6	隅丸長方形	2.65	1.45	0.25	N-15° -W	埋橋2より古 SK85より新 SB3と重複	181
84	F7-D・E6	不整形	1.35	0.85	0.30	N-58° -W	SK86より新 SB3・SK80と重複	181
85	F7-E6	不明	(1.10)	1.00	0.45	N-74° -E	SK83・84より古 SB3と重複	181
86	F7-E6	不整形	2.05	1.50	0.20	N-16° -W	SK87より新 SB3と重複 SK80と隣接	182
87	F7-D6・7	隅丸長方形	1.30	1.20	0.50	N-20° -W	SK86より古 SK88より新 SB3と重複	182
88	F7-D7	隅丸長方形	1.60	1.40	0.30	N-13° -W	SK87より古 SB3・SK129と重複	182
92	F7-D・E7	楕円形	1.50	0.60	0.20	N-25° -W	SK93・SD6～9より新	182
93	F7-D・E7	不整隅丸長方形	(3.20)	0.85	0.40	N-74° -E	SK92より古 SD6・7より新 SB3と重複	182
94	F7-D・E7	隅丸長方形	2.95	1.00	0.45	N-70° -E	SD8・9より新 SB3と重複	182
96	F7-E7	隅丸長方形	2.90	1.80	0.30	N-72° -E	SB3・SD7～10より新	182
97	F7-D7	不整形	1.90	1.45	0.45	N-72° -E	SB3より新	182
98	F7-D7	隅丸長方形	2.30	1.70	0.45	N-18° -W		183
99	F7-D8	隅丸長方形	1.75	1.40	0.90	N-70° -E	SK265・270と重複	183
102	F7-E7	隅丸長方形	1.35	1.15	0.50	N-70° -E	SK108より新	183
103	F7-E6	不明	(1.10)	1.15	0.40	N-72° -E	SK104より新	183
104	F7-E6	不明	(1.55)	1.10	0.65	N-81° -E	SK103より古	183
105	F7-E6	不明	(1.55)	1.35	0.85	N-74° -E		183
106	F7-E6	楕円形	0.90	0.85	0.15	N-65° -E		183
107	F7-E6	隅丸長方形	1.45	1.00	0.85	N-75° -E	SK318と重複	184
108	F7-E7	不整隅丸長方形	1.30	(1.20)	1.00	N-84° -E	SK102より古 SK256より新	183
109	F7-E6・7	隅丸長方形	1.70	0.75	0.40	N-68° -E	SK110より古	184
110	F7-E6・7	隅丸長方形	2.25	1.35	0.75	N-66° -E	SK109より新	184
112	F7-E7	隅丸長方形	1.90	1.15	0.20	N-74° -E	SD12より新	184
113	F7-E7	隅丸長方形	2.20	1.10	0.70	N-72° -E	SK134より古 SD11・12より新	184
114	F7-D7・8	隅丸長方形	(2.20)	1.20	0.75	N-70° -E	SB6・SK121と重複	185
115	F7-D8	長楕円形	2.75	1.20	0.70	N-11° -W	SB6・SD4と重複	184
116	F7-E8	不明	(1.40)	1.00	0.50	N-72° -E	SK303より新 SK135・302と重複	186
117	F7-E8	不明	2.40	—	0.55	計測不能	SK329より新 SK119と重複	186
118	F7-E8	楕円形	1.75	0.80	0.60	N-65° -E	SK132と重複	185
119	F7-E7・8	不明	3.15	—	0.70	計測不能	SK117・132・329と重複	186
120	F7-D・E7	隅丸長方形	3.30	1.05	0.30	N-70° -E	SK131より新	187
121	F7-D7・8	隅丸長方形	[4.45]	0.75	0.40	N-20° -W	SB6・SK114と重複	185
123	F7-E6	楕円形	0.60	(0.40)	0.20	N-4° -W	SK124より古	187
124	F7-E6	楕円形	0.70	0.45	0.10	N-63° -E	SK123より新	187
125	F7-E6・7	隅丸長方形	1.45	0.70	0.36	N-67° -E	SK256と重複 SK128と隣接	187
127	F7-E6・7	楕円形	1.05	0.65	0.35	N-87° -W	SK128より新 SK256と重複	187
128	F7-E6・7	隅丸長方形	(1.25)	0.65	0.60	N-18° -W	SK127より古 SK256より新 SK125と隣接	187
129	F7-D7	隅丸長方形	1.80	0.65	0.15	N-70° -E	SB3・SK88と重複	187
131	F7-E7	隅丸長方形	2.60	(1.40)	0.45	N-70° -E	SK120より古	187
132	F7-E7・8	隅丸長方形	1.15	1.00	0.70	N-71° -E	SK118・119と重複	185
133	F7-E7	楕円形	0.80	0.50	0.30	N-23° -W		187
134	F7-E7	不整形	1.85	1.75	0.35	N-77° -E	SD10・11・SK113より新	184
135	F7-E8	楕円形	1.65	1.20	0.80	N-17° -W	SK116・268・269・303と重複	186
248	F7-E7	不整形	1.80	1.65	0.60	N-20° -W	SK249と重複	187
249	F7-E7	不整形	(2.80)	2.50	0.25	N-85° -E	埋橋12より古 SK248と重複	187
256	F7-E7	不整形	(2.95)	2.00	0.45	N-78° -E	SK108・128・257より古 SK125・127と重複	188
257	F7-E7	隅丸長方形	1.65	1.50	0.30	N-18° -W	SK256より新	188
265	F7-D・E8	不明	(1.40)	0.80	0.40	N-10° -W	SK99・266と重複	186
266	F7-D・E8	不整形	2.65	2.00	0.40	N-22° -W	SK265・267と重複	186
267	F7-E8	不明	(0.80)	(0.75)	0.40	N-78° -E	SK266・269と重複	186
268	F7-E8	不明	1.25	(0.70)	0.50	N-70° -E	SK135・269と重複	186

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	押印
269	F7-E8	不明	1.60	(0.85)	0.65	N-15°-W	SK135・267・268と重複	179
270	F7-D8	隅丸方形	1.40	1.20	0.45	N-61°-E	SK99・271・295・296と重複	183
271	F7-D8	隅丸長方形	0.80	0.55	0.15	N-70°-E	SD6・SK270・296と重複	183
272	F7-D6	不整形	1.65	(0.55)	0.40	N-26°-W	SK272 a・b	187
277	F7-D・E8	不明	0.75	(0.40)	0.50	N-11°-W		187
278	F7-D8	楕円形	1.60	0.80	0.20	N-76°-E	SK295より古	183
286	F7-D7	楕円形か	(0.95)	1.00	0.10	N-43°-W	SK60と重複	188
295	F7-D8	不明	(2.50)	(0.70)	0.10	N-73°-E	SK278・296より新 SK270と重複	183
296	F7-D8	不明	(3.15)	(0.60)	0.15	N-68°-E	SD6・SK295より古 SK270・271と重複	183
299	F7-D8	不整形	1.35	0.90	0.50	N-48°-W	SD6と重複	188
302	F7-E8	不明	(1.10)	(1.00)	0.60	N-21°-W	SK303より古 SK116と重複	186
303	F7-E8	隅丸長方形	(1.30)	0.85	0.50	N-15°-W	SK116より古 SK302より新 SK135と重複	186
307	F7-D7	不整形	0.80	0.65	0.20	N-35°-E	SK308と重複	188
308	F7-D7	不整形	1.45	0.75	0.10	N-35°-W	SK307と重複	188
318	F7-E6	—	—	—	—	—	SK107と重複	184
329	F7-E7・8	不明	(0.85)	—	0.60	計測不能	杭列5・SK117より古 SK119と重複	186

### SK269



第179図 区画AE土壌(1)

下層は粘土質で木片や板材等が多量に含まれており、中・上層には炭化物が含まれる。特に中層で多量に含まれる。最上層は砂質土である。

出土遺物は19世紀中葉頃の陶磁器が主体だが、残存率50%を越える型紙摺絵染付丸碗が1個体みられる。重複する第127号土壌は、型紙摺絵染付磁器を主体としているため、上層の遺構からの混入であろう。しかし、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付駄知井(第220図210)は、混入か判断が困難である。また、非掲載遺物には第7地点等で出土が確認されている信楽産陶器の大型壺

(『栗橋宿跡IV』第138図326)の破片がみられる。磁器は卵殻手坏を主体とし、瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗(第220図205)を組成する。推定廃絶期は19世紀後葉である。

出土遺物は第220図に陶磁器類、第236図4・5に小型土器、第238図19・20に土製品のミニチュア、第241図14に土製品の人形類、第249図32に木製品、第257図79～83に金属製品、第262図15～18に石製品を図示した。

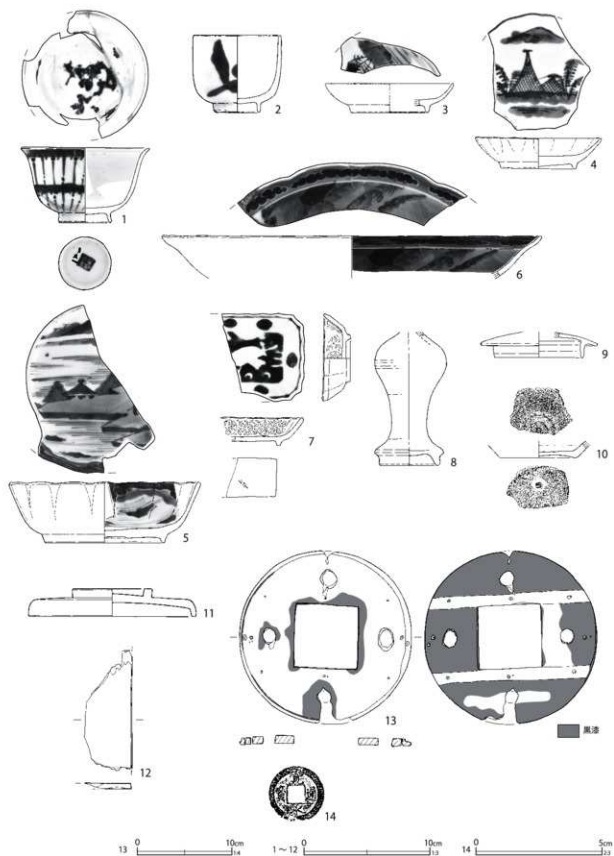
第220図203・205は瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗である。203は外面に陰刻文染付がみられ、205は強く被熱している。204は外面瑠璃釉の小碗である。

206～209は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。206～208は内面に江戸絵付けが施され、209は染付のみである。畳付に段が付くものはなく、すべて輪高台である。

210は瀬戸美濃系磁器の鉢である。口縁部が肥厚する所謂「駄知井」であり、酸化コバルト染付が施される。体部中位には段が付く。

213は瀬戸美濃系陶器の坏である。外面上位から内面にかけて施釉し、体部が屈曲する器高の低い坏で、19世紀後半頃にみられる。

216～218は手づくね成形のかわらけ小皿であ



第180图 第269号土坑出土遗物

第51表 第269号土壙出土遺物観察表(第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	10.0	6.0	4.1	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	77-13
2	磁器	碗	(6.8)	6.1	(3.4)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	
3	磁器	皿	(10.1)	2.3	(6.0)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付	
4	磁器	皿	(9.9)	2.5	5.8	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅	
5	磁器	皿	(14.9)	4.8	9.4	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付	
6	磁器	皿	(29.8)	[3.4]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼継痕あり	
7	磁器	皿	縦6.9 横[6.1] 高さ2.2			—	70	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内面陰刻文・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	77-14
8	磁器	徳利	—	[10.5]	4.6	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 外面瑠璃釉	
9	陶器	蓋	(9.2)	[2.0]	(6.9)	HK	20	良好	灰白	大塚相馬系カ 上面釉白釉	
10	かわらけ	小皿	—	[1.3]	(6.0)	CHK	20	普通	赤褐	底部糸切痕 胎土砂質 強い酸化焙焼成	
11	木製品	漆箱蓋	口径/径(12.8)	高さ2.2	つまみ径6.2					横木取り 内面赤漆 外面黒漆	130-10
12	木製品	木札	長さ(9.5)	幅(3.7)	厚さ0.4					板目 表面黴痕	
13	木製品	行灯	口径/径18.2	厚さ0.8						板目 裏面黒漆 中央に6.8×6.1cmの方形孔 4方向に径1.5cmの円孔 側板接着痕	130-11
14	銅製品	銭貨	径22.5	厚さ1.1	重さ1.7					寛永通寶(新)	

る。白色胎土を呈し、217は色調が若干異なるが、いずれも同一の胎土である。底部に指頭圧痕がみられ、外面上位にナゲ調整が1周廻る。区画AB第20号土壙出土製品に類似する。

220は瓦質土器の仕切盤である。栗橋宿での出土は稀で、形を成しているものはさらに稀少である。城や石垣、灯籠等のミニチュアである所謂「箱庭道具」を飾るための鉢と考えられ、内面中央に波打つ間仕切りがみられる。底部にムシロ状の圧痕がみられ、口唇部にはミガキ調整が施される。外面下位にケズリ、内外面に指頭痕がみられる。

第236図4・5は土師質土器の小壺である。5は底部に左回転の糸切痕、二次穿孔がみられる。

第238図19・20は江戸在地系のミニチュアである。いずれも型成形で、19は鉢、20は碗である。第241図14は亀を模した江戸在地系の人形である。上下合わせの二枚型成形で、中空である。透明釉が施軸される。

第249図32は木桶ないし竹桶の継手である。円形の孔が「L」にあけられており、桶の走行を90°転換させる機能を有している。

第257図79は銅製煙管の吸口、80は簪である。81～83は鉄製品で、81は刀子、82は拵金具、

83は包丁である。包丁には木柄が遺存する。

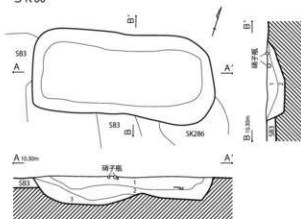
第262図15は滑石製の印章である。両端面に篆書体が刻まれ、上面には壺状の図柄内に配されている。文字は判読が困難である。印字面には朱が付着する。16は白色の流紋岩製砥石である。左側面に段が付くノコギリ状工具痕が見られ、その他の側面や裏面にはチョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕がみられる。17は白色の流紋岩製砥石で、裏・側面に刃幅の広い工具痕がみられる。18は粘板岩製の携帯用硯で、内面に朱墨が付着する。

第249号土壙(第187・223・224・238・242・244・246・258・260・262図)

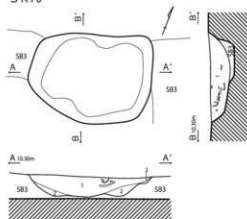
F7-E7グリッドに位置する。第12号埋設桶より古く、第248号土壙と重複する。平面形は不整形で、検出長軸2.8m、短軸2.5m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-85°-Eを指す。

出土遺物は混在が極めて多く、遺構の平面形から方形もしくは長方形を呈する複数基の土壙の存在が示唆される。遺構の南側には桶の底板があり、第12号埋設桶が重複していることから関係性が示唆される。推定廃絶期は19世紀後半以降であ

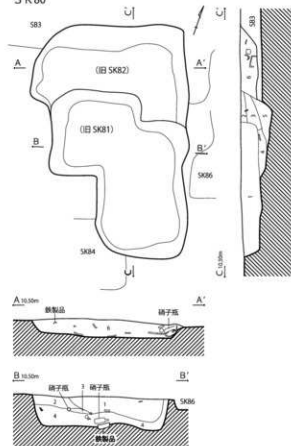
S K 60



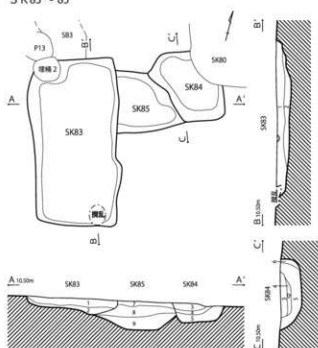
S K 70



S K 80



S K 83 ~ 85



S K 60

- 1 木質層 木質多量 粘等の大型木材含む 硝子瓶類・ゴム製品含む 糖化跡少量
- 2 灰黄褐色土 粘土質 水質少量 プラスチック含む
- 3 炭化物層 木材出土

S K 70

- 1 黒色土 硝子多量 木材、ゴム製品、靴底含む
- 2 灰褐色土 シルト質 粘性強

S K 80

- 1 黒褐色土 炭化物・焼土塊・木片・硝子瓶・陶器・貝類含む
- 2 黒褐色土 炭化物・焼土塊・陶磁器・硝子瓶含む
- 3 暗褐色土 黒褐色土・灰褐色土・砂質土を混在 炭化物・陶磁器含む
- 4 黒褐色土 炭化物・焼土塊・陶磁器・硝子瓶含む
- 5 褐色土 砂質土主体 硝子片含む
- 6 黒褐色土 炭化物・焼土塊・木片・硝子瓶・陶磁器含む

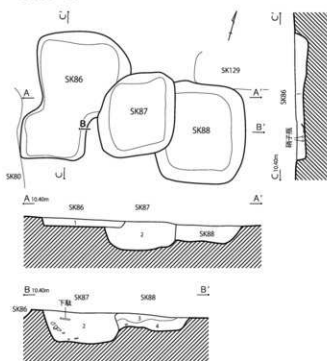
S K 83 (1, 2)・S K 84 (3~6)・S K 85 (7~9)

- 1 黒褐色土 炭化物・焼土塊・ローム粒子多量 瓦・硝子瓶・陶磁器含む
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物粒子
- 3 黒褐色土 炭化物・焼土塊多量 硝子・陶磁器・瓦含む
- 4 赤褐色土 焼土塊主体
- 5 暗褐色土 焼土粒子・炭化物含む
- 6 灰褐色土 粘土質 炭化物粒子含む
- 7 灰褐色土 砂質 焼土塊含む
- 8 暗褐色土 木片多量 炭化物・焼土塊含む
- 9 灰褐色土 粘土質 炭化物・焼土塊含む

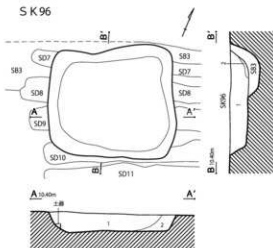


第181図 区画AE土壌(2)

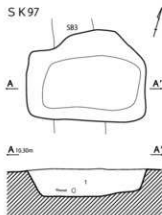
S K 86 ~ 88



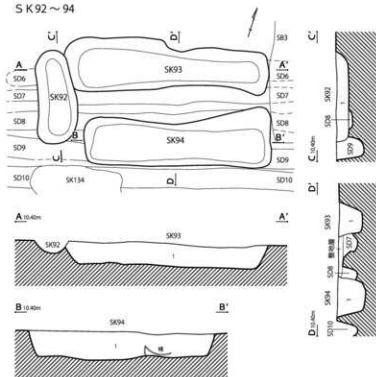
S K 96



S K 97



S K 92 ~ 94



- S K 86 (1)・S K 87 (2)・S K 88 (3, 4)  
 1 黒褐色土 炭化物・粘土塊・木片・硝子瓶・陶磁器含む  
 2 黒褐色土 炭化物・焼土塊・木片・硝子瓶・陶磁器・貝殻含む  
 3 暗褐色土 砂質 炭化物粒子・焼土粒子・木片含む  
 4 黒褐色土 粘土質 炭化物粒子・焼土粒子・陶磁器含む

- S K 92  
 1 黒色土 粘土質 炭化物・酸化鉄・木質・陶器・瓦片含む

- S K 93  
 1 黒褐色土 シルト質 炭化物・酸化鉄・鉄製品含む

- S K 94  
 1 黒褐色土 シルト質 硝子片・硝子瓶・鉄製品・陶磁器含む

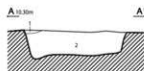
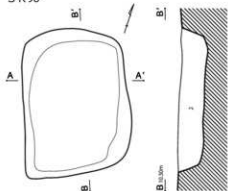
- S K 96  
 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子含む 木片・硝子・硝子瓶・陶磁器含む  
 2 褐色土 地山土多量 炭化物・地山土ブロック混在

- S K 97  
 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子・硝子・木片・硝子瓶・陶磁器含む

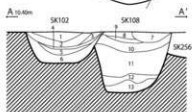
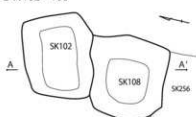


第182図 区画AE土壌(3)

S K 98



S K 102・108



S K 98

- 1 褐色土 砂質 炭化物少量 しまり強
- 2 黒褐色土 粘土質 炭化物・木質・陶磁器片・硝子製品・プラスチック含む

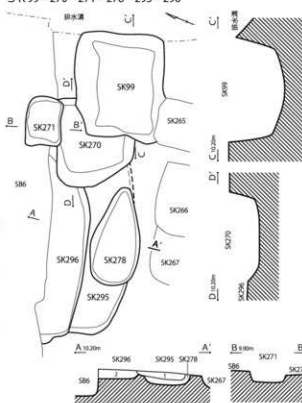
S K 102 (1~6)・S K 108 (7~13)

- 1 白黄土 砂質 方形の黄色砂質土ブロック (φ 30 mm) 含む 陶磁器片・硝子片含む
- 2 褐色土 シルト質 木質多量 漆喰含む
- 3 灰黒褐色土 砂質 黄色砂質土ブロック含む
- 4 黒褐色土 粘土質 細かい木片・炭化物多量
- 5 灰褐色土 粘土質 細かい木片・炭化物少量 陶磁器・鉄製品・ゴム製品含む
- 6 灰褐色土 粘土質 木質少量 方形の黒褐色粘土ブロック (φ 30 mm) 含む
- 7 黒褐色土 砂質 炭化物多量 木質少量
- 8 灰褐色土 砂質 粘性弱 木質・炭化物・鉄分は含まず 陶磁器片少量
- 9 灰褐色土 粘土質 炭化物多量 木質少量 板材・木片含む 雑草などの茎である
- 10 灰褐色土 シルト質 木片少量
- 11 褐色土 シルト質 炭化物少量
- 12 灰褐色土 砂質 砂粒 (φ 0.5 mm) 含む 木片多量
- 13 灰黒褐色土 シルト質 粘性強 木片少量

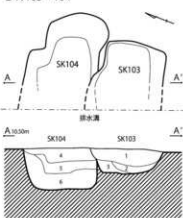
S K 103 (1~3)・S K 104 (4~6)

- 1 黒褐色土 砂質 酸化鉄・炭化物少量 陶磁器片含む
- 2 褐色土 粘土質 炭化物少量
- 3 黄色土 砂質 炭化物微量 粘性弱
- 4 暗灰色土 砂質 炭化物多量 粘性弱 酸化鉄・木質少量 磁器片・木片含む
- 5 黒褐色土 粘土質 炭化物・木質少量
- 6 灰褐色土 粘土質 木質少量 陶磁器多量

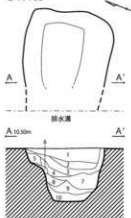
S K 99・270・271・278・295・296



S K 103・104



S K 105



S K 105

- 1 灰褐色土 シルト質 炭化物含む 酸化鉄少量
- 2 黒褐色土 シルト質 炭化物・酸化鉄多量 粘性強
- 3 灰褐色土 砂質 円形の黄褐色粘土ブロック (φ 10 mm) 含む 酸化鉄・炭化物少量
- 4 灰褐色土 粘土質 木質多量 炭化物少量
- 5 灰褐色土 シルト質 炭化物・酸化鉄・木質少量
- 6 明灰色土 砂質 酸化鉄微量
- 7 褐色土 粘土質 木片・木質多量 炭化物少量
- 8 黄灰色土 粘土質 木質微量
- 9 灰褐色土 シルト質 粘性強 木片多量 鉄板含む
- 10 灰褐色土 粘土質 木質微量

S K 106

- 1 黄褐色土 砂質 炭化物少量 鉄製品・瓦・陶磁器含む
- 2 黒褐色土 シルト質 炭化物・木質少量

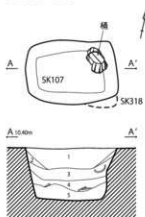
S K 295 (1)・S K 296 (2)

- 1 暗褐色土 炭化物 (φ 10 mm) 少量
- 2 暗褐色土 炭化物 (φ 10 mm) 少量

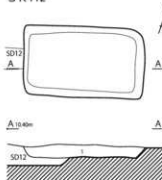


第 183 図 区画 AE 土壌 (4)

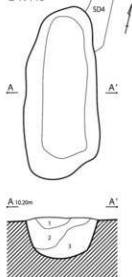
SK 107・318



SK 112



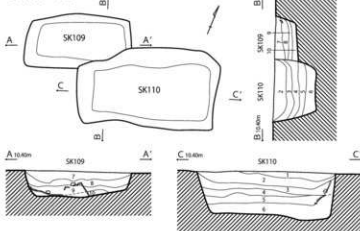
SK 115



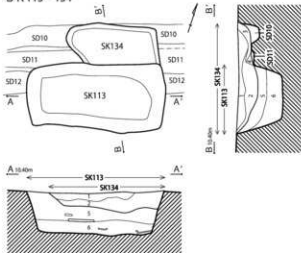
SK 107

- 1 黒褐色土 砂質 炭化物・木片少量 陶磁器片・プラスチック含む
- 2 灰色土 粘土質 炭化物少量
- 3 黄褐色土 砂質 木片・木炭少量 炭化物少量
- 4 黒褐色土 シルト質 木炭少量 陶磁器・皮含む
- 5 灰黄褐色土 シルト質 炭化物少量

SK 109・110



SK 113・134



SK 109 (7~10)・SK 110 (1~6)

- 1 黄褐色土 砂質 パウダー状 炭化物少量
- 2 黒色土 砂質 木質・炭化物少量
- 3 灰褐色土 シルト質 粘性強 木片(φ30mm)含む 部分的に炭化物が層状に堆積
- 4 灰褐色土 3層と類似 木質多量
- 5 褐色土 粘土質 木片少量 木質多量
- 6 灰黄褐色土 粘土質
- 7 黄褐色土 砂質 パウダー状 炭化物少量
- 8 褐色土 砂質 粘性弱 木質・炭化物少量
- 9 黒褐色土 砂質 木材(50×50mm程度の角材、板材)の木質多量 陶磁器含む
- 10 灰黄褐色土 粘土質 木質微量

SK 112

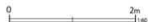
- 1 黒色土 砂質 炭化物主体層 磁器・硝子瓶・プラスチック含む

SK 113 (5, 6)・SK 134 (1~4)

- 1 黒褐色土 シルト質 炭化物多量
- 2 黒色土 粘土質 方形の黄色粘土ブロック含む 粘性強 木片(φ10mm~20mm)含む
- 3 黄褐色土 シルト質 炭化物粒子含む
- 4 砂層 白色粒(φ0.5mm~1mm)・黒色粒子含む SD11からの混入
- 5 木材腐層 結 丸太、角材を一括腐化した層
- 6 廃棄層 鉄製品 硝子瓶を廃棄した層 層の大半を鉄分が占めている 陶器類含む

SK 115

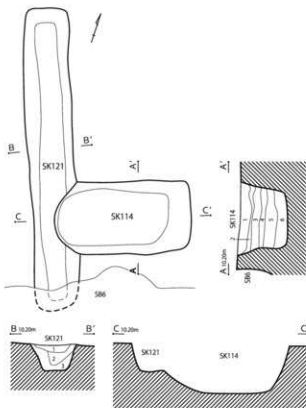
- 1 黄灰色土 均一 炭化物(φ3~10mm)・灰色土ブロック(φ10~30mm)少量 酸化鉄多量
- 2 灰色土 均一 炭化物(φ2~5mm)少量 酸化鉄多量
- 3 灰色土 不均一 遺物多量 硝子・金属・木質含む 灰色土ブロック少量



第184図 区画AE土壇(5)



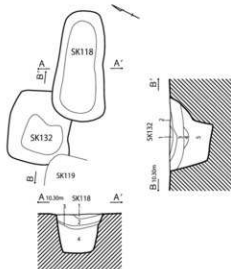
## SK114・121



## SK114

- 1 褐色土 砂質 方形の明褐色粘土ブロック(φ50～100mm)含む 炭化物少量
- 2 黄褐色土 砂質 1層と類似しているがシルト質ブロックの混入が少なく、炭化鉄少量
- 3 明褐色土 砂質 円形の白黄色粘土ブロック(φ30～50mm)多量 炭化鉄多量
- 4 白色土 砂質 方形の白色粘土ブロック(φ30～100mm)含む 炭化鉄微量
- 5 白黄色土 砂質 方形の白色粘土ブロック(φ50～100mm)含む
- 6 黄褐色土 砂質 砂粒は3・4層より粗い(φ0.1～0.5mm) 炭化鉄微量

## SK118・132



## SK118

- 1 灰色土 シルト質 均一 木片(φ5～10mm)少量
- 2 灰色土 シルト質 やや不均一 焼土(φ1～2mm)少量 木片(φ10～20mm)多量
- 3 炭化物層 シルト質 均一 草灰主体
- 4 灰色土 シルト質 均一 木片(φ10～30mm)多量

## SK121

- 1 灰色土 シルト質 均一 炭化物(φ3～5mm)少量
- 2 灰色土 シルト質 均一 粗粒 炭化物(φ5mm以上)
- 3 明灰色土 シルト質 均一 炭化物(φ2～5mm)・木片(φ3～5mm)少量

## SK132

- 1 灰色土 均一 炭化物(φ2～5mm)少量 炭化鉄多量
- 2 灰色土 均一 炭化物(φ2～5mm)少量 炭化鉄少量
- 3 暗灰色土 やや不均一 炭化物多量 木片・瓦等含む
- 4 暗灰色土 やや不均一 炭化物多量 木片・瓦等含む
- 5 暗灰色土 プラック状の土(φ10～30mm)多量
- 6 暗灰色土 均一 炭化物多量 木片・瓦等含む 炭化物が4層より多い



第185図 区画AE土壌(6)

る。第223・224図に陶磁器類、第238・242図に土製品、第244・246図に瓦、第258図に金属製品、第260図に銭貨、第262図に石製品を示した。

第223図241は瀬戸美濃系磁器の紅皿である。型成形で、外面に陰刻蜻蛉草文、高台内に陽刻文がみられる。外面上位から内面にかけて施軸する。

244は瀬戸美濃系磁器の猪口で、外面に酸化コバルト染付で、「三河屋」と書かれている。第3地点第169号土壇出土木札(埴理文2018b)に「三河屋/平藏」がみえ、関連性が示唆される。

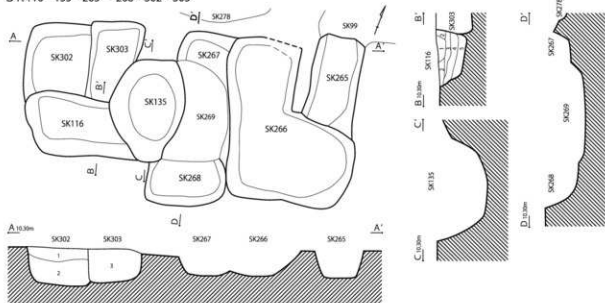
247は土師質土器の丸底焙烙である。底部の丸

みは極めて弱く、中心部が上げ底状を呈し、扁平な器形である。底部に無調整のシワ状痕、内底面に渦巻状のナデがみられる。3対の補修痕がみられる。内耳はほぼ均等配置されている。胎土に角閃石が含まれ、在地産と推定される。

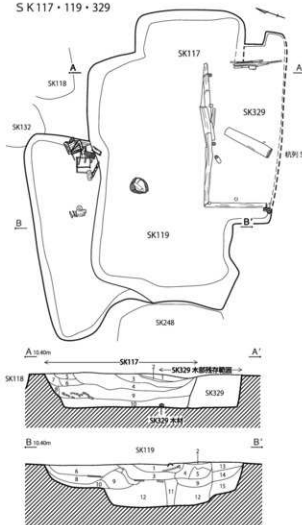
第224図250～254は砲弾形を呈する土製の埴塼である。銅製品の生産に関わるもので、251～254には緑青が付着し、251の外面には銅が付着する。254は胎土に炭化物が多量に含まれており、混和剤が炭化したものと考えられる。

第238図28は江戸在地系のミニチュアである。所謂釜形土製品であるが、煤等の使用痕跡が認め

S K 116・135・265～268・302・303



S K 117・119・329



S K 116

- |   |      |                               |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 灰色土  | シルト質 中平均— 黄色シルト (φ10～20mm) 少量 |
| 2 | 灰黄色土 | 炭化物 (φ2～5mm) 少量 酸化鉄多量         |
| 3 | 灰黄色土 | シルト質 均— 炭化物 (φ2～10mm) 多量      |
| 4 | 灰黄色土 | 黄色シルト (φ1～2mm) 少量             |
| 5 | 灰黄色土 | シルト質 均— 炭化物 (φ2～10mm) 多量      |
| 6 | 灰黄色土 | 黄色シルト (φ1～2mm) 少量             |
| 7 | 灰黄色土 | シルト質 均— 炭化物 (φ2～10mm) 多量      |

S K 117

- |    |      |                               |
|----|------|-------------------------------|
| 1  | 灰黄色土 | シルト質 均— 褐色粒子 (φ1～2mm) 少量 木片多量 |
| 2  | 灰黄色土 | シルト質 均— 褐色粒子 (φ1～2mm) 少量 木片多量 |
| 3  | 暗灰色土 | 酸化鉄多量                         |
| 4  | 暗灰色土 | シルト質 中平均— 木片多量                |
| 5  | 暗灰色土 | シルト質 中平均— 3層より木片多量            |
| 6  | 灰黄色土 | シルト質 中平均— 4層より木片多量 4層より粒子が粗い  |
| 7  | 灰黄色土 | シルト質 中平均— 5層より粒子大きい 遺物微量      |
| 8  | 褐色土  | 炭化物粒子多量                       |
| 9  | 褐色土  | 砂質                            |
| 10 | 暗褐色土 | 砂質                            |

S K 119

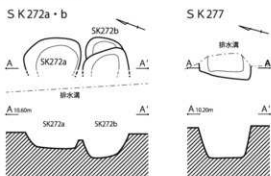
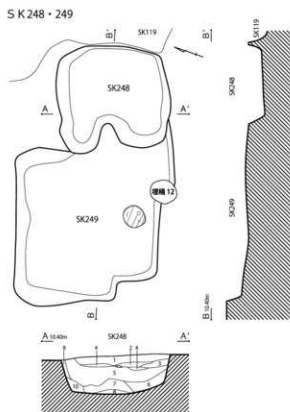
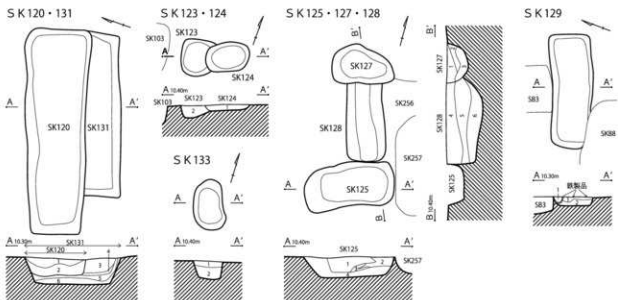
- |    |       |              |
|----|-------|--------------|
| 1  | 灰褐色土  |              |
| 2  | 灰黄色土  | 灰黄色砂多量       |
| 3  | 黒褐色土  | 木片多量         |
| 4  | 灰黄色土  | 炭化物粒子多量 しまり強 |
| 5  | 暗褐色土  |              |
| 6  | 黒褐色土  | 粗粒           |
| 7  | 灰黄褐色土 | 砂質 しまり強      |
| 8  | 暗褐色土  | 砂質           |
| 9  | 暗灰褐色土 | 炭化物粒子多量      |
| 10 | 黄褐色土  | 砂質           |
| 11 | 灰褐色土  | 褐色土 (酸化鉄含む)  |
| 12 | 暗褐色土  | 木片片輪多量       |
| 13 | 灰褐色土  |              |
| 14 | 暗灰褐色土 | 炭化物粒子・黄褐色土含む |
| 15 | 黄褐色土  | 砂質 灰色粘土輪多量   |

S K 302 (1, 2)・S K 303 (3)

- |   |      |                    |
|---|------|--------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 炭化物 (φ5mm) 多量 しまり強 |
| 2 | 暗褐色土 | 砂質                 |
| 3 | 暗褐色土 | 炭化物 (φ5mm) 多量 しまり強 |

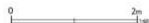


第186図 区画AE土壌(7)

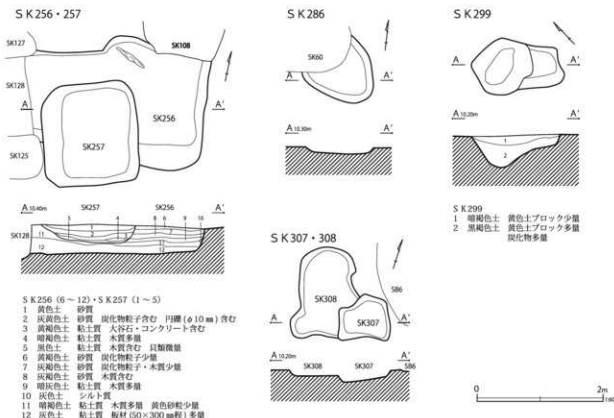


- S K 120 (1, 2)・S K 131 (3~6)
- 1 炭化物 鉄分(鉄板等の腐食)・炭褐色粘土(厚さ $\phi$ 2cm)・炭化物の片層
  - 2 炭褐色土 木質少量 ゴム製品含む
  - 3 炭褐色土 シルト質 粘性強 方形の炭褐色粘土ブロック( $\phi$ 30~50mm)含む 炭化物少量
  - 4 黒褐色土 粘土質 木質・炭化物含む
  - 5 炭褐色土 シルト質 木質少量
  - 6 木質層 植物(桐殻か)の層
- S K 123 (2)・S K 124 (1)
- 1 炭褐色土 砂質 炭化物含む
  - 2 炭褐色土 粘土質 炭化物多量 酸化鉄少量 陶磁器片含む

- S K 125
- 1 酸化鉄屑 鉄製品の屑(薄鉄板か)
  - 2 褐色土 粘土質 木質多量 コンクリート片含む
  - 3 灰色土 粘土質 酸化鉄少量
  - 4 灰黄褐色土 砂質 炭化物少量
- S K 127 (1~3)・S K 128 (4~6)
- 1 黄褐色土 砂質 炭化物微量
  - 2 黄褐色土 砂質
  - 3 褐色土 粘土質 木片( $\phi$ 30~50mm)多量
  - 4 黄褐色土 砂質 酸化鉄・炭化物少量
  - 5 黒灰褐色土 シルト質 粘性強 炭化物多量 木質少量
  - 6 灰色土 粘土質 木片(50~100mm)・板材・木質多量
- S K 129
- 1 灰白色土 砂質 パウダー状 酸化鉄多量 コンクリート混入
  - 2 褐色土 砂質 酸化鉄多量 木製品(桶の底部、板材)含む
- S K 133
- 1 灰褐色土 砂質 炭化物少量
  - 2 炭褐色土 粘土質 炭化物含む 陶磁器含む
- S K 248
- 1 暗灰黄褐色土 砂質
  - 2 灰黄褐色土 黄褐色土・炭化物粒子少量
  - 3 暗褐色土 粘土質
  - 4 灰黄褐色土 粘土質
  - 5 黒褐色土 板材・木片極多量
  - 6 灰色土 木片覆層
  - 7 灰黄褐色土 砂質
  - 8 灰色土 中~粘土質
  - 9 黄褐色土 砂質
  - 10 暗褐色土 灰色土覆層 褐色土塊



第187図 区画AE土壌(8)



第188図 区画AE土壌(9)

られないためミニチュアとして扱った。粉質な胎土で、底部に左回転の糸切痕が遺存する。外面上位から内面にかけて透明釉が施釉される。

第244図18は江戸式の軒杖瓦である。第246図37は丸瓦で、二次穿孔が2箇所みられる。38は鬼瓦で、正面右下部にあたると考えられる。

第262図24は多孔質の角閃石安山岩転石製の磨石である。主要な使用面は平坦で、自然面の一部に使用痕が認められる。

**第256号土壌**(第188・224・225・239・242・244・246・250・262・264図)

F7-E7グリッドに位置する。多くの土壌と重複しており、第108・128・257号土壌より古く、第125・127号土壌と重複する。平面形は不整形で、検出長軸2.95m、短軸2.0m、深さ0.45mを測る。長軸方位はN-78°-Eを指す。

覆土は水平堆積で、下層は多量の木質を含む粘土質な土を主体とし、上層は炭化物を含む砂質土

で構成されている。

出土遺物は多量だが近代の遺物が混在する。近代に位置付けられる陶磁器は少量であるため、遺構の規模や重複関係を考慮すると、混入と考えるのが妥当である。混入陶磁器を除くと、瀬戸美濃系磁器の小碗、卵殻手坏、型押し陰刻文染付のそり皿が最新である。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第224図255～264・第225図に陶磁器類、第239図29・第242図17・18に土製品類、第244図19・20・第246図39・40に瓦、第250図37・38に木製品、第262図25・26に石製品、第264図2に硝子製品を示した。

第224図258は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。極めて薄手で、底部は輪高台である。内面に青・黄・黒で上絵付が施される。259は肥前系磁器の紅皿である。型成形で、外面に陽刻蜻蛉草文が施文される。外面上位から内面にかけて施

SK60



第189图 区画AE土坑出土遗物(1)

SK60



8



9



10

SK70



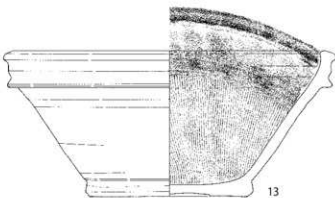
S=12



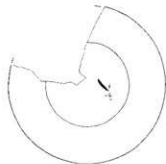
11



12



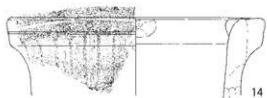
13



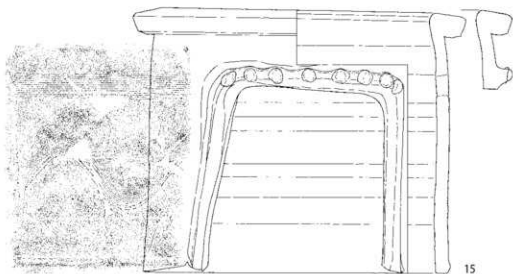
12·13 0 10cm 8~11 0 10cm

第190图 区画AE土壙出土遺物(2)

SK70



14



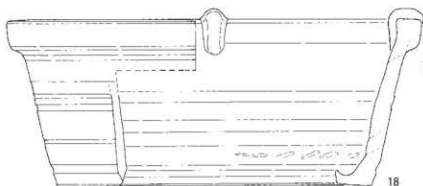
15



16



17



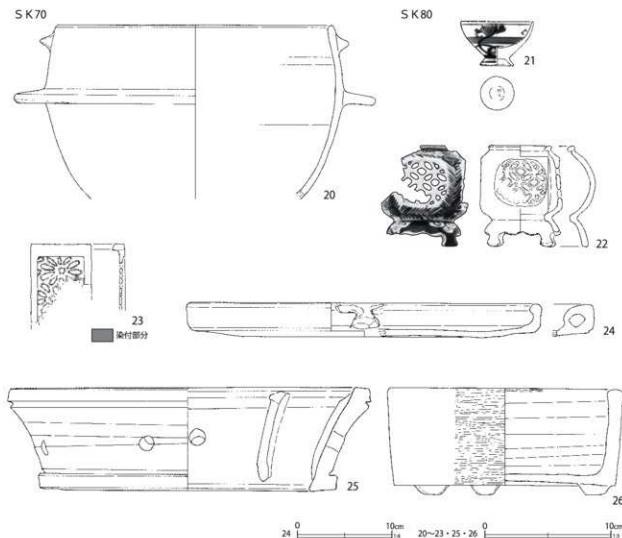
18



19

14~17 0 10cm 18・19 0 10cm

第191图 区画AE土坑出土遗物(3)



第192図 区画AE土壇出土遺物(4)

軸される。260は内面に陰刻文染付が施されたその皿である。最新期の陶磁器である。261は瀬戸美濃系磁器の爛徳利である。底部に墨書が「王」がみられ、板屋の屋号の可能性はあるが、下部につく「△」にあたる部分は欠損している。

264は京都信楽系陶器の坏である。胎土磁質で、外面に上絵付で「浅紅」の文字の一部がみられる。栗橋宿では多量に出土しており、浅草諏訪町に店を構えた「紅粉屋謙蔵」に関わる資料である(村山2021)。

第225図268は京都信楽系の爛徳利で、底部に「乙丑六」、「口徳」、「吉兵衛」]と推定される墨書がみられる。「乙丑」は遺構の廃絶年代、

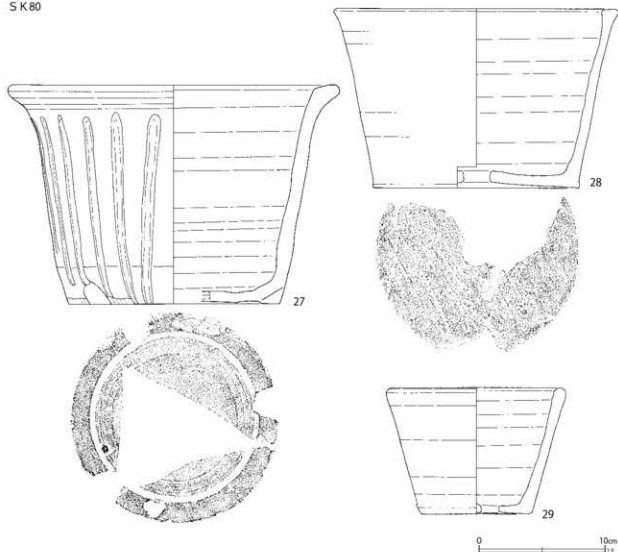
爛徳利の年代から、1865年と推定される。「吉兵衛」は『絵図』にみえる「小賣酒屋/吉兵衛」を指す可能性が高い。場所は栗橋宿南部に位置する常薫寺のさらに南である。宿の入り口付近をクランクする角にあたる。

271は産地不詳陶器の蓋だが、多数の孔があり、蒸し器状を呈する。口縁部付近にはアーチ状の把手が1箇所遺存する。

272は瀬戸美濃系陶器の手焙りで、ドーム形を呈する天井部の破片である。栗橋宿での出土は稀である。上面に環状の把手が付き、正面に開口する窓の一部が遺存する。

第239図29は京都系陶器皿のミニチュアであ





第193図 区画AE土壌出土遺物(5)

る。型成形で、内面に陰刻文、緑釉と赤褐色の彩色がみられる。

#### 第329号土壌 (第186・235・259図)

F7-E7・E8グリッドに位置する。第5号杭列、第117号土壌より古く、第119号土壌と重複する。複数の遺構と重複しているため、全体の形状は不明瞭であるが、底面に遺存する木杵状の丸太材と杭の範囲から、長軸が日光道中に直交する長方形の土壌と推定される。検出長軸0.85mで、深さ0.5mを測る。

また、後世の土壌である第117号土壌の底面に、「L」字に配された丸太材が検出されており、第

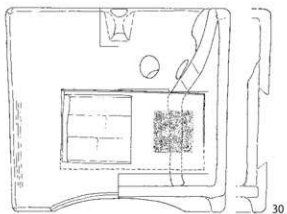
329号土壌に伴うものと考えられる。第5号杭列と重複していることから、区画施設に付随する施設、もしくは『本陣跡II』(埴埋文2020b)で検出されている第111号土壌のような地下蔵状の土壌の可能性が疑われる。

出土遺物は少量だが、瀬戸美濃系磁器の端反形碗と肥前系磁器八角鉢、陶器の青土瓶が出土していることから、推定廃絶期は19世紀前半と考えられる。

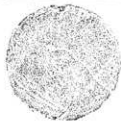
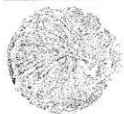
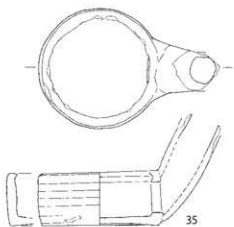
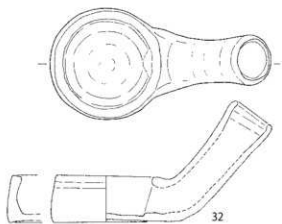
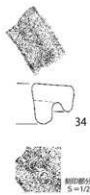
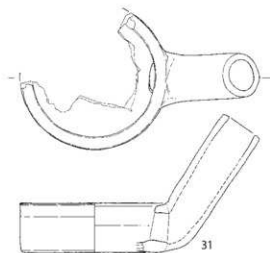
以上に取り上げた土壌の他にも特徴的な遺物が出土しているため、以下に記述していく。

第192図21は瀬戸美濃系磁器の坏である。酸

SK84



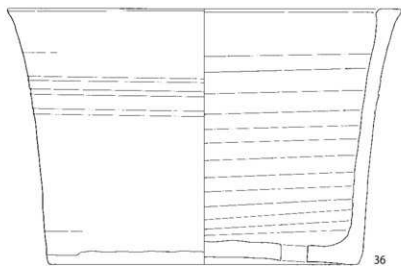
SK87



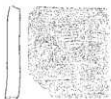
0 10cm 14 0 10cm 13

第194图 区画AE土壤出土遗物(6)

S K 87



S K 88

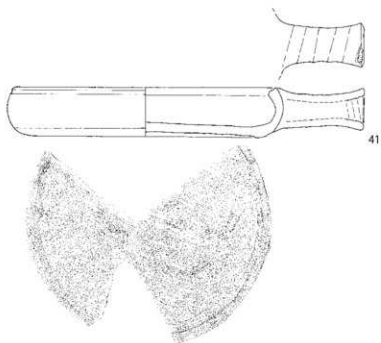
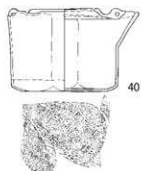


38 0 10cm  
1:4

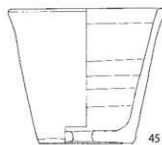
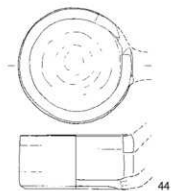
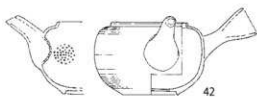
36・37・39 0 10cm  
1:3

第 195 图 区画 AE 土坑出土遗物 (7)

SK94



SK96



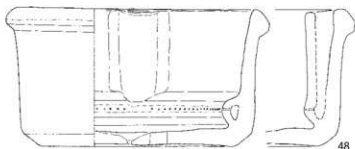
0 10cm 0 10cm  
43 14 40-42·44·45 13

第196图 区画AE土壙出土遗物(8)

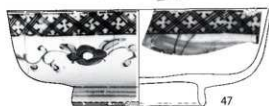
SK97



46

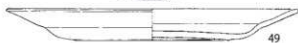
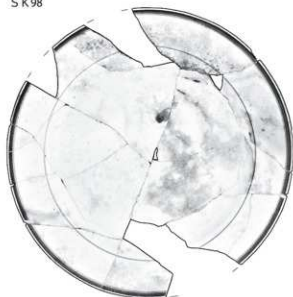


48



47

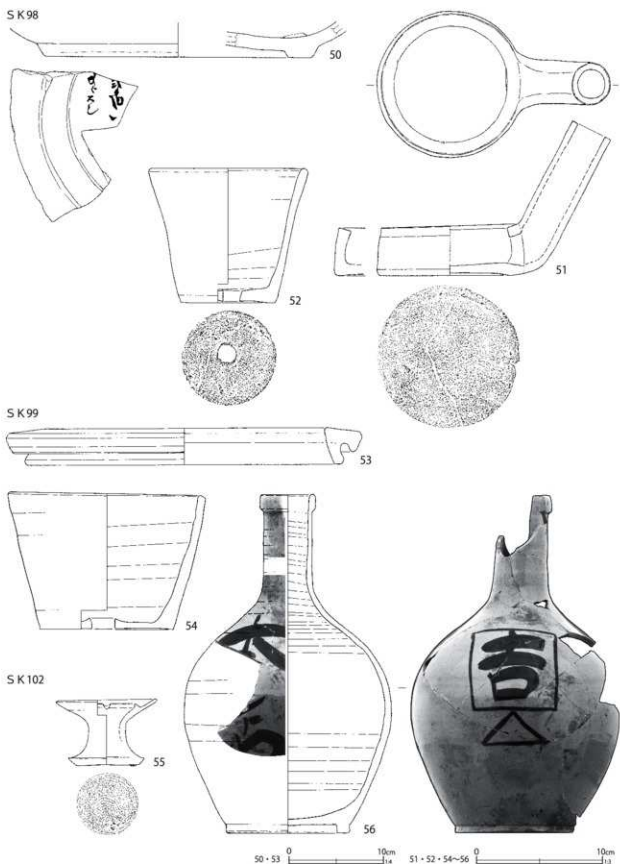
SK98



49



第197图 区画AE土坑出土遗物(9)

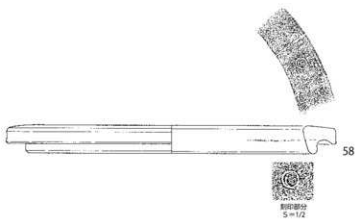


第 198 图 区画 AE 土壙出土遺物 (10)

S K 102

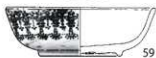


57

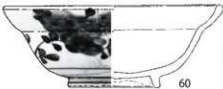


58

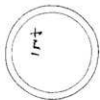
S K 104



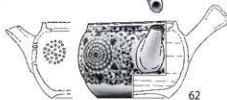
59



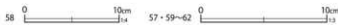
60



61

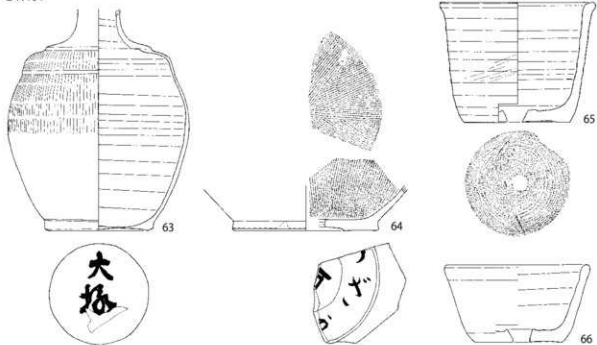


62

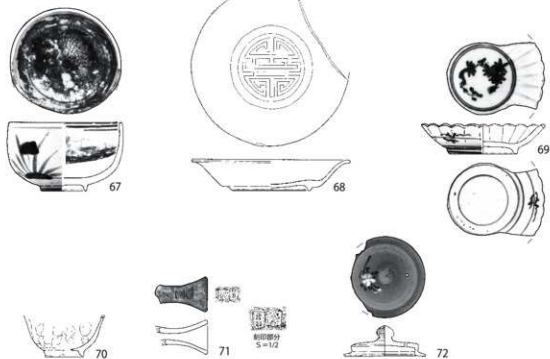


第 199 图 区画 AE 土坑出土遗物 (11)

SK104



SK106

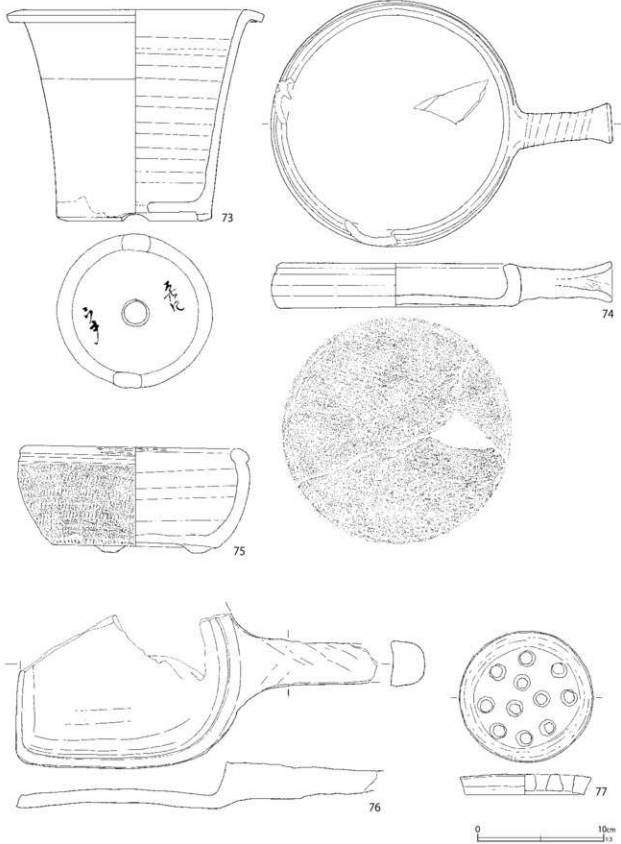


64 0 10cm 14 63・65~72 0 10cm 13

第200图 区画AE土壙出土遺物(12)



SK107



第201图 区画AE土坑出土遗物(13)

S K 108



78



79



80



82



83

S K 109



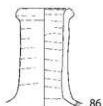
81



84



85



86



83

0 10cm

14

78 ~ 82 · 84 ~ 87

0 10cm

13



87

第 202 図 区画 AE 土壇出土遺物 (14)

S K 109



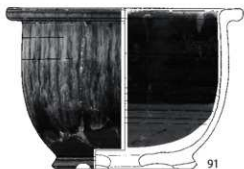
88



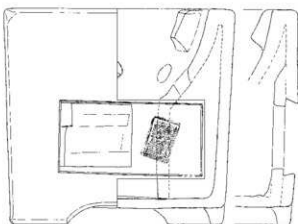
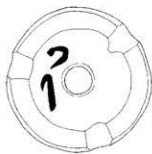
89



90



91



92



影印縮分 5=1/2



93



94

影印縮分 5=1/2

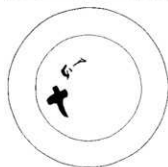
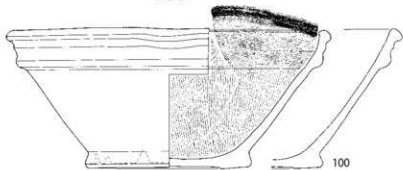
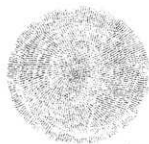
92~94 0 10cm 1:4 88~91 0 10cm 1:3

第203图 区画AE土坑出土遗物(15)

SK109



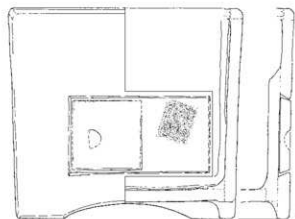
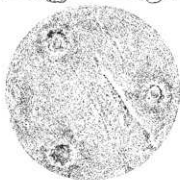
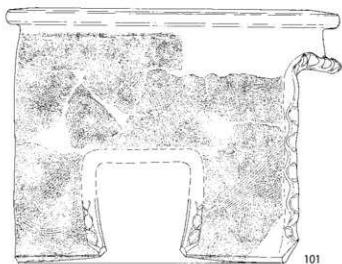
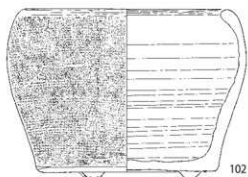
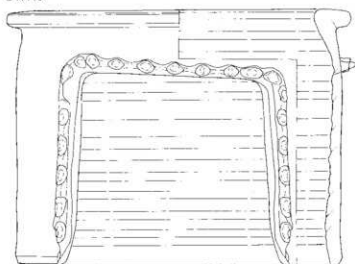
SK110



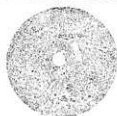
0 10cm 14 95~99 0 10cm 13

第204图 区画AE土壇出土遺物(16)

SK110



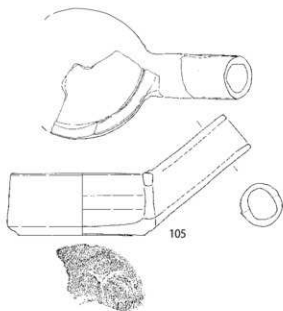
刷印部分 5=1/2



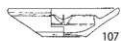
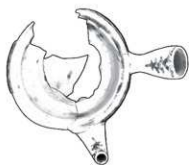
101~103 0 10cm 104 0 10cm

第205图 区画AE土坑出土遗物(17)

SK112

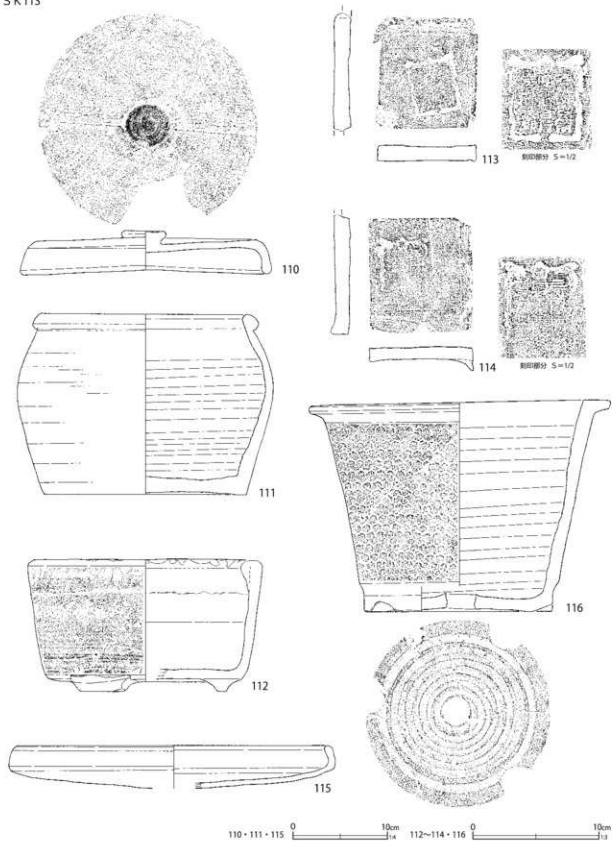


SK113



第 206 图 区画 AE 土壤出土遗物 (18)

SK113

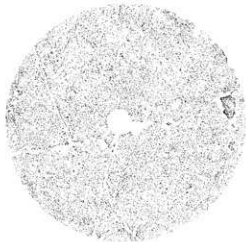


第207图 区画AE土壇出土遺物(19)

SK113



117



118

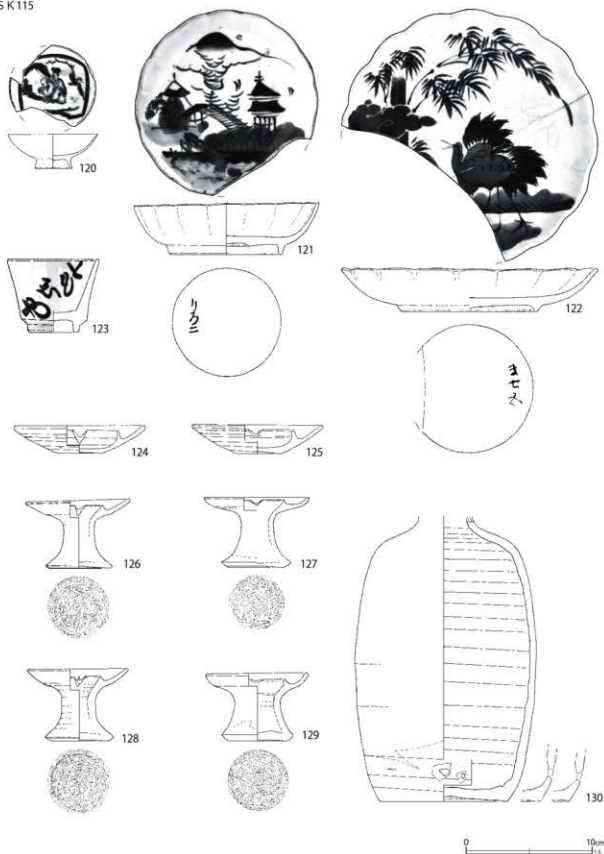


119



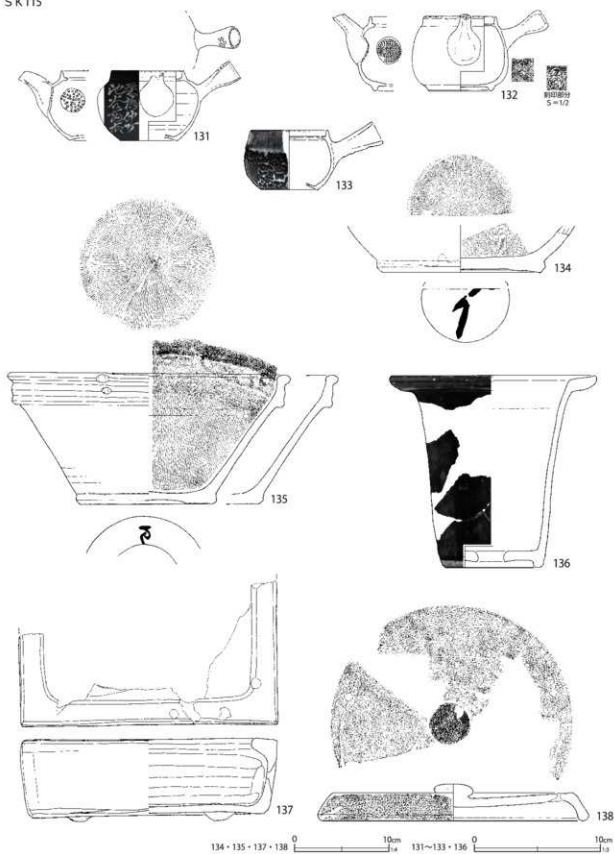
第208图 区画AE土壙出土遺物(20)





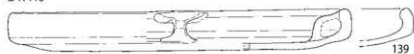
第209図 区画AE土壇出土遺物(21)

SK115



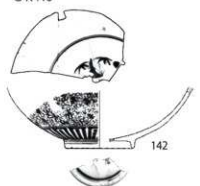
第 210 图 区画 AE 土壙出土遗物 (22)

SK115



139

SK116



142



141



140



143



144

SK117

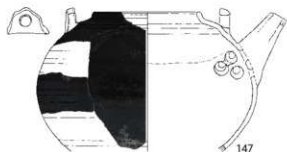


145



146

SK118



147



148

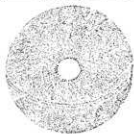
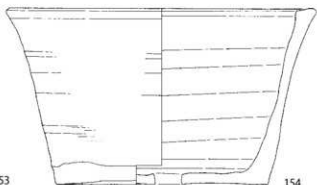
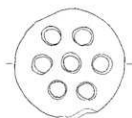
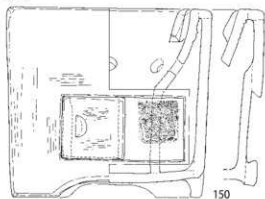


149

139・148・149 0 10cm 14 140~147 0 10cm 13

第211图 区画AE土坑出土遗物(23)

SK118



SK119

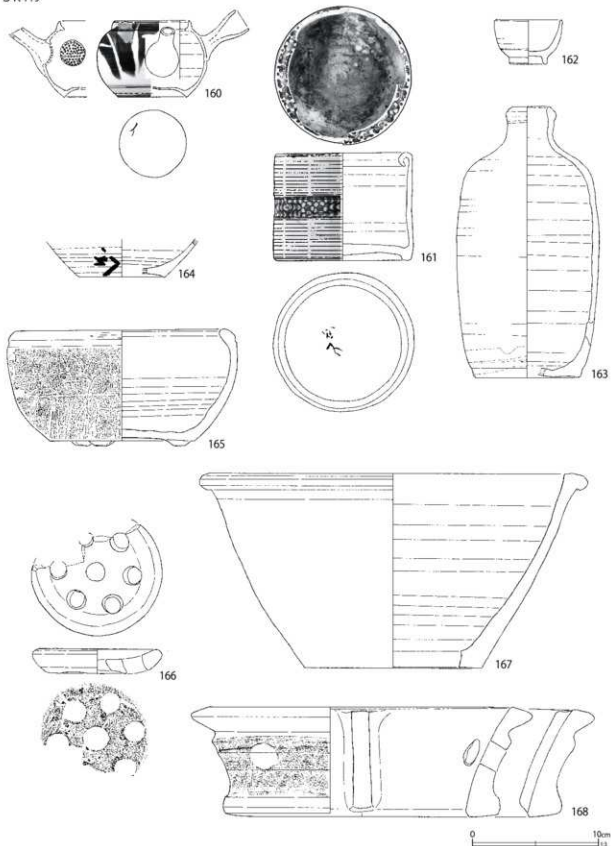


150 0 10cm 1/4

151~159 0 10cm 1/2

第212图 区画AE土壙出土遺物(24)

SK119

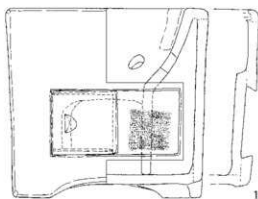


第213图 区画AE土坑出土遗物(25)

SK119



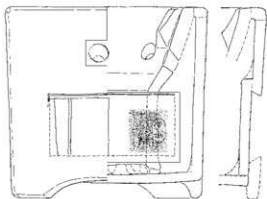
169



170



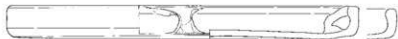
断面部分 S=1/2



171



断面部分 S=1/2



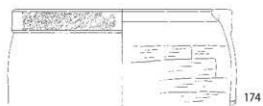
172

170~172 0 10cm

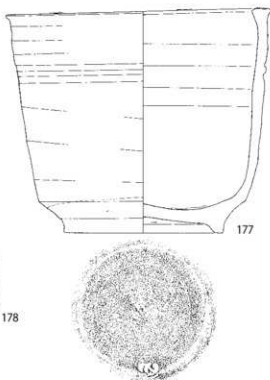
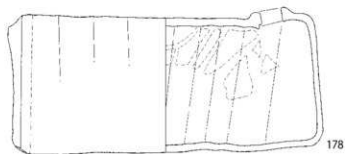
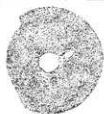
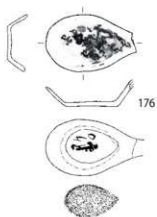
169 0 10cm

第 214 图 区画 AE 土壙出土遗物 (26)

SK119



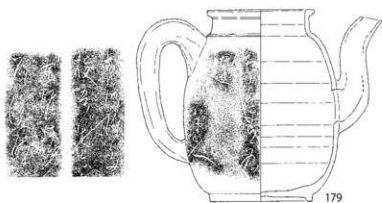
SK120



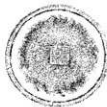
0 20cm 0 10cm 0 10cm  
174 173 175~178

第 215 图 区画 AE 土坑出土遗物 (27)

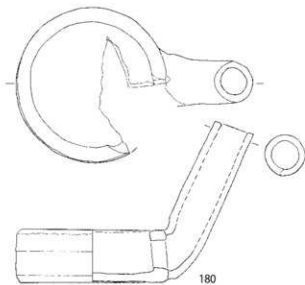
SK120



179



S-12



180



SK121



181



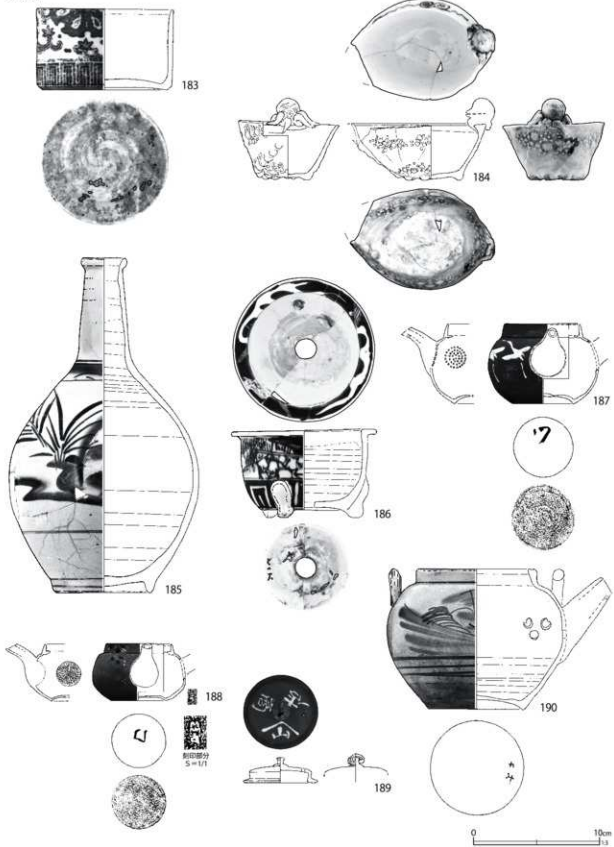
182



第 216 图 区画 AE 土壙出土遺物 (28)

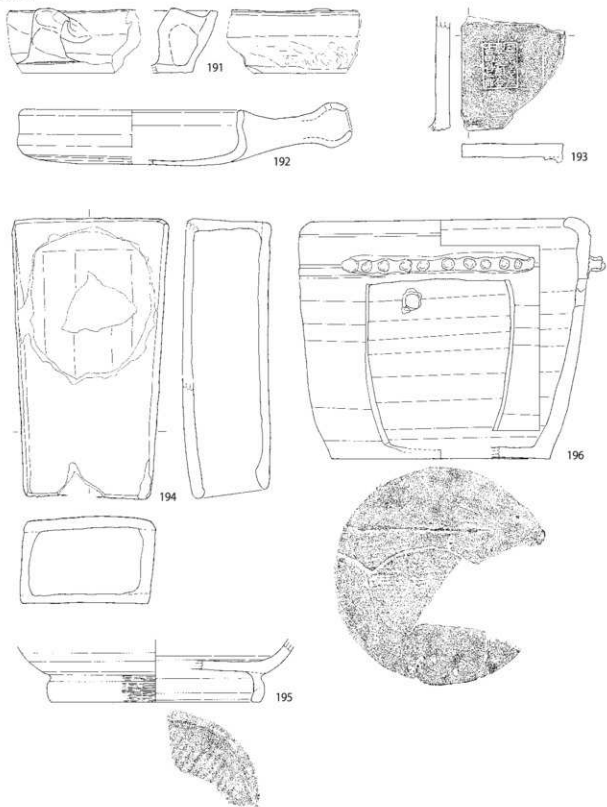


S K 121



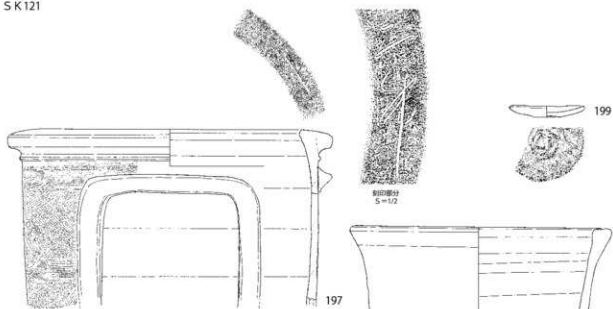
第 217 图 区画 AE 土坑出土遗物 (29)

SK121

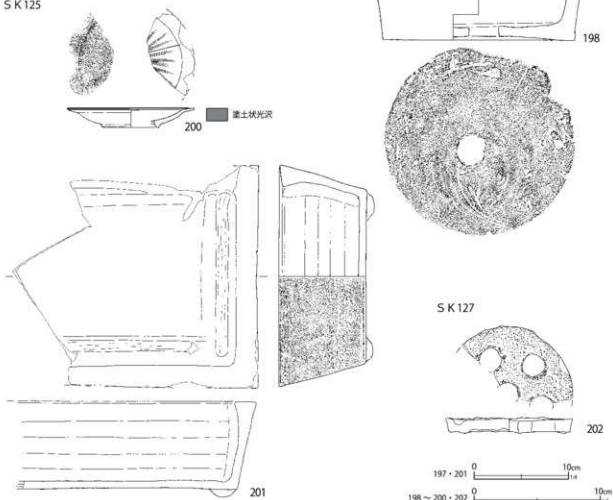


第218图 区画AE土壙出土遺物(30)

S K 121

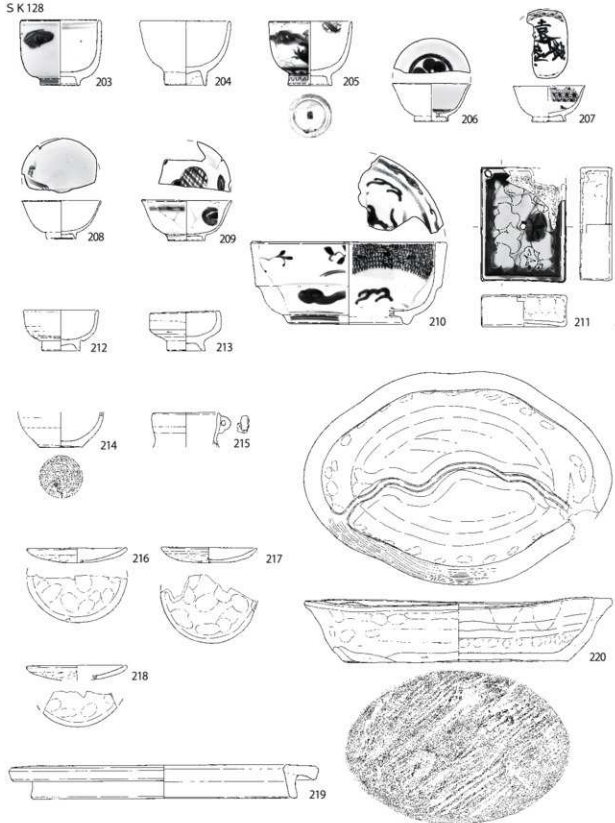


S K 125



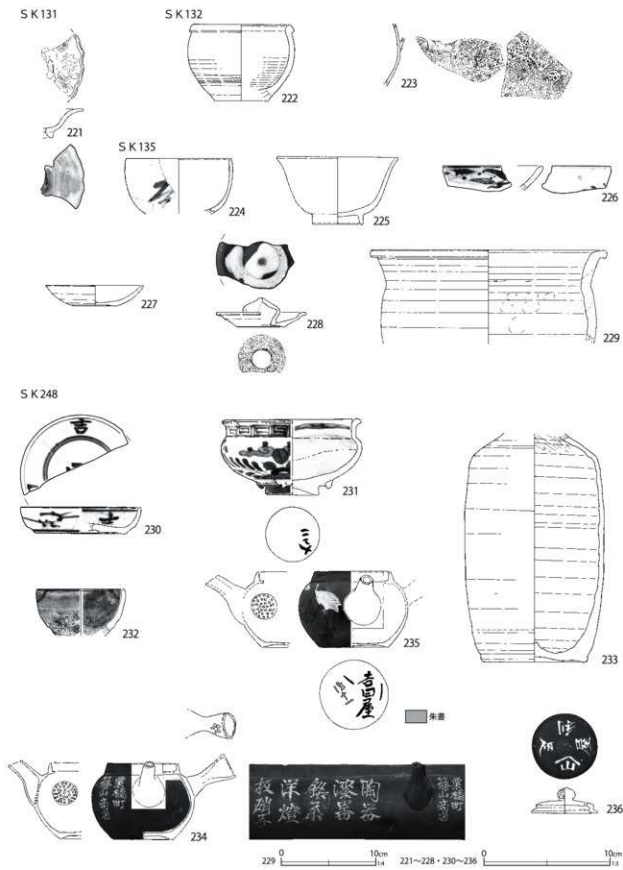
第 219 图 区画 AE 土坑出土文物 (31)

SK128



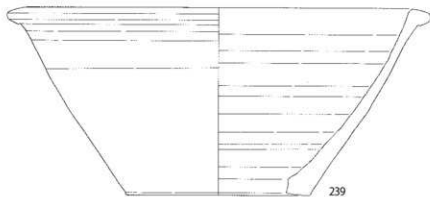
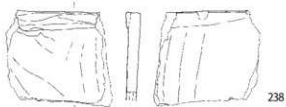
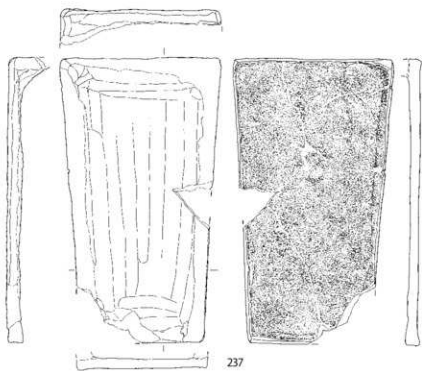
219·220 0 10cm 203~218 0 10cm

第220图 区画AE土壙出土遗物(32)



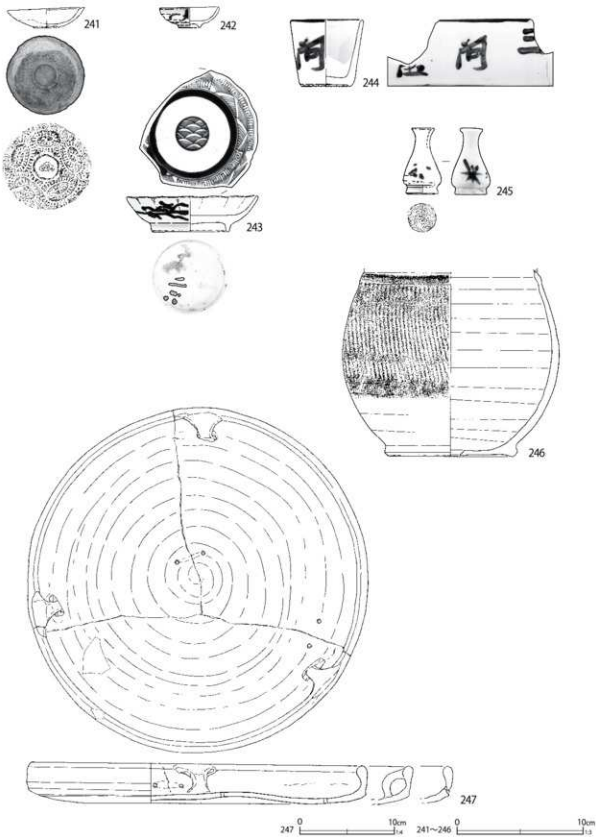
第 221 图 区画 AE 土坑出土遺物 (33)

SK248



第 222 图 区画 AE 土坑出土遗物 (34)

S K 249

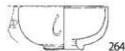
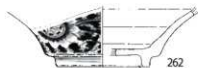


第 223 图 区画 AE 土坑出土遺物 (35)

SK249



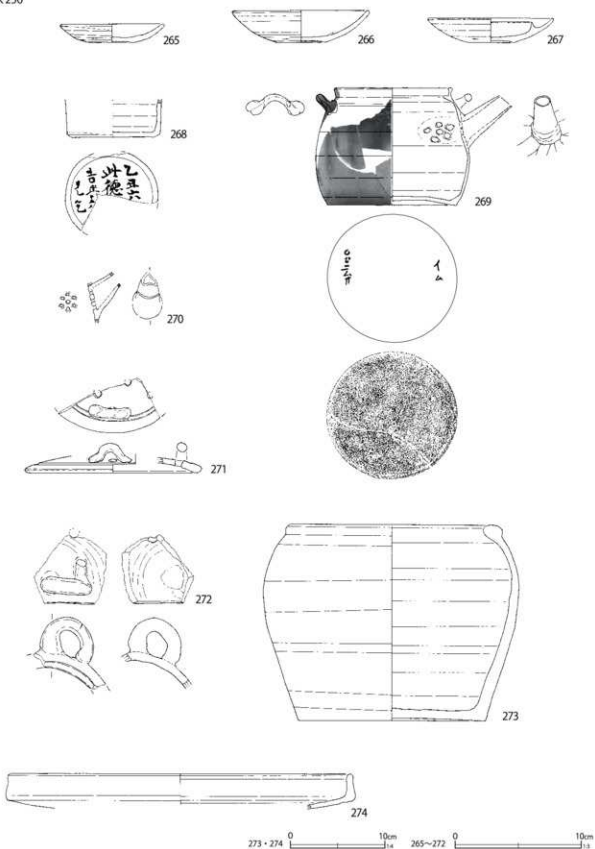
SK256



248·249 0 10cm 250~264 0 10cm

第224图 区画AE土坑出土遗物(36)





第 225 图 区画 AE 土壇出土遺物 (37)

SK257



275



276



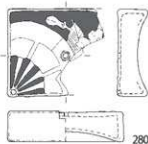
277



278

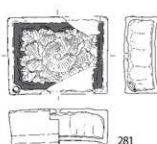


279



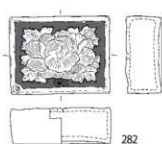
280

■ 染付



281

■ 染付



282

■ 染付

0 10cm  
10

第226図 区画AE土壙出土遺物(38)

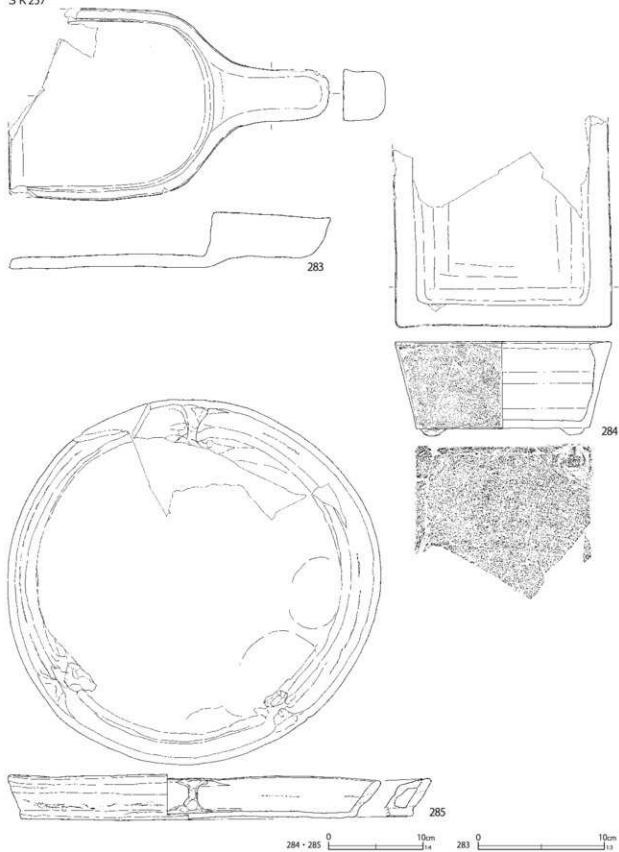
化コバルト染付で丁寧に絵付けられており、高台内に刻印「円山」がみえる。

第196図43は土師質土器の内耳丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、内底面は同心円状のナデ、中心部はランダムなナデがみられる。胎土は金雲母が含まれるが、在地的な様相を呈しており、胎土・調整共に栗橋宿でみられる内耳丸焙烙では異なる様相である。

第198図56は東北から北関東地方を中心に分布する大型の長頸壺で、所謂「すず徳利」である。外面に灰釉を施釉し、緑色の釉下彩文字で「原勢屋」と書かれる。栗橋宿では第5地点に位置する原勢屋の屋号として知られる。欠失が大きく判読できなかったが、背面には「原勢屋」と書かれている可能性がある。

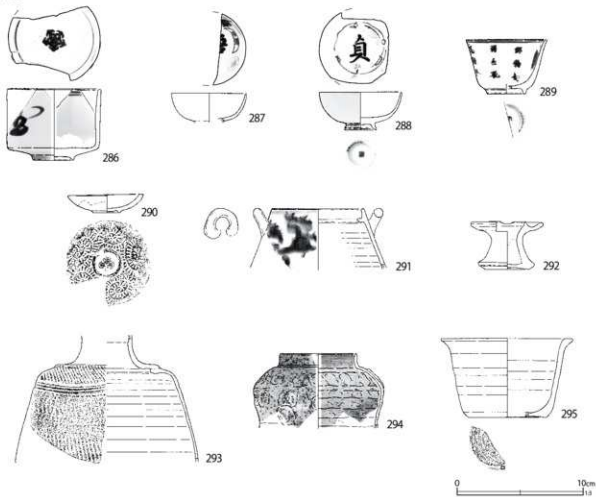
第230図311は56と同様で、「原勢屋」銘の

SK257



第227图 区画AE土坑出土遗物(39)

SK265



第228図 区画AE土壇出土遺物(40)

すず徳利である。「原」が欠失し、「勢屋」の文字が遺存している。

第230図310はすず徳利である。外面に灰釉が施軸され、外面は酸化コバルトの呉須文字がみられる。文字は欠失している部分もあるが、「いなりや/く(りは)し」と推定され、舟戸町に位置する鯉料理店、「稲荷屋」の徳利と考えられる。

第199図62は瀬戸美濃系磁器の急須で、底部に墨書「くり中/大つか」がみえる。既報告である第7地点の区画ALは、『営業便覧』に「大塚恒次」がみえ、関連性が示唆される。なお、職種は不詳である。

第200図63は外面にトビガンナ施文がみられるすず徳利である。62と同様に、底部に墨書「大

塚」がみえる。急須、徳利に書かれていることから料理を提供する店舗の類であろうか。

71は京都系陶器で、急須の把手である。白色胎土で、刻印「音羽」がみえる。横にみえる刻印は篆書体であろうか、判読できない。18世紀前半の京焼の状況を記した『京都御役所向大概覚書』には音羽焼の記事がみえる(岡2005)。京都の五条坂にあった京焼の一つ、「音羽焼」と考えられる。京都信楽系陶器の量産によって、京焼の高級化が進んだ19世紀の五条坂の窯場では、煎茶具や抹茶具の量産が行われた。各窯で印や署名を入れることで日用雑器との差別化が図られていることが指摘されている(岡2005)。

第202図79・第216図182は肥前系磁器の皿

S K 266



296



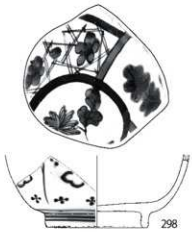
297



300



301



298



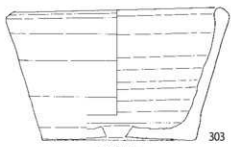
299



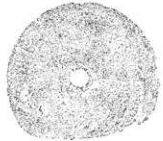
302



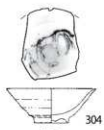
302



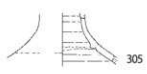
303



S K 267



304



305



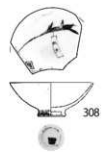
306



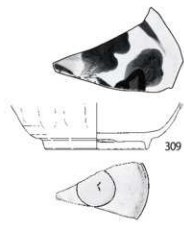
307



S K 268



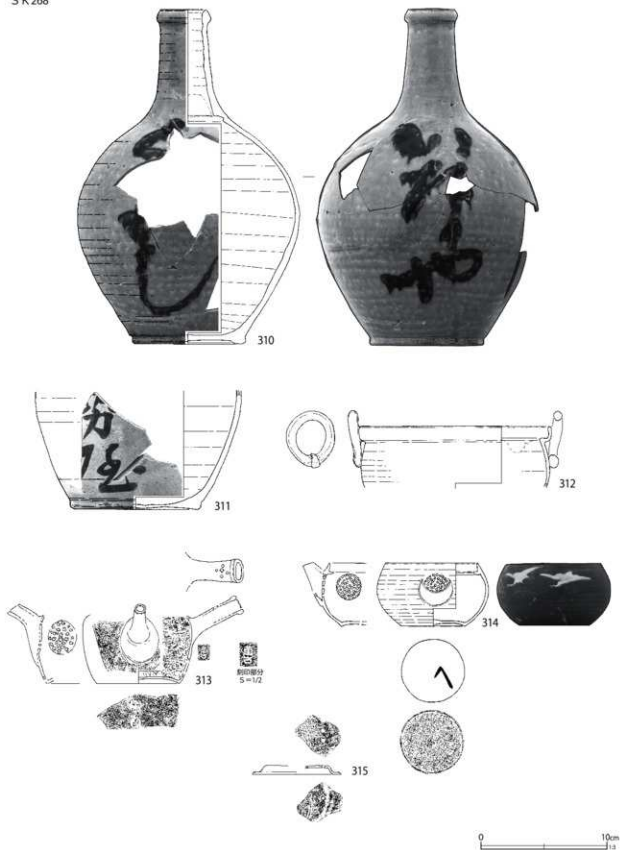
308



309



第 229 图 区画 AE 土坑出土遗物 (41)



第 230 图 区画 AE 土坑出土遗物 (12)

S K 270



316



317

S K 271



318



新印部分 S=1/2

S K 272



319



320



321

S K 277



322



323



324



325

317 0 10cm 14 316・318~325 0 10cm 13

第 231 图 区画 AE 土坑出土遗物 (43)

S K 278



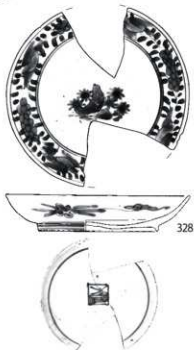
326

S K 286



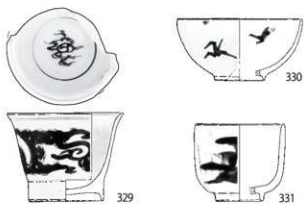
327

S K 299



328

S K 302



330

329

331



332



333



334



335



336

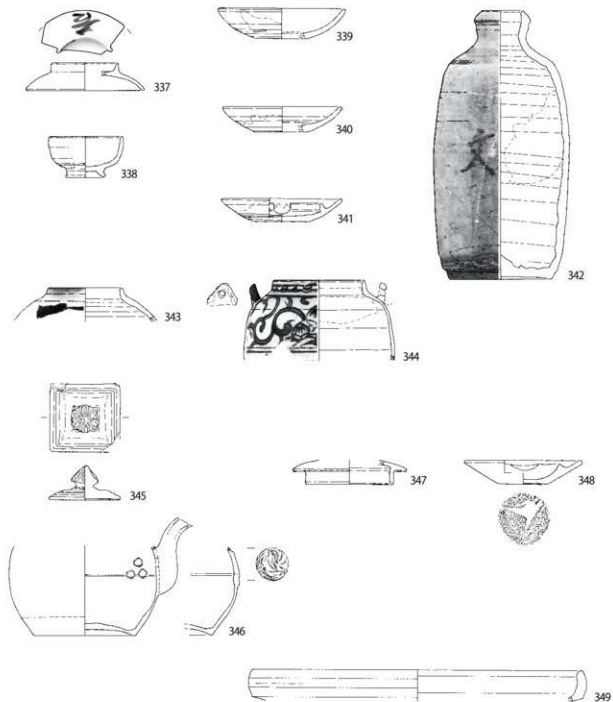


0 10cm 1/10

第 232 图 区画 AE 土壙出土遺物 (44)



S K 302

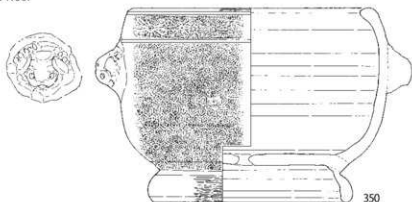


0 10cm  
14

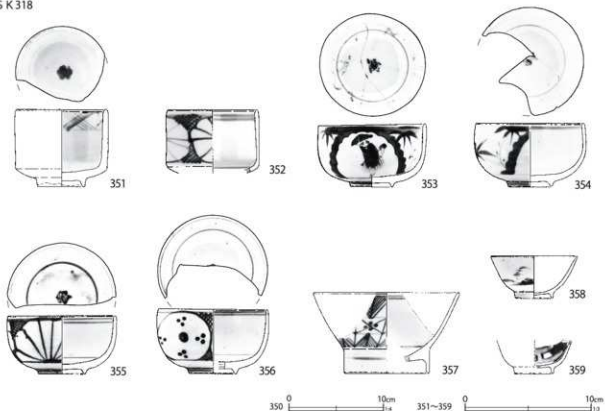
0 10cm  
13

第 233 图 区画 AE 土境出土遺物 (45)

SK307



SK318



第234図 区画AE土壙出土遺物(46)

である。高台高が高い蛇ノ目凹形高台で、高台内に墨書「命」がみえる。磁器の釘書資料が多い屋号で、北二丁目陣屋跡(埴埋文2020a)、本陣跡(埴埋文2020b)、第7地点(埴埋文2019d)で確認されており、宿の広範囲に分布する。

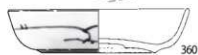
第202図85は大堀相馬系陶器の坏である。内面に走馬文の鉄絵がみられる。

87は陶器の灰軸すず徳利で、外面に酸化コバ

ルトの呉須文字で「高瀬屋」、背面には屋号「今」がみえる。『絵図』の「小賣酒屋/権八」、『営業便覧』の「旅館/高瀬屋/高瀬藏之介」と考えられる。位置は第9地点の「青物屋/庄次郎」の日光道中を挟んだ対面である。

第205図101は瓦質土器の甕である。底抜けで、外面に櫛描き文様が施文される。左側面に小さな窓がつき、栗橋宿で出土するこの形状の甕では極

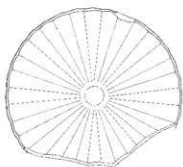
S K 318



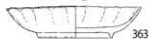
360



361



362



363



365



366



364



S K 329



367



第 235 图 区画 AE 土坑出土遗物 (47)

第52表 区画AE土壌出土遺物観察表(1) (第189~235図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	—	2.8	11.5	—	100	良好	白	SK60 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 施釉痕あり 内面焼継印(赤) 2 最大径13.2cm	73-13
2	磁器	蓋	—	2.6	5.0	—	100	良好	緑灰	SK60 瀬戸美濃系 内外面施釉 胎土酸化クロム襷り込み 内面刻印「龍山」 最大径6.9cm	73-14
3	土質瓦器	焙烙	37.6	3.6	37.1	AFHI	25	普通	にみ黄	SK60 砂目底・圧痕 底部周縁煤付着 内耳1遺存	
4	瓦質土器	甕罎	(29.6)	2.9	(32.2)	AK	20	普通	にみ黄	SK60 ほぼ酸化塩焼成	
5	瓦質土器	行火	縦25.6 横25.6 高さ25.1			AEHI	70	普通	にみ黄	SK60 江戸在地系 板作り成形 外面ミガキ 燻す 焼成前穿孔2あり 意3面(左右内形・背面扇形)	
6	土質瓦器	皿皿	10.9	1.3	9.4	ADEGHI	100	普通	にみ黄	SK60 三河産 下面砂目	
7	土質瓦器	椀おこし	11.2	10.3	10.3	K	90	普通	浅黄橙	SK60 板作り成形 内面・口唇・底部被熱	
8	瓦質土器	植木鉢	12.1	6.6	7.3	AHIK	70	普通	灰	SK60 底部糸切痕(左) 燻す	
9	瓦質土器	植木鉢	13.8	[8.2]	—	CFH	55	普通	淡黄	SK60 ほぼ酸化塩焼成	
10	陶器	植木鉢	(17.0)	[7.8]	—	I	10	良好	淡黄	SK60 土器質 型成形	
11	陶器	鉢	(18.2)	8.7	10.4	IK	45	普通	にみ黄	SK70 内外面施釉 受口部白化粧 露胎部煤付着 刻印	75-7
12	陶器	甕	(24.2)	28.3	18.9	EIK	45	良好	明褐灰	SK70 笠間系 内外面施釉 体部黒釉流し掛け 底部白化粧 内面目跡4遺存	
13	陶器	摺鉢	(32.8)	15.3	16.6	IK	40	普通	明褐灰	SK70 益子・笠間系 内面上位・外面鉄釉 内面掃目	
14	土質瓦器	硯石	(26.4)	[8.6]	—	ADEHK	15	普通	橙	SK70 三河産 外面扇状施文・黒色付着 内面下位煤付着	
15	瓦質土器	甕	28.7	28.0	32.2	CIK	85	普通	赤褐	SK70 ほぼ酸化塩焼成 外面扇状施文 背面焼成前穿孔2あり 内面上位煤付着	
16	瓦質土器	甕罎	(28.4)	4.0	(32.0)	ACIK	30	普通	明黄橙	SK70 燻す 口唇部刻印「○」; 被熱・煤付着	
17	瓦質土器	甕罎	29.8	3.1	32.0	CI	80	普通	にみ黄	SK70 胎土中心部黒褐色 燻す 口唇部刻印「○○○」 煤付着	
18	瓦質土器	器台	(29.4)	14.0	(25.0)	ACHIK	40	普通	にみ黄	SK70 ほぼ酸化塩焼成 被熱 外面下位・内面煤付着 意は推定復元	
19	瓦質土器	植木鉢	(14.7)	10.1	9.7	ACI	50	普通	灰	SK70 底部ヘラナゲ・焼成前穿孔 燻す	
20	施釉土器	羽釜	21.6	[13.7]	—	AEHI	60	普通	にみ黄	SK70 外面上位・内面施釉 露胎部煤付着	
21	磁器	坏	5.7	3.5	2.5	—	95	良好	白	SK80 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 高台内刻印「内山」	74-2
22	磁器	坏台	(4.7)	6.9	6.2	—	40	良好	白	SK80 瀬戸美濃系 体部透影り 内外面施釉 外面染付 口紅煤付着	68-2
23	磁器	筆筒	4.7	[6.2]	—	—	30	良好	白	SK80 瀬戸美濃系 板作り成形 透影り 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
24	土質瓦器	焙烙	(36.4)	3.6	(36.2)	HI	30	普通	にみ黄	SK80 底部シワ状痕 内底面円筒状のナゲ・中央ランダムなナゲ	
25	土質瓦器	器台	26.3	8.2	19.5	ACHIK	95	普通	橙	SK80 内面突起3 焼成前穿孔6 内面煤付着	
26	瓦質土器	火鉢	18.0	8.4	17.5	CK	95	普通	灰白	SK80 底部ヘラナゲ 体部・口唇部ミガキ 燻す	
27	瓦質土器	植木鉢	25.5	17.3	16.6	AE	70	普通	灰白	SK80 底部ヘラナゲ 体部縁 燻す 高台挟り3	
28	瓦質土器	植木鉢	(22.0)	14.2	(16.3)	CHIK	40	普通	褐灰	SK80 底部ムシロ状圧痕 ほぼ酸化塩焼成	
29	瓦質土器	植木鉢	(13.4)	10.0	8.7	AIK	65	普通	灰白	SK80 底部糸切痕(左)・摩耗 燻す	
30	土質瓦器	硯石	22.4	21.5	21.8	ADEHK	80	普通	橙	SK84 三河産 板作り成形 外面ミガキ 意に刻印 中筒上位被熱(白色化) 上面煤付着	
31	土質瓦器	椀おこし	11.4	10.9	10.8	AIK	65	普通	灰白	SK84 被熱 内底面剥落	
32	土質瓦器	椀おこし	8.4	9.6	8.6	CEHK	100	普通	橙	SK84 底部糸切後ケズリ	
33	陶器	甕	11.0	12.5	8.5	EIK	60	良好	褐灰	SK87 笠間系 内面鉄釉 外面二彩釉(白・緑) 外面上位鉄釉流し掛け 底部白化粧	
34	瓦質土器	甕罎	—	3.2	—	AIK	5	普通	灰白	SK87 口唇部刻印「○○○」; 被熱(黒化)・煤付着	
35	土質瓦器	椀おこし	9.2	8.8	9.2	A	80	普通	にみ黄	SK87 底部糸切後ケズリ 口唇部・内面被熱(白色化・剥落)	
36	瓦質土器	植木鉢	(30.8)	20.3	24.4	CIK	60	普通	褐灰	SK87 底部ムシロ状圧痕・焼成前穿孔3 内底面渦巻状のナゲ 燻す	
37	陶器	甕	8.3	5.5	3.2	K	95	普通	灰白	SK88 京都信楽系 内外面施釉 外面刻書	74-3
38	陶器	甕	(14.2)	16.0	11.4	EIK	50	普通	にみ黄	SK88 笠間系 底部白化粧 内外面施釉	68-2
39	土質瓦器	硯石	—	[9.6]	—	ADEHK	5	普通	にみ黄	SK88 三河産 意部 刻印 内面黒化	74-4
40	磁器	土瓶	5.2	6.6	6.6	—	80	普通	白	SK94 瀬戸美濃系 外面施釉 底部刻印「新築登録/伊村製陶所/瀬戸市」	74-10
41	土質瓦器	焙烙	20.5	3.9	17.2	ACHIK	75	普通	にみ黄	SK94 底部ヘラナゲ 被熱(一部黒化)	
42	陶器	急須	5.8	6.8	4.4	—	95	良好	赤灰	SK96 萬古系 注口部目痕 体部ヘラ書き「薬桶/身戸/和洋酒器油味噌」・刻印「陶美」	74-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
43	土師質土器	焙烙	(35.0)	4.0	(34.5)	AHI	60	普通	橙	SK96	底部シワ状痕 内面同心円状のナデ・中央ランダムなナデ	
44	土師質土器	縄文おこし	8.6	[4.3]	8.0	AK	50	普通	浅黄緑	SK96	底部回転ケズリ 口縁部煤付着	
45	土師質土器	槌木鉢	11.8	10.7	7.4	AHIK	75	普通	橙	SK96	底部ヘラナデ	
46	磁器	杯	4.5	4.5	2.4	—	100	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施軸・銅版転写染付 外面上絵付(赤・金・黒・白・緑)	
47	磁器	鉢	20.8	7.7	10.2	—	80	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施軸・銅版転写染付・上絵付(赤・緑・黄・青・黒)	
48	陶器	煮瀧鍋	18.8	10.9	15.0	HIK	80	普通	にぶ味	SK97	内面・口縁部白軸 胎土黒色粒子多量 底部二次穿孔1あり	
49	硬質陶器	洋皿	22.8	2.5	12.1	—	85	普通	白	SK98	国産 内外面施軸 内面青色軸下彩 高台内銘施(緑)	74-13
50	陶器	水甕	—	[2.9]	(21.0)	EK	5	普通	灰白	SK98	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面目跡1遺存 高台内墨書	74-12
51	土師質土器	縄文おこし	10.8	12.1	11.2	AHIK	95	良好	明赤褐	SK98	底部静止糸切後ヘラナデ 把手内面布目痕 内面被熱	
52	土師質土器	槌木鉢	(12.0)	10.6	7.5	ACHK	60	普通	橙	SK98	底部ヘラナデ	
53	瓦質土器	壺罎	(30.0)	3.9	(33.0)	ACHK	30	普通	にぶ味	SK99	燻十 口唇部煤付着	
54	瓦質土器	槌木鉢	15.1	10.8	10.5	CHK	60	普通	明褐灰	SK99	底部ヘラナデ	
55	陶器	灯火具	4.4	5.3	4.8	K	90	普通	灰白	SK102	底部糸切痕(右) 内外面施軸 最大径8.0cm	
56	陶器	徳利	(4.0)	26.7	(9.5)	K	45	良好	灰白	SK102	内面施軸 外面灰軸・軸下彩(緑) 文字「□□」現	
57	陶器	養生陶器	縦[23.9] 横[16.2]	—	—	DEX	5	良好	灰白	SK102	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面白・青緑軸流し掛け SK103と接合 SK110に同一個体破片 口唇部刻印「○」 被熱・煤付着	
58	瓦質土器	壺罎	(28.6)	3.0	(30.0)	CI	35	普通	橙	SK102	口唇部刻印「○」 被熱・煤付着	
59	磁器	皿	11.4	3.9	6.5	—	100	普通	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺輪染付 高台内墨書	
60	磁器	鉢	17.1	6.5	6.8	—	95	普通	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付 内面軸下彩(緑) 焼痕あり 高台内焼印(透明)	74-16
61	磁器	蓋	—	2.7	6.3	—	100	普通	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面銅版転写染付 62の蓋	
62	磁器	急須	6.8	7.4	5.6	—	95	良好	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面銅版転写染付 焼痕あり 底部焼印(赤)・墨書「くり中/大つか/□□」	76-10
63	陶器	徳利	—	[17.5]	7.9	IK	80	普通	灰白	SK104	外面上位トビガンナ状施文 頸部鉄軸 体部灰軸 底部墨書「大塚」	74-17
64	陶器	播鉢	—	[4.8]	(15.0)	IK	5	普通	灰白	SK104	益子系 内外面施軸 内面播目(17条/単位) 底部墨書	
65	瓦質土器	槌木鉢	12.0	9.5	8.2	CHK	40	普通	灰白	SK104	底部回転糸切(左)の途中で離し糸切 燻す	
66	瓦質土器	槌木鉢	11.0	6.1	6.9	CHK	60	普通	灰褐	SK104	底部糸切痕(左)・摩耗 燻す	
67	磁器	碗	8.7	5.4	3.5	—	60	普通	白	SK106	肥前系 内外面施軸・染付 内面・破断面に紅付着	68-3
68	磁器	皿	12.1	2.4	6.1	—	90	良好	白	SK106	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型摺除刻文	
69	磁器	皿	(9.6)	2.4	5.2	—	45	良好	白	SK106	肥前系 内外面施軸 内面染付	
70	陶器	杯	—	[3.4]	(3.0)	K	10	良好	灰白	SK106	胎土磁質 胎土固ます 内外面灰軸	
71	陶器	急須	長[4.2] 高さ2.7	—	—	—	5	良好	灰白	SK106	京都系 把手 白色胎土 刻印「晋羽/□」	74-18
72	陶器	蓋	—	2.4	6.4	K	80	普通	灰白	SK106	ツマミ型成形 上面灰軸・底絵(白・緑)	
73	陶器	槌木鉢	(17.6)	16.7	10.6	EIK	60	良好	灰白	SK107	瀬戸美濃系 内面上位・外面灰軸 高台内墨書	74-19
74	土師質土器	焙烙	18.0	3.6	18.3	CHK	95	普通	にぶ味	SK107	底部ムシロ状瓦瓶 体部黒化	
75	瓦質土器	火鉢	16.6	8.5	13.2	CHK	70	普通	淡橙	SK107	口縁部トビガン 体部トビガンナ状施文をナゲ消し やや酸化焙烙成 胎土中心灰色	
76	瓦質土器	十能	長軸28.5 短軸12.2 高さ3.7	—	—	CI	60	普通	黒	SK107	下面シワ状痕 被熱(黒化) 下面緑青付着	
77	土師質土器	目皿	10.5	1.7	9.4	CIK	95	普通	灰白	SK107	下面砂目 体部下位ケズリ 上面被熱(白色化)	
78	磁器	杯	6.1	3.0	2.3	—	95	良好	白	SK108	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青・赤)	76-17
79	磁器	皿	14.5	4.6	8.6	—	40	良好	白	SK108	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 高台内墨書「倉」	
80	磁器	蓋	(4.8)	2.6	(9.0)	—	20	良好	白	SK108	肥前系 内外面施軸 外面染付文字「[ ]屋」	68-4
81	陶器	徳利	4.0	27.7	8.6	IK	70	良好	灰	SK108	外面灰軸 頸部鉄軸流し掛け	
82	土師質土器	焙烙	16.0	[5.0]	—	CHI	50	普通	にぶ味	SK108	底部ケズリ 内外面黒化	
83	瓦質土器	焙烙	(34.2)	2.8	(34.4)	CI	20	普通	灰白	SK108	底部シワ状痕 体部・内面黒化	
84	磁器	香炉	8.6	6.3	4.6	—	95	普通	白	SK109	瀬戸美濃系 外面施軸・色絵(赤・緑) 底部渦巻状のケズリ・墨書	
85	陶器	杯	—	[2.3]	2.7	K	20	良好	灰白	SK109	大塚相馬系 内外面灰軸 内面鉄絵	
86	陶器	土瓶	3.8	[7.8]	—	K	5	良好	褐灰	SK109	外面緑褐色系軸	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
87	陶器	徳利	—	[21.7]	8.0	IK	90	普通	灰	SK109	外面灰軸・負須文字(酸化コバルト)「高瀬屋」[今]	75-1
88	陶器	急須	(6.6)	[4.0]	—	K	30	良好	灰白	SK109	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 体部走馬文貼付・回ます 内外面施軸 接点のない2片から復元	
89	陶器	蓋	—	[1.1]	(6.0)	—	30	普通	灰褐	SK109	萬古形 型成形 胎土拓器質 内外面布目肌 上面漆状 塗布物で文字「吉」	
90	陶器	蓋	—	2.3	4.4	—	100	普通	暗赤灰	SK109	萬古系 胎土拓器質 ツマミ端部施軸 上面イッチン文 字「金」/「商店」最大径5.7cm	75-6
91	陶器	植木鉢	18.5	12.8	10.8	IK	60	良好	灰白	SK109	内外面施軸・白軸流し掛け 高台挟り3 高台内墨書	
92	土師質土器	甕罎	19.5	22.7	22.2	AIK	90	普通	にみ埴	SK109	三河産 板作り成形 体部ミガキ 意部刻印「第十七号 /新川名〔産〕/株式会社/製造〔〕草」高台挟り4 底部墨書	75-2
93	瓦質土器	甕罎	(28.6)	3.0	(30.2)	CIK	40	普通	灰褐	SK109	燻す	
94	瓦質土器	甕	(30.0)	[7.2]	—	CIK	10	普通	黒	SK109	体部樹皮状施文 燻す 口唇部刻印「〇〇〇」	
95	瓦質土器	植木鉢	(16.2)	10.5	(10.0)	CHK	70	普通	灰黄褐	SK109	底部静止糸切襷ナゲ成形・粘土貼り付け(大部分剥 落) 燻す	
96	瓦質土器	植木鉢	(15.3)	8.3	(8.0)	CHK	40	普通	橙	SK109	底部糸切痕(左) 燻す	
97	瓦質土器	植木鉢	(12.2)	7.9	7.4	IK	60	普通	褐灰	SK109	底部糸切痕(左) 燻す	
98	磁器	碗	—	[1.7]	3.6	—	5	良好	白	SK110	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
99	陶器	蓋	—	2.3	(6.0)	K	25	良好	灰白	SK110	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 上面回ます 内外面施軸	
100	陶器	摺鉢	32.6	14.9	17.0	IK	95	良好	褐灰	SK110	笠筒系 内面上位・外面柿輪 内面摺目 底部墨書	
101	瓦質土器	甕	30.0	27.0	(32.2)	HIK	60	普通	明褐灰	SK110	外面樹皮状施文 左側面に小窓あり(推定復元) 燻す 内面上位煤付着	
102	瓦質土器	火酒壺	21.3	17.9	17.4	CHI	75	普通	明灰褐	SK110	底部板状圧痕 体部ミガキ・スタンプ施文 燻す 内面 煤付着	
103	土師質土器	甕罎	(23.7)	22.3	22.6	ADEHI	40	普通	にみ埴	SK110	三河産 板作り成形 体部ミガキ 扉付 意部刻印 上面 煤付着	
104	瓦質土器	植木鉢	13.8	8.6	8.6	CIK	70	普通	灰白	SK110	底部糸切痕をナゲ消し 燻す	
105	土師質土器	細口鉢	(10.8)	9.5	(10.0)	AEHI	30	普通	浅黄橙	SK112	底部糸切痕 把手接合痕をナゲ消し 口唇部被熱(赤 色化)	
106	磁器	急須	9.1	8.4	6.9	—	75	良好	白	SK113	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 底部墨書「ワ」	75-8
107	陶器	灯明皿	8.6	2.2	3.5	K	80	良好	灰白	SK113	内外面灰軸	
108	陶器	急須	6.3	5.3	4.8	—	90	良好	灰赤	SK113	萬古系 胎土拓器質 注口端部・口唇部施軸 体部墨書 (朱)「〔〕真中商店」内面煤付着	
109	陶器	衛生陶器	—	[17.6]	—	EIK	10	良好	灰白	SK113	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面鉄軸流し掛け 内外面上 位青緑・白軸流し掛け	
110	瓦質土器	蓋	—	4.6	25.8	CIK	80	普通	灰白	SK113	上面板状圧痕 燻す	
111	瓦質土器	火酒壺	21.6	19.2	21.4	IK	90	普通	灰白	SK113	底部シワ状痕 燻す	
112	瓦質土器	火鉢	(17.6)	[10.4]	(15.2)	ADEH	40	普通	灰黄褐	SK113	外面ミガキ 板状脚2遺存 燻す 剥落顕著	
113	土師質土器	甕罎	—	[9.2]	—	ADEHK	5	普通	灰黄	SK113	三河産 意部 刻印	75-3
114	土師質土器	甕罎	—	[9.4]	—	ADEIK	5	普通	にみ埴	SK113	三河産 意部 刻印	75-4
115	土師質土器	焙烙	32.7	[4.5]	—	CHK	60	普通	にみ埴	SK113	砂目底 内底面同心円状のナゲ 胎土中心灰白色 底部 被熱(黒化)	
116	瓦質土器	植木鉢	19.6	16.7	14.8	CIK	70	普通	灰白	SK113	底部同心円状のナゲ・挟り3 口縁端部ミガキ状光沢 体部スタンプ文 胎土中心黒色 燻す	
117	瓦質土器	植木鉢	28.1	18.0	19.2	CHK	60	普通	明褐灰	SK113	底部ヘラナゲ・粘土付着 燻す	
118	瓦質土器	植木鉢	(22.8)	14.4	16.4	CIK	60	普通	黒褐	SK113	底部ムシロ状圧痕 燻す	
119	瓦質土器	植木鉢	13.4	9.2	7.9	CHK	60	普通	褐灰	SK113	底部糸切痕(左) 燻す	
120	磁器	坪	7.0	2.7	2.8	—	70	普通	白	SK115	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上給付(青・金)	
121	磁器	皿	14.5	4.1	8.6	—	85	普通	白	SK115	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 焼継痕あり 高台 内焼継印(赤)	
122	磁器	皿	20.0	3.4	10.5	—	80	普通	白	SK115	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚3・焼 継印(赤) 焼継痕あり	
123	陶器	猪口	7.0	5.8	3.8	K	90	普通	白	SK115	内外面施軸 外面負須文字(酸化コバルト)	75-9
124	陶器	灯明皿	10.2	2.2	3.6	IK	95	普通	灰黄	SK115	内外面施軸	
125	陶器	灯明皿	(10.1)	2.3	3.5	IK	90	普通	灰	SK115	外面上位・内面施軸	
126	陶器	灯火具	3.6	5.5	4.9	K	90	良好	灰白	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰軸 最大径8.4cm	
127	陶器	灯火具	4.3	5.5	4.2	K	95	普通	灰白	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰軸 最大径8.4cm	
128	陶器	灯火具	3.6	5.7	4.5	I	100	普通	灰褐	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰軸 最大径8.1cm	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
129	陶器	灯火具	4.5	5.4	4.7	K	95	普通	にぶい 黄橙	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰輪 最大径8.0cm	
130	陶器	徳利	—	[22.5]	10.0	EIK	80	普通	灰白	SK115	瀬戸美濃系 外面灰輪 体部下位・底部軸抜き取り 体部二次穿孔2あり	
131	陶器	急須	(5.6)	6.3	4.4	—	30	普通	褐灰	SK115	萬古系 胎土磁器質 把手透彫り 口唇部・把手輪部施輪・金彩 外面イッチン文字「栗橋仲町/池谷商店/〔〕商」	
132	陶器	急須	(5.6)	6.4	4.9	—	80	普通	暗赤灰	SK115	萬古系 胎土磁器質 口唇部・把手・注口輪部施輪 体部刻印「〔〕竹内」	
133	陶器	急須	(6.0)	5.3	4.4	K	30	良好	灰白	SK115	大層相馬系 胎土磁質 内面施輪 外面上位灰輪・下位絞肌輪	
134	陶器	播鉢	—	[3.7]	12.5	IK	10	普通	灰白	SK115	益子系 内外面鉄輪 内面播目(17条/単位) 底部墨痕	
135	陶器	播鉢	28.7	13.9	14.0	BHK	95	普通	浅黄橙	SK115	益子系 内外面鉄輪 内面播目(15条/単位) 底部墨書	
136	陶器	榎木鉢	16.0	15.2	7.4	EIK	45	良好	灰褐	SK115	松岡系 内面上位・外面鉄輪 接点のない3片から復元	
137	瓦質土器	火鉢	22.8	8.7	24.5	CIK	30	普通	明褐灰	SK115	底部シワ状痕 外面ヘラナゲ 体部二次穿孔1あり	
138	瓦質土器	蓋	—	3.9	27.6	CHI	50	普通	にぶい 黄橙	SK115	外面スタンプ施文メダカ 横す 胎土中心黒褐色 上面二次穿孔	
139	瓦質土器	焙塔	(35.0)	[4.2]	(36.0)	HIK	20	普通	にぶい 黄橙	SK115	砂目底 内面円筒状のナゲ 底部・内底面黒化	
140	土師質土器	目皿	10.4	1.3	8.8	AHHK	80	普通	橙	SK115	上面被熱(白色化・剥落)	
141	瓦質土器	榎木鉢	(17.0)	11.0	11.6	AIK	40	普通	灰白	SK115	底部糸切痕 横す	
142	磁器	碗	—	[4.9]	5.2	—	30	普通	白	SK116	肥前系 内外面施輪・染付	
143	磁器	碗	—	[4.2]	—	—	5	普通	灰白	SK116	瀬戸美濃系 内外面施輪・色絵(赤・緑)	
144	磁器	碗	(7.0)	4.8	2.7	—	60	良好	白	SK116	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面染付	
145	磁器	碗	(10.0)	[4.8]	—	—	10	良好	白	SK117	肥前系 内外面施輪 外面染付文字「吉〔〕」	
146	陶器	碗	—	[2.7]	—	IK	5	良好	灰白	SK117	瀬戸美濃系 内面灰輪 外面灰・鉄輪上下掛け	
147	陶器	土瓶	(8.0)	[11.3]	—	EIK	50	良好	灰黄橙	SK117	松岡系 内面下位鉄化粧 外面鉄輪 海鼠軸渡し掛け	68-5
148	陶器	播鉢	29.4	12.8	8.8	IK	75	普通	灰黄	SK118	益子系 内外面鉄輪 内面播目(20条/単位) 底部二次穿孔 高台外周に鉄製品巻付	
149	瓦質土器	焙塔	(36.0)	3.6	(34.3)	CHK	40	普通	灰白	SK118	底部シワ状痕 内面円筒状のナゲ 被熱・焼付着	
150	土師質土器	燈伊	19.0	20.2	19.8	ADEH	90	普通	橙	SK118	三河産 板作り成形 外面メダカ 扉付 意部刻印 内面上位被熱(白色化) 上面焼付着	75-5
151	土師質土器	目皿	8.7	1.4	6.6	AHHK	90	普通	にぶい 黄橙	SK118	上面被熱(白色化・剥落)	
152	土師質土器	目皿	8.0	1.3	5.1	HIK	100	普通	にぶい 黄橙	SK118	下面シワ状痕 上面ヘラナゲ・被熱(白色化)	
153	土師質土器	目皿	(10.0)	1.6	(7.0)	CIK	30	普通	灰白	SK118	底部ヘラナゲ 内面被熱(白色化・剥落)	
154	瓦質土器	榎木鉢	(24.0)	13.9	(16.7)	CHI	30	普通	にぶい 黄橙	SK118	底部ヘラナゲ 横す 胎土中心灰色・小磯含む	
155	瓦質土器	榎木鉢	16.5	9.8	10.3	CI	80	普通	灰	SK118	底部静止糸切痕をナゲ消し 横す	
156	かわらけ	小皿	9.9	1.8	5.4	AEI	95	普通	灰白	SK118	底部・体部回転ケズリ後メダカ 内底面型押除刻文	
157	磁器	杯	(6.0)	5.3	2.9	—	50	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 内外面施輪・染付	
158	磁器	杯	(7.2)	5.5	3.3	—	60	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面型押除刻文 口紅 高台内刻印「カワラ」 SK118と接合	75-12
159	磁器	猪口	7.4	5.3	(5.6)	—	25	良好	白	SK119	肥前系 内外面施輪・染付文字「吉〔〕」	
160	磁器	急須	5.8	6.8	5.3	—	95	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	75-14
161	磁器	香炉	10.1	8.6	10.3	—	80	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 外面施輪・銅版転写染付 高台内墨痕	
162	陶器	杯	5.2	3.5	2.8	K	60	普通	浅黄橙	SK119	内外面施輪	
163	陶器	徳利	2.9	21.4	(8.2)	EIK	45	良好	灰白	SK119	瀬戸美濃系 外面灰輪 体部下位・底部軸抜き取り	
164	陶器	土瓶	—	[3.0]	6.8	K	5	普通	灰白	SK119	大層相馬系 外面輪白輪・墨書	
165	瓦質土器	火鉢	16.2	9.2	11.4	CHK	70	普通	褐灰	SK119	口縁部メダカ 体部トビガナ状施文 横す 被熱	75-15
166	土師質土器	目皿	9.2	1.9	8.2	CIK	60	普通	にぶい 黄橙	SK119	底部糸切痕(左) 内面被熱(白色化・剥落)	
167	瓦質土器	器台	28.6	15.4	14.0	IK	40	普通	灰白	SK119	内面中位被熱(白色化)	
168	土師質土器	器台	(24.0)	8.7	(17.0)	CHK	35	普通	橙	SK119	体部中位ケズリ 内面上位・口唇部焼付着	
169	土師質土器	燈伊	—	[5.7]	—	ADEHK	5	普通	にぶい 黄橙	SK119	三河産 意部 刻印	75-10
170	土師質土器	燈伊	(18.2)	20.0	19.4	ADEH	85	普通	橙	SK119	三河産 板作り成形 外面メダカ 五徳部欠失・摩耗 扉付 意部刻印	75-13
171	土師質土器	燈伊	(20.4)	20.2	18.8	ADEHK	90	普通	にぶい 黄橙	SK119	三河産 板作り成形 高台決り4 意部刻印「新川名産/株式会社/製造口章」	75-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
172	土質土器	焙烙	36.0	3.5	36.0	CHK	95	普通	に灰地	SK119	底部シワ状痕 内底面渦巻状のナグ・コグ跡あり 体部・底部周縁に煤付着	
173	瓦質土器	甕罎	34.6	4.3	36.4	HI	90	普通	に灰地	SK119	煤す 口唇部刻印「○○○○」上・内面煤付着	
174	土質土器	甕	(45.0)	[20.5]	—	ADE	20	普通	に灰地	SK119	真鍮系 外面上位スタンプ施文	
175	瓦質土器	植木鉢	(14.4)	9.3	8.5	CEIK	40	普通	灰白	SK119	煤す	
176	磁器	蓮華	長軸[7.2] 短軸4.5 高さ[2.6]	—	—	—	70	良好	灰白	SK120	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面脚取転写染付 底部墨書	75-16
177	陶器	半胴甕	20.7	17.8	12.4	EIK	75	良好	灰白	SK120	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 内面目跡3 口唇部目跡4 遺存 高台内刻印カ	75-17
178	陶器	湯たんぼ	長軸24.7 短軸13.4 高さ11.7	—	—	IK	90	良好	黄灰	SK120	笠間系 内外面鉄軸 左端面白化粧	
179	陶器	水注	8.3	15.1	8.1	—	95	普通	に灰地	SK120	常滑焼 朱泥 胎土拓器質 体部ヘラ書き 高台内刻印「雲香造製」	75-18
180	土質土器	椀	11.2	12.7	11.4	AEI	80	普通	橙	SK120	底部静止糸切痕 被熱 (内外面白色化・内面剥落)	
181	磁器	蓋	5.2	3.9	11.8	—	50	良好	白	SK121	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
182	磁器	皿	14.7	4.6	8.6	—	85	良好	白	SK121	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 高台内墨書「命」	76-1
183	磁器	蓋物	10.5	6.4	10.0	—	80	普通	白	SK121	瀬戸美濃系 内面上位・外面施釉 外面・口唇部銅版転写染付 底部墨痕	
184	陶器	鉢	長軸[11.1] 短軸8.0 高さ6.5	—	—	—	95	良好	白	SK121	肥前系 型成形 鋳手貼り給付 内外面施釉 (外面鉄軸薄掛け・銅埋填物) 口唇部酸化コバルト染付	
185	磁器	徳利	(3.4)	26.4	7.3	—	70	普通	白	SK121	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付	
186	磁器	植木鉢	11.4	7.0	6.6	—	90	良好	白	SK121	瀬戸美濃系 内面上位・外面施釉 外面・口唇部酸化コバルト染付 底部墨痕	
187	陶器	急須	5.9	6.4	4.7	—	85	良好	褐灰	SK121	萬古系 胎土拓器質 底部布目痕・墨書 注口端部・口唇部施釉 外面給付 (白・金・赤)	76-2
188	陶器	急須	5.1	4.6	4.3	—	90	良好	褐灰	SK121	萬古系 胎土拓器質 底部布目痕・墨書 注口端部・口唇部施釉 外面給付 (輪・金・白)	
189	陶器	蓋	—	2.3	5.1	—	95	良好	赤灰	SK121	萬古系 胎土拓器質 ツマミ上下二枚型成形・箱輪上面イッチン文字「命」/「商店」最大径5.9cm	76-3
190	陶器	土瓶	8.8	11.1	7.4	K	90	良好	灰白	SK121	底部白化粧 外面白化粧後施釉・輪下縁(緑・黒・茶)	
191	瓦質土器	焙烙	—	5.1	—	CHI	5	普通	明褐色	SK121	砂目底	
192	土質土器	焙烙	17.2	5.0	9.3	ACHIK	75	普通	に灰地	SK121	底部ケズリ 体部下位・内面煤付着	
193	土質土器	甕罎	—	[9.0]	—	ADEIK	5	普通	に灰地	SK121	三河産 宍部 刻印「三河名産/製造組合/吉田善二郎」	76-4
194	土質土器	風口	長さ22.2 幅12.5 高さ7.1	—	—	CHK	80	普通	明赤褐色	SK121	砂目底 板作り成形 体部ヘラナゲ 上面口縁部欠失・摩耗 (周囲被熱・白色化)	
195	瓦質土器	火鉢	—	[6.7]	22.0	CHK	5	普通	に灰地	SK121	底部片痕 脚部外面ミガキ 煤す	
196	瓦質土器	甕	26.8	25.5	23.2	ACHIK	80	普通	に灰地	SK121	底部片痕 煤す 内面・口唇部煤付着	
197	瓦質土器	甕	(28.2)	[18.8]	—	I	20	普通	灰白	SK121	体部櫛歯状施文 (11条/単位) 煤す 口唇部ヘラ書き 内面煤付着	
198	瓦質土器	植木鉢	19.9	13.2	15.2	ACIK	70	普通	灰白	SK121	底部糸切痕をナゲ消し 胎土中心部灰色	
199	かわらけ	小皿	(5.8)	0.9	2.0	AEHIK	55	普通	橙	SK121	外面シワ状痕・指頭痕 手づくね成形	68-6
200	陶器	摺鉢	(10.0)	1.5	(4.3)	—	20	良好	灰赤	SK125	備前系 胎土拓器質 内面撞目 口唇部塗土状光沢	68-7
201	瓦質土器	火鉢	長軸25.9 短軸23.5 高さ10.1	—	—	CI	45	普通	灰白	SK125	底部シワ状痕 体部シワ状痕をナゲ消し 胎土中心灰色 内底面煤付着 脚2遺存	
202	土質土器	日皿	(10.0)	1.3	(9.6)	CIK	40	普通	灰黄	SK127	上面シワ状痕・被熱 (白色化)	
203	磁器	碗	6.2	5.2	3.1	—	40	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	
204	磁器	碗	7.0	5.1	3.1	—	60	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内面施釉 外面瑣璃釉	
205	磁器	碗	6.5	5.1	3.3	—	90	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 被熱 (強)	
206	磁器	杯	(6.1)	3.0	(2.6)	—	40	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付 (青)	
207	磁器	杯	(5.6)	2.8	2.6	—	30	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付 (青)	
208	磁器	杯	(6.2)	3.0	2.3	—	50	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付 (青)	76-5
209	磁器	杯	(7.0)	3.2	(2.8)	—	30	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
210	磁器	鉢	(15.3)	6.5	(9.2)	—	10	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
211	磁器	水筒	長軸9.0 短軸6.8 高さ2.6	—	—	—	85	普通	白	SK128	瀬戸美濃系 型成形 上面陽刻文 内底面・底部布目痕 外面施釉・染付	
212	陶器	杯	5.8	3.2	3.0	EK	60	良好	灰白	SK128	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
213	陶器	杯	5.1	3.2	2.9	IK	90	良好	灰白	SK128	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
214	陶器	豆甕	—	[2.8]	3.4	EIK	30	良好	灰白	SK128	底部糸切痕 (右) 内外面鉄軸	

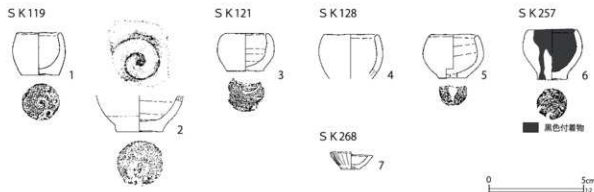


番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
215	陶器	御猪口	(5.2)	[2.8]	—	K	10	良好	灰白	SK128	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
216	かわらけ	小皿	(7.8)	[1.2]	—	EM	65	普通	灰白	SK128	手づくね成形 外面指頭痕 白色胎土	
217	かわらけ	小皿	(7.4)	1.2	—	EM	40	普通	浅黄橙	SK128	手づくね成形 外面指頭痕 器形歪む	
218	かわらけ	小皿	(7.7)	[1.2]	—	EM	25	普通	灰白	SK128	手づくね成形 外面指頭痕 白色胎土	
219	瓦質土器	甕罎	(26.0)	3.5	(28.0)	CIK	15	普通	灰黄	SK128	燻す 内面煤付着	
220	瓦質土器	仕切盤	29.1	[6.7]	23.4	AI	95	普通	灰白	SK128	底部ムシロ状痕 体部下位ケズリ 口縁部ミガキ 内外面指頭痕 燻す 胎土中心灰色 底部煤付着	
221	磁器	坏	—	2.3	—	—	5	良好	白	SK131	三田系 型成形 内面陰刻文 内外面青磁軸	
222	陶器	豆甕	7.4	6.0	4.2	IK	30	普通	灰白	SK132	底部糸切痕 内外面鉄軸	
223	陶器	急須	—	[5.0]	—	I	5	良好	赤褐	SK132	萬古系 型成形 胎土器質 外面陽・陰刻文 接点のない2片を合成	
224	磁器	碗	(8.2)	[4.4]	—	—	5	良好	白	SK135	肥前系 内外面施軸 外面染付文字「[ ]」風	68-9
225	磁器	碗	(9.4)	5.3	(3.8)	—	15	良好	白	SK135	瀬戸美濃系 内外面施軸 貝須散	
226	磁器	皿	—	[1.9]	—	—	5	不良	灰白	SK135	肥前系 内外面施軸・色絵(赤・緑・黄) 内面染付	
227	陶器	灯明皿	7.6	1.7	3.1	—	95	普通	灰白	SK135	京都信楽系 内面施軸・ビン痕3 被熱 露部煤付着	
228	陶器	蓋	—	2.3	3.8	I	50	良好	灰黄褐	SK135	底部離し糸切痕 胎土極硬質 上面白軸流し掛け 最大径(7.2) cm	
229	瓦質土器	火鉢	(24.6)	[9.9]	—	CHIK	10	普通	褐灰	SK135	やや酸化焙焼成	
230	磁器	皿	(9.4)	[2.1]	(7.0)	—	45	普通	白	SK248	肥前系 内外面施軸・染付 染付文字「吉[ ]」	
231	磁器	香炉	10.4	6.0	4.0	—	100	良好	白	SK248	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 底部墨書	
232	陶器	坏	(7.0)	[3.7]	—	K	15	普通	灰黄褐	SK248	大塚相馬系 胎土砂鉄含む 内外面施軸 体部下位凹ます 焼痕あり 被熱(強)	
233	陶器	徳利	—	[18.1]	(8.2)	IK	55	普通	灰白	SK248	瀬戸美濃系 外面灰軸 体部下位・底部軸抜き取り	
234	陶器	急須	5.5	6.8	4.7	—	100	普通	暗赤灰	SK248	萬古系 胎土器質 把手・口唇・注口施軸・金彩 外面イッチン文字「栗橋町/藤山商店/陶器/漆器/銘茶/洋燈/板硝子」内面に煤厚く付着	
235	陶器	急須	6.0	6.0	5.5	I	90	良好	暗赤灰	SK248	萬古系 胎土器質 外面輪付 口唇・注口施軸 焼痕あり 底部焼練印(赤)・墨書「古田風」	
236	陶器	蓋	—	2.0	5.2	—	100	良好	暗赤灰	SK248	萬古系 胎土器質 ツマミ上下合2枚型成形・端部施軸 上面イッチン文字「足利風」印	
237	瓦質土器	風口	長さ22.8 幅12.7 残存高[2.9]			CIK	20	普通	こい栗色	SK248	板作り成形 胎土中心灰色 被熱(一部橙色化)	
238	瓦質土器	風口	長さ[7.6] 高さ[8.4]			HIK	5	普通	黄灰	SK248	板作り成形 内面上位煤付着 237と同一個体か	
239	瓦質土器	器台	30.4	14.9	[14.4]	HIK	45	普通	こい栗色	SK248	外面上位に突起係かに遺存 やや酸化焙焼成口縁部の胎土中心部灰色 内面中位被熱(白色化)	
240	瓦質土器	器台	24.0	8.3	18.2	ACHIK	50	普通	橙	SK248	やや酸化焙焼成 胎土中心灰色 突起剥落 内面上位煤付着	
241	磁器	紅皿	6.1	1.6	1.9	—	100	良好	白	SK249	瀬戸美濃系 型成形 体部陰刻文 高台内陽刻文 内外面施軸	
242	磁器	坏	(4.5)	1.6	(1.7)	—	45	普通	白	SK249	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
243	磁器	皿	(10.3)	2.8	5.8	—	70	良好	白	SK249	肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼練印(透明) 被熱(弱)	
244	磁器	猪口	(5.5)	5.3	3.8	—	70	普通	白	SK249	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面・口唇部酸化コバルト染付「三河風」	
245	磁器	徳利	1.6	5.2	2.4	—	100	普通	白	SK249	瀬戸美濃系 底部離し糸切痕 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
246	陶器	徳利	—	[14.8]	9.8	IK	70	良好	こい栗色	SK249	外面トビガンナ状施文 外面施軸 底部二次穿孔	
247	土質瓦質土器	塔塔	35.0	4.3	33.5	CHI	95	普通	橙	SK249	底部シワ状痕 内底面渦巻状のナゲ 補修痕3対あり 体・底部煤付着	
248	瓦質土器	甕罎	(36.0)	3.6	(34.8)	CHIK	70	普通	灰黄褐	SK249	胎土中心灰色 口唇部刻印「〇〇」 被熱・煤付着	
249	瓦質土器	甕罎	(38.0)	3.8	(36.0)	CIK	50	普通	灰	SK249	燻す 被熱・煤付着	
250	土器	埴壇	3.1	5.0	—	—	100	普通	褐灰	SK249	全面発泡・ガラス化	
251	土器	埴壇	3.0	5.2	—	—	100	普通	褐灰	SK249	全面ガラス化 外面陽付着 内面緑青付着	
252	土器	埴壇	3.2	4.8	—	—	95	普通	灰	SK249	全面ガラス化 内面緑青付着	
253	土器	埴壇	2.7	4.8	—	—	100	普通	灰	SK249	全面ガラス化 内面緑青付着	
254	土器	埴壇	2.9	[4.1]	—	EI	80	普通	褐灰	SK249	胎土に炭化物多量含む 全面ガラス化 内面緑青付着	
255	磁器	碗	7.6	6.4	(4.6)	—	95	普通	白	SK256	肥前系 内外面施軸・染付 被熱(強)	
256	磁器	碗	(7.3)	5.3	(3.6)	—	45	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面陰刻文・染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
257	磁器	碗	6.6	4.1	2.8	—	90	普通	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
258	磁器	坏	(6.4)	2.7	(2.8)	—	30	普通	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上給付(青・黄・黒)	
259	磁器	紅皿	6.0	1.7	2.4	—	100	普通	白	SK256	肥前系 型成形 外面陽刻文 外面上位・内面施軸	
260	磁器	皿	—	[1.3]	6.0	—	30	普通	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押陰刻文・染付	
261	磁器	燗德利	—	[1.0]	(5.0)	—	5	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施軸 底部墨書「[ ]」	77-8
262	磁器	鉢	—	[4.8]	(7.4)	—	20	良好	白	SK256	肥前系 内外面施軸 外面染付 焼痕あり 高台内焼 雜印(赤)	
263	磁器	水滴	縦4.4 横4.4 高さ2.1			—	70	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 型成形 上・側面施軸 上面陽刻文・染付 底部煤付着	
264	陶器	坏	(6.8)	3.4	(3.0)	K	35	良好	灰白	SK256	京都信楽系 胎土磁質 内外面灰軸 外面上給付(赤・緑)「茂紅」	
265	陶器	灯明皿	8.1	1.5	3.2	HK	95	良好	灰黄	SK256	京都信楽系 外面上位・内面施軸 内面ビン痕3あり 体部中位輪状重痕(径5.2cm)	
266	陶器	灯明皿	(10.8)	2.5	3.8	HK	40	良好	灰白	SK256	京都信楽系 胎土磁質 外面上位・内面施軸 内面ビン痕2遺存	
267	陶器	灯明皿	(9.8)	1.9	3.6	K	45	良好	灰白	SK256	京都信楽系 胎土磁質 内面施軸	
268	陶器	燗德利	—	[3.0]	6.5	IK	15	良好	灰白	SK256	京都信楽系 外面施軸 底部墨書「乙丑六[ ]口徳 吾兵[ ]」	
269	陶器	土瓶	9.2	9.3	10.2	IK	80	良好	灰白	SK256	底部糸切痕をナゲ消し 胎土拓器質 内外面火輝	
270	陶器	土瓶	—	[4.0]	—	K	5	普通	灰白	SK256	外面施軸	
271	陶器	蓋	—	[2.4]	(13.0)	IK	10	良好	灰白	SK256	上面施軸・焼成前穿孔4遺存 把手1遺存 最大径(14.0)cm	
272	陶器	手焙り	—	[5.6]	—	EI	5	良好	灰白	SK256	瀬戸美濃系 内外面灰軸 遺遺存 背面焼成前穿孔1遺存	
273	瓦質土器	火消壺	21.5	20.8	(20.0)	CIK	60	普通	白	SK256	砂目底 糠子 胎土中心灰色 内面煤付着	
274	土師質土器	焙烙	(36.0)	[3.7]	(36.8)	CHI	10	普通	灰白	SK256	底部シワ状痕 内底面・体部下位煤付着	
275	磁器	碗	9.4	5.8	3.3	—	90	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 内外面施軸・上給付(赤・緑・白・黄)	
276	磁器	坏	—	[2.1]	2.4	—	45	良好	白	SK257	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青・金)	
277	磁器	紅皿	6.5	1.9	2.4	—	100	普通	白	SK257	肥前系 型成形 外面陽刻文 全面施軸	
278	磁器	德利	—	[6.9]	4.4	—	40	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 板作り成形 底部布目痕 外面陽刻文・施軸	
279	磁器	水注	(3.4)	[6.9]	(4.1)	—	40	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 上下合型成形 内外面施軸 外面染付 被熱(弱)	
280	磁器	水滴	縦7.0 横[7.6] 高さ2.4			—	50	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 上面陽刻文・染付 施軸(側一面露胎)	
281	陶器	水滴	縦6.1 横8.0 高さ2.8			—	85	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 上面陽刻文・染付 施軸(側一面露胎) 露胎部煤付着	
282	磁器	水滴	縦6.1 横7.9 高さ2.9			—	100	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 上面陽刻文・染付 施軸(側一面露胎) 露胎部煤付着 被熱(弱)	
283	瓦質土器	十能	長軸25.5 短軸15.1 高さ4.4			CHIK	85	普通	鵝灰	SK257	下・側面シワ状痕 糠子 胎土中心灰色	
284	瓦質土器	火鉢	縦[21.9] 横22.9 高さ10.1			CIK	40	普通	灰白	SK257	底部シワ状痕 糠子 胎土中心灰色	
285	瓦質土器	焙烙	38.9	4.7	35.3	CIK	90	普通	橙	SK257	砂目底 糠子 胎土中心黒色 内底面黒色斑状 底部一部煤付着 内耳欠失2	
286	磁器	碗	(7.2)	5.6	3.1	—	30	良好	白	SK265	肥前系 内外面施軸・染付 外面染付文字「[ ]」 SK266と接合	
287	磁器	坏	(6.0)	[2.3]	—	—	40	良好	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上給付(青・金・赤)	
288	磁器	坏	(6.6)	3.0	2.5	—	50	良好	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	
289	磁器	坏	(6.3)	4.3	(3.0)	—	45	普通	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
290	磁器	紅皿	5.9	1.5	3.0	—	85	普通	白	SK265	瀬戸美濃系 型成形 内面陰刻文 高台内陽刻文 外面上位・内面施軸	
291	磁器	土瓶	(6.2)	[4.8]	—	—	15	普通	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
292	陶器	灯火具	(2.8)	3.8	3.5	K	80	良好	灰白	SK265	京都信楽系 内外面施軸 底部輪状重痕 最大径5.7cm	
293	陶器	德利	—	[10.0]	—	IK	25	良好	浅黄橙	SK265	体部下位ビンシテ施文 外面下位染付 内面上位・端部 鉄軸 SK266と接合	
294	陶器	急須	(6.0)	[5.9]	—	K	25	良好	灰	SK265	大塚相馬系 胎土砂鉄含む 体部閉すま 走馬文型成形 貼付 外面施軸・鉄軸	
295	土師質土器	植木鉢	(10.4)	6.2	(6.2)	ABHK	20	普通	灰白	SK265	底部糸切痕	
296	磁器	碗	(8.5)	[3.1]	—	—	10	良好	白	SK266	肥前系 内外面施軸 外面染付文字「[ ]」	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
297	磁器	皿	(9.9)	2.0	(7.2)	—	45	普通	白	SK266	肥前系 内外面施軸・染付 内面染付文字「田」「口田」	
298	磁器	鉢	—	[5.7]	7.8	—	30	普通	白	SK266	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(茶)	
299	磁器	水筒	縦6.8 横7.0 高さ4.1	—	—	—	85	良好	白	SK266	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 外面施軸・上給付(茶・緑・金・茶)	
300	陶器	土瓶	—	[3.0]	—	IK	5	良好	白	SK266	大瀬相馬系 外面施軸 内面鉄軸状の光沢	
301	陶器	急須	—	[3.4]	(5.8)	K	15	良好	灰白	SK266	大瀬相馬系 内底面布目痕 胎土砂鉄含む 体部閉まず外面施軸	
302	陶器	蓋	—	[2.2]	—	K	15	良好	灰白	SK266	胎土黒色練り込みマーブル状・硬質 上面施軸 最大径6.5cm	
303	瓦質土器	椀木鉢	16.4	10.5	12.1	CIK	80	普通	灰	SK266	底部ヘラナダ 僅す	
304	磁器	杯	(7.0)	2.7	2.6	—	35	普通	白	SK267	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上給付(青・金)	
305	陶器	徳利	—	[4.1]	—	IK	5	普通	灰黄	SK267	外面上位鉄軸(黒)・下位灰軸	
306	土器	埴埴	3.1	5.5	—	—	100	普通	黒褐	SK267	内外面淨化 内面緑青付着	
307	土器	埴埴	2.6	4.7	—	EI	95	普通	黒褐	SK267	胎土炭化物含む 内外面淨化 内面緑青付着 外面銅付着	
308	磁器	杯	(6.6)	2.7	2.0	—	50	普通	白	SK268	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上給付(青)	
309	磁器	皿	—	[3.7]	(8.0)	—	15	良好	白	SK268	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内焼継印	
310	陶器	徳利	3.5	26.6	8.4	IK	75	普通	灰黄	SK268	内外面灰軸 外面兵衛文字(酸化コバルト)「いなりや/く口し」	
311	陶器	徳利	—	[9.4]	9.8	IK	20	普通	灰黄	SK268	外面灰軸・軸下彩(緑)「[原]勢屋」内面褐色薄掛け	
312	陶器	鍋	(15.0)	[6.1]	—	K	10	良好	浅黄橙	SK268	内外面鉄軸	
313	陶器	急須	—	7.0	(6.6)	—	30	普通	灰	SK268	萬古系 型成形 胎土拓器質 内外面布目匠痕 注口・把手端部施軸 刻印「萬古」	
314	陶器	急須	7.3	5.0	5.0	—	75	普通	褐灰	SK268	萬古系 胎土拓器質 底部布目匠痕・墨書 口唇部施軸	
315	陶器	蓋	—	[0.7]	(7.0)	—	15	良好	灰	SK268	萬古系 胎土拓器質 内外面布目匠痕 焼成前穿孔2あり	
316	磁器	杯	6.9	2.9	2.3	—	85	良好	白	SK270	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上給付(青・金)「サカイ/箱房」	
317	瓦質土器	壺罍	43.0	4.1	39.0	HI	80	良好	灰白	SK270	僅す 胎土中心灰色 口唇部刻印「〇」岩崎が5あり 被熱 口唇部・内面煤付着	
318	磁器	皿	13.0	2.3	7.2	—	95	普通	白	SK271	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	
319	磁器	碗	8.4	8.0	5.0	—	80	良好	白	SK272	瀬戸美濃系 外面下位青磁軸 外面上位・高台内・内面施軸・染付	
320	磁器	碗	(7.6)	4.7	3.2	—	40	普通	白	SK272	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 同文明個体1あり	
321	磁器	皿	—	[1.5]	(8.0)	—	20	良好	明赤褐	SK272	淡路底平焼 型成形 内面陰刻文 施軸	
322	磁器	碗	10.4	5.7	4.0	—	95	良好	白	SK277	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
323	磁器	碗	(6.8)	5.3	(4.0)	—	20	普通	白	SK277	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
324	磁器	紅皿	4.6	1.5	1.2	—	95	普通	白	SK277	肥前系 型成形 外面上位・内面施軸	
325	磁器	燗徳利	—	[5.0]	5.2	—	40	良好	白	SK277	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
326	陶器	土瓶	—	[4.3]	—	IK	5	普通	浅黄橙	SK278	胎土土器質 外面鉄軸 被熱 煤付着	
327	磁器	杯	8.6	3.5	3.3	—	60	普通	白	SK286	瀬戸美濃系 内外面施軸・金彩「[ ]十九年」「袋谷」	
328	磁器	皿	14.6	2.9	9.4	—	70	普通	白	SK299	肥前系 内外面施軸・染付 高台内ハリ支脚1あり	
329	磁器	碗	(9.1)	7.0	5.8	—	60	良好	白	SK302	肥前系 内外面施軸・染付	
330	磁器	碗	(9.8)	4.9	(3.8)	—	40	良好	白	SK302	肥前系 内外面施軸・染付	
331	磁器	碗	(6.9)	6.1	(3.6)	—	15	普通	白	SK302	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
332	磁器	碗	—	[2.1]	(3.4)	—	10	良好	白	SK302	肥前系 内外面施軸 外面染付	
333	磁器	碗	—	[5.8]	—	—	5	普通	白	SK302	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 外面陰刻文	
334	磁器	杯	5.9	3.0	2.6	—	45	良好	白	SK302	肥前系 内外面施軸・染付	
335	磁器	碗	—	[2.3]	2.6	—	20	良好	白	SK302	肥前系 内外面施軸 外面染付	
336	磁器	皿	14.9	4.5	8.4	—	85	普通	白	SK302	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内墨書「吉田」被熱(弱)	
337	磁器	蓋	(5.1)	2.2	(9.2)	—	20	良好	白	SK302	肥前系 内外面施軸 外面染付文字「吉」	
338	陶器	杯	5.7	3.3	2.9	IK	60	良好	灰白	SK302	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面ビン痕2遺存	
339	陶器	灯明皿	10.0	2.4	(4.2)	IK	50	良好	褐灰	SK302	瀬戸美濃系 内外面施軸 体部下位・底部軸抜き取り 内外面重焼痕	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
340	陶器	灯明皿	(9.2)	2.0	4.0	IK	50	普通	黄灰	SK302	瀬戸美濃系 内外面輪軸 体部下位・底部軸拭き取り 内面輪状重焼痕 口縁部重焼痕	
341	陶器	灯明皿	9.3	1.8	4.3	IK	85	普通	黄灰	SK302	瀬戸美濃系 内外面輪軸 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重焼痕 (径6.1cm)	
342	陶器	徳利	3.1	21.3	8.0	EIK	85	普通	灰白	SK302	瀬戸美濃系 外面灰輪 体部下位・底部軸拭き取り 外面釘書「文」	
343	陶器	土瓶	(5.5)	[2.7]	—	K	20	良好	に青焼	SK302	外面輪白軸葉・鉄軸流し掛け	
344	陶器	土瓶	7.2	[6.3]	—	K	45	普通	灰白	SK302	内外面輪軸 外面鉄・貞明絵	
345	陶器	蓋	—	2.7	5.6	I	95	良好	ナ-7B	SK302	胎土硬質 上面鉄軸 被熱 (露胎部煤付着)	
346	陶器	土瓶	—	9.3	(8.0)	IK	30	普通	灰褐	SK302	型成形 外面上位陰刻文 内面輪軸 外面鉄軸 被熱 (黒化)	
347	陶器	蓋	—	[1.9]	6.8	K	40	普通	灰白	SK302	大塚相馬系カ 上面輪白軸 被熱 (体部下位黒化) 最大径9.0cm	
348	輪軸土器	灯明皿	9.0	1.9	4.0	AEIK	90	良好	橙	SK302	底部糸切痕 (左) 内外面輪軸 (剥落激しい) 胎土粉質・小磯含む	
349	瓦質土器	焙烙	(35.0)	[3.3]	(35.2)	CHIK	20	普通	灰	SK302	底部シワ状痕 胎土硬質 還元焙焼成 体部黒化	
350	瓦質土器	火鉢	25.0	20.7	20.4	CHI	90	普通	鶯灰	SK307	口縁・脚部ミガキ 外面スタンプ施文 燻す 胎土小磯含む 内面上位煤付着	
351	磁器	碗	7.0	6.1	3.6	K	55	良好	灰白	SK318	肥前系 内外面輪軸 (外面青磁軸) 内面染付	
352	磁器	碗	(7.0)	[5.0]	—	—	30	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
353	磁器	碗	8.4	5.0	3.3	—	95	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
354	磁器	碗	(8.4)	5.0	3.4	—	60	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
355	磁器	碗	(8.4)	4.6	3.6	—	50	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
356	磁器	碗	8.6	5.1	3.6	—	50	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付 同文別個体1あり	
357	磁器	碗	(11.4)	6.4	(6.6)	—	20	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
358	磁器	碗	(6.8)	3.3	2.9	—	60	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸 外面染付	
359	磁器	坏	—	[2.6]	(3.0)	—	15	良好	白	SK318	瀬戸美濃系 内外面輪軸 内面染付	
360	磁器	皿	14.1	3.5	9.0	—	75	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
361	磁器	皿	14.1	3.8	8.5	—	95	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸・染付	
362	磁器	皿	13.8	3.6	8.6	—	80	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸 (青みがかる)	
363	磁器	皿	10.6	2.5	5.8	—	85	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸 内面染付 口紅	
364	磁器	皿	22.7	3.1	12.7	—	95	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸 内面染付 高台内ハリ支脚4	
365	磁器	蓋物	(9.4)	[4.7]	—	—	20	良好	白	SK318	肥前系 内外面輪軸 外面染付	
366	土師質土器	蓋	6.9	1.0	6.5	ACHIK	95	普通	に青焼	SK318	横塚恵の蓋	
367	磁器	坏	(6.6)	3.1	(2.8)	—	15	良好	白	SK329	肥前系 内外面輪軸 外面染付	



第236図 区画AE土壌出土遺物(48)

第53表 区画AE土壌出土遺物観察表(2)(第236図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	2.2	2.3	2.0	10.2	ACIK	普通	にぶい橙	SK119	底部糸切痕(中心) 胎土粉質	121-14
2	土師質土器	小壺	—	[1.9]	2.4	10.2	AIK	普通	にぶい橙	SK119	底部離し糸切痕(右)	121-14
3	土師質土器	小壺	(2.2)	2.0	2.0	7.9	ACIK	普通	にぶい橙	SK121	底部糸切痕(左) 胎土粉質	121-14
4	土師質土器	小壺	(2.8)	[2.4]	—	4.3	AIK	普通	橙	SK128	胎土粉質	121-14
5	土師質土器	小壺	2.5	2.3	1.5	5.3	CHIK	普通	橙	SK128	底部糸切痕(左)・二次穿孔	121-14
6	土師質土器	小壺	2.5	2.7	1.6	10.8	AIK	普通	橙	SK257	底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面黒色塗付物	121-14
7	磁器	紅杯	2.0	0.9	0.9	2.9	—	良好	白	SK268	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉	121-15

めて稀である。左側面の窓は上部が欠失しているため、挿図では第9地点出土製品を基に推定で復元した。

第209図124・125は陶器の灯明皿(油受皿)、126～129は灯火具である。いずれも緻密・硬質な胎土で、「V」字状の切れ込みが入り、地方窯系陶器と考えられる。灯火具は右回転の糸切痕が遺存し、同一生産地と考えられる。

第210図136は松岡系陶器の植木鉢である。黒色粒子を多分に含むザラメ状の粗粒な胎土で、外面に鉄釉が施軸される。挿図では接点のない3片から復元した。

第214図172は土師質土器の内耳丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕がみられ、丸みは極めて弱く、ほぼ平底状である。内耳は二等辺三角形状に付く。内底面には渦巻状のナデとゴマ粒状の無数のコゲ跡がみられ、第3地点第8号土壌出土製品『栗橋宿跡Ⅰ』第137図(80)と同様に、調理痕跡の可能性がある。

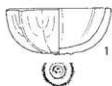
第215図174は土師質土器の甕で、胎土に金雲母、長石、石英が多量に含まれる。茨城県桜川市埜世(旧真壁町)で生産された真壁焼(源法寺焼)である。本陣跡では生産地・屋号・生産者を示したへら書き資料『本陣跡Ⅱ』第157図(481)が確認されている(埜埋文2020b)。

口縁部の形状とスタンプ施文は、リンズと呼ばれる回転施文具で施文した19世紀後半にみられる常滑系陶器のリンズ裝飾甕(椎村2018)に酷似する。常滑系陶器の影響が垣間見える。

第218図194は土師質土器の風呂口である。焜炉類特有のオプション・部品とされ、焜炉に組み合わせたり、木材や漆喰で固めて焜炉そのものとして用いる例が知られている(小林2019)。栗橋宿では上面の開口部は欠失・摩耗し、その周囲は被熱により白色化している。胎土は角閃石を多量に含み、在地産と推定される。

第219図199は手捏ね成形のかわらけ小皿である。橙色で胎土に雲母や石英が含まれることが

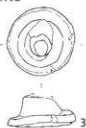
SK 80



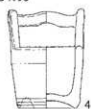
SK 84



SK 92



SK 96



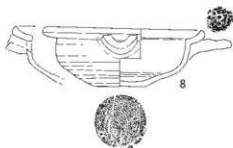
SK 99



SK 102



SK 106



SK 113



SK 115



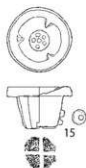
SK 116



SK 117



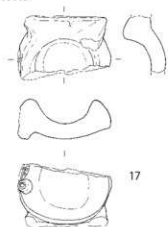
SK 118



0 5cm

第 237 图 区画 AE 土壤出土遗物 (49)

SK119



17

SK121



18

SK128



19



20

SK248



21



22



23



24



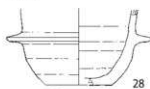
25



26



SK249



28



27

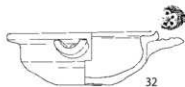
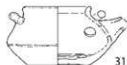


17 0 10cm 1/3

18~28 0 5cm 1/3

第238图 区画AE土壇出土遺物(50)

S K 256



S K 257



S K 266



S K 270



S K 302



第 239 区 区画 AE 土壇出土遺物 (51)

第 51 表 区画 AE 土壇出土遺物観察表 (3) (第 237 ~ 239 区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	ミニチュア	4.9	2.5	1.4	15.6	K	普通	灰白	SK80	鉢カ 型成形 外面鬚刻状文・彩色(赤)	
2	磁器	ミニチュア	1.0	0.8	3.4	6.3	-	良好	白	SK84	瀬戸美濃系 蓋 型成形 上面黄褐色釉・青緑釉流し掛け	
3	土製品	ミニチュア	径 3.6 高さ [1.7]			11.9	H	良好	明赤褐	SK92	-	
4	磁器	ミニチュア	3.4	5.2	3.0	37.4	-	良好	白	SK96	瀬戸美濃系 桶 型成形 内外面施釉 口縁部・把手褐色釉	
5	陶器	ミニチュア	1.8	0.9	3.8	9.8	AIK	普通	灰白	SK99	京都系カ 不明品 無軸	
6	磁器	ミニチュア	3.0	1.9	1.3	7.7	-	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 鉢 型成形 内外面施釉	
7	陶器	ミニチュア	7.0	3.3	2.7	29.7	K	良好	灰白	SK106	両手鍋 内外面施釉	118-1
8	施釉土器	ミニチュア	8.2	3.2	2.8	43.2	AHK	良好	にぶい橙	SK106	行平鍋 底部糸切痕(右) 胎土粉質 把手型押捺刻文 内外面施釉 SK128・257 と接合 植木鉢カ 胎土還元塩焼成(褐灰) 型成形 内外面上位ナデ	118-2
9	土製品	ミニチュア	(4.6)	2.5	(2.6)	9.3	CIK	普通	橙	SK113	植木鉢カ 胎土還元塩焼成(褐灰) 型成形 内外面上位ナデ	
10	磁器	ミニチュア	(3.7)	1.9	(1.4)	5.2	-	良好	白	SK115	瀬戸美濃系 鉢カ 型成形 内外面施釉(底部露胎)	
11	土製品	ミニチュア	径 3.6 横 5.7 高さ 3.3			32.8	AH1	良好	橙	SK115	江戸在地系 甕 上下別造り 板作り成形 外面赤彩	118-3
12	陶器	ミニチュア	5.3	[2.5]	1.9	20.2	K	良好	にぶい橙	SK116	両手鍋 内外面施釉	118-4
13	土製品	ミニチュア	(5.0)	2.9	(2.8)	11.0	AHK	良好	橙	SK116	江戸在地系 鉢 底部糸切痕 内外面施釉 内面白土・緑釉絵付	
14	磁器	ミニチュア	2.2	2.5	1.5	11.1	-	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 鉢カ 型成形 内外面埋瑠璃釉 口縁部鉄釉流し	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
15	土製品	ミニチュア	3.1	2.2	1.5	12.5	AHK	普通	灰白	SK118	京都系 硯鉢 上下二枚型成形 中実口縁部黒色塗付物	118-5
16	陶器	ミニチュア	1.3	[2.3]	1.4	13.2	—	良好	灰白	SK118	京都系 急須 上下二枚型成形 外面上位施軸・緑軸・鉄軸	118-6
17	土製品	不明	縦 [5.0] 高さ 3.1	横 [7.4]		102.5	AEHK	普通	灰白	SK119	穿孔2あり 全面に金属コーティング	118-9
18	土製品	ミニチュア	1.3	2.2	—	8.2	AHK	普通	浅黄橙	SK121	茶釜 左右二枚型成形	118-10
19	土製品	ミニチュア	2.0	1.1	—	2.5	IK	普通	にぶい橙	SK128	江戸在地系 鉢 型成形 内外面施軸 内面白土・緑軸	118-11
20	土製品	ミニチュア	(2.1)	1.2	0.9	2.1	AK	普通	橙	SK128	江戸在地系 碗 型成形 内外面白土・施軸	
21	土製品	ミニチュア	(5.4)	1.3	(3.1)	7.1	CEK	普通	灰白	SK248	京都系 両手鍋 型成形 内面ランダムな調整痕 外面下位トビガンナ状文	119-17
22	陶器	ミニチュア	—	[1.6]	(6.0)	2.6	HK	普通	白	SK248	京都系 鍋 型成形 白色胎土	
23	陶器	ミニチュア	縦 3.7 横 [4.5] 高さ 0.8			4.4	K	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陰刻文・施軸・彩色(緑軸・赤)	
24	陶器	ミニチュア	縦 4.1 横 [2.2] 高さ [0.7]			3.0	K	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陰刻文・施軸・彩色(緑軸・赤)	
25	陶器	ミニチュア	—	0.8	—	2.9	K	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陰刻文 外面指頭痕 内外面施軸 内面彩色(緑軸・赤)	
26	陶器	ミニチュア	—	0.4	—	K	1.5	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陰刻文 外面指頭痕 内外面施軸 内面彩色(緑軸・赤)	
27	土製品	ミニチュア	—	0.7	3.6	8.8	AHK	良好	にぶい橙	SK248	江戸在地系 蓋 型成形 胎土粉質	
28	土製品	ミニチュア	—	[4.0]	(3.5)	29.1	AHK	良好	にぶい橙	SK249	江戸在地系 釜形土製品 底部糸切痕(左) 胎土粉質 内面・外面上位施軸	119-19
29	陶器	ミニチュア	(6.4)	1.1	(4.7)	15.5	AHI	普通	浅黄	SK256	京都系 皿 型成形 内面陰刻文 内外面施軸 内面彩色(緑・赤・黒)	
30	磁器	ミニチュア	—	1.8	1.2	4.7	—	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 型成形 外面施軸	120-1
31	陶器	ミニチュア	2.9	3.1	3.2	31.8	K	良好	灰白	SK256	京都信楽系 土瓶 胎土磁質 外面施軸(青緑軸気味)	120-2
32	土製品	ミニチュア	(7.9)	2.9	2.9	36.0	IK	良好	にぶい橙	SK256	行平鍋 底部糸切痕(右) 胎土粉質 把手型陰刻文 内外面施軸 SK108・256と接合	
33	陶器	ミニチュア	—	1.3	1.9	7.9	—	良好	灰白	SK257	京都信楽系 蓋 胎土磁質 型成形 上面青緑軸	120-5
34	土製品	ミニチュア	8.0	3.2	1.4	35.2	AHK	普通	灰白	SK266	京都系 行平鍋 底部糸切痕(右) 内面施軸 底部僅付着 SK265と接合	120-15
35	土製品	ミニチュア	4.8	1.0	2.1	6.3	AHK	良好	灰白	SK270	京都系 皿 底部糸切痕 内面施軸(黄・褐・緑)	120-17
36	土製品	ミニチュア	(4.4)	3.5	(2.5)	17.8	ACHK	普通	にぶい橙	SK270	釜形土製品 底部糸切痕(摩耗) 外面下位・底部僅付着	120-18
37	土製品	ミニチュア	—	0.7	—	6.5	AHK	普通	にぶい橙	SK302	蓋 胎土粉質 型成形 上面陰刻文	

ら、搬入品の可能性がある。底部は無調整のシフ状痕が残る。

200は備前系陶器の小型播鉢で、播り目が非常に浅いが摩耗はみられない。栗橋窟での出土量は少ない。口縁部に塗土状の光沢がみられる。

第219図201・第227図284は長方形を呈する瓦質土器の角火鉢である。本陣跡第290号土壙(『本陣跡II』第222図583)等で出土しており、江戸遺跡だけでなく栗橋窟でも稀である。胎土に角閃石が多く含まれ、在地産と推定される。

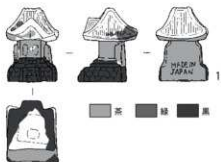
第221図221は三田系青磁の坏である。型成形で、貼り付け高台、内面は陰刻文である。

235は萬古系陶器の急須で、底部に墨書「吉田屋」がみえる。焼継痕がみられ、底部に朱書きで焼継印が確認できる。外面に白色の絵付がみられ、口唇部、注口端部は施軸される。

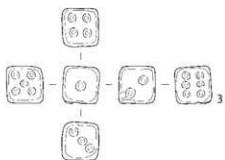
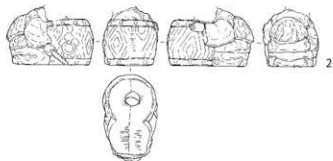
第224図248・249は瓦質土器の竈罎である。248は口唇部に「〇」が4つの刻印がみられる。置き竈の刻印にも同様のものがみられることがあり、両者は密接に関わっていると考えられる。「〇」の数は規格を表し、「〇」が4つの刻印がみられる置き竈とセット関係にあると思われる。いずれも口縁部内側端部は面取りが施される。

第226図277は肥前系磁器の紅皿である。型

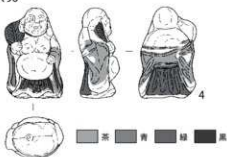
SK70



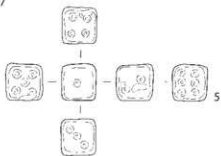
SK80



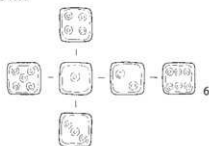
SK96



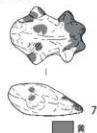
SK97



SK99



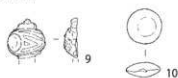
SK105



SK106



SK117



2 0 10cm  
1/4

1·3~10 0 5cm  
1/2

第240图 区画AE土坑出土遗物(52)

SK119

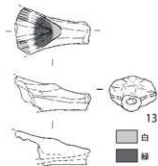


11



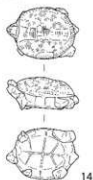
12

SK127



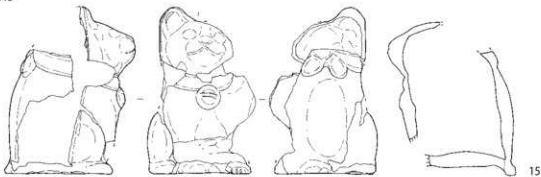
13

SK128



14

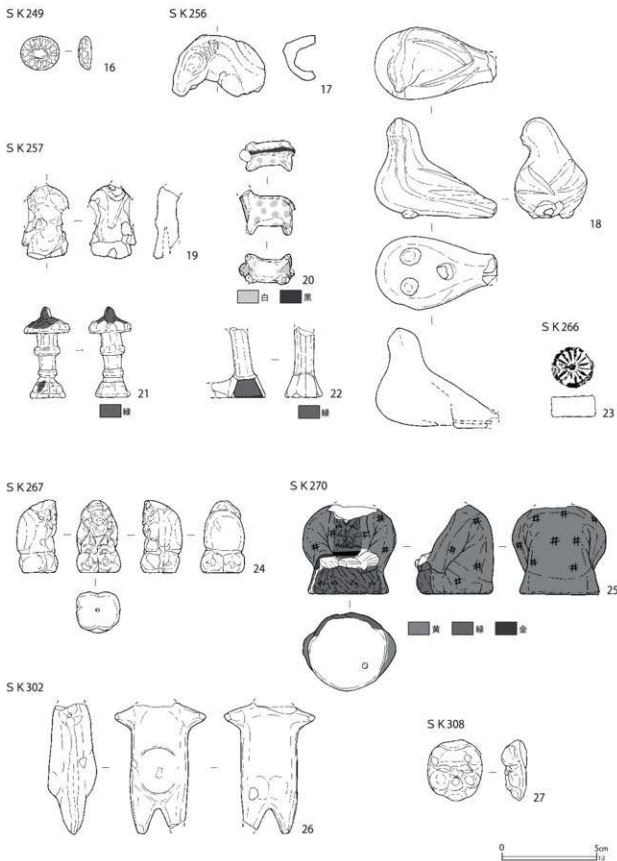
SK248



15



第241图 区画AE土壇出土遺物(53)



第 242 图 区画 AE 土壙出土遗物 (54)

第55表 区画AE土壇出土遺物観察表(4) (第240～242図)

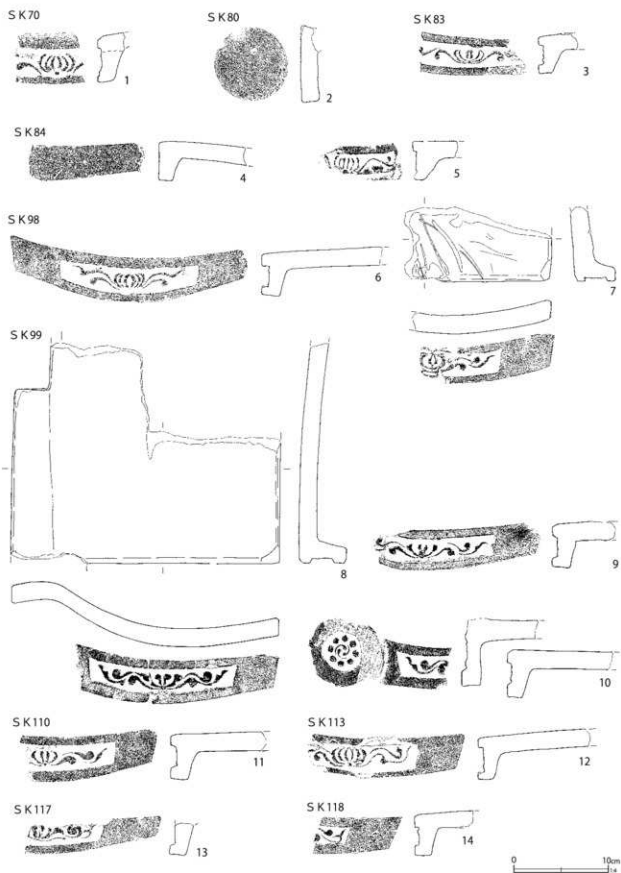
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	箱底道具	3.9	2.8	3.2	28.9	—	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 胴型成形 開口 彩色(緑・赤・黒) 知印あり	
2	磁器	人形	[6.1]	5.9	9.2	82.7	—	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 左右合二枚型成形 中空 下面柳曲状瓶 彩色(赤) 遺存	
3	磁器	サイコロ	2.0	2.0	2.0	14.1	—	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 彩色わずかに遺存(桃・黄・緑)	
4	磁器	人形	4.8	3.1	2.2	22.4	—	良好	白	SK96	瀬戸美濃系 布袋 前後合二枚型成形 中実 施軸(下面磨胎) 彩色(緑・赤・青・金)	
5	磁器	サイコロ	2.0	1.9	2.0	14.0	—	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 施軸 彩色わずかに遺存	
6	磁器	サイコロ	1.7	1.7	1.8	10.4	—	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 施軸	
7	磁器	人形	3.1	4.0	1.7	6.4	—	良好	白	SK105	瀬戸美濃系 金魚 上下合二枚型成形 中空 上面施軸・彩色(黄)	
8	土製品	人形	[1.2]	[3.1]	0.9	3.8	A1K	良好	橙	SK106	型成形	
9	土製品	芥子面	1.1	2.0	0.7	2.1	AK	良好	橙	SK117	江戸在地系 小題か一枚型成形 中実	122-13
10	土製品	碁石	径1.8	0.8	2.1	AH1K	良好	にぶい橙	SK117	江戸在地系 手捻り成形	117-17	
11	土製品	人形	[7.5]	4.8	3.7	52.3	AH1	良好	にぶい橙	SK119	青に子供おぶさる 前後合二枚型成形 中実 被熱 彩色(青)	118-7
12	土製品	人形	6.9	[6.2]	5.1	78.3	AH1K	普通	灰白	SK119	京都系 三猿(見ざる欠失) 各猿前後合二枚型成形 中実 手足手捻り貼付 彩色 黒色物付着	118-8
13	土製品	鳩笛	[1.9]	[4.0]	1.2	7.5	HI	良好	橙	SK127	江戸在地系 上下合二枚型成形 外面施軸・彩色(白・緑)	
14	土製品	人形	3.8	2.7	1.7	5.7	I	良好	橙	SK128	江戸在地系 龜 上下合二枚型成形 中空 施軸	118-12
15	土製品	人形	13.3	[8.5]	1.2	181.8	AH1K	良好	にぶい橙	SK248	江戸在地系 大 前後合二枚型成形 底部別作り 底部白化粧	119-18
16	土製品	芥子面	1.8	2.1	0.7	2.0	IK	良好	にぶい橙	SK249	一枚型成形 胎土粉質	122-13
17	土製品	人形	3.2	4.9	0.8	14.6	AH	良好	橙	SK256	牛一枚型成形 開口	120-3
18	土製品	鳩笛	6.4	3.8	5.3	39.5	A1K	良好	にぶい橙	SK256	江戸在地系 上下合二枚型成形 中空 施軸わずかに遺存	120-4
19	土製品	人形	[3.9]	[2.5]	1.4	10.0	A1K	普通	にぶい黄橙	SK257	手捻り成形	
20	土製品	人形	[3.0]	1.6	[2.4]	6.5	I	良好	橙	SK257	江戸在地系 馬 手捻り成形 施軸 彩色(黒・白)	120-6
21	土製品	箱底道具	4.8	2.4	2.3	10.7	—	良好	にぶい橙	SK257	江戸在地系 灯籠 二枚型成形 中実 白土 施軸 緑軸	120-7
22	土製品	箱底道具	[3.7]	[2.9]	2.0	8.1	AK	良好	橙	SK257	江戸在地系 前後合二枚型成形 中実 施軸 彩色(緑)(下面白化粧)	
23	土製品	泥面子	—	2.3	1.1	6.9	AH1K	良好	明赤橙	SK266	一枚型成形	122-11
24	土製品	人形	3.8	2.4	2.2	14.1	AEK	普通	灰白	SK267	京都系 大黒 前後合二枚型成形 中実	120-16
25	磁器	人形	[4.7]	5.0	4.1	50.5	—	良好	白	SK270	瀬戸美濃系 前後合二枚型成形 中実 施軸 彩色(緑・黄・黒・金)	
26	土製品	人形	[6.9]	4.8	0.4	26.7	A1K	良好	にぶい橙	SK302	ぶら人形 前後合二枚型成形 中空 胎土 中心灰白	120-19
27	土製品	芥子面	3.2	2.9	1.3	8.0	AHK	良好	橙	SK308	ひとつとこ一枚型成形	122-13

成形で、外面は陽刻塘唐草文が施文される。高台豊付まで全面施軸である。

第227図285は瓦質土器の平底焙烙である。底部無調整の砂目底で、外面はナゲ調整である。胎土は角閃石を多く含み在地産と推定される。器高は低く、口縁部は丸みを帯び、幅が極めて狭い内耳が付く。出土遺構の様相から栗橋宿でみられる平底焙烙の中で最新期と推定される。

第229図306・307は砲弾形を呈する土製増場である。いずれも内面に緑青が付着し、307の外表面には銅が付着する。第249号土壇からも複数個体出土し、さらに後述する第二・三面から輪の羽口や鉄滓が出土していることから、第8地点では金属生産が盛んであったことが窺える。

第231図321は兵庫県淡路島で生産される淡路珉平焼の皿である。型成形で、内面に陰刻龍文



第243图 区画AE土壙出土遗物(55)

SK120



15

SK131



16

SK248



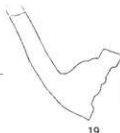
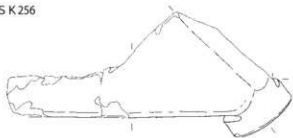
17

SK249



18

SK256



19



20

SK266



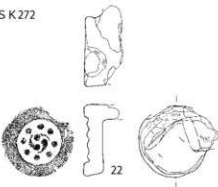
21

SK318

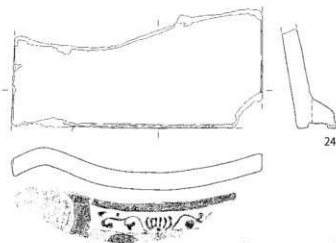


23

SK272



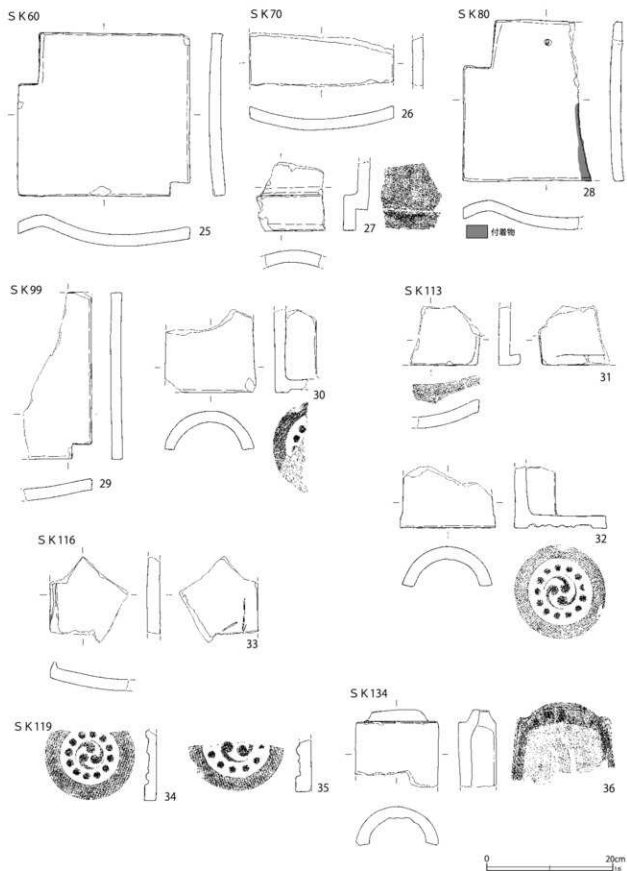
22



24

0 10cm

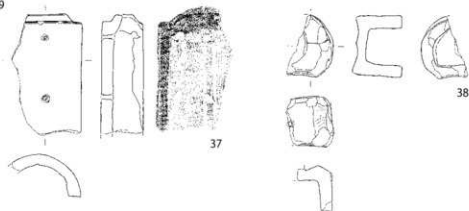
第244图 区画AE土坑出土遗物(56)



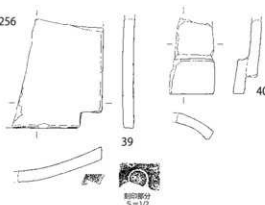
第 245 图 区画 AE 土壤出土遺物 (57)



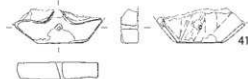
SK249



SK256



SK257

0 20cm  
1/5

第246図 区画AE土壇出土土遺物(58)

第56表 区画AE土壇出土土遺物観察表(5)(第243~246図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[2.8]	[8.3]	2.4	[5.4]	—	AC1K	普通	灰白	SK70	江戸式 燻す 胎土小礫若干含む	
2	瓦	軒棧瓦	[4.4]	[12.0]	2.0	[4.3]	—	AC1K	良好	灰白	SK80	江戸式 瓦当面積狭 銀化 燻す 雲母付着	
3	瓦	軒棧瓦	—	—	1.9	8.1	7.9	AK	良好	灰	SK83	石持瓦 弱く銀化 燻す	
4	瓦	軒棧瓦	[9.2]	[13.3]	2.3	4.4	—	AIK	良好	灰白	SK84	無文 弱く銀化 燻す	
5	瓦	軒棧瓦	5.5	[9.1]	2.4	[4.2]	—	AMK	普通	灰白	SK84	被熱か(一部未変)	
6	瓦	軒平瓦	[13.6]	24.8	2.0	[7.2]	—	AIK	良好	灰白	SK98	江戸式 上面・瓦当面ミガキ状の光沢 瓦当面積狭 弱く銀化 燻す	
7	瓦	軒棧瓦	[7.9]	[15.5]	2.1	[4.8]	—	AK	普通	灰白	SK98	江戸式 上面刀物痕 燻す	
8	瓦	軒棧瓦	[23.2]	28.5	1.9	[8.8]	—	AIK	良好	灰	SK99	江戸式 瓦当面積狭 銀化 燻す	
9	瓦	軒棧瓦	[6.8]	[18.3]	1.9	6.3	—	AIK	良好	灰白	SK99	江戸式 瓦当面積狭 銀化 燻す	
10	瓦	軒棧瓦	[12.8]	15.2	1.9	7.2	(7.8)	AMK	普通	灰白	SK99	江戸式 右巻八連珠三巴文 瓦当面積狭 銀化 燻す	
11	瓦	軒棧瓦	[10.2]	[15.0]	2.3	[11.2]	—	AC1K	良好	灰白	SK110	江戸式 瓦当面積狭 弱く銀化 燻す	
12	瓦	軒棧瓦	[12.0]	[19.4]	1.8	[6.3]	—	AIK	普通	灰白	SK113	江戸式 燻す 雲母付着	
13	瓦	軒棧瓦	1.8	[14.5]	1.8	[5.2]	—	AC1K	普通	灰白	SK117	弱く銀化 燻す 版二度押か	
14	瓦	軒棧瓦	[6.3]	[8.8]	2.0	[6.8]	—	AIK	普通	灰白	SK118	江戸式小 瓦当面積狭 弱く銀化 燻す 刻印ヤマに「三」被熱炭付着	124-17
15	瓦	軒棧瓦	[17.8]	[16.8]	2.6	[7.7]	6.8	AC1K	良好	灰白	SK120	江戸式 右巻三巴文 燻す 雲母付着	
16	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[8.6]	2.1	[4.8]	—	AIK	良好	灰白	SK131	江戸式 銀化 燻す	
17	瓦	軒棧瓦	[12.4]	[20.4]	2.2	[8.5]	7.0	AK	良好	灰白	SK248	江戸式 右巻十二連珠三巴文 銀化 燻す 胎土中心部灰色	124-4
18	瓦	軒棧瓦	[6.7]	[21.6]	2.0	[6.3]	—	AMK	普通	灰白	SK249	江戸式 弱く銀化 燻す	124-5
19	瓦	隅瓦	[13.3]	[30.4]	4.3	[9.0]	7.4	AIK	良好	灰白	SK256	江戸式 左巻八連珠三巴文 胎土砂質 銀化 燻す 煤付着	124-7

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
20	瓦	軒平瓦	[4.7]	[13.7]	2.0	[6.6]	—	AHK	普通	灰白	SK256	江戸式 燻す	124-8
21	瓦	軒棧瓦	[5.6]	[11.3]	4.4	6.1	(7.6)	ACIK	普通	灰白	SK266	右巻三巴文 燻す	
22	瓦	軒棧瓦	[4.1]	[8.7]	2.1	7.5	7.2	ACIK	普通	灰白	SK272	左巻八連珠三巴文 銀化 欠貫部二次利用	
23	瓦	軒棧瓦	[7.4]	[19.2]	1.9	[8.6]	6.9	AIK	良好	灰白	SK318	江戸式 右巻三巴文 胎土砂質 弱く銀化 燻す 胎土中心やや灰色	
24	瓦	軒棧瓦	[12.6]	26.6	1.8	4.4	—	AIK	普通	灰白	SK318	瓦当部一部ミガキ状光沢 弱く銀化 燻す	
25	瓦	棧瓦	26.1	27.6	1.8	5.0	—	ACIK	良好	灰	SK60	銀化 被熱 燻す	
26	瓦	平瓦	[8.6]	23.2	1.9	3.3	—	ACHIK	普通	灰白	SK70	燻す 胎土粗粒	
27	瓦	道具瓦	[11.0]	[10.9]	3.9	—	—	AIK	良好	灰白	SK70	弱く銀化	
28	瓦	棧瓦	25.9	[20.6]	1.8	4.8	—	AIK	良好	灰白	SK80	銀化 燻す 焼成前穿孔1 上面黒色付着物あり	
29	瓦	棧瓦	26.8	[10.9]	1.8	[3.4]	—	AIK	良好	灰	SK99	銀化 燻す	
30	瓦	軒丸瓦	[13.3]	[14.6]	1.9	[6.7]	(15.0)	AK	良好	灰白	SK99	弱く銀化 燻す	
31	瓦	引掛 棧瓦	[9.4]	[11.1]	1.8	[4.6]	—	ADHIX	良好	灰白	SK113	銀化 燻す	
32	瓦	軒丸瓦	[9.7]	15.2	2.0	15.0	15.2	AIK	普通	灰白	SK113	右巻十三連珠三巴文 弱く銀化 燻す	
33	瓦	棧瓦	13.7	[12.6]	2.1	4.7	—	HIX	普通	灰白	SK116	燻す 裏面刃物傷あり	
34	瓦	軒丸瓦	—	14.9	1.9	[11.3]	14.4	AIK	良好	灰白	SK119	右巻十二連珠三巴文 弱く銀化 燻す	
35	瓦	軒丸瓦	—	15.4	2.6	8.1	15.2	AHIX	普通	灰白	SK119	右巻十四連珠三巴文 弱く銀化 燻す	
36	瓦	丸瓦	[12.4]	[12.3]	2.0	6.1	—	ACHIK	良好	灰白	SK134	胎土砂質 弱く銀化 燻す	
37	瓦	丸瓦	[19.3]	[11.3]	2.0	[6.7]	—	AIK	良好	灰白	SK249	銀化 穿孔2	
38	瓦	鬼瓦	[9.9]	[7.5]	2.3	[8.3]	—	AIK	普通	灰白	SK249	燻す 焼成前穿孔1 遺存 剥落著しい 下面～側面 一部二次利用	124-6
39	瓦	棧瓦	[17.4]	[14.7]	1.8	[5.7]	—	ACIK	良好	灰白	SK256	胎土砂質 銀化 燻す 刻印「〇」	129-18
40	瓦	道具瓦	[12.1]	[7.2]	3.4	[6.7]	—	ACIK	良好	灰白	SK256	胎土砂質・硬質 燻す 銀化	
41	瓦	鬼瓦	[5.4]	[14.0]	2.7	—	—	AIK	普通	灰白	SK257	裏ヘラナゲ 銀化 燻す 焼成前穿孔1	124-9

が施文される。橙色の胎土で透明釉が施軸される。

区画AEは「吉田屋」と推定される染付銘の肥前系磁器が多く出土している。多くは全ての文字を確認することができない。いずれも18世紀後半～19世紀前半の所産であろう。第211図145は広東碗である。外面に染付銘「吉」がみえる。第212図159は輪高台蕎麦猪口である。外面に染付銘「吉」、内底面に文字の一部がみえる。第221図224・第229図296は小丸碗である。外面に染付銘「屋」がみえる。第221図230・第229図297は高台高の低い蛇ノ目凹形高台の皿である。230の内面に染付銘「吉」と2箇所文字の一部がみえる。297の内面には、中央と内側面に「田」の文字がみえる。第228図286は筒形碗で、外面に染付文字「屋」がみえる。第233図337は肥前系磁器の広東碗の蓋である。外面に染付銘「吉」がみえる。

部分的にしか文字は残らないが、「吉田屋/太

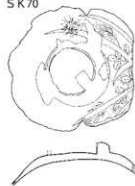
左衛門」の敷地からこれほど多く出土していることから、「吉田屋」銘染付である可能性は極めて高い。

第236図6は土師質土器の小壺である。京都系の「つぼつぼ」に類似するが、江戸在地系土器に類似する橙色の粉質胎土で、底部は左回転の糸切痕がみられる。内面から溢れ出るように壺状の付着物がみられる。

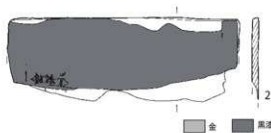
第237図11は甕を模した江戸在地系のミニチュアである。上部に円形の蓋置き部、正面に焚口部がへらで開口されている。板作り成形と推定され、上下別作りである。下部を中心に赤彩がみられる。

第241図12は京都系の土製人形である。三猿を模しており、右側の「見ざる」が欠失している。各個体が前後合わせの二枚成形で、中実となっているが、手足は手捻り成形で貼り付けている。彩色が遺存している。

SK70



1



2

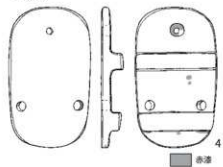
■ 金 ■ 黒漆

SK98



3

SK99



4

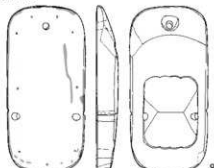
■ 赤漆

SK106



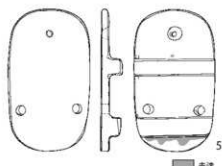
7

SK107



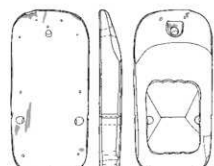
8

■ 赤漆



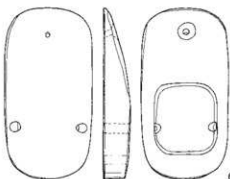
5

■ 赤漆



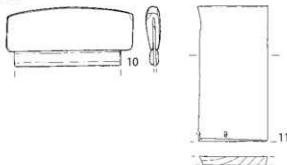
9

■ 赤漆 ■ 黒漆



6

SK108



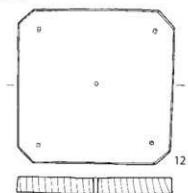
10

11

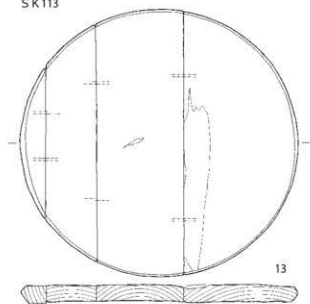
4~6·8·9 0 10cm 14 1~3·7·10·11 0 10cm 13

第247图 区画AE土坑出土遗物(59)

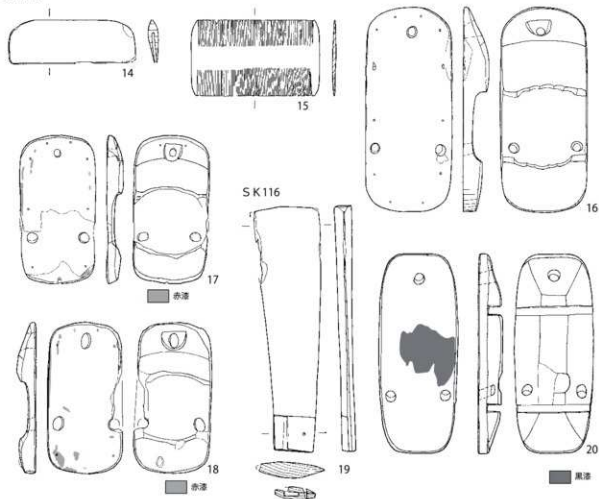
SK110



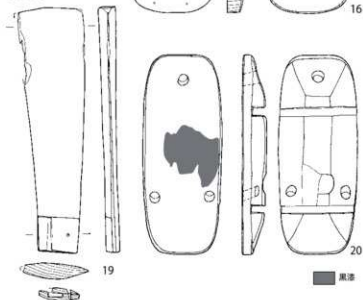
SK113



SK115



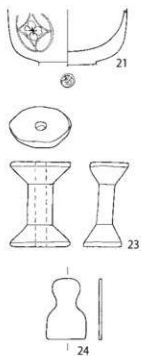
SK116



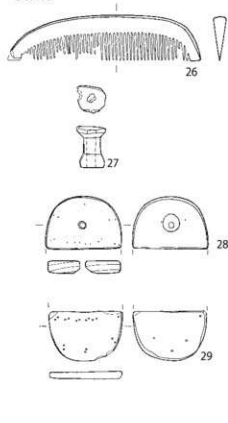
0 20cm 16  
13 14  
0 10cm 14  
16~20  
0 10cm 13  
12·14·15

第 248 图 区画 AE 土壙出土遗物 (60)

SK 117



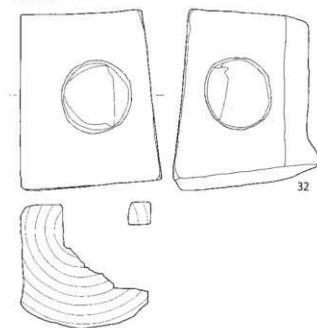
SK 118



SK 119

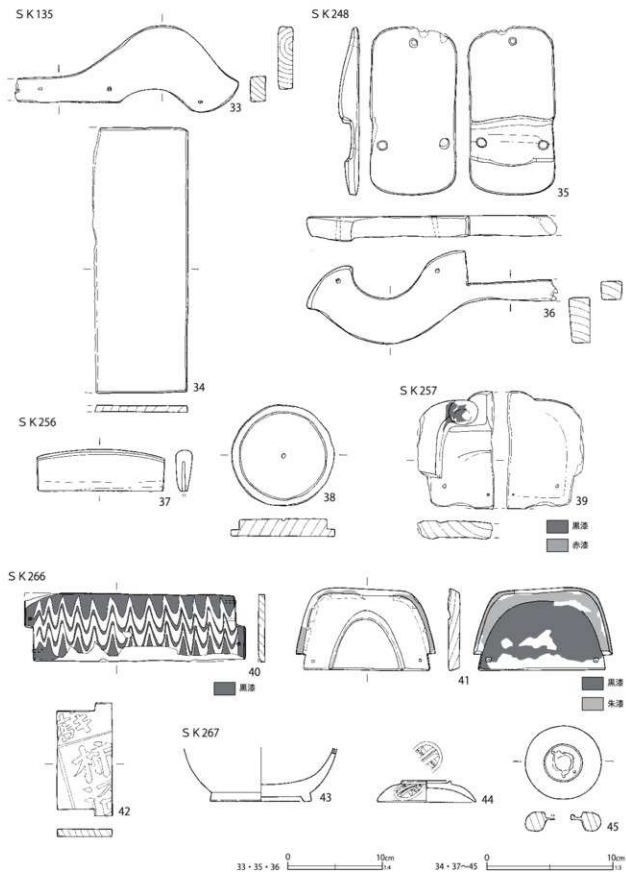


SK 128



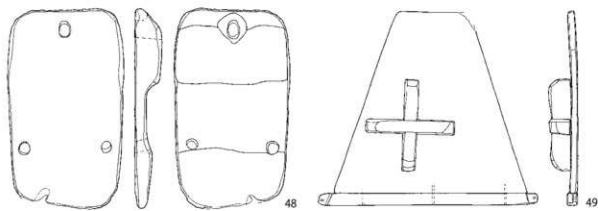
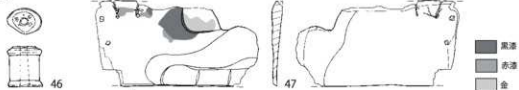
25・28・29・32 0 10cm 1/4 21~24・26・27・30・31 0 10cm 1/2

第 249 图 区画 AE 土坑出土遗物 (61)



第250图 区画AE土壙出土遗物(62)

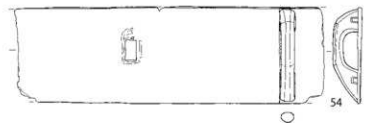
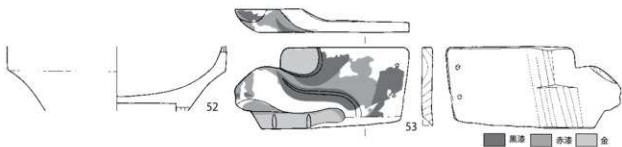
SK267



SK271



SK302

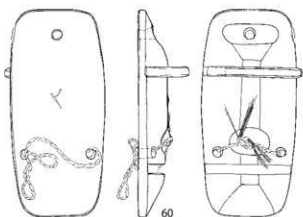
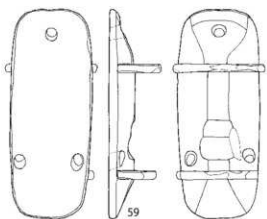
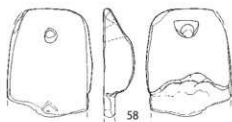
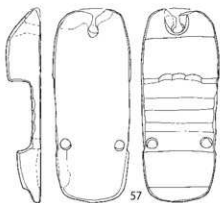
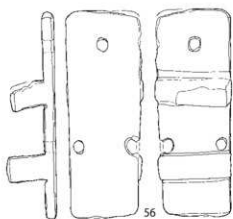
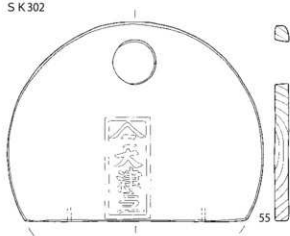


48・49・54 0 10cm

46・47・50~53 0 10cm

第251图 区画AE土坑出土遗物(63)

S K 302

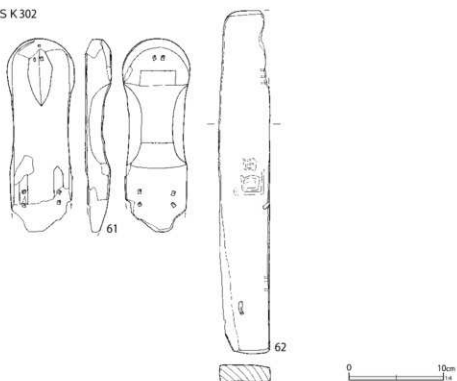


0 10mm  
1cm

第 252 图 区画 AE 土壙出土遗物 (64)



S K 302

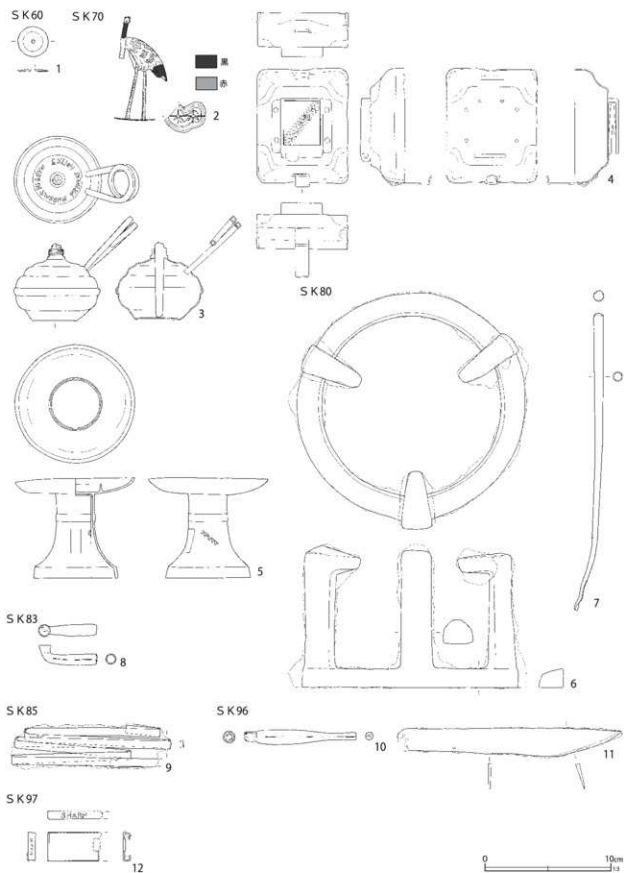


第 253 図 区画 AE 土壌出土遺物 (65)

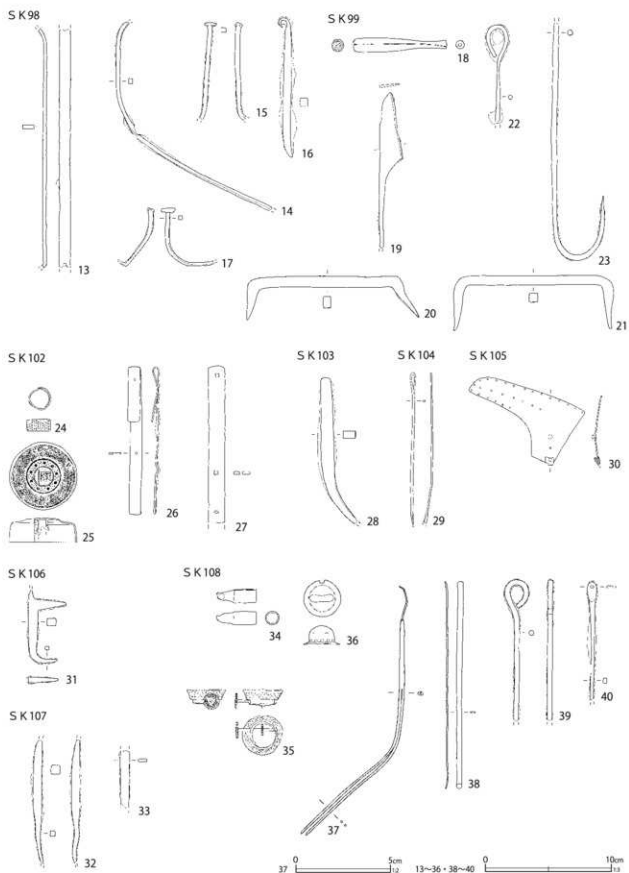
第 57 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (6) (第 247 ~ 253 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	横木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶蓋	—	つまみ径 (4.9)	—	—	—	[3.4]	—	横木取り SK70	内面赤漆 外面黒漆 つまみ形非対称	
2	木製品	箱	[6.5]	18.3	0.5	—	—	—	板目	SK70	側板 全面黒漆 金の文字入	
3	木製品	木札	[13.6]	[3.3]	0.5	—	—	—	板目	SK98	表面プリント (N □)カ	
4	木製品	下駄	14.9	8.6	—	—	2.3	—	板目	SK99	連歯下駄 赤漆 5 と同一	
5	木製品	下駄	15.0	8.7	—	—	2.3	—	板目	SK99	連歯下駄 赤漆 4 と同一	
6	木製品	下駄	18.1	9.1	—	—	2.8	—	板目	SK99	朝り下駄	
7	木製品	栓	[18.0]	2.3	2.2	—	—	—	板目	SK106	先端削り 文字なし	
8	木製品	下駄	17.5	8.3	—	—	2.3	—	板目	SK107	朝り下駄 赤漆 表面の下地に墨書「けん」 表外周釘穴	144-18
9	木製品	下駄	17.5	8.2	—	—	2.4	—	板目	SK107	朝り下駄 赤漆 表面の下地に墨書「けん」 表外周釘穴	144-18
10	木製品	櫛と鞘	10.0	4.6	1.2	—	—	—	歯目 鞘板目	SK108	鞘長さ 10.0 幅 3.4 厚さ 1.2 歯長さ [8.4] 幅 [3.1] 厚さ 0.2	
11	木製品	板	[10.7]	[5.4]	0.7	—	—	—	板目	SK108	表面墨書「□入口」	144-19
12	木製品	行灯	12.2	12.3	1.3	—	—	—	板目	SK110	中央に鉄 4ヶ所孔内木釘2残	
13	木製品	樽	42.5	44.5	2.9	—	—	—	板目	SK113	底板 片面墨書	152-6
14	木製品	櫛の鞘	10.0	3.4	0.8	—	—	—	板目	SK115	15 とセット 櫛の圧痕あり	
15	木製品	櫛	10.2	6.0	0.3	—	—	—	板目	SK115	14 とセット	
16	木製品	下駄	21.6	9.2	—	—	2.7	—	板目	SK115	朝り下駄 表面墨書 表外周釘穴	145-1
17	木製品	下駄	15.7	8.0	—	—	1.7	—	板目	SK115	朝り下駄 表面に墨書「十六」もしくは「木 □」カ 赤漆 表外周木釘穴	145-2
18	木製品	下駄	16.0	8.0	—	—	2.0	—	板目	SK115	朝り下駄 赤漆 表外周木釘穴	
19	木製品	柄杓	26.0	[6.9]	1.7	—	—	—	板目	SK116		
20	木製品	下駄	21.1	8.4	—	—	[2.5]	—	板目	SK116	陰印下駄 裏面中央以外黒漆	
21	木製品	漆桶	—	—	—	—	4.5	—	横木取り	SK117	内面赤漆 外面黒漆 赤で紋 高台内に赤 で「吉」	
22	木製品	箸箱	19.8	2.3	—	—	1.4	—	板目	SK117		

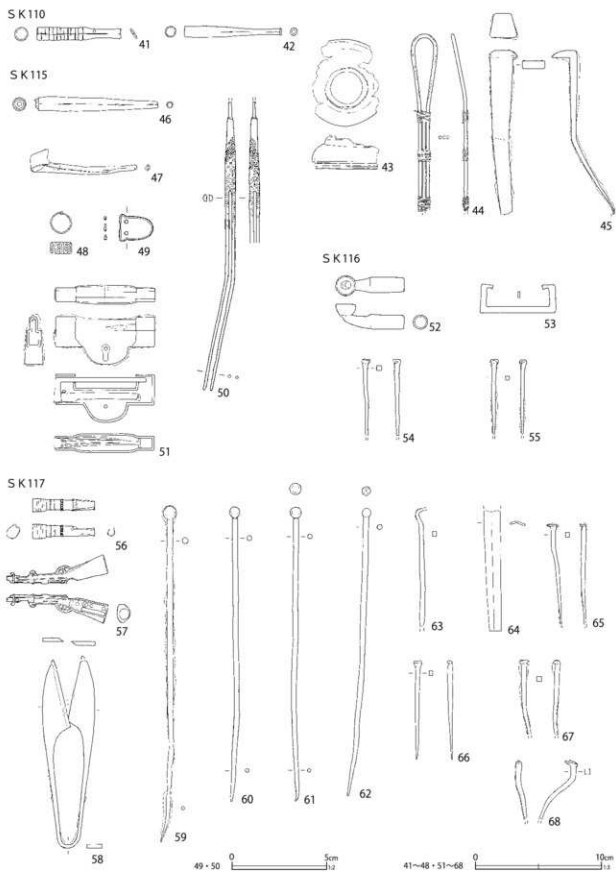
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
23	木製品	糸巻き	6.7	—	—	4.8	—	—	削出	SK117	中央に孔。孔径0.9cm	
24	木製品	不明品	4.8	3.2	0.2	—	—	—	板目	SK117		
25	木製品	木札	42.8	[2.1]	0.7	—	—	—	板目	SK117	表面墨書「埼玉泉果橋町」	145-5
26	木製品	櫛	(15.2)	3.6	1.0	—	—	—	椀目カ	SK118		
27	木製品	糸巻き	3.3	—	—	2.2	—	—	—	SK118	中央に孔。孔径0.7cm	
28	木製品	下駄	[5.5]	8.0	—	—	1.3	—	板目	SK118	ハッ折下駄 爪先部 表面に孔多数	
29	木製品	下駄	[5.2]	7.8	—	—	0.8	—	板目	SK118	ハッ折下駄 踵部 表面上部金属付着孔多数	
30	木製品	矢立	(27.7)	3.0	0.2	—	—	—	不明	SK119	外面黒漆の上に赤漆 網代模様彫刻 内面黒漆 筒状	128-12
31	木製品	経木	10.7	[2.5]	0.04	—	—	—	椀目	SK119	表面墨書	145-14
32	木製品	継手	15.0	19.1	13.4	—	—	—	芯持材	SK128	L字状の孔	
33	木製品	不明品 (飾りカ)	9.2	[23.6]	1.6	—	—	—	板目	SK135		
34	木製品	板	21.0	[7.5]	0.5	—	—	—	板目	SK135	表面墨書 落書きカ 片面には花の咲いている木のような絵カ	145-7
35	木製品	下駄	17.7	9.0	—	—	2.1	—	板目	SK248	割り下駄	
36	木製品	不明品	7.2	[26.6]	2.2	—	—	—	板目	SK248	釘孔2	
37	木製品	櫛の櫛	10.1	3.3	1.3	—	—	—	板目	SK256	鞘の中に櫛残存 櫛歯部欠損	
38	木製品	底板	—	—	1.3	8.1	—	—	板目	SK256	中央に孔(深さ2mm)	
39	木製品	獅子頭 ないし蓋	9.2	[6.1]	1.4	—	—	—	板目	SK257	赤・黒漆で彩色	
40	木製品	側板	5.4	17.5	0.5	—	—	—	板目	SK266	表面墨書 外面波状の文様	
41	木製品	獅子頭	6.4	11.1	0.9	—	—	—	板目	SK266	表面朱漆・墨書 裏面朱漆・黒漆 側面朱漆 表面接着剤のような付着物	130-6 147-17
42	木製品	容器	8.9	4.4	0.6	—	—	—	板目	SK266	側板 焼印「店ヤ 柿沼」	
43	木製品	漆桶	—	—	—	[4.2]	8.0	—	横木取り	SK267	内外面赤漆	
44	木製品	漆桶蓋	—	つまみ径3.8	(7.7)	1.7	—	—	横木取り	SK267	内面赤漆 外面黒漆・3方向とつまみ内に金で紋	130-7
45	木製品	取っ手	—	—	1.5	6.0	—	—	板目	SK267	裏面炭化	
46	木製品	不明品	1.9	2.8	—	—	3.3	—	椀目	SK267	上面鉄釘残存	
47	木製品	獅子頭	6.7	[12.9]	0.8	—	—	—	板目	SK267	赤漆・黒漆・金 孔4ヶ所内2ヶ所に針金残存	130-8
48	木製品	下駄	21.2	12.2	—	—	2.9	—	板目	SK267	割り下駄	130-9
49	木製品	不明品	20.5	23.1	3.1	—	—	—	板目	SK267	十字型の材固定 木釘残存	
50	木製品	櫛	15.2	3.5	0.8	—	—	—	板目	SK271		
51	木製品	漆桶	—	—	—	[3.5]	—	—	横木取り	SK302	内外面黒漆	
52	木製品	漆鉢	—	—	—	[5.1]	—	—	横木取り	SK302	内面黒漆 外面赤漆 高台内黒漆	
53	木製品	獅子頭	6.5	13.8	1.8	—	—	—	板目	SK302	赤漆・黒漆・金 孔2	130-12
54	木製品	湯桶	10.2	32.8	0.3	(10.4)	—	—	側板椀目 把手板目	SK302	側板、把手樹皮紐で固定後樹皮で覆う 内面底板接着剤(漆)	
55	木製品	樽	—	—	1.4	27.1	—	—	板目	SK302	蓋 焼印「△」「大津屋」カ 孔1 木釘残	
56	木製品	下駄	21.8	7.9	—	—	5.2	—	椀目	SK302	連番下駄	
57	木製品	下駄	[20.5]	7.8	—	—	3.7	—	板目	SK302	割り下駄	
58	木製品	下駄	[11.4]	8.2	—	—	3.2	—	椀目	SK302	割り下駄 表面焼印	
59	木製品	下駄	22.1	8.6	—	—	5.5	—	椀目	SK302	陰印下駄	
60	木製品	下駄	21.9	10.0	—	—	5.4	—	板目	SK302	陰印下駄 焼印 鼻緒	
61	木製品	下駄	[20.4]	6.0	—	—	2.7	—	板目	SK302	無眼下駄	
62	木製品	板	36.2	5.4	1.9	—	—	—	板目	SK302	一部赤漆 側面木釘穴・鉄釘残 焼印	



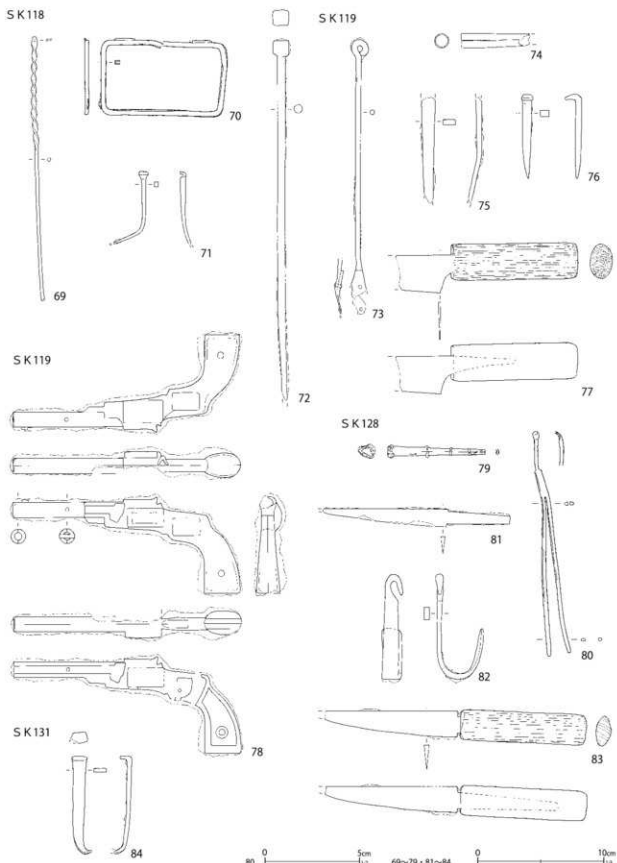
第254图 区画AE土坑出土遗物(66)



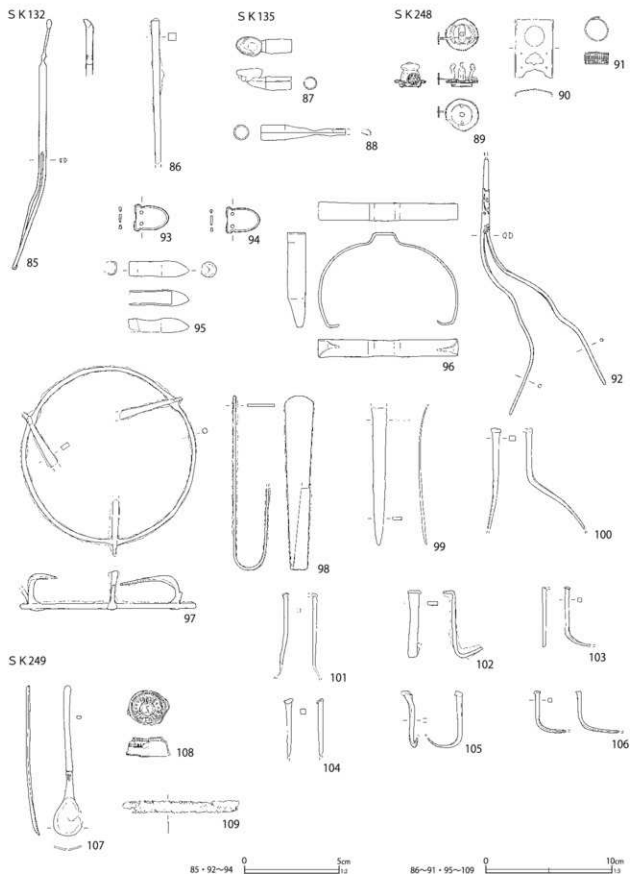
第 255 图 区画 AE 土壙出土遗物 (67)



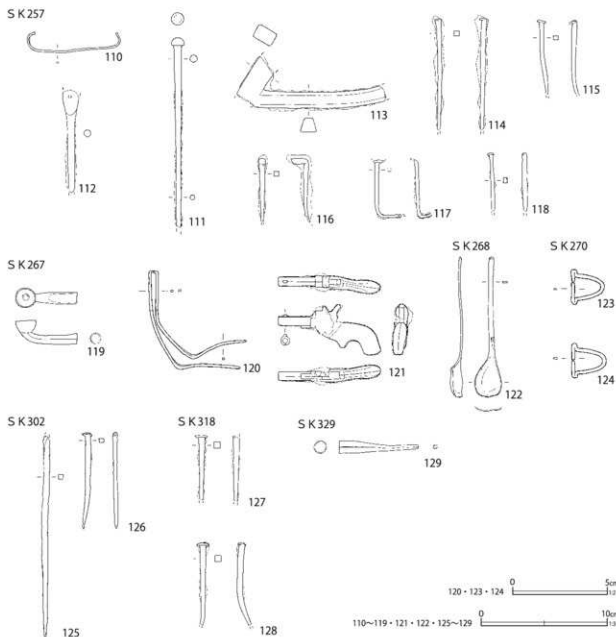
第256图 区画AE土壇出土遺物(68)



第257图 区画AE土壙出土遗物(69)



第258图 区画AE土坑出土遗物(70)



第259図 区画AE土壙出土遺物(71)

第241図15は犬を模した大型の江戸在地系人形である。前後合わせの二枚型成形で、中空である。底部、頭部は別づくりで、首元の接合部で欠損している。底部には白化粧がみられる。

第242図26は裸体の幼児を表現した人形で、所謂ぶら人形である。武家地・町人地・墓からの出土があることから、玩具や墓の副葬品として用いられ、御府内やその近郊のみに分布することが指摘されている(喜多2019)。前後合わせの二枚

型成形で、中空である。胎土中心部が灰色を呈している。別パーツの手足があり、本来は布もしくは紙で本体とつないだ可動式人形である。

軒瓦は江戸式に類似した文様を主体としており、中心弁は六枚(第243図1・5・6・12・第244図15・18・20・23・24)、四枚(第243図3・7~9・11・第244図19)、二枚(第244図17)におおむね分けることができる。第244図19は隅瓦で、栗橋宿での出土は稀である。22



第58表 区画AE土壌出土遺物観察表(7)(第254~259図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	燗台	径2.4 厚さ0.03 重さ1.2	SK60	燗台の輻燗受け皿	
2	銅製品	玩具カ	縦8.3 横4.1 厚さ0.1 重さ19.8	SK70	丹頂鶴 赤・黒彩色	
3	銅製品	ランプ	本体・胴最大径7.0 高さ5.7 柄:長さ5.5 幅0.45 厚さ最大0.2 重さ64.6	SK70	パーナーヒーティングランプ 残存「MADE IN SWEDEN PRIMUS No1205」	芯
4	銅製品	ランプ	縦9.4 横7.2 高さ5.9 厚さ0.1 重さ73.3	SK70	蓋「合理ランプ」	
5	銅製品	茶台	口径9.5 器高8.0 底径6.7 厚さ0.2 重さ190.3	SK70	仏具の茶陶器の台	
6	鉄製品	玉徳	径18.0 高さ10.9 厚さ1.9 重さ1,537.2	SK80		
7	銅製品	火箸カ	長さ23.6 幅0.7 厚さ0.08 重さ18.3	SK80	中空	
8	銅製品	煙管	長さ5.6 火口径0.9 小口径0.8 重さ4.7	SK83	雁首	
9	鉄製品	不明	長12.6 幅0.6 厚さ0.03 重さ75.1	SK85	折りたたまれた細板状品	
10	銅製品	煙管	長さ7.9 小口径0.9 口付径0.6 重さ11.6	SK96	吸口 扉字残存	
11	鉄製品	刃物	長さ17.7 刃長4.8 刃幅2.0 背幅0.3 重さ33.7	SK96	先端のみ刃部	
12	銅製品	不明	縦2.3 横[4.3] 厚さ0.1 重さ12.5	SK97	「SHARP」「TAPPLIFOR」	
13	鉄製品	不明	長さ[18.9] 幅0.9 厚さ0.3 重さ24.9	SK98		
14	鉄製品	不明	長さ[15.0] 幅0.3 厚さ0.4 重さ13.1	SK98		
15	鉄製品	釘	長さ[7.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.8	SK98		
16	鉄製品	不明	長さ11.1 幅0.6 厚さ0.7 重さ27.7	SK98		
17	鉄製品	釘	長さ4.6 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.9	SK98		
18	銅製品	煙管	長さ7.4 小口径0.9 口付径0.6 重さ10.9	SK99	吸口 内部扉字残存	
19	鉄製品	握鉄	長さ[12.3] 刃幅1.7 背幅0.2 重さ1.0	SK99	片刃のみ残存	
20	鉄製品	鋸	長さ13.7 幅0.9 厚さ0.6 重さ53.8	SK99		
21	鉄製品	鋸	長さ12.8 幅0.7 厚さ0.7 重さ57.1	SK99		
22	銅製品	不明	縦[7.7] 横1.7 厚さ0.3 重さ7.6	SK99	90と同一具カ	
23	鉄製品	不明	長さ[18.9] 厚さ0.4 重さ19.4	SK99	鉤金具カ	
24	銅製品	指貫	径1.8 高さ1.0 厚さ0.1 重さ2.3	SK102		
25	銅・鉄製品	ベルカん	径5.3 高さ1.9 重さ42.7	SK102	自転車の警音器	
26	銅製品	不明	長さ11.7 幅1.0 厚さ0.1 重さ11.2	SK102	銅細板 小孔2箇所	
27	鉄製品	不明	長さ[12.5] 幅1.3 厚さ0.2 重さ23.4	SK102	小孔3箇所	
28	鉄製品	釘	長さ[11.6] 幅1.0 厚さ0.6 重さ42.3	SK103		
29	銅製品	不明	長さ[12.0] 幅0.4 厚さ0.1 重さ1.8	SK104		
30	銅製品	不明	縦[5.2] 横9.3 厚さ0.1 重さ12.0	SK105	小孔縁取り 鋸留め痕あり	
31	鉄製品	不明	長さ[5.8] 幅0.7 厚さ0.6 重さ17.5	SK106		
32	鉄製品	不明	長さ[9.8] 幅0.7 厚さ0.7 重さ20.7	SK107		
33	鉄製品	不明	長さ[4.6] 幅0.7 厚さ0.2 重さ2.9	SK107		
34	銅製品	煙管	長さ3.2 小口径1.1 重さ5.9	SK108	雁首 火皿欠失	
35	銅製品	ランプ	縦[3.2] 横[3.8] 高さ[1.5] 重さ4.2	SK108	オイルランプの部品	
36	銅製品	ランプ	縦1.4 横2.9 厚さ0.03 重さ1.8	SK108	オイルランプの部品	
37	銅製品	曹	長さ13.2 幅0.3 厚さ0.1 重さ3.9	SK108		
38	銅製品	不明	長さ16.4 幅0.4 厚さ0.1 重さ4.4	SK108	鍍金残存	
39	銅製品	不明	長さ[11.2] 厚さ0.4 重さ12.5	SK108		
40	鉄製品	不明	長さ[9.4] 幅0.8 厚さ0.4 重さ9.0	SK108	先端連結部 小孔あり	
41	銅製品	煙管	長さ6.7 小口径1.1 口付径1.0×0.1 重さ11.8	SK110	吸口 口付潰す	
42	銅製品	煙管	長さ7.7 小口径0.8 口付径0.6 重さ6.1	SK110	吸口	
43	銅製品	不明	縦[6.9] 横[5.3] 高さ[2.7] 厚さ0.1 重さ9.4	SK110		
44	鉄製品	不明	長さ[14.1] 幅2.1 厚さ0.3 重さ14.7	SK110	柄の一部 先端を輪にした鉄棒の間に鉄棒を挟み、針金で3箇所を固定する	
45	鉄製品	釘	長さ[13.1] 幅1.8 厚さ0.6 重さ57.2	SK110		
46	銅製品	煙管	長さ9.5 小口径1.1 口付径0.5 重さ13.5	SK115	吸口 炭化した扉字が内部に残存	
47	銅製品	煙管	長さ8.4 口付0.5×0.4 重さ8.1	SK115	吸口 潰れて屈曲	
48	銅製品	指貫	径1.7 高さ0.9 厚さ0.1 重さ2.5	SK115		

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
49	銅製品	こはぜ	長さ1.8 幅1.5 厚さ0.1 重さ0.6	SK115	鍍金残存	
50	銅製品	簪	長さ15.3 幅0.5 厚さ0.4 重さ10.5	SK115	玉欠失 花・青海波文	
51	鉄製品	錠前	縦3.8 横8.0 幅1.5 重さ56.0	SK115	錠錠状態	
52	銅製品	燵管	長さ5.5 火皿径1.6 小口径1.1 重さ11.3	SK116	雁首	
53	銅製品	把手	縦2.3 横6.0 厚さ0.15 重さ5.2	SK116		
54	鉄製品	釘	長さ[6.1] 幅0.4 厚さ0.9 重さ3.2	SK116		
55	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.6	SK116		
56	銅製品	不明	長さ4.9 幅1.2 厚さ0.1 重さ2.8	SK117		
57	銅製品	鉛筆削り	長さ8.1 高さ2.3 幅1.1 重さ21.2	SK117	「MADE IN JAPAN」小銃形 刃欠失	
58	鉄製品	短銃	長さ[14.9] 刃幅1.9 背幅0.3 重さ50.1	SK117		
59	鉄製品	火箸	長さ26.6 厚さ0.5 重さ34.9	SK117	箸頭球形	
60	鉄製品	火箸	長さ23.3 厚さ0.4 重さ22.7	SK117	箸頭球形 61と同一具	
61	鉄製品	火箸	長さ23.3 厚さ0.4 重さ23.3	SK117	箸頭球形 60と同一具	
62	鉄製品	火箸	長さ22.8 厚さ0.4 重さ23.0	SK117	箸頭球形	
63	鉄製品	火箸	長さ[9.4] 厚さ0.4 重さ7.2	SK117	箸頭楕形	
64	鉄製品	不明	長さ[9.6] 幅1.3 厚さ0.2 重さ10.3	SK117		
65	鉄製品	釘	長さ[7.9] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.6	SK117		
66	鉄製品	釘	長さ7.9 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.4	SK117		
67	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.8	SK117		
68	鉄製品	釘	長さ[4.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.6	SK117		
69	銅製品	火箸	長さ[21.0] 厚さ0.3 重さ10.1	SK118	箸頭欠失 持ち代振り 連結孔あり	
70	銅製品	口金	縦6.1 横10.2 厚さ0.04 重さ12.2	SK118	鍍金あり	
71	鉄製品	釘	長さ[5.7] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.6	SK118		
72	鉄製品	火箸	長さ[28.7] 厚さ0.6 重さ63.3	SK118	箸頭立方体	
73	鉄製品	不明	長さ[21.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ27.0	SK119	端部楕形 一方の端部は新留め連結	
74	銅製品	燵管	長さ[5.5] 小口径1.1 重さ8.6	SK119	吸口 口付側欠失	
75	鉄製品	楔	長さ[8.9] 幅1.0 厚さ0.4 重さ16.0	SK119		
76	鉄製品	釘	長さ6.7 幅0.7 厚さ0.5 重さ11.6	SK119		
77	鉄製品	包丁	長さ[14.5] 刃長[3.5] 刃幅3.0 背幅0.2 重さ38.3	SK119	木柄付	
78	鉄製品	玩具	長さ18.0 高さ7.7 幅1.9 銃口径1.2 重さ154.8	SK119	ピストル玩具	
79	銅製品	燵管	長さ7.7 小口径1.3×1.1 口付径0.4×0.3 重さ4.0	SK128	吸口	
80	銅製品	簪	長さ11.9 幅0.5 厚さ0.2 重さ5.4	SK128		
81	鉄製品	刀子	長さ[14.8] 刃長[9.8] 刃幅1.4 背幅0.3 重さ12.3	SK128		
82	鉄製品	掛金具	長さ8.2 幅0.4 厚さ1.0 重さ27.5	SK128		
83	鉄製品	包丁	長さ[20.8] 刃長[10.5] 刃幅1.9 背幅0.4 重さ46.4	SK128	木柄付	
84	鉄製品	釘	長さ[7.8] 幅1.0 厚さ0.3 重さ11.9	SK131		
85	銅製品	簪	長さ13.3 幅0.4 厚さ0.2 重さ8.4	SK132		
86	鉄製品	不明	長さ[11.4] 幅0.6 厚さ0.6 重さ12.9	SK132		
87	銅製品	燵管	長さ4.4 火皿径2.1×1.5 小口径1.0 重さ4.0	SK135	雁首	
88	銅製品	燵管	長さ[6.8] 小口径1.2 重さ7.5	SK135	吸口	
89	銅製品	ランプ	縦2.6 横3.3 高さ2.0 重さ3.7	SK248	オイルランプの部品	
90	銅製品	飾金具	縦4.6 横3.0 厚さ0.1 重さ5.4	SK248		
91	銅製品	指貫	径2.0×1.9 高さ0.9 厚さ0.1 重さ3.8	SK248		
92	銅製品	簪	長さ[13.6] 幅0.5 厚さ0.3 重さ8.4	SK248	玉欠失 大きく重む	
93	銅製品	こはぜ	長さ1.8 幅1.4 厚さ0.1 重さ0.8	SK248	鍍金残存	
94	銅製品	こはぜ	長さ1.8 幅1.4 厚さ0.1 重さ0.7	SK248	鍍金残存	
95	鉄製品	薬夾	長さ4.8 径1.2 重さ12.6	SK248		
96	鉄製品	燈灯金具	縦1.4 横11.1 高さ7.5 厚さ0.2 重さ22.2	SK248		
97	鉄製品	五徳	径14.0 高さ2.8 厚さ0.4 重さ63.7	SK248		
98	鉄製品	不明	長さ[13.9] 幅2.2 厚さ0.2 重さ28.5	SK248		
99	鉄製品	不明	長さ10.9 幅1.1 厚さ最大0.2 重さ7.6	SK248		

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
100	鉄製品	釘	長さ[8.0] 幅0.5 厚さ0.4 重さ9.3	SK248		
101	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.2	SK248		
102	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.8 厚さ0.3 重さ7.6	SK248		
103	鉄製品	釘	長さ[4.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.1	SK248		
104	鉄製品	釘	長さ[4.5] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.3	SK248		
105	鉄製品	釘	長さ[4.5] 幅0.3 厚さ0.3 重さ5.2	SK248		
106	鉄製品	釘	長さ[3.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.4	SK248		
107	銅製品	匙	長さ11.9 幅[2.2] 厚さ0.1 重さ10.5	SK249		
108	銅製品	キャップ	縦[2.7] 横3.5 高さ1.5 厚さ最大0.2 重さ17.9	SK249	「TOKYO KINTAIDO」	
109	銅製品	不明	縦[0.9] 横[9.3] 厚さ0.02 重さ0.5	SK249	鍍金残存	
110	銅製品	把手	縦1.7 横7.4 厚さ0.1 重さ2.6	SK257	変形	
111	鉄製品	火箸	長さ[16.0] 厚さ0.6 重さ20.4	SK257	箸頭半球形	
112	鉄製品	不明	長さ[8.1] 幅0.6 厚さ0.6 重さ11.5	SK257	先端連結部 小孔あり	
113	鉄製品	火格子カ	縦[4.1] 横[11.9] 厚さ1.1 重さ90.1	SK257		
114	鉄製品	釘	長さ[8.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ8.1	SK257		
115	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.4 厚さ0.3 重さ3.6	SK257		
116	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.4 厚さ0.4 重さ7.0	SK257		
117	鉄製品	釘	長さ[4.6] 幅0.3 厚さ0.2 重さ1.9	SK257		
118	鉄製品	釘	長さ[4.7] 幅0.3 厚さ0.4 重さ2.2	SK257		
119	銅製品	煙管	長さ4.9 火皿径1.5 小口径0.9 重さ4.9	SK267	雁首	
120	銅製品	簪	長さ5.2 幅0.5 厚さ0.1 重さ4.0	SK267		
121	鉄製品	玩具	長さ8.2 高さ3.0 幅1.3 銃口径0.7 重さ29.9	SK267	ピストル玩具	
122	銅製品	匙	長さ11.2 幅2.1 厚さ0.03 重さ7.6	SK268		
123	銅製品	こはぜ	長さ1.8 幅1.9 厚さ0.1 重さ0.7	SK270	鍍金残存	
124	銅製品	こはぜ	長さ1.8 幅1.8 厚さ0.1 重さ0.7	SK270	鍍金残存	
125	鉄製品	火箸	長さ[16.0] 幅0.4 厚さ0.4 重さ12.7	SK302		
126	鉄製品	釘	長さ7.6 幅0.4 厚さ0.3 重さ3.9	SK302		
127	鉄製品	釘	長さ[5.2] 幅0.5 厚さ0.5 重さ3.8	SK318		
128	鉄製品	釘	長さ[6.5] 幅0.5 厚さ0.5 重さ5.0	SK318		
129	銅製品	煙管	長さ6.5 小口径1.0 口付径0.3 重さ3.7	SK329	吸口	

は軒椀瓦で、欠失部が著しく摩耗しており、転用されていると考えられる。この種の転用は研具等の可能性が考えられるが実態は不明である。

第246図39は椀瓦である。端面に刻印「○」がみられる。胎土は角閃石を砂質である。

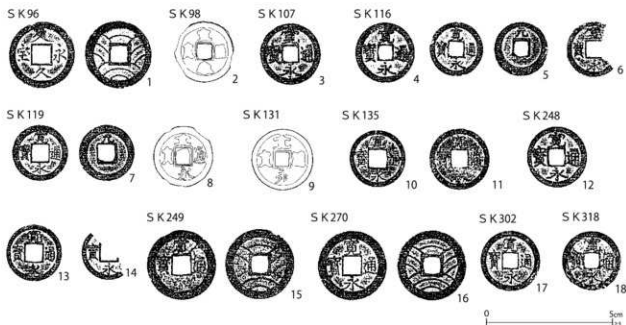
第249図28・29は同一個体のハッ折下駄で、栗橋宿での出土は稀である。28は爪先部、29は踵部で、表面に多数の細かな孔がみられ、踵上部に金属が付着する。30は矢立である。内面は黒漆、外面は黒漆の上に赤漆が塗られている。細かな彫刻状の文様で、薄く作られ、極めて丁寧な作りである。第251図48は刳り下駄で、通常よりかなり幅広い。47・53は獅子頭で、直接的な重複のない別遺構から出土しているが、左右それぞれが

半欠状態であることから同一個体の可能性が推定される。

第256図50は銅製の簪である。細かな花と青海波文が施文される。飾りの玉は欠失している。

51は鉄製の錠前である。近世以降に特徴的な回転錠型錠(合田2009)で、施錠状態となっている。内部は軸が三又に分かれたバネ構造である。

第257図78は鉄製のピストル玩具である。類似品が栗橋関所番土屋敷跡の加藤家盛土から出土(埜埋文2018a)しており、1890年にアメリカのシェパード社が製造した「アンティーク・キャップガン」と評価されている(福田・瀧瀬2020)。番土屋敷跡出土のキャップガンと同様に、表裏の半身を合わせ、バレルの中央を留めている。グリ



第260図 区画AE土壌出土遺物(72)

第59表 区画AE土壌出土遺物観察表(8)(第260図)

番号	種別	器種	法量	遺物名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径27.0 厚さ1.4 重さ3.6	SK96	文久永寶	
2	鉄製品	銭貨	径23.8 厚さ1.3 重さ1.7	SK98	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径24.8 厚さ1.1 重さ3.4	SK107	寛永通寶(古)	
4	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.3 重さ3.7	SK116	寛永通寶(古)	
5	銅製品	銭貨	径21.6 厚さ1.5 重さ2.0	SK116	寛永通寶(新) 背元	
6	銅製品	銭貨	径22.1 厚さ0.9 重さ[1.3]	SK116	寛永通寶(新) 1/3欠	
7	銅製品	銭貨	径22.5 厚さ1.0 重さ1.9	SK119	寛永通寶(新) 背元	
8	鉄製品	銭貨	径23.7 厚さ1.4 重さ3.4	SK119	寛永通寶(新)	
9	銅製品	銭貨	径23.7 厚さ1.0 重さ2.5	SK131	寛永通寶(新)	
10	銅製品	銭貨	径22.7 厚さ1.4 重さ2.6	SK135	寛永通寶(新)	
11	銅製品	銭貨	径24.8 厚さ1.2 重さ2.6	SK135	寛永通寶(新)	
12	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.2 重さ3.4	SK248	寛永通寶(古)	
13	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.0 重さ2.0	SK248	寛永通寶(新)	
14	銅製品	銭貨	径21.4 厚さ1.0 重さ[0.7]	SK248	寛永通寶(新) 平欠	
15	銅製品	銭貨	径28.0 厚さ1.2 重さ4.5	SK249	寛永通寶(新) 11波	
16	銅製品	銭貨	径28.0 厚さ1.1 重さ4.2	SK270	寛永通寶(新) 11波	
17	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.4 重さ3.6	SK302	寛永通寶(新)	
18	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ1.4 重さ3.0	SK318	寛永通寶(古)	

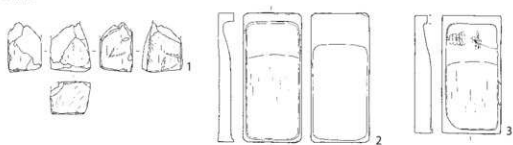
ップエンド部分も同じように留めていると考えられる。一見すると実銃に見えるが、実銃とは内部構造が異なるため注意を要したい。

第261図9は流紋岩製砥石である。深い溝状の研ぎ痕が四面にみられ横断面が「×」状を呈する。同様の砥石が第4地点第1号土壌(『栗橋宿跡Ⅱ』)で複数個体がまとまって出土している。

使用痕の形状からノミ状の工具を研いだと推定され、使用痕の形状が特殊なものであることから、職人系職種と関連がある遺物と推察される。

第263図34は凝灰岩製の砥石である。正面に「正一位/稲荷大神」、背面に「神□天？」の刻書が刻まれている。奉納された砥石と考えられる。第6地点の18世紀末から19世紀初頭頃に比定

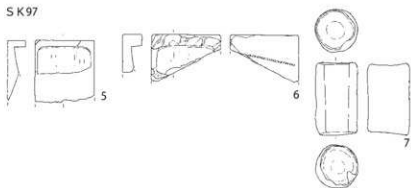
SK70



SK96



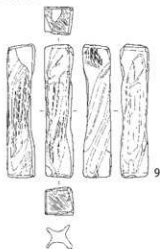
SK97



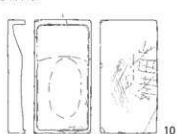
SK104



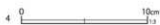
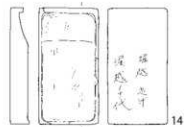
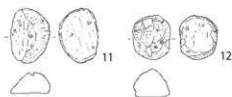
SK106



SK113

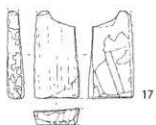
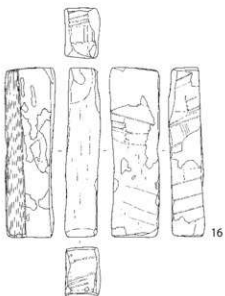


SK119

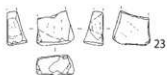
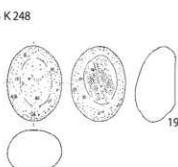


第261图 区画AE土坑出土遗物(73)

S K 128



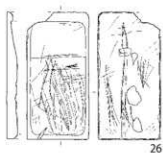
S K 248



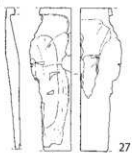
S K 249



S K 256

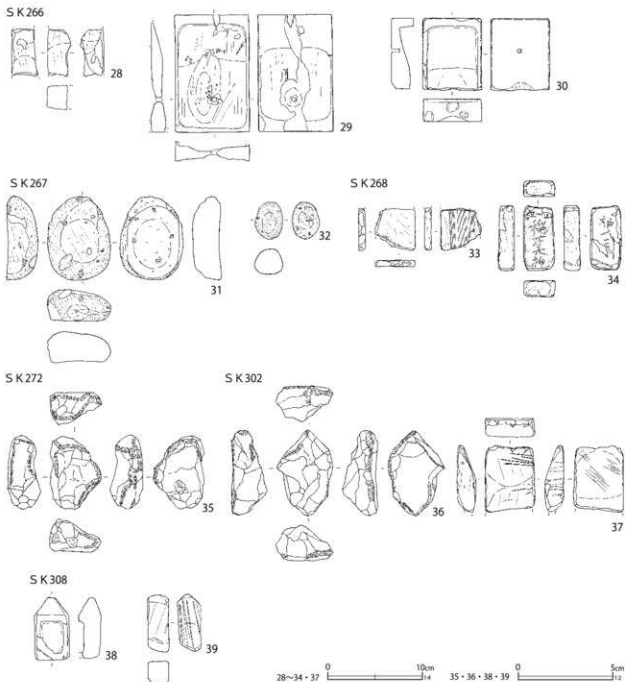


S K 257



16~27 0 10mm 15 0 5cm

第 262 图 区画 AE 土壙出土遗物 (74)



第263図 区画AE土壌出土遺物(75)

される水塚下第39号土壌(埧埋文2019c)からは、正一位/奉[ ]の墨書が書かれた砥石(『栗橋宿跡Ⅲ』第354図79)が出土しており、同じく奉納されたものと考えられる。

第261図8、第263図35・36は玉髓製の火打石で、いずれも著しく稜線が潰れている。長軸4.0cm前後で比較的大型である。

第261図11・12、第262図19・24、第263図

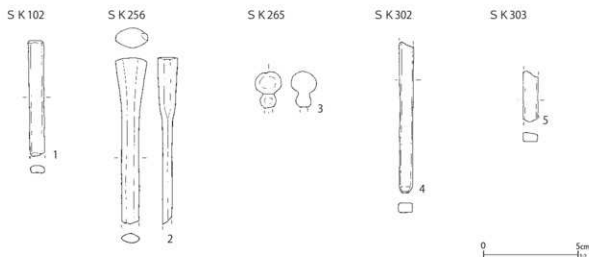
31・32は多孔質の角閃石安山岩転石、第262図20は軽石を素材とした磨石である。11・12・24は裏面が平坦で、断面形が半円状を呈する。19は細かな線条痕が明瞭に見える。31は裏面中央がややくぼむ。32はかなり小さな転石の自然面を使用し、裏面に使用痕が確認できる。

第263図30は凝灰岩製の硯である。破断面には工具による削り痕がみられ、裏面に未貫通の二

第60表 区画AE土城出土遺物観察表(9)(第261~263図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[5.2]	[4.2]	3.5	100.1	流紋岩	SK70	砥面5 裏・側面刃物痕	
2	石製品	硯	14.7	6.2	—	318.4	粘板岩	SK70	赤褐色 器高2.2cm 墨付着	141-2
3	石製品	硯	12.5	6.2	—	302.1	粘板岩	SK70	器高[1.7]cm 内面削痕・刃物傷 墨付着	
4	石製品	不明	6.4	[5.0]	[1.7]	43.8	滑石	SK96	側面削痕 表面刃物痕・穿孔5	
5	石製品	硯	[6.6]	6.3	—	90.9	粘板岩	SK97	器高1.9cm 全面に黒色塗布物	
6	石製品	硯	[5.0]	7.3	—	57.7	凝灰岩(細粒)	SK97	器高2.1cm 裏面刃物痕 表面削痕・摩耗	
7	石製品	不明	7.7	4.5	4.5	214.7	砂岩(粗粒)	SK97	軟質	
8	石製品	火打石	4.0	2.2	2.0	24.6	玉髓	SK104	潰れが著しい	
9	石製品	砥石	14.2	3.0	3.0	164.6	流紋岩	SK106	表・側面溝状使用痕 端部ランダムな線条痕 砥面6	
10	石製品	硯	12.0	6.0	—	265.8	粘板岩	SK113	器高1.8cm 裏面刻書・二次利用	
11	石製品	磨石	5.8	4.2	2.2	28.5	角閃石安山岩	SK119	多孔質 自然面遺存 使用面2	140-3
12	石製品	磨石	4.7	4.0	3.1	31.8	角閃石安山岩	SK119	多孔質 自然面遺存 使用面2	140-3
13	石製品	砥石	[6.5]	[3.8]	[1.6]	60.2	流紋岩	SK119	側面削痕 砥面4 被熱(赤化・剥落)	
14	石製品	硯	12.4	6.8	—	359.2	粘板岩	SK119	器高2.0cm 裏面刻書	
15	石製品	印章	3.1	2.2	2.0	29.3	滑石	SK128	篆書体 朱付着 被熱(ひび割れ)	138-7
16	石製品	砥石	17.9	3.8	5.3	653.2	流紋岩	SK128	側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 砥面2 被熱(一部黒化・剥落)	139-13
17	石製品	砥石	9.3	[4.8]	1.8	111.5	流紋岩	SK128	側・裏面幅広工具痕 砥面1	
18	石製品	硯	7.7	2.5	—	20.9	粘板岩	SK128	器高0.7cm 内面朱墨付着 側・下面黒色付着物	141-2
19	石製品	磨石	8.0	5.8	4.3	120.4	角閃石安山岩	SK248	多孔質 自然面遺存 使用面1 線条痕あり	140-3
20	石製品	磨石	7.7	5.0	5.1	60.0	軽石	SK248	黒色 自然面不明瞭 使用面多数	140-3
21	石製品	砥石	[8.5]	3.3	5.1	251.2	流紋岩	SK248	側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 砥面3	139-14
22	石製品	砥石	[5.9]	2.9	2.2	49.6	凝灰岩	SK248	砥面4 遺存 刃物痕あり	
23	石製品	砥石	[3.7]	4.0	2.1	37.9	砂岩	SK248	砥面4 遺存	
24	石製品	磨石	5.9	3.8	1.1	14.6	角閃石安山岩	SK249	多孔質 自然面遺存 使用面3	140-3
25	石製品	硯	[6.3]	[2.1]	—	9.9	粘板岩	SK256	器高0.5cm 側・裏面黒色塗布物 裏面削痕 側面刻書カ 被熱・墨付着	
26	石製品	硯	13.5	6.6	—	177.1	粘板岩	SK256	器高[1.1]cm 砥具転用 表・裏面に深い刃ならし痕多数 裏面刻書 側面黒色塗布物 被熱・墨付着	141-2
27	石製品	硯	15.2	[4.4]	—	134.5	粘板岩	SK257	器高[1.5]cm 裏面刻書カ	
28	石製品	砥石	[5.0]	[2.5]	2.8	52.1	流紋岩	SK266	砥面3 遺存	
29	石製品	硯	12.4	7.9	—	259.8	粘板岩	SK266	器高2.1cm 側・裏面黒色塗布物 裏面刻書 二次穿孔1 湿石転用 SK267と接合	141-2
30	石製品	硯	[7.8]	6.2	—	161.3	凝灰岩	SK266	器高2.4cm 表・側面黒色塗布物 二次穿孔1(未貫通)1 削痕あり	141-2
31	石製品	磨石	8.9	6.7	3.2	109.2	角閃石安山岩	SK267	多孔質 自然面遺存 使用面4	140-3
32	石製品	磨石	3.9	2.9	2.7	19.7	角閃石安山岩	SK267	多孔質 自然面遺存 使用面1	
33	石製品	砥石	[4.5]	[4.3]	0.7	20.1	流紋岩	SK268	裏面ノコギリ痕 砥面3 遺存	
34	石製品	砥石	6.9	3.3	1.7	56.3	凝灰岩	SK268	砥面4 刃物痕あり 刻書「正一位/稲荷大神」 「神口天」	138-12
35	石製品	火打石	3.9	2.7	1.8	18.1	玉髓	SK272	稜の潰れ著しい	
36	石製品	火打石	4.5	3.0	1.9	21.7	玉髓	SK302	稜の潰れ著しい	
37	石製品	砥石	[7.1]	5.3	2.0	104.3	流紋岩	SK302	側面幅広工具痕カ 上端部溝状使用痕 砥面4 遺存 刃物痕あり	
38	石製品	ニチャア?	3.3	1.8	1.2	9.4	砂岩	SK308	墨石カ	138-14
39	石製品	石筆	3.0	1.1	1.2	9.1	滑石	SK308	両端使用 刃物傷多数	





第264図 区画AE土壌出土遺物(76)

第61表 区画AE土壌出土遺物観察表(10)(第264図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[6.1]	0.8	0.4	2.8	SK102	透明 中実	142-1
2	硝子製品	筭	[8.8]	1.7	1.1	17.9	SK256	透明 中実	142-1
3	硝子製品	筭	[1.9]	1.4	—	5.8	SK265	青色透明 中実 被熱(白色化)	142-1
4	硝子製品	筭	[8.0]	[0.8]	8.0	8.0	SK302	透明 中実 被熱カ	142-1
5	硝子製品	筭	[2.7]	0.8	0.5	3.1	SK303	青色透明 中実 被熱(白色化)	142-1

次穿孔を施す。何らかの転用が示唆される。

第264図3は筭の飾り部分と考えられる。青色の硝子で中実である。大部分は被熱し、白色化している。

#### ⑥区画AFの土壌

区画AFは第5号杭列より南、第6号杭列より北に位置する。『絵図』との対比関係から二つの区画が想定されるが実態は一つの区画である。区角AF1は『絵図』にみえる「餅菓子屋/惣右衛門店/内蔵之丞」、AF2は「旅籠屋/惣右衛門」である。区画AF1は店名から「旅籠屋/惣右衛門」に関わる区画と推定される。『営業便覧』の時代には「薬種商/柿沼清九郎」となっており、完全に一つの区画となっている。

敷地面積は区画AE「旅籠屋/吉田屋/太左衛門」とほぼ同程度である。

土壌は74基検出され、区画AEより若干多い。土壌は建物跡を避けるように集中し、特に西側で重複が多い。平面形態はおよそ長方形を呈するも

のが多く、長軸方向は西側の土壌は日光道中と直交、東側は平行方向に向く傾向がある。

第62表には位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は第154・156・160・220・221・229・245・253・259号土壌である。第265・282図に遺構図、第266～281・283～293図に各遺構ごとに出土遺物を示した。

非抽出となった土壌は第294～299図に遺構図、第300～325図に出土遺物を示した。

#### 第154号土壌(第265・266図)

F7-F7グリッドに位置する。第1号建物跡より新しく、第155号土壌と重複する。単層の浅い土壌で、平面形は隅丸長方形、長軸1.5m、短軸0.95m、深さ0.1mを測る。長軸方位はN-62°-Eを指す。覆土は白色土ブロックを多量に含む砂質土である。

出土遺物はそれほど多くはないが、陶磁器は幕末期に遡る製品のみであり、近代遺物の混在が一

第62表 第一面区画AF土壌一覧表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
137	F7-F7	隅丸長方形	1.60	1.35	0.15	N-68°-E	SK229・285と重複	294
138	F7-F6・7	隅丸長方形	1.70	1.55	0.10	N-68°-E	SK140と重複	294
139	F7-F6・7	長楕円形	1.45	0.65	0.10	N-72°-E		294
140	F7-F7	隅丸長方形	1.30	1.10	0.40	N-70°-E	SK138と重複	294
141	F7-F・G7	楕円形	0.80	0.70	0.20	N-35°-E		294
143	F7-F7	隅丸長方形	1.80	1.25	0.45	N-15°-W	SK165・285と重複	294
144	F7-F7	隅丸長方形	1.45	0.95	0.20	N-73°-E	SK145より新 SK229と重複	294
145	F7-F・G7	不整形	1.60	0.85	0.60	N-76°-E	SK144より古	294
146	F7-F・G7	不整形	2.05	1.45	0.60	N-79°-E		294
147	F7-F7	隅丸長方形	0.95	0.75	0.10	N-75°-E	SK158と隣接	294
148	F7-F7	隅丸長方形	1.30	1.15	0.15	N-75°-E	SK282より新	294
149	F7-F8	隅丸長方形	1.15	0.95	0.10	N-67°-E		294
150	F7-F7・8	不整形	1.85	0.95	0.05	N-64°-E	SB1と重複	295
151	F7-F8	不整形	2.50	(2.45)	0.60	N-77°-E	SB1より古 SK175・234と重複	295
152	F7-F7	楕円形	1.45	1.20	0.30	N-17°-E	SK253より新	295
153	F7-F7	隅丸長方形	1.30	0.80	0.20	N-72°-E	SK229・285より新 SK172と重複	296
154	F7-F7	隅丸長方形	1.50	0.95	0.10	N-62°-E	SB1より新 SK155と重複	265
155	F7-F7	隅丸長方形	1.20	(1.00)	0.10	N-58°-E	SK154と重複	295
156	F7-F7	隅丸長方形	1.50	0.90	0.35	N-14°-W	SK171と重複	265
157	F7-F7	円形	0.65	0.55	0.20	N-37°-E		295
158	F7-F7	隅丸長方形	1.25	1.00	0.25	N-75°-E	SK147と隣接	294
159	F7-F7	楕円形	0.70	0.60	0.20	N-73°-E		294
160	F7-F7	隅丸長方形	1.30	[0.80]	0.10	N-71°-E	SK285より新 SK165と重複	265
161	F7-E・F7	不整形	(1.80)	0.95	0.15	N-17°-W	SK252と重複	295
164	F7-F7	不明	(1.20)	(0.40)	0.20	N-15°-W	SK229と重複	295
165	F7-F7	隅丸長方形	1.75	(1.65)	0.35	N-12°-W	SK285より新 SK143・160と重複	296
166	F7-F7	不整形	1.70	1.40	0.35	N-11°-W	SB1・SK173より新 SK167と重複	295
167	F7-F7	長楕円形	2.70	0.45	0.20	N-17°-W	SB1・SK166と重複	295
169	F7-F8	隅丸長方形	1.05	0.45	0.15	N-17°-E		296
170	F7-E・F7	楕円形	0.95	0.75	0.20	N-50°-E	SB1と重複	296
171	F7-F7	楕円形	(0.60)	0.70	0.30	N-69°-E	SK156と重複	295
172	F7-F7	隅丸長方形	0.80	[0.30]	0.25	N-12°-W	SK153・255・283・285と重複	296
173	F7-F7	円形	0.70	0.65	0.45	N-35°-E	SK166より古 SB1より新	295
175	F7-F8	不整形	1.00	0.95	0.10	N-50°-W	SK151と重複	296
199	F7-E8	隅丸長方形	1.30	1.10	0.25	N-77°-E	SK228・236より新 SK259と重複	296
213	F7-F8	楕円形	1.35	1.05	0.10	N-40°-E		296
216	F7-E・F・8	隅丸長方形	1.55	1.10	0.20	N-13°-W	SB1と重複	296
218	F7-F8	不整形	1.40	0.70	0.40	N-40°-E	SB1・SK222より新	297
219	F7-E8	不明	0.95	(0.40)	0.20	N-76°-E	SB1と重複	297
220	F7-E7・8	不整形	2.65	1.95	0.70	N-68°-E	SB1より古 SK221より新	282
221	F7-E7	隅丸長方形	4.90	(2.30)	0.60	N-65°-E	SB1・桶10・杭列5・SK220より古	282
222	F7-F8	楕円形	0.80	0.70	0.20	N-57°-E	SK218より古 SB1より新	297
223	F7-F8	楕円形	0.95	0.55	0.20	N-69°-E		297
224	F7-F8・9	隅丸長方形	2.15	1.25	0.45	N-16°-W	SK225より古 SK263より新	297
225	F7-F8・9	隅丸長方形	1.85	1.40	0.30	N-14°-W	SK224・263より新	297
226	F7-F9	隅丸長方形	1.60	1.00	0.50	N-68°-E	SK263より新	298
227	F7-E8・9 F8・9	楕円形	1.15	0.60	0.15	N-77°-E	SK263より新	298
228	F7-E8	不整形	4.35	(2.60)	0.30	N-30°-W	基礎状遺構4・SK199より古 SK259と重複	298
229	F7-F7	不整形	(3.45)	(2.15)	0.60	N-23°-W	SK153より古 SK285より新 SK137・144・164と重複	265
233	F7-F7	隅丸長方形	[2.75]	0.95	0.45	N-65°-E	SB1と重複 P17と隣接	297
234	F7-F8	楕円形	(1.00)	1.00	0.20	N-65°-E	SK151と重複	297
235	F7-E8	隅丸長方形	1.70	0.80	0.15	N-74°-E	SB1と重複	297

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	押図
236	F7-E8	隅丸長方形	0.90	0.45	0.15	N-15° -W	SK199 より古	297
237	F7-E8・9	隅丸長方形か	(1.30)	1.75	0.35	N-79° -E	SK259 より新	298
245	F7-F8	隅丸長方形	2.05	1.40	0.10	N-73° -E		265
246	F7-E・F7	隅丸長方形	0.70	0.50	0.10	N-25° -W		298
252	F7-E7	楕円形	0.90	0.70	0.10	N-70° -W	SK161 と重複	298
253	F7-F7	隅丸方形	1.35	1.30	0.50	N-75° -E	SK152 より古	292
255	F7-F7	不整形	(1.45)	(1.20)	0.40	N-21° -W	SK283 より新 SK172・285 と重複	296
259	F7-E8・9	不明	4.50	(1.90)	0.80	N-19° -W	SK237 より古 SK199・228 と重複	265
263	F7-E9・F8・9	隅丸長方形	3.70	2.50	0.50	N-15° -W	SK224～227 より古	298
276	F7-F8	隅丸長方形	(2.70)	1.35	0.55	N-21° -W	SB1 より古 SD5 と重複	298
282	F7-F7・8	楕円形	1.35	1.05	0.40	N-54° -W	SK148 より古	294
283	F7-F7	楕円形	(1.15)	(0.55)	0.35	N-24° -W	SK255 より古 SK172 と重複	296
285	F7-F7	隅丸長方形	3.90	2.90	0.60	N-71° -E	SK153・160・165・229 より古 SK137・143・172・255 と重複 基礎状遺構 2 と隣接	299
304	F7-F8	隅丸長方形	1.45	0.55	0.35	N-21° -W	基礎状遺構 3 より古	299
305	F7-F8	隅丸長方形	0.75	0.55	0.20	N-20° -W		299
306	F7-F8	円形	0.70	0.65	0.35	N-0°	SK311 と隣接	299
310	F7-F8	楕円形	0.65	0.50	0.35	N-16° -W	SK311 より新	299
311	F7-F8	楕円形	0.80	0.55	0.10	N-86° -E	SK310 より古 SK306 と隣接	299
312	F7-F8	円形	0.75	0.70	0.15	N-80° -E	SK313 より古	299
313	F7-F8	楕円形	(0.75)	0.60	0.15	N-48° -E	SK312 より新 基礎状遺構 3 と重複	299
314	F7-F8	楕円形	0.60	0.50	0.40	N-47° -E		299
325	F7-E8	楕円形	1.10	0.90	0.45	N-35° -E		299

切認められない。瀬戸美濃系磁器の小碗（第266図3）が最新期であり、推定廃絶期は19世紀中葉である。

第266図には出土遺物を図示した。1は瀬戸美濃系磁器の端反形碗で、口縁部の反りは弱く、体部は直線的に開く。重複する第155号土壌出土破片と接合関係にある。2は肥前系磁器の湯呑形小碗である。外面に細線文の染付がみられ、非掲載遺物に別個体の同文製品がみられる。3は瀬戸美濃系磁器の小碗で、最新期の陶磁器である。4は肥前系磁器の段重である。削り込み高台で、外面は蛸唐草文染付がみられる。

5は産地不詳陶器の青土瓶である。外面に青緑釉が施釉され、内底面に径3.2cmを測る輪状の重ね焼き痕がみられる。第155号土壌出土破片と接合関係にある。6は瀬戸美濃系陶器の柿軸甕である。外面上位に条線がみえる。

#### 第156号土壌（第265・267図）

F7-F7グリッドに位置し、第171号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.5m、短軸0.9m、深さ0.35mを測る。長軸方位N-

14° -Wを指す。

覆土は斜め堆積で、中・下層は同質の土だが、中層には木片が含まれる。最上層には炭化物が含まれる。

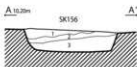
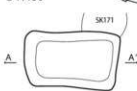
遺物は一定量出土しており、瀬戸美濃系磁器の卵殻手環（第267図3）が最新期である。また、非掲載遺物に陶器の白土染付土瓶の破片がみられる。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第267図に出土遺物を図示した。1は瀬戸美濃系磁器の広東碗である。栗橋宿では大部分が肥前系の広東碗であり、瀬戸美濃系の出土例は少ない。3は瀬戸美濃系磁器の卵殻手環で、最新期の陶磁器である。高台皿付は内側に段が付き、高台周囲に染付が施される。内面は江戸絵付けで、「盛/別造/原勢製」の銘がみえる。第5地区区画②に位置する「原勢屋」（埴理文2020c）で製造されたと考えられる。4は肥前系磁器の内面一枚絵染付の皿である。口縁部は輪花状に成形されている。5は肥前系磁器の蕎麦猪口である。輪高台で、内外面は染付である。非掲載遺物に別個体の同文製品が2個体みられる。7は京都信楽系陶器の畑

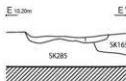
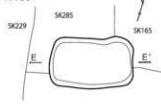
S K 154



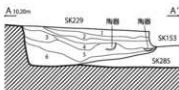
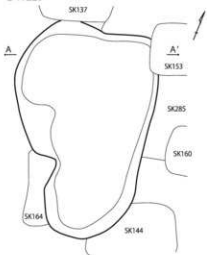
S K 156



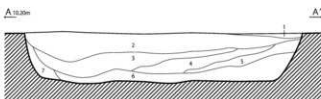
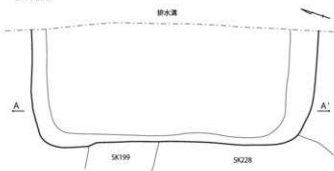
S K 160



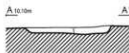
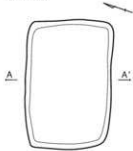
S K 229



S K 259



S K 245



S K 154

- 1 灰白色土  
細粒砂質主体  
白色土ブロック (φ5mm) 多量

S K 156

- 1 灰褐色土  
炭化物・黄色土ブロック (φ2mm) 少量  
2 暗灰褐色土  
黄色土ブロック・木片少量  
3 暗灰褐色土  
均質

S K 160

- 1 灰褐色土  
砂粒主体

S K 229

- 1 黄褐色土  
砂質 炭化物少量  
2 褐色土  
粘土質 炭化物少量 木質多量  
木製品含む  
3 灰黄色土  
粘土質 炭化物含む  
4 灰黄色土  
シルト質 粘性強 木片多量  
5 灰色土  
粘土質 炭化物少量 木片多量  
貝類含む  
6 黄色土  
砂質 粘土 (φ0.5mm以下)

S K 245

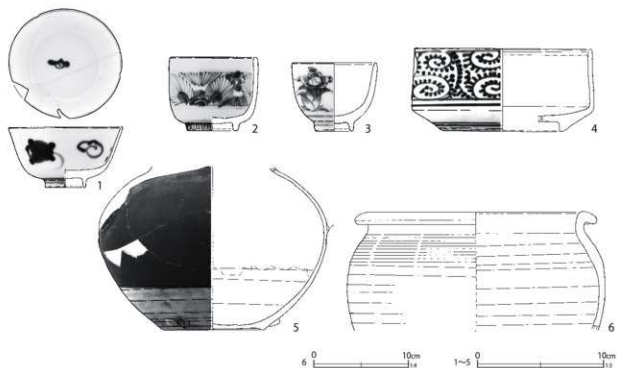
- 1 灰褐色土  
シルト質 粘性強 炭化物多量  
底面固くしまる  
(炭化物多量・粘土微量)

S K 259

- 1 黄白色砂  
均一 細粒砂  
2 灰黑色土  
シルト質 やや均一 炭化物  
(φ2~10mm) 少量  
3 青灰色土  
シルト質 不均一 ラミナ発達  
有機物の互層 木片少量  
4 黒色有機物層  
やや均一 ややラミナ発達  
5 褐色土  
木片多量  
6 褐色土  
シルト質 やや均一 木片多量  
7 青灰色土  
シルト質 均一 含有物少量



第265図 区画AF土壌(1)



第266図 第154号土壌出土遺物

第63表 第154号土壌出土遺物観察表 (第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	8.9	4.8	3.1	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 SK155と接合	
2	磁器	碗	6.7	5.8	3.8	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり SK155と接合	
3	磁器	碗	6.5	5.4	2.8	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
4	磁器	段重 (13.8)	6.5	5.5 (9.2)	8.1	K	25	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
5	陶器	土瓶	—	[12.9]	8.1	IK	80	普通	灰白	外面青緑軸 内底面輪状重底痕 (径3.2cm) SK155と接合	
6	陶器	甕	(22.9)	[12.6]	—	EIK	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸	

徳利である。外面に鉄絵が施される。8は瓦質土器の甕罍である。口唇部の端部は面取りされており、下端部の断面形は丸みを帯びる。

9は銅製の古寛永通寶、10・11は新寛永通寶である。

12・13は粘板岩製の携帯用硯である。黒色塗布物により黒色を呈している。

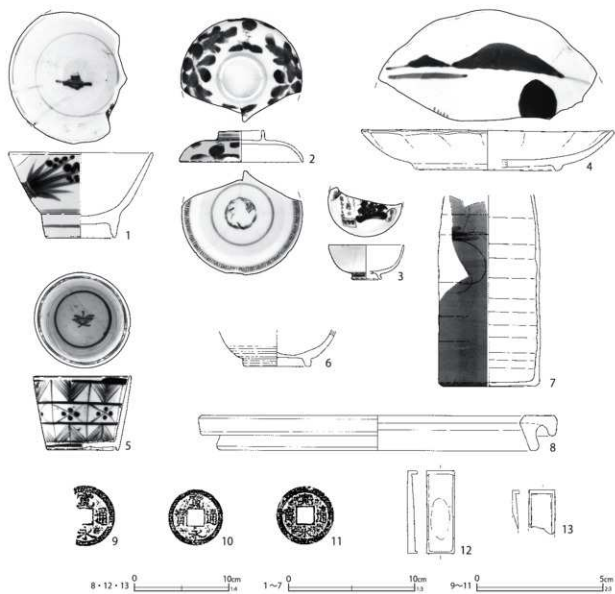
#### 第160号土壌 (第265・268・269図)

F7-F7グリッドに位置する。第285号土壌より新しく、第165号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る。長軸方位N-71°-Eを指

す。覆土は単層で、砂粒を主体としている。

遺構は浅いが、磁器1443.9g、陶器1714.5g、土器594.4g、瓦2890.0g等出土遺物が多い。陶磁器は18世紀末頃を主体とするが、瀬戸美濃系磁器の小破片がいくつかみられる。瀬戸美濃系磁器の端反形碗 (第268図3)、非掲載遺物にみられる肥前系磁器の八角鉢、陶器三彩土瓶の蓋 (第268図12) が最新期の陶磁器である。遺構が極めて浅いため、重複する下層遺構の遺物を巻き上げている可能性が疑われる。推定廃絶期は19世紀前半である。

第268・269図に出土遺物を図示した。1は肥



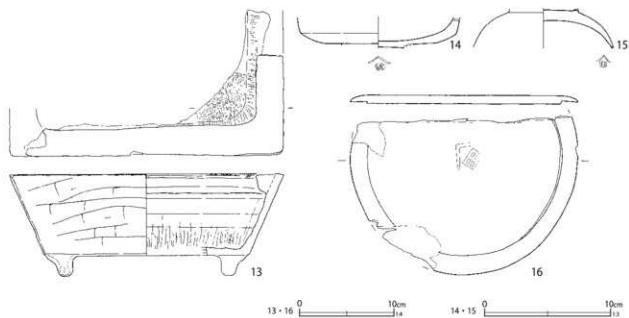
第267図 第156号土壇出土遺物

第64表 第156号土壇出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	(11.2)	6.7	5.4	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付		
2	磁器	蓋	9.7	2.5	3.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付		
3	磁器	坏	(2.9)	2.7	(2.2)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青) 「盛/別造/原勢製」	76-6	
4	磁器	皿	(19.6)	3.1	(11.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支路1遺存		
5	磁器	狭口	7.6	5.9	5.5	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体2あり		
6	陶器	碗	—	[2.9]	5.2	IK	45	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸		
7	陶器	燗德利	—	[15.0]	7.4	K	50	良好	灰白	京都信楽系 外面施軸・鉄絵		
8	瓦質土器	甕罎	(31.0)	3.7	(33.5)	CF1	15	普通	灰	糠手 煤付着		
9	銅製品	銭貨	径24.4 厚さ1.3 重さ[2.0]								寛永通寶(古)1/3欠	
10	銅製品	銭貨	径22.4 厚さ0.9 重さ1.7								寛永通寶(新)	
11	銅製品	銭貨	径23.3 厚さ2.1 重さ2.2								寛永通寶(新)	
12	石製品	硯	長さ5.8 幅2.9 器高1.0 重さ50.6								粘板岩 側面黒色染布物	141-2
13	石製品	硯	長さ[4.7] 幅2.8 器高0.7 重さ14.1								粘板岩 全面黒色染布物	



第268图 第160号土坑出土遗物(1)



第269図 第160号土壙出土遺物(2)

第65表 第160号土壙出土遺物観察表(第268・269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	8.3	8.5	3.3	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
2	磁器	碗	(11.4)	6.4	6.4	K	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明)	
3	磁器	碗	(10.6)	[2.6]	—	—	5	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(青み強い)	
4	磁器	蓋	(9.9)	3.0	(3.8)	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
5	磁器	皿	13.1	3.3	6.8	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付	
6	磁器	鉢	21.6	8.4	13.0	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸(内面青磁軸)・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱	
7	磁器	猪口	(7.1)	5.4	4.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
8	磁器	猪口	8.0	6.0	5.8	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
9	陶器	碗	7.8	5.4	3.8	EIK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 体部トヒゴンナ状の押型文 外面上位・内面鉄軸 外面下位施軸	
10	陶器	こね鉢	(25.8)	14.2	14.6	EI	45	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面目跡4遺存 底部墨書	
11	陶器	徳利	—	[19.7]	10.0	EK	50	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿漆 底部軸拭き取り SK172と接合	
12	陶器	蓋	6.7	3.1	5.0	HK	100	良好	灰白	上面三彩・施軸 内面タール状物買付着	
13	瓦質土器	火鉢	(29.0)	10.7	(21.3)	CHK	30	不良	黄灰	体部ケズリ 護子 内面下位火箸傷 被熱(剥落)	
14	木製品	漆皿の	高さ[2.4]							横木取り 内外面黒漆 高台内金で「金」	
15	木製品	漆桶蓋	高さ[3.1]							横木取り 内外面黒漆 内面金で「金」	
16	木製品	漆蓋	厚さ0.9 口径/径24.0							板目 内外面黒漆 内面に焼印「金」	

前系磁器の小丸碗、2は広東碗である。2には焼継痕がみられ、高台内には色が飛んで透明な焼継印がみえる。

3は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。染付の発色が良く、濃い青色である。

4は肥前系磁器で、体部が朝顔形を呈する碗の蓋である。内面に四方禪文と比較的丁寧な五弁花

がみえる。5は波佐見系磁器の粗製皿である。内面に蛇ノ目軸剥ぎ、梅花繫ぎ文染付がみえる。6は肥前系磁器の鉢である。蛇ノ目凹形高台で、内面に青磁軸が施軸される。焼継痕がみられ、高台内に焼継印がみえる。

7・8は肥前系磁器の蕎麦猪口である。7は輪高台、8は蛇ノ目凹形高台である。8の内面には



四方禪文と丁寧な五弁花の染付がみえる。

9は瀬戸美濃系陶器の鏡手碗である。外面上位から内面にかけて鉄軸が施軸され、外面下位は透明軸に近い色調である。トビガンナ状の細かな押型文が施文される。

10は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。内面に目跡状に軸の拭き取り痕が4箇所遺存する。底部に墨書がみられる。

11は瀬戸美濃系陶器の徳利である。舟徳利状で外面に柿軸が施軸され、底部は軸拭き取りがみられる。第172号土壙出土の破片と接合関係にある。

12は産地不詳の陶器で、三彩土瓶の蓋である。上面に緑軸彩と鉄絵がみられる。

第269図13は瓦質土器の角火鉢である。体部はケズリ調整が行われている。内面には火箸による使用痕がみられ、被熱により著しく剥落している。在地産と推定される。

14～16は漆製品である。いずれも「罇」の文字がみえる。第8地点で多くみられる屋号である。

#### 第229号土壙 (第265・270～274図)

F7-F7グリッドに位置する。第153号土壙より古く、第285号土壙より新しい。さらに、第137・144・164号土壙と重複する。平面形は不整形で、検出長軸3.45m、短軸2.15m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-23°-Wを指す。

底面は傾斜し、覆土は斜め堆積である。中層には木質や木片が多量に含まれ、全体的に炭化物がみられる。第5層にはアカニシを主体とした貝類がみられ、アカニシは39個体分確認できる。その他にアサリ、カキ、サトウガイが出土している(第243表)。

多種多様な遺物が多量に出土しており、陶磁器は端反形碗や八角鉢を主体とする。陶器の灯明皿は瀬戸美濃系を主体とし、京都信楽系(第272図36)が1点みられる。

このように、19世紀第2四半期の様相を呈し

ているが、一方で湯呑形碗や卵殻手環が一切みられず、瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形の坏(第270図12)3点が最新期の陶磁器である。また、第274図57の木札には、「埼玉縣下栗橋(宿)」の墨書がみられる。栗橋宿が埼玉県に属するのは明治四年(1871)で、それ以前は葛飾県に属していた。また、明治二十二年(1889)には「栗橋町」となる。したがって、木札は1871～1889年間のものであり、陶磁器の年代とは齟齬が生じることとなる。

しかし、重複遺構には型紙摺絵染付丸碗を含む遺構(第144号土壙)があり、木札については混入も可能性が疑われる。一方で、木型打ち込み成形の坏3点は東大Ⅷd期の指標陶磁器であるため混入の判断は困難を極めるが、第221号土壙と接合関係にある陶磁器が確認されており(第287図28)、第221・299号土壙は同時性のある遺構と考えられる。したがって、推定廃絶期は第221号土壙と同じ19世紀前半である。

第270～274図に出土遺物を図示した。第270図7・8は同文の肥前系磁器の端反形碗である。6は7・8と同文の蓋である。いずれかとセットになるものと考えられる。9は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。12は瀬戸美濃系磁器の坏で、最新期の陶磁器である。木型打ち込み成形で、内面に陰刻文がみられる。同文の別個体が非掲載遺物にみられる。

第271図22は肥前系、23は瀬戸美濃系磁器の八角鉢である。23は高台内に蛇ノ目状の軸拭き取り痕、内底面に窯道具痕が3箇所みられる。

第272図29は肥前系磁器の合子蓋である。内面に渦巻状のケズリがみられる。

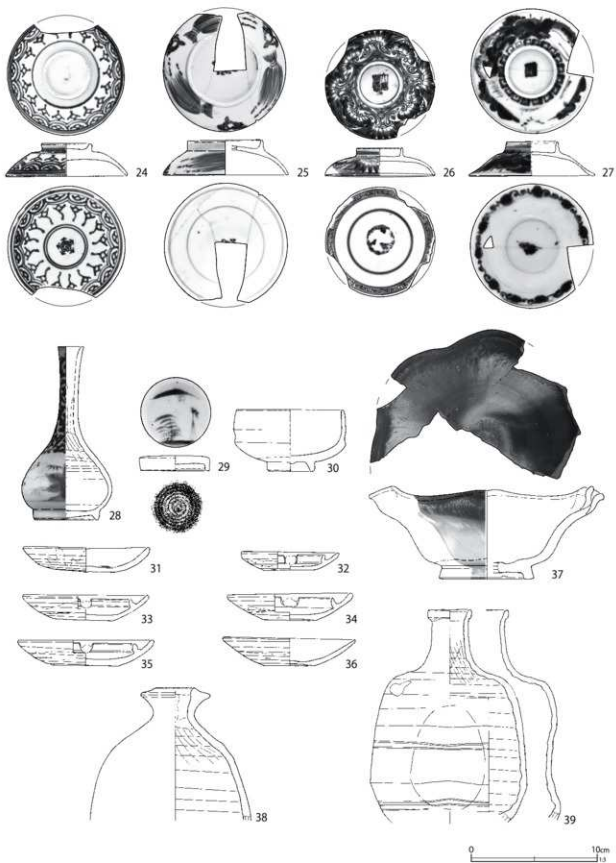
31～35は瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿である。31は油皿で、外面下位から底部にかけて軸が拭き取られている。また、内面と底部に輪状重ね焼き痕がみられる。32～35は油受皿で、いずれも外面下位から底部にかけて軸が拭き取られ、輪状



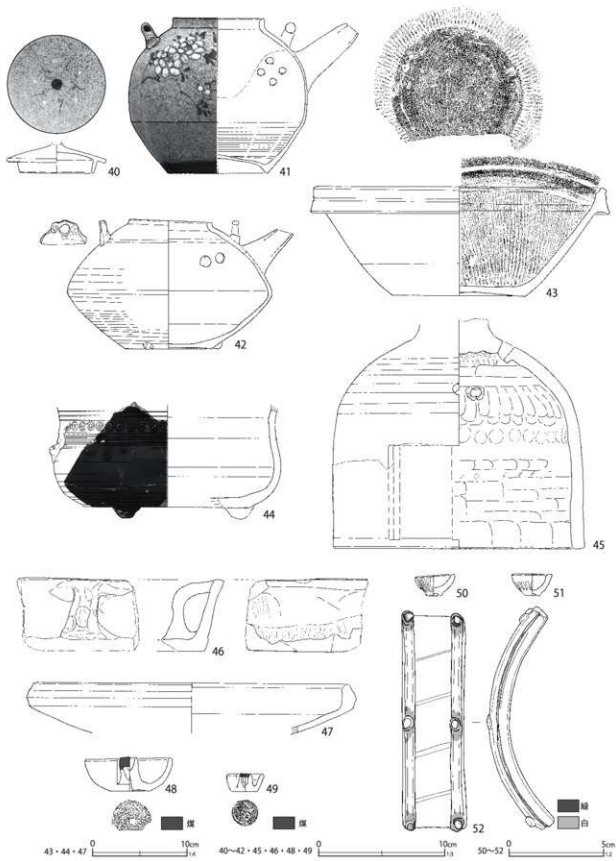
第 270 图 第 229 号土坑出土遗物 (1)



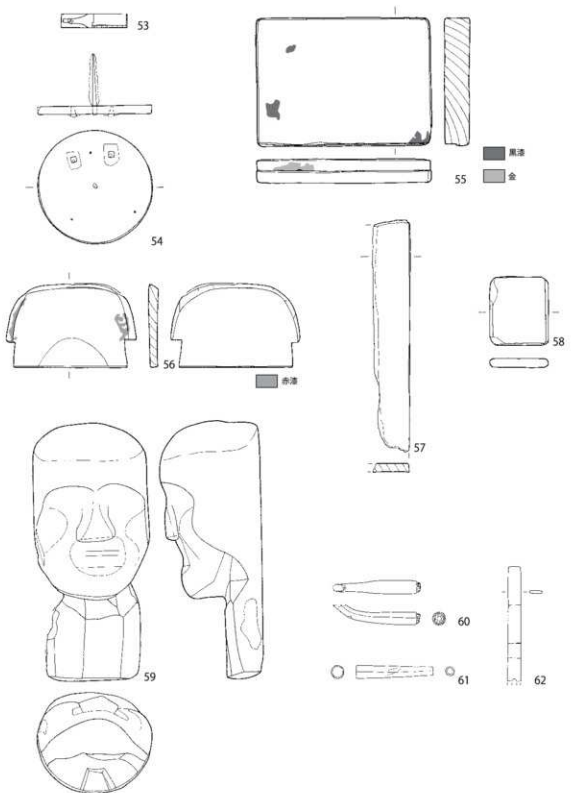
第271图 第229号土坑出土遗物(2)



第272图 第229号土壙出土遗物(3)



第273图 第229号土坑出土文物(4)



第 274 图 第 229 号土坑出土遗物 (5)

第66表 第229号土城出土遺物観察表(第270~274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(6.3)	4.9	3.2	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	7.9	5.0	2.8	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
3	磁器	碗	(8.7)	4.0	(3.2)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
4	磁器	碗	(7.5)	3.7	(2.6)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
5	磁器	碗	11.3	6.7	6.3	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
6	磁器	蓋	—	[1.7]	9.6	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
7	磁器	碗	(10.7)	5.8	(4.2)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
8	磁器	碗	10.7	6.0	4.5	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
9	磁器	碗	9.4	4.6	3.9	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
10	磁器	碗	(9.6)	5.3	3.6	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面被熱	
11	磁器	碗	(9.4)	[4.0]	—	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 燒痕あり	
12	磁器	坏	7.1	5.2	3.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押捺刻文 口紅 同文別個体1あり	69-13
13	磁器	坏	(6.4)	3.1	(2.7)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
14	磁器	坏	5.2	2.7	2.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 外面下位錫刻文 内外面施釉 外面染付 内面黒色物質付着	
15	磁器	皿	(12.2)	4.0	7.0	—	45	良好	灰白	肥前系 内外面施釉・染付	
16	磁器	皿	(13.9)	4.5	(8.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 (外面青磁釉) 内面染付 蛇ノ目凹形高台	
17	磁器	皿	(10.5)	2.5	5.9	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 被熱(弱)	
18	磁器	皿	(17.9)	2.9	(11.0)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
19	磁器	皿	(20.4)	[2.2]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
20	磁器	皿	(21.5)	3.1	(13.5)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
21	磁器	皿	(23.8)	3.9	(14.0)	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支路3遺存 燒痕あり 被熱	
22	磁器	鉢	(15.0)	[6.2]	—	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
23	磁器	鉢	—	[4.0]	6.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内底面目跡3 高台内蛇ノ目状に軸拭き取り	
24	磁器	蓋	4.0	2.7	3.8	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
25	磁器	蓋	6.0	2.8	5.8	—	85	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
26	磁器	蓋	3.7	2.2	3.5	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
27	磁器	蓋	4.2	2.7	4.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
28	磁器	徳利	1.9	13.7	4.9	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付・色絵(赤) 口縁部金彩	
29	磁器	蓋	5.3	1.2	—	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
30	陶器	碗	(8.3)	4.9	3.2	K	85	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄釉流し掛け	
31	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.5	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部軸拭き取り 内面・底部輪状重燒痕(各径4.0cm)	
32	陶器	灯明皿	7.6	1.5	3.6	DIK	100	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重燒痕(径5cm)	
33	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.5	IK	100	良好	灰黄	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重燒痕(径6.9cm)	
34	陶器	灯明皿	9.8	2.2	4.2	IK	100	良好	にぶい黄緑	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部軸拭き取り 体部輪状重燒痕(径7.1cm)	
35	陶器	灯明皿	10.5	2.1	5.3	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重燒痕	
36	陶器	灯明皿	10.4	2.3	3.9	HIK	90	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 内面極小ビン痕3あり 口縁部煤付着 体部上位一部タール状物質付着	
37	陶器	鉢	(18.1)	7.3	(7.0)	DEIK	50	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 青緑釉・白軸流し掛け 底部外周・高台内柿釉(一部拭き取り)	
38	陶器	徳利	3.1	[10.5]	—	EIK	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿釉	
39	陶器	徳利	3.2	[16.9]	—	IK	80	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿釉 胴部重燒痕2あり 体部凹み2箇所	
40	陶器	蓋	7.9	[2.3]	5.7	IK	95	良好	灰黄褐	上面白化粧・鉄絵・筋輪 鉄分斑状	69-11
41	陶器	土瓶	7.1	12.3	7.6	IK	90	良好	灰褐	内面施釉 外面白化粧・鉄分斑状・筋輪・鉄絵・兵須絵・白磁	69-11
42	陶器	土瓶	6.5	10.3	6.9	IK	95	普通	褐灰	把手型成形 内外面鉄釉 内面・底部煤付着	69-12

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
43	陶器	鐺鉢	30.2	11.6	14.0	DEJK	70	普通	にぶい赤	埴明石系 底部砂目 内面黒目	
44	陶器	瓶掛	—	[12.2]	(17.6)	DEJK	15	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面下位・底部鉄軸 外面上位緑軸・スタンプ施文 目跡2遺存 内面上位煤付着 断面欠失	
45	土師質土器	瓦壺	—	[18.2]	(19.6)	AHK	70	良好	橙	江戸在地系 スリット2遺存 (図は推定) 焼成前穿孔4あり 胎土中心部還元焼成	
46	瓦質土器	焙烙	—	5.7	—	CIK	5	普通	灰白	底部シク状痕 体部下位ケズリ・中位シク状痕残る	
47	瓦質土器	焙烙	(32.9)	[5.3]	—	CPHK	15	普通	明褐色	砂目底 体部下位ケズリ 体部煤付着	
48	施軸土器	素燗	(6.1)	2.7	(3.1)	IK	40	良好	灰白	江戸在地系 底部赤切痕 (左) 胎土粉質 内外面施軸 (剥落) 芯立部煤付着	
49	土師質土器	素燗	2.6	1.4	2.0	AHK	100	普通	橙	江戸在地系 底部赤切痕 (左) 胎土粉質 芯立部煤付着	69-10
50	磁器	紅环	2.0	1.1	0.7	—	—	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 重さ2.7g	121-15
51	磁器	紅环	1.9	1.1	0.7	—	—	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 重さ2.8g	121-15
52	土製品	箱庭道具	長さ11.8 幅3.7 厚さ1.1 重さ41.5			AK	—	良好	橙	江戸在地系 橋 型成形 施軸・一部白土・緑軸	119-14
53	木製品	曲物	口径/径5.3 高さ1.1							板目 底板中央に孔	
54	木製品	燈灯	口径/径9.0 高さ4.8 厚さ0.7							板目 表面鉄芯 裏面金具鉄釘固定 木釘残	
55	木製品	台	長さ10.1 幅13.8 厚さ1.9							板目 表裏面黒漆 側面黒漆 金箔残存	
56	木製品	獅子頭	長さ6.6 幅10.2 厚さ0.7							板目 赤漆	129-10
57	木製品	木札	長さ[18.2] 幅[3.0] 厚さ0.7							板目 表面墨書「埼玉縣下栗橋(宿)」	146-10
58	木製品	木札	長さ5.4 幅4.7 厚さ0.7							板目 表裏面墨書「い十七」	146-13
59	木製品	人形	長さ27.2 幅12.2 厚さ10.6							芯持材	129-11
60	銅製品	煙管	長さ[6.7] 小口径1.0 重さ20.1							雁首 火温欠失	
61	銅製品	煙管	長さ6.1 小口径1.0 口径径0.7 重さ8.7							吸口	
62	銅製品	不明	長さ[9.1] 幅1.0 厚さ0.2 重さ12.9								

重ね焼き痕がみられる。受け口の切り込みは「U」字状を呈する。

36は京都信楽系陶器の灯明皿である。胎土は磁質で、内面に極小の窯道具痕が3箇所みられる。口縁部に煤、体部上位にはタール状の黒色物質が付着する。

37は瀬戸美濃系陶器の鉢である。内外面に灰軸が施軸され、さらに青緑軸と白軸が流し掛けられている。底部外周と高台内に柿軸が施軸され、一部拭き取られている。口縁部は波状に大きく歪ませている。

第273図42は産地不詳陶器の鉄軸土瓶である。ソロバン形を呈し、注口部は鉄砲口である。把手は型成形である。底部には使用痕と思われる煤が付着する。

44は瀬戸美濃系陶器の瓶掛である。外面下位と底部に鉄軸が施軸される。外面上位にスタンプ施文と糸目がみられ、緑軸が流し掛けられている。獅子頭は極一部が遺存する。内面上位には煤が付

着する。

45は江戸在地系土師質土器の瓦壺である。蓋であり、本体の出土はなかった。栗橋宿では瓦壺の出土は少ないが、蓋と本体がセットで出土することはさらに稀である。蓋と本体のいずれか一方のみ出土する場合がほとんどである。格子状の縦透かしが極一部遺存しており、挿図ではその間隔を推定復元した。上部には焼成前穿孔が4箇所みられる。

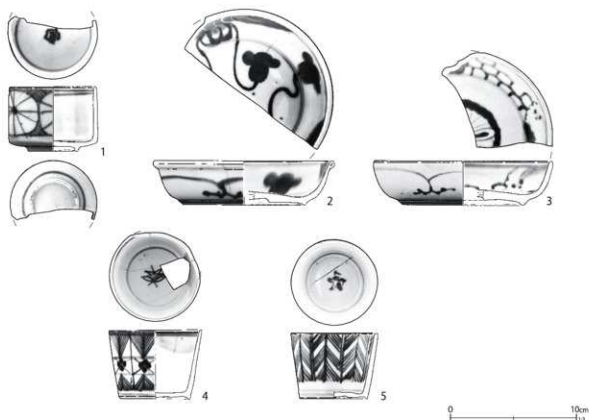
50・51は瀬戸美濃系磁器の極小紅环である。型成形で、外面に施文がみられる。

52は土製品で、江戸在地系の箱庭道具である。橋を模しており、大型である。透明軸が施軸され、部分的に白土と緑軸で彩色されている。

第274図59は木製品の人形で、栗橋宿では初出である。所謂首人形とも言うべき形態であり、顔の造形はかなり形骸化しており、はっきりしない。

60・61は銅製煙管で、60は有機質の羅字が僅





第275図 第245号土壌出土遺物

第67表 第245号土壌出土遺物観察表 (第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	6.7	5.1	3.8	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	皿	(14.0)	3.5	(9.6)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内輪状に砂付着	
3	磁器	皿	(14.0)	3.5	(9.4)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
4	磁器	猪口	7.2	5.5	5.4	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
5	磁器	猪口	6.7	5.2	5.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	

かに遺存する雁首で、61は吸口である。

#### 第245号土壌 (第265・275図)

F7-F8グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸2.05m、短軸1.4m、深さ0.1mを測り、長軸方位N-73°-Eを指す。

浅いシルト質土の単層で、遺構の底面は硬くしまっている。多量の炭化物和僅かな焼土が含まれている。

出土遺物はそれほど多くはないが、陶磁器は磁器を主体とし、肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台蕎麦猪口(第275図4・5)を最新期とすることから18世紀末～19世紀初頭に比定される。なお

遺構検出標高は9.9mで、遺構の規模から考えると本来の掘り込み面は浅間A降下軽石の検出標高(第5～7図参照)より高いと思われる。

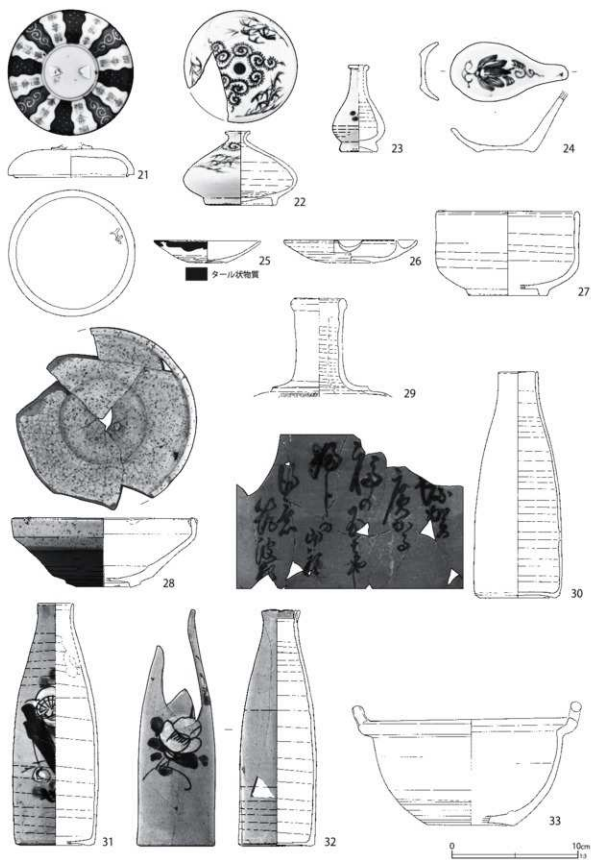
第275図に出土遺物を図示した。全て肥前系磁器である。1は筒形碗である。2・3は高台高が低い蛇ノ目凹形高台の五寸皿である。2は折り返し口縁で、玉縁となっている。4・5は蛇ノ目凹形高台の蕎麦猪口で、最新期の陶磁器である。染付文様は広東碗と共通する。

#### 第259号土壌 (第265・276～281図)

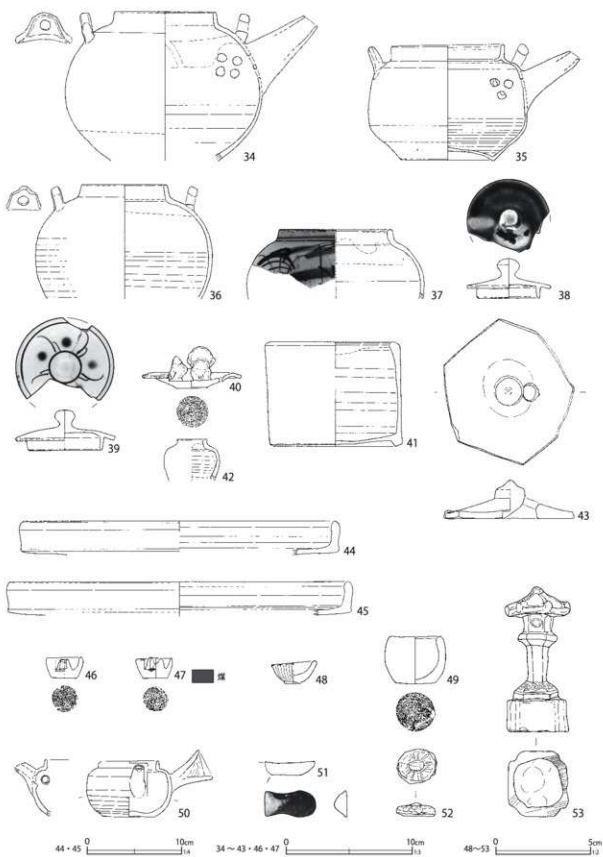
F7-E8・9グリッドに位置する。第237号土壌より古く、第199・228号土壌と重複する。



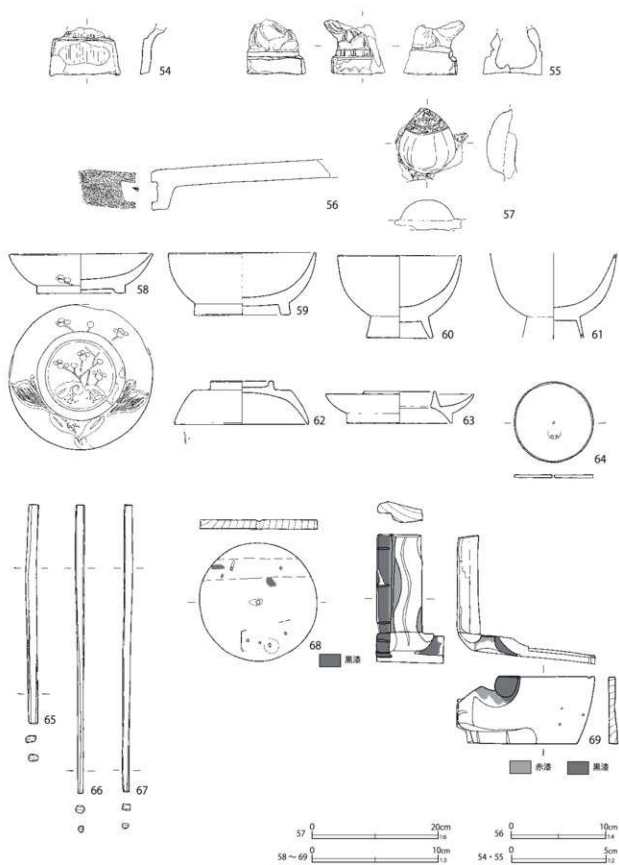
第 276 图 第 259 号土坑出土遗物 (1)



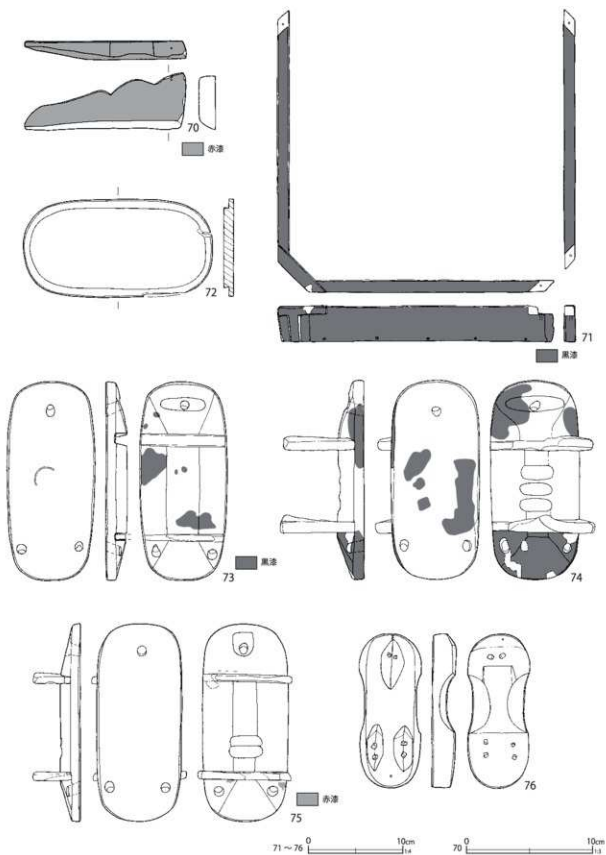
第 277 図 第 259 号土壙出土遺物 (2)



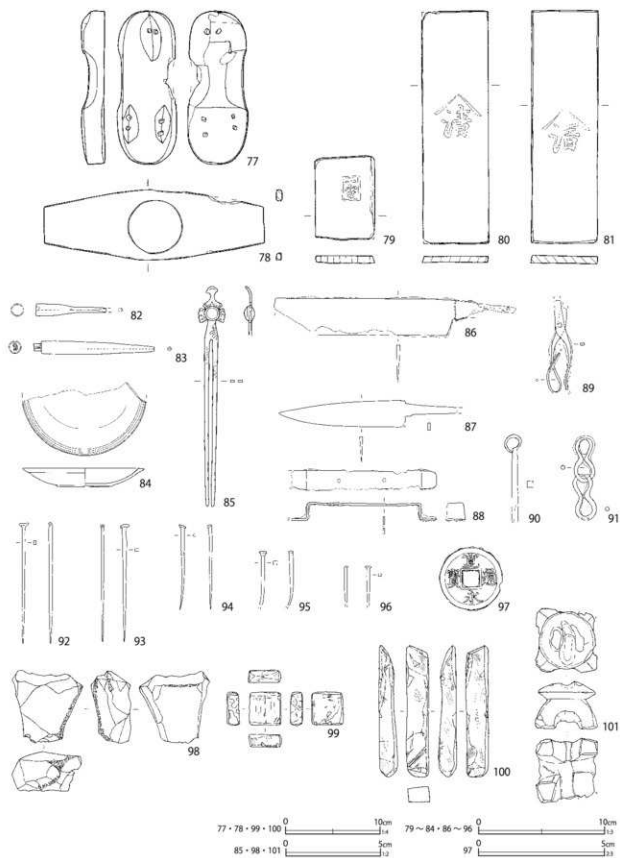
第 278 图 第 259 号土壙出土遗物 (3)



第 279 図 第 259 号土坑出土遺物 (4)



第280图 第259号土坑出土遗物(5)



第281図 第259号土坑出土遺物(6)

第68表 第259号土壇出土遺物観察表(第276~281図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	15.4	7.1	4.9	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	70-10
2	磁器	碗	8.6	2.5	3.3	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
3	磁器	碗	9.3	5.1	3.2	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
4	磁器	碗	9.5	5.2	(3.7)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	77-9
5	磁器	碗	10.6	6.1	3.9	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
6	磁器	碗	7.1	6.3	3.6	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
7	磁器	碗	(6.9)	5.1	(3.2)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面除刻文・染付	
8	磁器	碗	6.7	4.6	3.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
9	磁器	碗	8.2	3.9	3.9	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押除刻文 底部露胎	
10	磁器	碗	(7.2)	4.0	(3.2)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面除刻文・染付	
11	磁器	坏	6.0	3.3	2.4	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面染付 同文別個体2あり	
12	磁器	坏	6.2	3.3	2.6	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸	
13	磁器	坏	(5.8)	2.7	2.3	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	
14	磁器	坏	(5.6)	2.7	(2.8)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	
15	磁器	坏	—	[2.2]	2.2	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	
16	磁器	鉢	12.5	6.1	6.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内輪状重痕焼継痕あり 被熱(弱)	
17	磁器	猪口	7.1	6.1	5.5	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 蛇ノ目圓形高台	
18	磁器	猪口	—	[1.7]	(5.0)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 蛇ノ目圓形高台 底部焼継印(赤)	
19	磁器	段重	7.0	2.7	3.7	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
20	磁器	段重	(14.0)	5.7	(8.8)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 内面露胎部赤色物質付着	
21	磁器	蓋	10.0	[2.6]	8.8	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 焼継痕あり 内面焼継印(透明)	
22	磁器	油壺	(1.8)	5.9	5.4	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 外面施軸・染付	
23	磁器	徳利	1.3	6.9	(2.7)	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 外面施軸・染付	
24	磁器	蘆華	長さ[9.3] 高さ[4.9]	幅4.6		—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 同文別個体2あり	
25	陶器	灯明皿	(8.4)	1.8	3.0	EK	50	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 外面上位タール状物質付着	77-11
26	陶器	灯明皿	10.4	1.8	3.7	K	95	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施軸 口縁部焼成崩欠損	
27	陶器	碗	10.8	6.6	6.0	IK	60	良好	灰白	内外面施軸(白色気味) 被熱	
28	陶器	鉢	(14.0)	5.5	4.2	1K	80	良好	灰白	大塚相馬系 胎土砂鉄含む 内外面白化粧・施軸 口縁部凹み2遺存	
29	陶器	徳利	(3.8)	[7.8]	—	1K	10	普通	灰黄	外面下位トビガン状施文 頸部青緑軸流し掛け 内外面下位鉄軸	
30	陶器	燗徳利	(3.0)	17.9	6.1	1K	80	普通	黄灰	外面灰軸 内面鉄軸 外面鉄絵文字 体部二次穿孔1あり	70-13
31	陶器	燗徳利	2.7	19.1	(5.4)	K	70	良好	灰白	京都信楽系 外面施軸・鉄絵 緑軸・白土給付け	70-14
32	陶器	燗徳利	2.9	18.7	5.4	E1K	80	良好	灰白	内外面灰軸 外面鉄絵・白土給付 胎土黒色粒子多量	
33	陶器	鍋	16.4	9.8	(7.0)	E1K	55	良好	灰白	内外面柿軸 内面目跡2遺存 蓋胎部煤付着	
34	陶器	土瓶	7.8	[11.8]	—	I	85	良好	浅黄橙	内面施軸 外面鉄軸 被熱(強)・煤付着	
35	陶器	土瓶	8.8	9.2	7.2	K	80	良好	灰白	内面施軸 外面白化粧後施軸	
36	陶器	土瓶	(6.4)	[9.1]	—	I	30	良好	にぶい橙	内外面鉄軸 外面白軸流し掛け	
37	陶器	土瓶	(8.8)	[5.5]	—	K	10	良好	灰白	外面白化粧後鉄絵・緑色給付・施軸 内面施軸	
38	陶器	蓋	6.7	3.1	4.8	IK	75	良好	灰白	上面灰軸・白軸流し掛け	
39	陶器	蓋	7.9	3.2	5.7	1K	80	普通	灰黄	上面白化粧後鉄絵・緑軸給付・施軸	
40	陶器	蓋	7.9	3.3	2.4	1K	95	良好	灰白	底部糸切痕(右) 上面白化粧後施軸	
41	陶器	香炉	9.6	8.3	9.5	HIK	85	普通	浅黄橙	京都信楽系 外面灰軸	
42	陶器	豆壺	(2.2)	[3.3]	—	K	30	良好	灰白	胎土磁質 外面漆黒軸	
43	土師質土器	蓋	縦11.4 横10.2	器高3.1		AHIK	100	普通	にぶい橙	江戸在地系 胎土粉質 焼成前穿孔1	
44	土師質土器	焙烙	(33.0)	[3.6]	(33.6)	CHK	10	普通	にぶい橙	砂目底 体部煤付着	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
45	土師質土器	焙烙	(35.8)	[3.5]	(36.4)	CHK	20	普通	にぶい橙	底部シワ状痕 底部煤片付着	
46	土師質土器	菜燗	2.7	1.7	2.0	AHK	95	普通	にぶい橙	江戸在地系 底部糸切痕(左・摩耗) 胎土粉質	
47	土師質土器	菜燗	2.8	1.7	1.9	AHK	95	普通	にぶい橙	江戸在地系 底部糸切痕(左・摩耗) 胎土粉質 志立部煤片付着	
48	磁器	紅坯	2.9	1.2	0.7	—	—	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 重さ3.9g	121-15
49	土師質土器	小壺	2.6	2.5	2.1	AHKM	—	普通	にぶい橙	底部糸切痕(左) 胎土粉質 重さ13.7g	121-14
50	陶器	ミニチュア	(3.0)	3.0	2.7	K	—	良好	灰白	京都信楽系 b 急須 胎土磁質 重さ18.7g	120-8
51	施釉土器	ミニチュア	長さ[2.7] 幅1.4 厚さ0.7 重さ2.9			K	—	良好	灰白	行平鍋(把手) 型成形 鉄軸	
52	土製品	芥子面	長さ1.8 幅1.1 厚さ0.7 重さ2.2			AIK	—	普通	にぶい橙	一枚型成形 中実	122-13
53	土製品	箱庭道具	長さ7.7 幅3.5 厚さ3.5 重さ36.9			AHK	—	良好	橙	江戸在地系 灯籠 前後合二枚型成形 開口 外面施釉・白土・緑釉 被熱	120-9
54	土製品	人形	長さ[2.6] 幅3.8 厚さ0.5 重さ9.7			AK	—	良好	橙	狐 前後合二枚型成形 開口 胎土粉質	
55	土製品	人形	長さ[2.9] 幅[3.2] 厚さ0.6 重さ13.6			AHK	—	普通	にぶい黄橙	京都系 狐か 前後合二枚型成形 中空 雲母片付着	
56	瓦	軒平瓦	長さ[18.9] 幅[8.9] 厚さ1.9 高さ[5.1]			AIK	—	普通	灰白	弱く銀化 燻す	
57	瓦	鬼瓦	長さ[11.7] 幅[11.6] 高さ[4.8]			AHK	—	良好	灰白	銀化 燻す 刺突文	124-10
58	木製品	漆碗	口径11.2 高さ3.1 底径7.0							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 外面で文様	129-16
59	木製品	漆碗	口径11.5 高さ4.9 底径7.4							横木取り 内面赤漆 外面赤漆	129-17
60	木製品	漆碗	口径(9.6) 高さ6.5 底径5.2							横木取り 内面赤漆 外面黒漆	129-18
61	木製品	漆碗	高さ[6.7]							横木取り 内面赤漆 外面黒漆	
62	木製品	漆碗蓋	口径10.5 高さ3.5 底径4.8							横木取り 内外面黒漆 内面金で文字	130-1
63	木製品	天目台	口径11.7 高さ3.5 底径8.4							横木取り外周径(11.8)cm 内外面黒漆 外周の口縁金	130-2
64	木製品	曲物	口径6.2 厚さ0.2							板目 底板中央に孔 焼印	
65	木製品	箸	長さ17.4 幅0.8 厚さ0.5							削出	
66	木製品	箸	長さ22.8 幅0.7 厚さ0.6							削出	
67	木製品	箸	長さ22.7 幅0.7 厚さ0.5							削出	
68	木製品	燈灯	口径9.2 厚さ0.7							板目 黒漆 孔1 木釘残2 鉄釘残2 中央に鉄 裏面炭化 鉄製脚の痕跡(脚は第281図88)	
69	木製品	獅子頭	長さ10.1 幅11.0 厚さ0.4~1.3							板目 黒漆・赤漆 白色白地 孔4ヶ所	130-3
70	木製品	不明品	長さ4.3 幅12.5 厚さ1.3							不明 赤漆 上面木釘穴	
71	木製品	膳	長さ[29.7] 幅[31.5] 高さ[3.7]							板目 側板T字状の材で接続 木釘残 内外面黒漆 SR22に同一個体	
72	木製品	曲物	長さ10.3 幅20.1 厚さ1.0							板目 底板	
73	木製品	下駄	長さ21.0 幅9.3 高さ[2.2]							板目 陰卵下駄 一部黒漆 丸の焼印	
74	木製品	下駄	長さ21.0 幅9.3 高さ8.9							板目 陰卵下駄 裏面中央以外黒漆	
75	木製品	下駄	長さ20.9 幅9.0 高さ5.0							板目 陰卵下駄 一部赤漆	
76	木製品	下駄	長さ16.2 幅6.6 高さ2.5							板目 無眼下駄(77と揃)	
77	木製品	下駄	長さ16.2 幅5.2 高さ2.5							板目 無眼下駄(76と揃)	
78	木製品	不明品	長さ7.4 幅23.4 厚さ0.6							板目 一部炭化 孔径5.8cm	
79	木製品	木札	長さ6.5 幅4.8 厚さ0.6							板目 焼印「国」	
80	木製品	木札	長さ18.3 幅5.2 厚さ0.5							板目 焼印「倉」	
81	木製品	木札	長さ18.4 幅5.2 厚さ0.6							板目 焼印「倉」カ	
82	銅製品	煙管	長さ[5.6] 小口径1.0 口径(0.3) 重さ2.9							吸口	
83	銅製品	煙管	長さ9.0 小口径1.0 口径(0.3) 重さ13.5							吸口 羅字残存	
84	鉄製品	皿	口径10.0 器高1.5 厚さ最大0.3 重さ78.7								
85	銅製品	管	長さ11.6 幅1.4 厚さ0.1 重さ9.0							玉花文	
86	鉄製品	包丁	長さ[19.2] 刃長13.6 刃幅2.9 背幅0.3 重さ54.9							柄の木質付着	
87	鉄製品	刀子	長さ[14.2] 刃長[10.1] 刃幅2.0 背幅0.2 重さ21.3								
88	鉄製品	燈灯金具	縦1.6 横[10.6] 高さ1.4 厚さ0.1 重さ10.1							底板(第279図68)に付属	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
89	鉄製品	鉄	長さ [7.3]	幅 0.3	厚さ 0.2	重さ 8.3				審頭環状 8字状2連結		
90	鉄製品	火箸	長さ [6.9]	幅 0.5	厚さ 0.5	重さ 9.4						
91	鉄製品	鎖	長さ [6.6]	厚さ 0.3	重さ 10.7							
92	鉄製品	釘	長さ 9.6	幅 0.2	厚さ 0.3	重さ 3.9						
93	鉄製品	釘	長さ 9.3	幅 0.3	厚さ 0.2	重さ 2.7						
94	鉄製品	釘	長さ 6.8	幅 0.2	厚さ 0.2	重さ 2.2						
95	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.3	厚さ 0.3	重さ 1.9						
96	鉄製品	釘	長さ [2.9]	幅 0.2	厚さ 0.2	重さ 0.9						
97	鉄製品	銭貨	径 24.5	厚さ 1.2	重さ 1.8						寛永通寶(古)	
98	石製品	火打石	長さ 3.8	幅 3.7	厚さ 2.1	重さ 32.2					玉髓 稜の潰れ著しい 被熱(黄白色化)	
99	石製品	砥石	長さ 3.5	幅 3.4	厚さ 1.3	重さ 29.8				凝灰岩 砥面 6		
100	石製品	砥石	長さ 14.0	幅 2.4	厚さ 1.9	重さ 86.0				凝灰岩 砥面 4 刀物痕あり	139-14	
101	石製品	箱庭道具	長さ 3.4	幅 3.3	厚さ [2.5]	重さ 23.4				凝灰岩 雪見灯籠	138-11	

遺構の東半部は調査区外となっているが、平面形は隅丸長方形・方形を呈すると考えられる。検出範囲での長軸 4.5 m、短軸 1.9 m、深さ 0.8 m となる大型の土壌である。長軸方位は N-19°-W を指す。

覆土下層を中心に多量の木片がみられ、第 4 層は腐植し、有機物層を形成している。大部分はシルト質土で、上層には炭化物が含まれている。最上層は僅かに検出されているが、細粒の純砂で覆われている。

多量の遺物が出土しており、陶磁器は卵殻手坏、湯呑形碗等 19 世紀中葉頃に比定されるものが主体である。酸化コバルト染付磁器の坏がみられるが、重複遺構からの混入である。碗、坏、土瓶、燗德利等が多く、所謂「茶屋」のような様相がみえる。遺構は区画内の北側に位置しており、『絵図』にみえる「餅菓子屋・惣右衛門店/内蔵之丞」との関連性が示唆される。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形端反形碗(第 276 図 9) 3 個体である。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 276 ~ 281 図に出土遺物を図示した。第 276 図 1 は口径 15cm を越える肥前系磁器の大碗である。2・3 は肥前系磁器の蓋と碗で、セット関係にある。碗には焼継痕と高台内に朱書きの焼継印がみられる。

6 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。腰が張り、高台は幅広である。7・8 は瀬戸美濃系磁器の小碗である。栗橋宿では幕末期にみられる器種である。

9 は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形の端反形碗である。幕末期から明治時代初頭頃に特徴的にみられる型押寿文皿・坏と同文の陰刻文が内面に施文されている。底部は蛇ノ目高台で、露胎である。非掲載遺物に別個体の同文製品が 3 個体みられる。最新期の陶磁器である。

12 は肥前系、13 ~ 15 は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。13 ~ 15 には内面に江戸絵付け、外面に染付が施される。13・15 は高台皿付け内側に段が付く。

19・20 は肥前系磁器で、中段の段重である。大小の筒形を呈し、腰部は露胎で段が付く。20 の内面露胎部には赤色物質が付着し、転用が示唆される。

第 277 図 25・26 は京都信楽系陶器の灯明皿で、25 は油皿、26 は油受皿である。25 は外面の口縁部付近から内面にかけて施軸され、外面上位にはタール状物質が付着する。26 は胎土が磁質で、外面上位から内面にかけて施軸される。

29 は東北・北関東地方を中心に分布する「すず徳利」の頸部である。頸部別作りで、接ぎ痕がみられる。外面下位にトビガンナ状施文がみられ、

体部は極めて薄手と考える。頸部に青緑釉が流し掛けられ、トビガンナ状施文部に鉄釉が施軸されている。

28は大堀相馬系陶器の鉢である。栗橋宿では類がないつくりである。黒色粒子が多量に含まれ、表面は斑模様である。外面上位から内面にかけて白化粧と施軸が施される。歪ませた口縁部が2箇所遺存する。

30～32は陶器の爛徳利である。30・32は産地不詳、31は京都信楽系である。30には鉄絵文字と体部に二次穿孔がみられる。31は鉄・白土・緑釉彩が施される。32は鉄・白土で絵付けられ、胎土には黒色粒子が多量に含まれている。

第278図34～37は産地不詳陶器の土瓶である。34は鉄釉が施軸され、強く被熱し、煤が付着する。35は白化粧後に施軸される。36は鉄釉が施軸され、さらに白釉が流し掛けられている。37は白化粧後に鉄絵・緑色彩が施されている。

43は江戸在地系土師質土器の蓋である。六角形を呈し、つまみの横に焼成前穿孔がみられる。瓦燈等の蓋の可能性が考えられるが、対応する身は栗橋宿ではみつかっていない。

46・47は江戸在地系土師質土器の乗燗である。底部に左回転の糸切痕が遺存するが、摩耗し、はっきりしない。47の芯立部には煤が付着する。

48は瀬戸美濃系の極小紅坏である。型成形で、外面に縦に条線が施文される。49は京都系「つぼつぼ」に類似する土師質土器の小壺である。底部に左回転の糸切痕がみえ、胎土は細粒な雲母を含む粉質である。

53は江戸在地系の土製品で、灯籠を模した箱庭道具である。下面が開く前後合わせの二枚型成形である。外面は透明釉が施軸され、白土・緑釉で彩色される。被熱している。

第279図57は鬼瓦である。涙滴状で上部に3条の沈線がみられることから、宝珠紋と考えられる。家紋瓦の一部であろうか。上部と周囲には刺

突状の施文が施される。

68は木製品で、提灯の底部である。中央には鉄芯と思われる鉄が遺存する。鉄製金具の脚が遺存しており、挿図では第281図88の提灯金具の図を付した。

第280図72は長楕円形の曲げ物の底板である。第281図79～81は木札である。焼き印がみられ、79は「園」、80・81は「倉」である。79は初見だが、80・81は既報告である第3地点『栗橋宿跡Ⅰ』第200図26、埼玉文2018b)、北二丁目陣屋跡『北二丁目陣屋跡』第76図149)で出土している。

82・83は銅製煙管の吸口で、83には有機質の羅字が遺存する。85は銅製の簪で、玉花文が施文される。92～96は鉄製の頭巻釘である。

98は玉髓製の火打石で、後線が著しく潰れている。被熱により黄白化している。99は凝灰岩製砥石で、使い込まれて大きさも小さく、方形を呈する。100は棒状を呈する凝灰岩製砥石である。101は凝灰岩製雪見灯籠と考えられる。小さく、所謂箱庭道具と推定される。

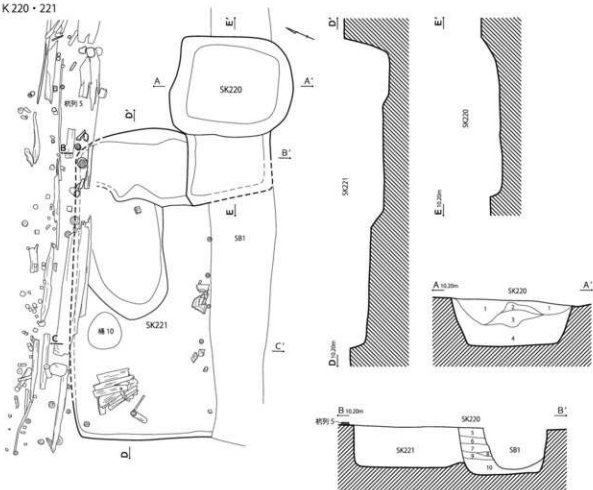
#### 第220号土壌 (第282・283～285図)

F7-E7・8グリッドに位置する。第1号建物跡より古く、第221号土壌より新しい。平面形は不整形で、長軸2.65m、短軸1.95m、深さ0.7mを測る。長軸方位はN-68°-Eを指す。

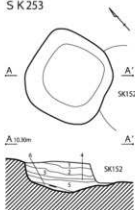
セクションA-A'とB-B'では土層の堆積状況が異なり、遺構の平面形から、2基の土壌が想定されるが、陶磁器類に混在を示唆するような遺物は認められなかった。

粘土質の堆積土で構成されており、第1・10層には木質が多量に含まれている。また、下層の木質や貝類を覆うように、上層には炭化物が多く含まれている。出土遺物は極めて多く、陶磁器類は瀬戸美濃系磁器の端反形碗を主体に、湯呑形碗が少量組成する。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系

SK220・221



SK253



SK220

- 1 明黄灰色土 シルト質 やや均一 炭化物(φ2~10mm)少量  
黄白色シルトブロック(φ20~30mm)多量
- 2 明黄灰色土 シルト質 やや均一 黄灰色シルトブロック(φ20mm)少量
- 3 明灰色土 シルト質 均一 黄白色シルトブロック(φ10~50mm)多量  
炭化物(φ2~5mm)少量
- 4 暗灰色土 シルト質 やや均一 黄白色シルトブロック(φ10~50mm)多量  
炭化物(φ2~5mm)少量 3層より厚少ない
- 5 暗灰色土 シルト質 黄白色シルトブロック(φ10~50mm)多量  
炭化物(φ2~5mm)・木質少量
- 6 暗灰色土 シルト質 黄白色シルトブロック(φ10~50mm)多量  
炭化物(φ2~5mm)少量 木質多量

SK221

- 1 黒褐色土 砂質 炭化物粒子多量 陶磁器片含む
- 2 浅黄褐色土 粘土質 炭化物粒子微量

SK220

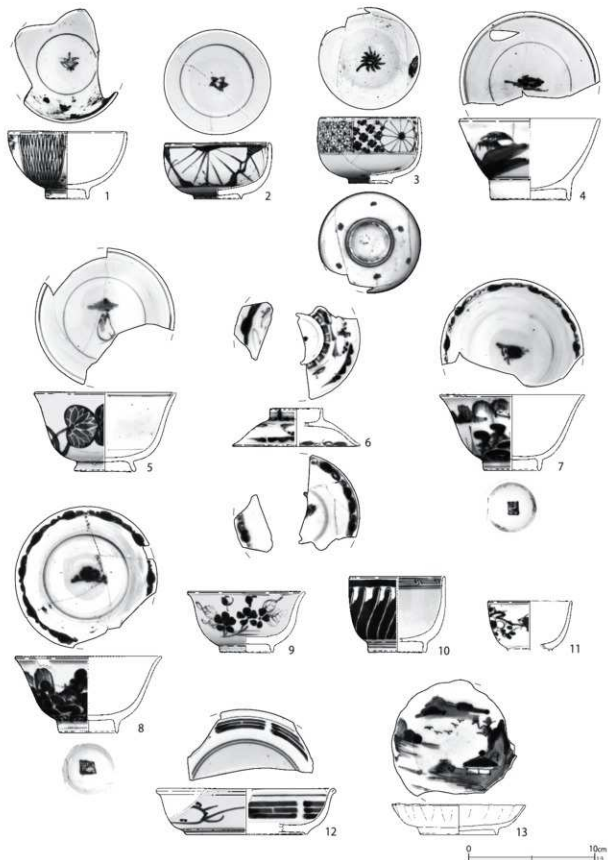
- 1 茶色土 粘土質 木質多量 貝片含む
- 2 灰黄褐色土 粘土質 炭化物微量
- 3 灰茶褐色土 粘土の強いシルト質 炭化物多量  
クリーム色の粘土ブロック(φ10mm程度)微量
- 4 灰黄色土 粘土質 炭化物少量 貝片含む
- 5 黄褐色土 砂質 木質・炭化物粒子含む
- 6 灰褐色土 シルト質 炭化物粒子含む 酸化鉄微量
- 7 灰褐色土 粘土質 炭化物粒子含む 酸化鉄微量
- 8 黒褐色土 粘土質 貝類含む
- 9 灰褐色土 粘土質 貝類少量
- 10 黒褐色土 粘土質 木質・貝類多量

SK221

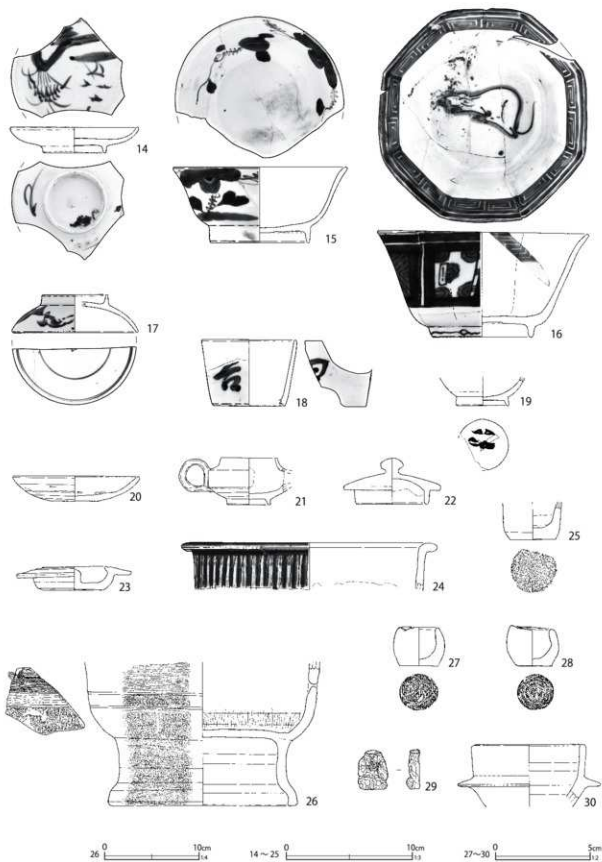
- 1 黒褐色土 砂質 炭化物粒子多量 陶磁器片含む
- 2 浅黄褐色土 粘土質 炭化物粒子微量



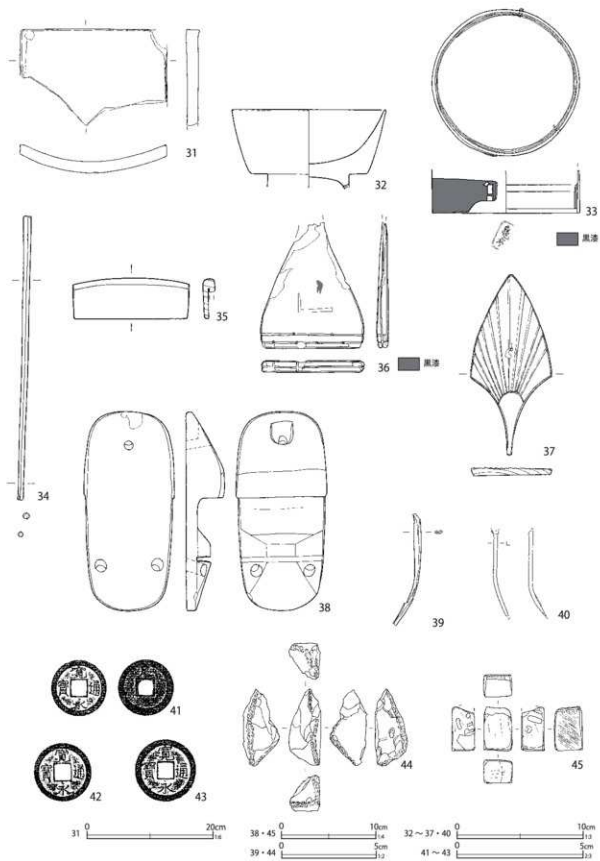
第282図 区画AF土壇(2)



第283图 第220号土坑出土遗物(1)



第 284 图 第 220 号土壙出土遗物 (2)



第285図 第220号土壙出土遺物(3)

第69表 第220号土壇出土遺物観察表(第283～285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	地成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	9.2	5.3	3.2	—	35	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱・煤付着	
2	磁器	碗	8.2	4.4	3.6	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付	
3	磁器	碗	7.8	5.2	3.2	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 SB1 北辺と接合	
4	磁器	碗	10.9	6.3	6.0	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
5	磁器	碗	11.0	6.2	4.6	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 SB1 基礎と接合	
6	磁器	蓋	(10.0)	3.0	(4.0)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
7	磁器	碗	11.2	6.0	4.2	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 SK221と接合	
8	磁器	碗	11.4	6.0	4.5	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 SB1 北辺と接合 非掲載に同文別個体1あり	
9	磁器	碗	9.1	4.8	4.1	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	69-6
10	磁器	碗	(7.4)	6.0	(4.4)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
11	磁器	皿	(6.6)	[3.9]	—	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
12	磁器	皿	(11.8)	3.6	(9.4)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目四形高台	
13	磁器	皿	(10.5)	2.4	6.0	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付	
14	磁器	皿	(9.9)	2.0	4.8	—	15	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
15	磁器	鉢	13.6	6.0	7.6	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 SB1 基礎と接合	
16	磁器	鉢	16.4	8.4	7.1	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 SK220と接合	69-5
17	磁器	蓋	(9.8)	3.0	5.2	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 SB1 基礎と接合	
18	磁器	摺口	(7.4)	[5.2]	(5.5)	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付文字「吉田口」	69-7
19	陶器	坏	—	[2.3]	4.0	K	50	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施軸 高台内黒底	76-19
20	陶器	灯明皿	9.9	2.0	3.6	1K	55	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位・底部軸抜き取り 内面軸状重焼痕	
21	陶器	カンテラ	(4.3)	3.7	3.5	CIK	90	普通	灰白	京都信楽系 内外面施軸	
22	陶器	蓋	7.7	3.7	5.5	1K	95	良好	灰白	大塚相馬系カ 内外面輪白軸	
23	陶器	蓋	9.1	1.9	4.6	I	95	良好	灰白	胎土極硬質 上面鉄軸 下面煤付着	
24	陶器	瓶掛	(18.8)	[3.7]	—	EIK	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面緑軸 内面下位輪軸抜き取り SK221と接合	
25	土師質土器	検塚壺	—	[3.0]	3.6	AHK	65	普通	橙	底部糸切痕(左)	
26	瓦質土器	火鉢	—	[15.2]	19.7	CIK	80	普通	にぶい橙	底部シフ象痕 体部上部細齒波状施文・中位ミガキ・下位トビガンナ状施文 横ナ 内面下位火箸痕 補修痕 2箇所遺存(銅線付) SB1 北辺と接合	
27	土師質土器	小壺	2.0	2.1	2.1	AHK	—	普通	にぶい橙	底部糸切痕(中心) 胎土粉質 重さ9.7g	121-14
28	土師質土器	小壺	2.1	2.0	1.9	AHK	—	普通	にぶい橙	底部糸切痕(中心) 胎土粉質 重さ9.3g	121-14
29	土製品	人形	長さ2.1 幅1.6 厚さ0.7	重さ2.0	—	K	—	良好	橙	大黒一枚型成形 中実	119-10
30	施軸土器	釜形土製品	(5.6)	[3.3]	—	HIK	50	良好	橙	江戸在地系 外面上位・内面施軸(外面一部緑軸) 外面下位白化粧 20.3g	
31	瓦	平瓦	長さ[15.5] 幅23.6 厚さ1.9	高さ4.4	—	AIK	—	良好	灰	銀化 燻す	
32	木製品	漆椀	口径12.1 高さ[6.2]	—	—	—	—	—	—	横木取り 内外面黒漆	
33	木製品	曲物	口径15.6 高さ[4.6] 底径15.6	—	—	—	—	—	—	側板榫目底板板目 外面・底部黒漆 底板に「亀木」焼印 側面に鉄釘3箇所(内2箇所鉄釘残) 側板三重分割棒状	
34	木製品	箸	長さ22.3 幅0.6 厚さ0.5	—	—	—	—	—	—	板目	
35	木製品	櫛の櫛	長さ9.2 幅3.2 厚さ1.0	—	—	—	—	—	—	焼印 黒漆	
36	木製品	刷毛	長さ[10.0] 幅8.1 厚さ1.0	—	—	—	—	—	—	板目 中央に三巴の金属	
37	木製品	神酒口	長さ14.2 幅6.5 厚さ0.7	—	—	—	—	—	—	板目 後部下駄 表面黒書「13」	146-7
38	木製品	下駄	長さ21.0 幅9.6 高さ4.1	—	—	—	—	—	—	—	
39	銅製品	不明	長さ[5.9] 幅0.4 厚さ0.2	重さ0.4	—	—	—	—	—	—	
40	鉄製品	釘	長さ[6.8] 幅0.3 厚さ0.3	重さ3.0	—	—	—	—	—	—	
41	銅製品	銭貨	径22.5 厚さ1.0	重さ2.7	—	—	—	—	—	寛永通寶(新)	
42	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.0	重さ2.8	—	—	—	—	—	寛永通寶(新)	
43	銅製品	銭貨	径25.0 厚さ1.2	重さ3.1	—	—	—	—	—	寛永通寶(新)	
44	石製品	火打石	長さ4.0 幅1.7 厚さ1.9	重さ12.8	—	—	—	—	—	玉髓 稜の潰れ著しい	
45	石製品	砥石	長さ4.7 幅3.0 厚さ2.4	重さ65.0	—	—	—	—	—	流紋岩 上端部削痕 裏面線染痕 砥面5	



磁器の小碗（第283図11）、卵殻手坏、肥前系磁器急須の破片である。また、第10号埋設桶や第221号土壌出土破片と接合する陶磁器がみられる。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第283～285図に出土遺物を図示した。遺物は重複する第1号建物跡で取り上げられているものが多量にあることについて留意しておきたい（第21～26図）。

6は瀬戸美濃系磁器の端反形碗蓋、7・8は端反形碗の身である。同文の染付が施され、蓋と身はセット関係になる。碗の身については、非掲載遺物に同文破片が1個体みられる。7は第221号土壌、8は第1号建物跡基礎北辺出土破片と接合関係にある。10は肥前系磁器の湯呑形碗である。11は瀬戸美濃系磁器の小碗である。幕末期から明治初頭頃に多くみられる器種であり、本遺構では最新期である。

第283図13・第284図14は肥前系磁器の手塩皿である。13は輪花状の口縁部で、内面は一枚絵の染付である。16は肥前系磁器の八角鉢である。蛇ノ目凹形高台で、大型である。

18は肥前系磁器の蕎麦猪口である。外面に染付銘「吉田□」がみえ、区画AE「旅籠屋/吉田屋/太左衛門」が所有していた注文生産品と考えられる。

20は瀬戸美濃系陶器の灯明皿（油皿）である。柿軸が施軸され、外面下位から底部にかけて軸が拭き取られている。内面に輪状重ね焼き痕がみられる。21は京都信楽系陶器のカンテラである。栗橋宿では出土例が少ない器種である。24は瀬戸美濃系陶器の火鉢で、所謂「瓶掛」と推定される。内面上位から外面に掛けて緑軸が施軸され、外面には縦織の施文がみられる。

26は瓦質土器の脚付火鉢である。輪高台状の脚部は高く、下部に段が付く。表面は燻しにより灰～黒色を呈する。口縁部は欠失しているが栗橋宿でみられる例から受け口状の折れ罅と推定され

る。体部上位に糸目状の施文、中位にミガキ、下位にトビガンナ状の施文がみられる。内面下位には火箸による使用痕がみられる。体部に二次穿孔がみられ、孔には銅線が巻きつく。

27・28は土師質土器の小壺である。胎土が粉質で、底部に離し糸切痕が遺存する。

285図33は黒漆が塗布された曲物で、底部に焼き印「亀本」がみえる。

41～43は銅製の新寛永通寶である。41・42は径がほぼ同じくらいだが、43は一回り大きい。

44は玉髓製の火打石である。使い込まれており、稜線が強く丸みを帯びている。45は流紋岩製の砥石である。使い込まれており、裏面には研いだ際の線条痕が明瞭に残る。

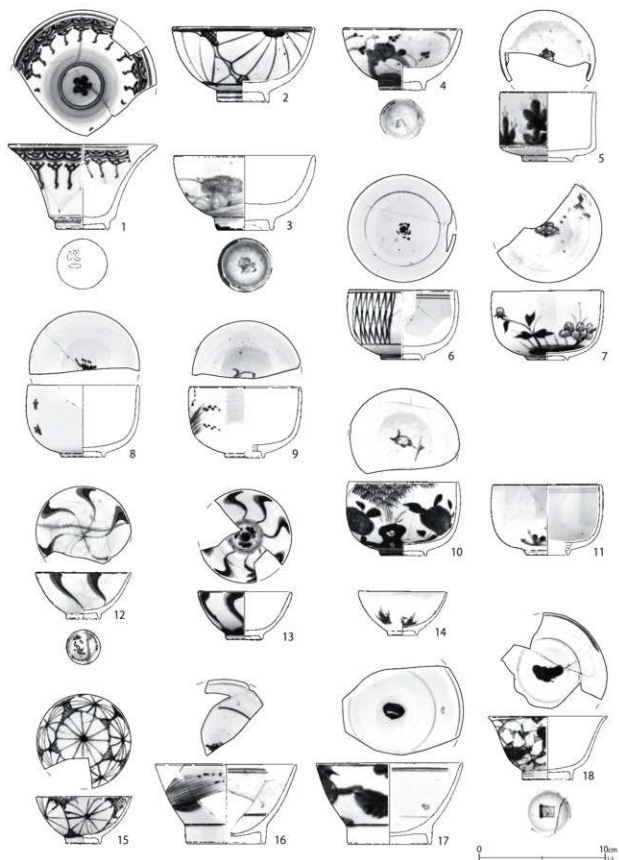
これらの他に自然遺物で魚骨59.5g、ヤマトシジミ、ハマグリ、アワビ、アカニシ等の貝類1016.1gが出土している。

#### 第221号土壌（第282・286～291図）

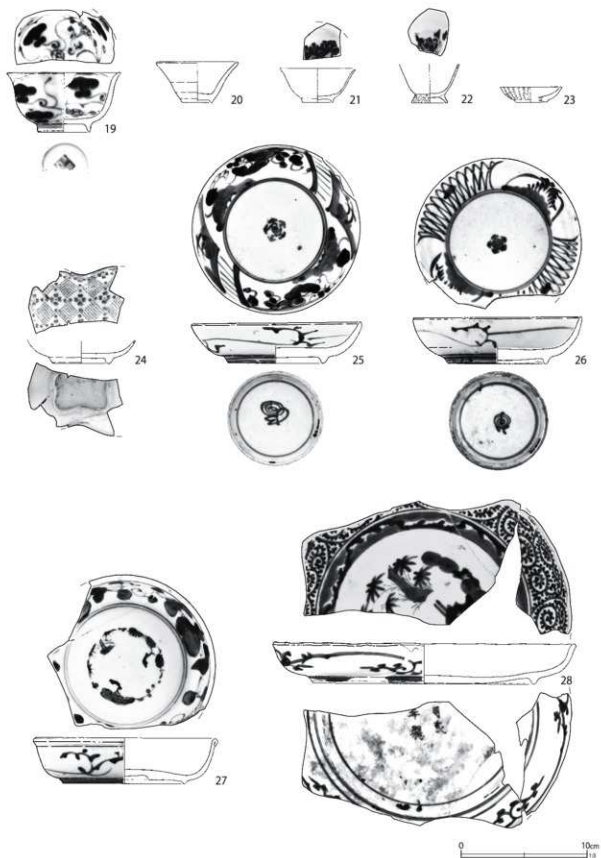
F7-E7グリッドに位置する。第1号建物跡、第10号埋設桶、第5号杭列、第220号土壌より古い。平面形は隅丸長方形で、検出長軸4.9m、短軸2.3m、深さ0.6mを測る大型の土壌である。長軸方位はN-65°-Eを指す。

遺構内の東・南側に杭が並び、遺構の平面形を考慮すると、本陣跡で検出された第1号土壌（『本陣跡II』第97図）等のような内壁の側板を杭で固定した地下蔵状の土壌の可能性が疑われるが、側板はみられない。覆土の大部分は炭化物を多量に含む砂質土である。

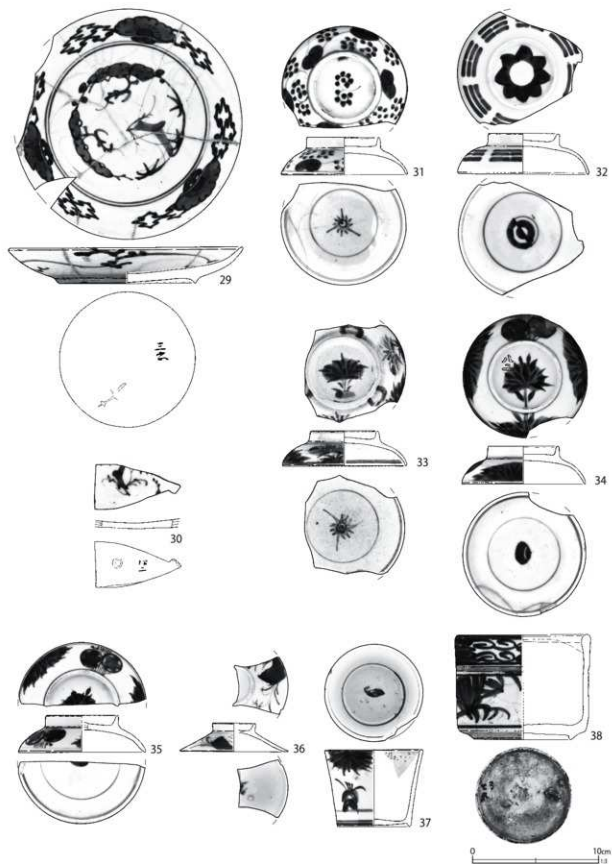
出土遺物は極めて多量である。陶磁器類は肥前系磁器の広底碗や小丸碗等、18世紀後葉に比定されるものが主体であり、そこに瀬戸美濃系磁器の端反形碗が数点組成してくる。また肥前系磁器卵殻手坏（第287図21・22）がみられる。第288図38の香炉、第289図47の爛徳利は近代の陶磁器であり、重複遺構のいずれかからの混入である。また、第233・229号土壌出土陶磁器とは



第 286 图 第 221 号土坑出土遗物 (1)



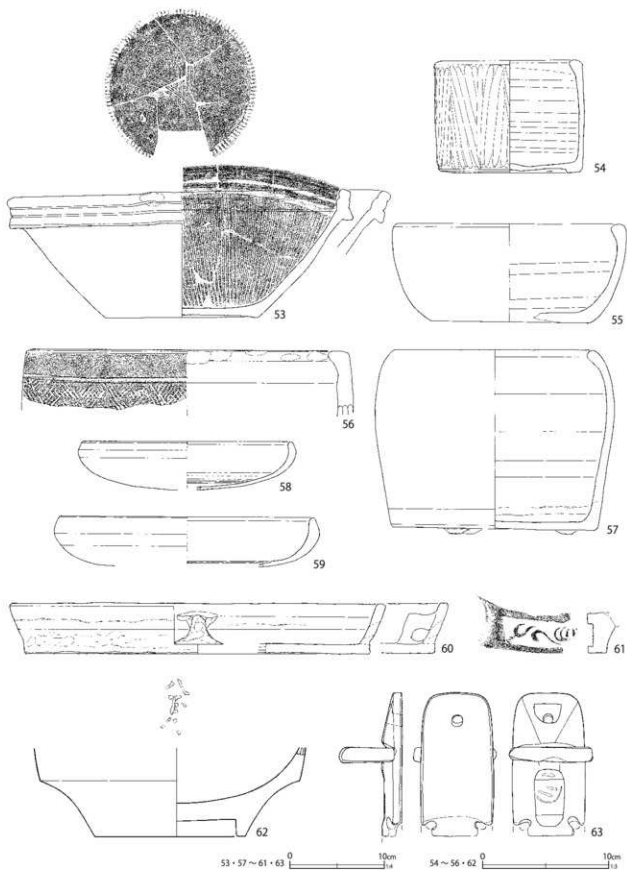
第287图 第221号土坑出土遗物(2)



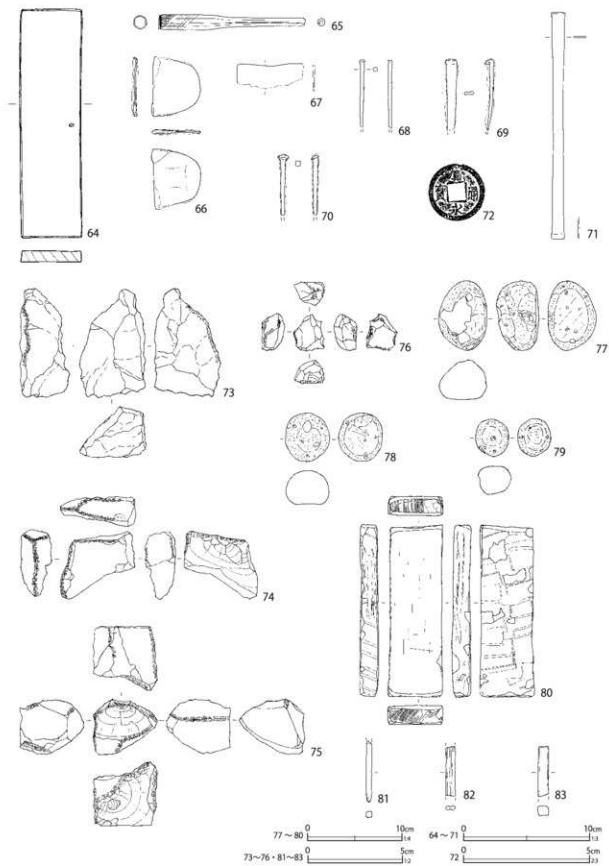
第 288 图 第 221 号土坑出土遗物 (3)



第289图 第221号土城出土遺物(4)



第290图 第221号土坑出土遗物(5)



第291图 第221号土坑出土遗物(6)

第70表 第221号土壇出土遺物観察表(第286～291図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	器口	11.6	6.7	3.9	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
2	磁器	碗	(11.1)	5.9	3.8	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 内面ハリ支跡 2遺存	
3	磁器	碗	(11.0)	5.9	4.3	IK	70	不良	灰白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
4	磁器	碗	9.1	4.9	3.4	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
5	磁器	碗	7.4	6.5	3.7	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
6	磁器	碗	8.4	5.5	3.3	K	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり	
7	磁器	碗	(8.7)	5.5	3.1	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり	
8	磁器	碗	8.7	5.7	3.3	K	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
9	磁器	碗	8.7	5.6	3.0	K	45	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
10	磁器	碗	(8.5)	5.8	3.5	K	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり	
11	磁器	碗	8.4	5.6	(3.3)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
12	磁器	碗	7.4	3.8	2.6	—	65	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕 高台内焼継印(緑)	
13	磁器	碗	7.2	3.8	2.7	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 SB1 北辺と接合	
14	磁器	碗	6.9	3.5	2.3	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
15	磁器	碗	7.5	3.8	2.7	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体2あり	
16	磁器	碗	(11.0)	6.3	(6.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 SB1 基礎と接合	
17	磁器	碗	(11.5)	6.4	6.4	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
18	磁器	碗	(9.4)	5.0	3.9	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 SB1 北辺と接合	
19	磁器	碗	(8.8)	4.7	4.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 SB1 北辺と接合	
20	磁器	坏	(6.4)	3.2	2.4	—	50	良好	灰白	肥前系 内外面施軸	
21	磁器	坏	(5.9)	2.7	(2.4)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付の上になし給付(赤・黒・金)	
22	磁器	坏	—	[3.1]	2.8	—	50	良好	白	肥前系 貼付高台型押除刻文 内外面施軸 内面上給付(赤・黒)	
23	磁器	坏	(4.9)	1.2	(2.4)	—	20	良好	白	肥前系 型成形 内外面施軸	
24	磁器	皿	—	[1.9]	4.3	—	45	良好	白	肥前系 型成形 内外面施軸・型網摺給付 SB1 北辺・SK233と接合	
25	磁器	皿	13.3	3.3	7.4	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
26	磁器	皿	13.1	3.7	7.6	—	80	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
27	磁器	皿	(14.4)	3.6	9.7	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内輪状重燒痕	
28	磁器	皿	(23.6)	3.2	(17.3)	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内ハリ支跡 2遺存 被熱・煤付着 SK229と接合	
29	磁器	皿	18.3	2.8	10.7	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
30	磁器	皿	—	0.8	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 底部ハリ支跡 1遺存・焼継印(赤)	
31	磁器	蓋	5.8	2.9	5.5	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
32	磁器	蓋	5.7	3.2	5.4	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
33	磁器	蓋	5.7	2.8	5.2	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
34	磁器	蓋	5.7	3.0	5.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明)「八二」	
35	磁器	蓋	5.8	2.9	5.6	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
36	磁器	蓋	3.4	2.2	3.3	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
37	磁器	器口	7.5	6.1	5.7	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
38	磁器	香炉	10.1	8.3	7.5	K	75	良好	灰白	肥前系 外面施軸・酸化コバルト染付 高台内墨書 内底面砂付着	
39	陶器	碗	8.7	4.8	3.2	IK	95	良好	灰黄	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面鉄絵 被熱カ	
40	陶器	坏	7.8	4.8	3.6	EIK	70	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面煤付着	
41	陶器	碗	(6.0)	3.4	2.0	HK	35	良好	灰白	京都信楽系 粘土磁質 内外面施軸 外面上給付(赤・緑)	
42	陶器	灯明皿	(8.5)	2.0	(3.4)	K	30	良好	灰白	京都信楽系 粘土磁質 内外面施軸 内面ビン痕 1遺存 口縁部煤付着	
43	陶器	灯明皿	(10.1)	1.7	4.4	DIK	50	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面下位・底部輪軸式取り 内面重燒痕	
44	陶器	灯明皿	9.5	1.9	3.9	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面下位・底部輪軸式取り 体部輪状重燒痕 口縁部被熱	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
45	陶器	灯明皿	10.5	2.1	4.8	IK	60	良好	褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部軸抜き取り 体部輪状重焼痕	
46	陶器	灯明皿	10.0	2.2	4.3	K	100	良好	明褐色	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部軸抜き取り 体部輪状重焼痕	
47	陶器	燗徳利	—	[22.0]	7.2	IK	95	良好	褐灰	外面灰釉・酸化コバルト呉須文字「全」(原木版)	77-6
48	陶器	片口鉢	18.2	12.2	10.2	IK	90	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3 底部煤付着	
49	陶器	土瓶	8.1	9.4	7.7	K	80	良好	浅黄橙	内外面施釉 体・底部白化粧 外面輪下彩(黒・緑)	
50	陶器	土瓶	7.6	11.6	7.7	IK	95	普通	灰白	内外面鉄軸 外面灰釉流し掛け	
51	陶器	蓋	8.3	2.3	3.7	IK	95	良好	褐灰	上面鉄軸	
52	陶器	平胴甕 (17.8)	18.4	13.8	EIK	40	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 口唇部目跡1遺存 底部二次 穿孔		
53	陶器	搦鉢	34.7	13.5	16.0	EIKL	95	良好	赤	堺明石系 内面撞目(9条/単位) SB1 北辺と接合	
54	陶器	香炉	10.5	8.9	9.1	EIK	95	良好	灰白	京都信楽系カ 胎土師質 外面輪・鉄軸 SB1 と接合	
55	土師質土器	火鉢	17.2	7.7	12.5	AHK	80	普通	にぶい橙	胎土粉質 外面被熱(剥落) 脚痕跡3あり	
56	瓦質土器	火鉢 (24.4)	[5.1]	—	HIK	15	普通	にぶい黄 橙	体部・口縁部ミガキ 体部下位スタンプ状施文 胎土粉 質 口縁部敲打痕 内面煤付着		
57	土師質土器	火酒壺	20.8	19.4	21.4	AIK	85	普通	浅黄橙	砂目底・板状圧痕 胎土粉質 脚1遺存 SB1 北辺・SB1 基礎と接合	69-8
58	土師質土器	焙烙	22.2	5.1	22.8	AIK	70	普通	にぶい橙	砂目底 胎土粉質 内底面煤付着・タール状物質付着 SB1 北辺・SB1 基礎と接合	69-9
59	土師質土器	焙烙 (19.9)	[3.9]	(20.0)	AIK	20	普通	にぶい黄橙	砂目底 胎土粉質		
60	瓦質土器	焙烙 (39.2)	5.3	(36.2)	CIK	20	普通	にぶい黄橙	底部シワ状痕 体部下位羽いケズリ 爐す 底部煤付着		
61	瓦	軒杖瓦	長さ[3.7] 幅[13.3] 厚さ2.2 高さ5.7		ADIK	—	普通	灰白	江戸式 爐す	124-1	
62	木製品	漆鉢	高さ[7.0] 底径12.0						横木取り 内外面黒書 内面赤で文字「八口コ」被熱		
63	木製品	下駄	長さ[15.1] 幅7.7 高さ6.6						台板目 表面目 陰卵下駄 裏焼印		
64	木製品	木札	長さ18.0 幅4.9 厚さ0.9						板目 裏表面黒書 孔1	146-9	
65	銅製品	煙管	長さ11.6 小口径1.1×1.0 口付径0.6 高さ20.1						吸口		
66	鉄製品	雪駄の尻鉄	縦4.7 横3.9 厚さ0.3 重さ14.7								
67	鉄製品	不明	縦[2.8] 横[5.3] 厚さ0.2 重さ8.0								
68	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.0								
69	鉄製品	釘	長さ[5.7] 幅0.7 厚さ0.2 重さ7.7								
70	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.2								
71	銅製品	不明	長さ17.9 幅1.1 厚さ0.1 重さ14.1								
72	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.0 重さ2.3						寛永通寶(新)		
73	石製品	火打石	長さ5.2 幅3.5 厚さ2.7 重さ54.1						石英 使用痕あり		
74	石製品	火打石	長さ4.8 幅3.3 厚さ1.6 重さ19.7						玉髄 稜の潰れ著しい 主要剥離面遺存		
75	石製品	火打石	長さ3.5 幅3.4 厚さ2.8 重さ36.2						玉髄 稜の潰れ著しい 主要剥離面遺存		
76	石製品	火打石	長さ1.9 幅1.6 厚さ1.2 重さ4.3						玉髄 使用痕あり		
77	石製品	磨石	長さ7.4 幅5.1 厚さ4.5 重さ92.3						角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面3 万物痕あり	140-3	
78	石製品	磨石	長さ5.1 幅4.6 厚さ3.6 重さ49.0						角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	140-3	
79	石製品	磨石	長さ4.0 幅3.5 厚さ3.0 重さ21.3						角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	140-3	
80	石製品	砥石	長さ[18.2] 幅5.8 厚さ2.0 重さ427.8						流紋岩 側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 砥面2	139-14	
81	硝子製品	筭	長さ[3.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.8						透明 中実 被熱(白色化)	142-1	
82	硝子製品	筭	長さ[2.7] 幅0.5 厚さ0.2 重さ0.9						透明 中実 被熱(白色化)	142-1	
83	硝子製品	筭	長さ[2.7] 幅0.6 厚さ0.5 重さ2.5						透明 中実 被熱(白色化)	142-1	

接合関係にある。推定廃絶期は19世紀前葉である。

第286～291図に出土遺物を図示した。第286図1は肥前系磁器の猪口で、ラッパ状に開く稀な器形である。内底面の五弁花文がみられ、18世紀の製品と推定される。3・4は波佐見系磁器のくらわんか手碗である。外面に雪輪草花文染付がみられる。5は肥前系の筒形碗で、内底面の五弁花文は丁寧である。6～11は肥前系磁器の小丸碗、12～15は小広東碗、16・17は広東碗である。

第286図18・第287図19は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。いずれも口縁部の反りは強い。19は染付の発色が良く、濃い青である。

21・22は肥前系磁器の卵殻手環である。21は内面の染付の上に赤・黒・金の上絵付が施される。生産地外で上絵付が行われたことを示唆する。22は高台が「ハ」字状の付け高台で、高台外周に陰刻文がみられる。内面は赤・黒で上絵付が施されている。23は肥前系磁器の坏である。型成形で、扁平な器形、外面に縦縞の条線がみられることから紅坏の可能性が考えられる。

24は肥前系磁器の型皿である。内面に型紙摺絵染付が施されるが、18世紀前半の製品である。27は肥前系磁器の五寸皿である。蛇ノ目凹形高台で、口縁部は折り返して玉縁状である。内底面に松竹梅環状文の染付がみられる。28は肥前系磁器の中皿である。輪花状口縁で、内面に松竹梅環状文と蛸唐草文染付がみられる。第229号土壙出土破片と接合関係にある。

第288図31～36は肥前系磁器碗の蓋で、31～35は広東碗、36は端反形碗に伴うものである。

38は肥前系磁器の香炉である。外面に酸化コバルト染付が施され、内底面に砂が付着する。高台内には墨書がみえる。

第289図42は京都信楽系陶器の灯明皿(油皿)である。胎土は磁質で、内面に窯道具痕が1箇所遺存する。口縁部には煤が付着する。43・44は

瀬戸美濃系陶器の灰釉灯明皿である。栗橋宿での出土量は極めて少ない。43は油皿で、外面下位から底部にかけて軸の拭き取りがみられる。内面に重ね焼き痕が遺存する。44は油受け皿で、受け口の切込みは「U」字状を呈する。外面下位から底部にかけて軸が拭き取られ、体部に輪状重ね焼き痕がみられる。

47は産地不詳陶器の燗徳利である。外面に酸化コバルトで「原木屋」、「全」の文字がみえる。「原木屋」は『栗橋宿跡V』の区割図における区画⑦に位置する。『営業便覧』に「米穀酒類商/原木屋/小林豊三郎」の名がみえる。49・50は産地不詳陶器の土瓶で、49は三彩土瓶、50は鉄軸土瓶である。50の外面上位には糸目状施文がみられ、外面に灰釉が流し掛けられている。

第290図58・59は土師質土器の丸底焙烙である。細粒な雲母と思われる鉱物を含む粉質な胎土を呈し、通常より小型である。58の内底面にはタール状物質が付着する。60は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、体部下位は弱いケズリ状の調整がみられる。

61は江戸式に類似する軒棧瓦で中心弁は六枚である。

第291図64は木製の桶側板転用品である。表に墨書「武州栗橋/柿沼惣右衛門様/十六日口へ」、裏に「□□□徳次郎」等がみえる。「柿沼惣右衛門」は本区画の「旅籠屋/惣右衛門」を指す。

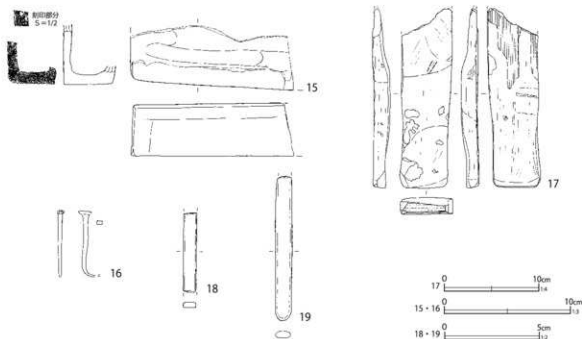
65は銅製煙管の吸口である。66は鉄製品の雪駄の尻鉄、68・70は鉄製頭巻釘、69は鉄製さっぱ釘である。

74・75は玉髓製火打石で、使用により稜が丸みを帯びている。いずれも明瞭な打ち割り痕跡が遺存しており、75の打ち割り痕はネガティブ面とポジティブ面の両方がみられる。これらの打ち割り痕は稜の再生等の可能性が示唆される。

77～79は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。すり減った平坦面がみられ、元の転石の形



第292图 第253号土坑出土文物(1)



第293図 第253号土壇出土遺物(2)

第71表 第253号土壇出土遺物観察表(第292・293図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(13.4)	[4.6]	—	—	10	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
2	磁器	碗	—	[2.5]	(6.1)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
3	磁器	碗	(9.4)	4.9	(4.2)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
4	磁器	碗	(9.2)	4.7	4.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
5	磁器	皿	(14.4)	3.6	9.7	K	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
6	磁器	蓋	10.1	3.1	5.6	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
7	磁器	蓋	9.4	2.8	5.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
8	磁器	蓋	7.8	2.2	4.1	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
9	磁器	德利	—	[11.7]	4.6	—	70	良好	白	肥前系 外面施釉・染付	
10	磁器	蓮華	長さ11.1 高さ4.1	幅5.5	—	—	95	良好	白	清明景徳鎮窯系 型成形 内外面施釉・染付 底部指頭痕	70-2
11	陶器	碗	(11.4)	[5.2]	—	DIK	10	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵	
12	陶器	碗	(8.9)	5.3	3.8	IK	55	普通	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面鉄絵 底部二次穿孔	
13	陶器	坏	5.9	3.5	2.8	K	95	良好	灰黄	京都信楽系 内外面灰釉 内面黒色塗布物付着	
14	陶器	二ね鉢	—	[8.3]	9.6	IK	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面軸抜き取り3箇所 弧状の重痕痕3 底部墨書「八百ヤ/口入ヲ/中口」	77-7
15	土師質土器	瓶口	縦[12.8] 高さ[4.1]	横[4.7]	—	AHK	40	普通	橙	江戸在地系 下面無調整 胎土粉質 端面に刻印「△」内面煤付着	
16	鉄製品	釘	長さ[5.3]	幅0.4	厚さ0.3	重さ4.0	—	—	—	—	
17	石製品	砥石	長さ[19.0]	幅5.6	厚さ1.8	重さ217.7	—	—	—	凝灰岩 孔貫 側・裏面ノコギリ痕 砥面4	139-14
18	硝子製品	筭	長さ[4.2]	幅0.7	厚さ0.4	重さ2.8	—	—	黄色透明 中実	—	142-1
19	硝子製品	筭	長さ[7.7]	幅0.8	厚さ0.4	重さ8.6	—	—	透明 中実 被熱(白色化)	—	142-1

状が大きく保たれている。18世紀の遺構からの出土が特に多く、19世紀以降の出土は稀である。

80は白色の流紋岩製砥石で、上端面に段が付くノコギリ状工具痕がみられる。段になっている部分は角を起点とする折断状の痕跡がみられる。下端面はノコギリ状工具痕に類似するが、斜めに条線がみられ、使用痕の可能性も疑われる。側面、裏面にはチョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕による削り痕がみられる。

81～83は硝子製の筭と思われる飾り類である。透明だが、被熱により白色化している。

これらの他に自然遺物で、魚骨122.1g、アカニシ44.9gが出土している。

#### 第253号土壙（第282・292・293図）

F7-F7グリッドに位置し、第152号土壙より古い。平面形は隅丸方形で、長軸1.35m、短軸1.3m、深さ0.5mを測る。長軸方位はN-75°-Eを指す。

炭化物を含むシルト質土を主体とし、同質の土であるものの細かく分層が可能である。下層には木質が含まれている。

遺物は一定量出土している。広東碗の蓋等18世紀後葉の陶磁器を主体し、最新期である瀬戸美濃系磁器の端反形碗が一定量組成する。推定廃絶期は19世紀前葉である。

第292・293図に出土遺物を図示した。第292図1は波佐見系磁器のくわんか手碗である。口径が13cmを越える大碗で、外面に雪輪草花文染付がみられる。2は肥前系磁器の広東碗である。3・4は瀬戸美濃系磁器の端反形碗で、口縁部の反りが強い。5は肥前系磁器の五寸皿である。蛇ノ目凹形高台で、口縁部は折り返して玉縁状である。6～8は肥前系磁器の蓋で、広東碗に伴うものである。9は肥前系磁器の鶴首形御神酒徳利である。外面に蛸唐草文染付がみられる。

10は清朝景德鎮窯系磁器の散蓮華である。型成形で、内面に太極図の染付がみられる。底部は

凹ませており、指頭痕がみえる。

11は瀬戸美濃系陶器の柳茶碗である。灰釉が施軸され、外面に鉄絵がみられる。12は京都信楽系陶器の小杉碗である。磁質な胎土で、外面に鉄絵が施される。底部に二次穿孔がみられ、植木鉢への転用が示唆される。14は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。灰釉が施軸され内面に軸の拭き取り痕と弧状の重ね焼き痕がみられる。底部には墨書「八百や / 口入ヲ / 中□」がみえる。「口入ヲ」は他の文字より濃く、「中□」の上に書かれていることから時期差があると推定される。

第293図15は江戸在地系土師質土器の風口である。粉質な胎土で、底部は無調整である。端面の開口部に「△」と推定される刻印が僅かに遺存する。

16は鉄製の頭巻釘である。17は孔質な凝灰岩製砥石である。下端面と裏面にはノコギリ状工具痕が遺存する。裏面は砥面となっており、工具が擦り消されている。18・19は硝子製の筭である。18は黄色透明、19は被熱し白色化した透明である。

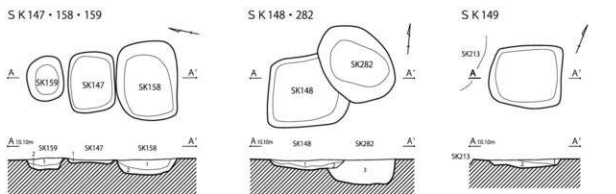
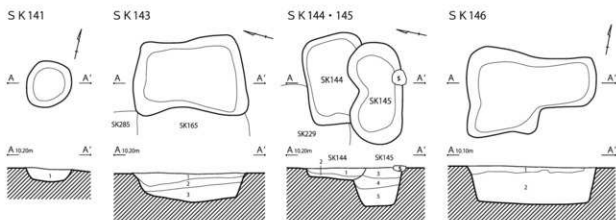
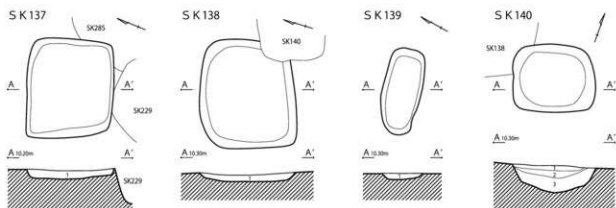
#### 第165号土壙（第296・303・316・319・321図）

F7-F7グリッドに位置し、第285号土壙より新しく、第143・160号土壙と重複する。周囲には土壙が密集・重複する。平面形は隅丸方形で、検出長軸1.75m、短軸1.65m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-12°-Wを指す。

覆土の下層は砂粒を含む砂質土で、上層はシルト質土である。最下層に木片が多量に投棄されており、最上層には木質が層状にみられる。

出土遺物はそれほど多くはないが、陶磁器類は幕末期に比定される製品で占められる。未掲載遺物には最新期である瀬戸美濃系磁器の小碗がみられる。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第303図26～32に陶磁器、第316図4に瓦、第319図15～17に木製品、第321図5に金属製品を図示した。



S K 137  
1 灰色土 砂粒主体 陶磁器片含む

S K 138  
1 灰色土 砂粒主体 陶磁器片含む

S K 139  
1 暗褐色土 細粒砂質 炭化物多量 (φ20 mm) 小礫少量 瓦含む

S K 140  
1 黄褐色土 粘土質  
2 褐色土 粘土質 木炭屑 木片少量  
3 灰褐色土 粘土質 木炭少量

S K 141  
1 暗褐色土 細粒砂質 瓦等多量

S K 143  
1 灰褐色土 細粒砂質 炭化物を帯状に含む  
2 灰褐色土 細粒砂質 黄色土粒子・木片多量  
3 暗灰褐色土 細粒砂質 木片多量 陶磁器片含む

S K 144 (1, 2)・S K 145 (3-5)  
1 暗褐色土 小礫・木片少量  
2 暗褐色土  
3 灰褐色土 黄色土粒子・炭化物少量  
4 暗灰褐色土 均質 炭化物少量  
5 暗褐色土 木片主体層

S K 146  
1 暗灰褐色土 細粒砂質 均質 遺物多量  
2 暗灰褐色土 細粒砂質 木片多量

S K 147  
1 暗褐色土 炭化物餅状に含む

S K 158  
1 灰褐色土 黄色土粒子・炭化物少量  
2 暗灰褐色土 炭化物・木片少量

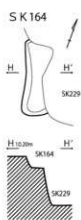
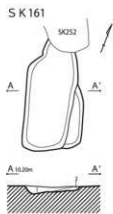
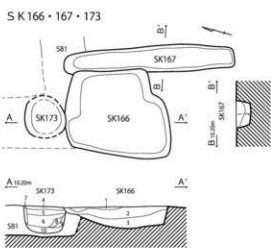
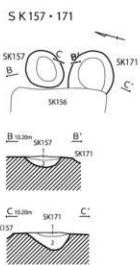
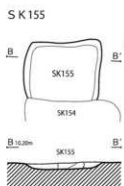
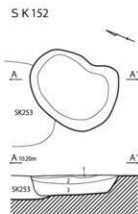
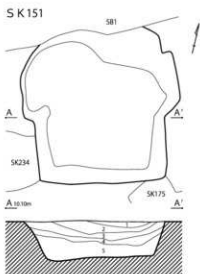
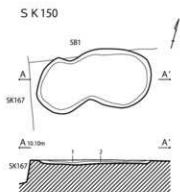
S K 159  
1 灰褐色土 灰色土粒子少量  
2 灰褐色土 黄色土ブロック (φ10 mm) 少量

S K 148 (1, 2)・S K 282 (3)  
1 暗褐色土 シルト質 木片多量  
2 灰褐色土 シルト質 均質  
3 灰褐色土 砂粒主体

S K 149  
1 暗褐色土 細粒砂質 炭化物多量 黄色土ブロック状に含む  
2 黒褐色土 炭化物主体 しまり弱



第294図 区画AF土壇(3)

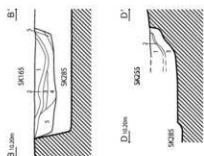
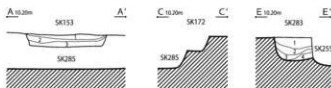
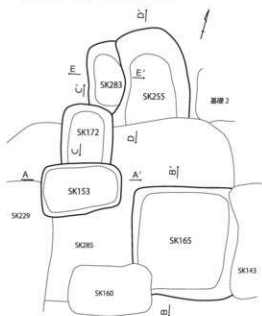


- S K 150**  
 1 暗褐色土 細粒砂質 木片多量  
 2 灰褐色土 細粒砂質 均質 瓦片含む
- S K 151**  
 1 明褐色土 粘土質 木片多量  
 2 明褐色土 粘土質 黄色土粒子少量 陶磁器含む  
 3 明褐色土 粘土質 木片多量  
 4 明褐色土 細粒砂質 均質  
 5 明褐色土 砂粒主体
- K 152**  
 1 灰褐色土 細粒砂質 均質 炭化物微量 しまり強  
 2 暗灰褐色土 細粒砂質 均質 炭化物微量 しまり強  
 3 暗灰褐色土 細粒砂質 均質
- S K 155**  
 1 灰白色土 細粒砂質 陶磁器含む  
 2 明褐色土 細粒砂質 炭化物帯状に含む
- S K 157**  
 1 灰褐色土 細粒砂質 炭化物帯状に含む  
 2 灰白色土 細粒砂質 プロック土(φ10mm)多量 粘性弱

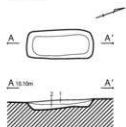
- S K 171**  
 1 明灰褐色土 炭化物(φ10mm)少量  
 2 暗灰褐色土 均質
- S K 161**  
 1 暗褐色土 シルト質 木片主体 陶磁器含む  
 2 暗褐色土 細粒砂質 均質
- S K 166 (1~3)・S K 173 (4~10)**  
 1 明灰褐色土 均質 細粒砂質 しまり強  
 2 暗褐色土 細粒砂質 木質主体  
 3 暗灰褐色土 細粒砂質 黄色土粒子少量  
 4 暗灰褐色土 均質 細粒砂質 礫化灰少量  
 5 暗灰褐色土 均質 細粒砂質 礫化灰少量  
 7 褐色土 粘土質 木質多量  
 6 褐色土 粘土質 黄色砂少量  
 8 灰褐色土 砂質 しまりあり  
 9 灰褐色土 粘土質 木質少量  
 10 灰褐色土 シルト質 砂粒多量
- S K 167**  
 1 灰褐色土 均質 細粒砂質 礫化灰少量  
 2 暗灰褐色土 均質 細粒砂質



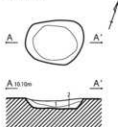
第295図 区画AF土壇(4)



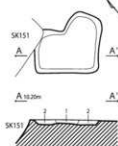
SK169



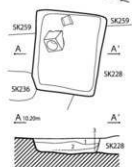
SK170



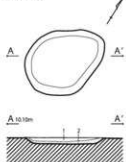
SK175



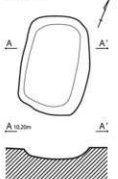
SK199



SK213



SK216



SK255

- 1 黄褐色土 砂多量 黄灰色シルトブロック多量 炭化物少量
- 2 暗褐色木質層
- 3 灰色土 炭化物(φ5mm)少量 木材・磁器片含む

SK283

- 1 灰色土 シルト質 不均一 炭化物多量・層状に含む
- 2 灰色土 シルト質 均一 ややラミナ発達 貝類含む
- 3 灰色土 シルト質 均一 瓦類含む
- 4 灰色土 シルト質 均一 含有物少量

SK169

- 1 暗灰褐色土 細粒砂質 白色粒子(φ1mm)多量(AS-Aか) 炭化物多量
- 2 灰褐色土 均質 細粒砂質 炭化物層状に含む

SK170

- 1 灰褐色土 シルト質 しまり弱 遺物多量
- 2 明灰褐色土 細粒砂質 酸化鉄多量 均質

SK175

- 1 暗灰褐色土 細粒砂質
- 2 暗赤褐色土 細粒砂質 焼土ブロック(φ20mm)多量

SK153

- 1 褐色土 粘土質 木質多量 木片少量
- 2 灰黄褐色土 シルト質 円形の浅黄褐色粘土ブロック(φ30mm)含む
- 3 褐色土 粘土質 木質多量 木材・陶磁器片含む

SK165

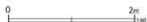
- 1 灰褐色土 シルト質 木質層状に含む
- 2 暗灰褐色土 シルト質 黄色土粒子少量
- 3 灰褐色土 細粒砂質 均質
- 4 暗灰褐色土 細粒砂質 木片多量
- 5 暗灰褐色土 砂粘土主体

SK199

- 1 灰褐色土 粘土質 焼土少量 木片含む しまり強
- 2 暗褐色土 粘土質 焼土・炭化物粒子少量 しまり弱 陶磁器含む
- 3 褐色土 粘土質 焼土多量 瓦含む

SK213

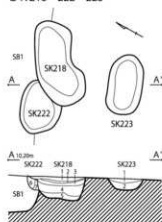
- 1 灰褐色土 シルト質 木質多量 木片少量
- 2 灰色土 粘土質 小礫(φ3mm)を含む赤黄色砂(φ0.5~1mm)が西部に特に多く混入



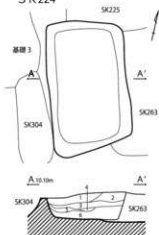
第296図 区画AF土壇(5)



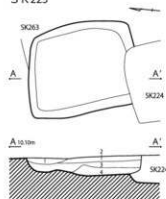
S K 218・222・223



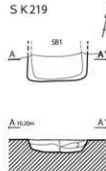
S K 224



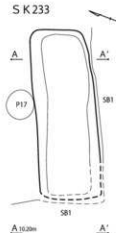
S K 225



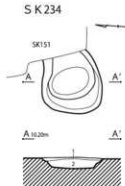
S K 219



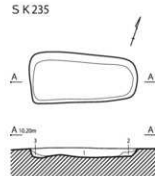
S K 233



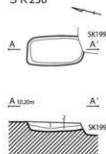
S K 234



S K 235



S K 236



S K 218 (1～5)・S K 222 (6, 7)

- 1 褐色土 粘土質 炭化物少量
- 2 赤褐色土 シルト質 炭土多量
- 3 黄褐色土 砂質 しまり強
- 4 灰褐色土 砂質 粒子(φ0.1～0.5 mm)
- 5 赤褐色土 砂質 粗粒子(φ0.5 mm) しまり強
- 6 灰色土 粘土質 しまり強
- 7 灰黄褐色土 砂質 粒子(φ0.5～1 mm)

S K 219

- 1 暗褐色土 粘土質 炭化物多量
- 2 黄土層 焼土・炭化物含む
- 3 黄色木質層 細かい木片多量

S K 223

- 1 褐色土 シルト質 炭化物少量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物・木質少量

S K 224

- 1 黄褐色土 粘土質 木片・木質・炭化物含む 黄色砂含む
- 2 灰黄色土 粘土質 炭化物含む
- 3 灰黄色土 シルト質 粘性弱 木質多量
- 4 木質層 糠皮多量
- 5 灰色土 シルト質 炭化物含む
- 6 灰黄色土 粘土質

S K 225

- 1 暗褐色土 粘土質 木質多量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物少量
- 3 灰黄色土 粘土質 木質多量 厚さ 10 mm 程の層状に木質が埋積
- 4 灰褐色土 粘土質 炭化物・木質少量

S K 233

- 1 黄色土 砂質 細粒砂(φ0.5 mm以上)
- 2 灰黄色土 砂質 1層より厚粒 方形の黄褐色粘土ブロック(φ30 mm～50 mm)含む
- 3 灰黄色土 砂質 粗粒子(φ0.5～1 mm)

S K 234

- 1 黄色土 粘土質 炭化物含む
- 2 灰色土 粘土質 炭化物少量

S K 235

- 1 黄褐色土 砂質 炭化物微量 しまり弱
- 2 赤褐色土 砂質 しまり強
- 3 黄褐色土 粘土質 炭化物少量

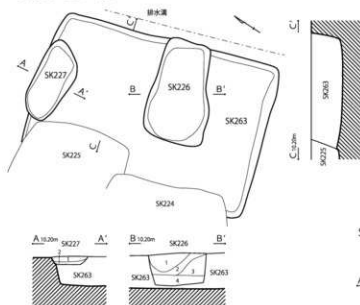
S K 236

- 1 黄褐色土 粘土質 炭化物多量
- 2 灰色土 粘土質 炭化物微量

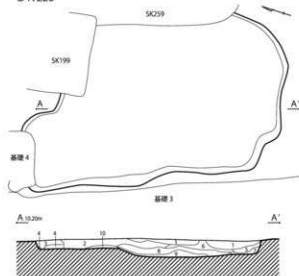


第 297 図 区画 AF 土壌 (6)

S K 226・227・263



S K 228



S K 226

- 1 褐色土 粘土質 炭化物・木質多量 円形小礫 (φ10～20mm) 少量
- 2 褐色土 粘土質 木質多量 厚さ5～10mmの木質層あり
- 3 灰色土 炭化物微量
- 4 木質層 木材、木質の屑 別遺構の可能性あり

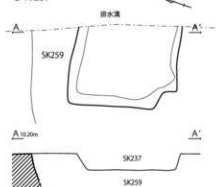
S K 227

- 1 灰褐色土 シルト質 粘性弱 炭化物少量
- 2 黄褐色土 粘土質

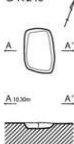
S K 228

- 1 灰色土 シルト質 粘性強 砂粒含む
- 2 暗褐色土 粘土質 焼土・炭化物多量
- 3 灰色土 シルト質 酸化鉄・炭化物少量
- 4 灰褐色土 粘土質 酸化鉄・炭化物少量
- 5 褐色土 粘土質 炭化物・焼土多量 円形の浅黄褐色粘土ブロック (φ10～30mm) 含む
- 6 オリーブ褐色土 シルト質 粘性強 粒子粗い、炭化物・焼土含む
- 7 暗褐色土 シルト質 粘性強 方形の浅黄褐色粘土ブロック (φ100mm) 混入、炭化物少量

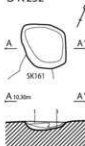
S K 237



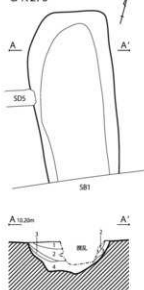
S K 246



S K 252



S K 276



- 8 黒褐色土 粘土質 炭化物主体
- 9 暗褐色土 粘土質 焼土・炭化物主体
- 10 暗褐色土 砂質 焼土・炭化物少量 (上層からの混入)

S K 246

- 1 黄褐色土 粘土質 炭化物・焼土含む

S K 252

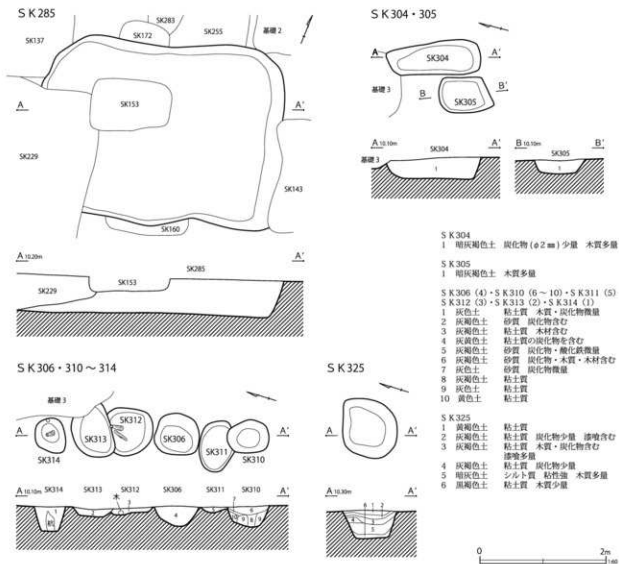
- 1 黒褐色土 砂質 木質・炭化物多量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物少量
- 3 黄色土 粘土質

S K 276

- 1 灰褐色土 砂質 炭化物少量
- 2 褐色土 砂質 浅黄褐色細砂多量
- 3 褐色土 粘土質 炭化物・木質少量
- 4 暗褐色土 粘土質 木質主体層



第298図 区画AF土壇(7)



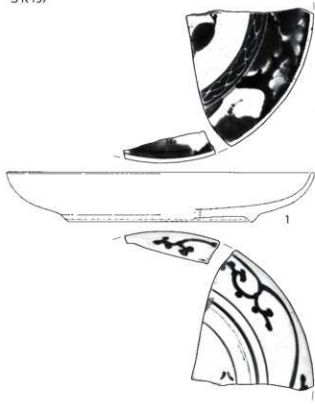
第299図 区画AF土坑(8)

第303図27は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。28は大堀相馬系陶器の碗である。内面に糠白釉、上位には青緑釉が流し掛けられている。外面は青緑釉で陽刻文が施文される。29は産地不詳陶器の行平鍋である。柿軸が施軸され、外面上位にはトビガンナ施文がみられる。露胎部には使用痕と考えられる煤が付着する。31は産地不詳陶器の蓋である。急須の落し蓋で、底部の糸切痕はナデ消されている。底部外周は鍋状に削られ、上面は緑釉が施軸される。32は京都信楽系陶器の落し蓋で、筒形水注の蓋の可能性がある。上端部は露胎である。

第316図4は軒杖瓦である。江戸式に類似し、中心弁は六枚である。摩耗している。

第319図17は木札である。表面に「龍吐水」、裏面に「伊三郎」と墨書がみえる。「龍吐水」は江戸時代から明治時代にかけて用いられた消火道具である。改良されたものは「雲龍水」と呼び、区画ABの第21号土坑では「雲龍水」と書かれた木札(第85図23)が出土している。「伊三郎」は『絵図』にはみえないが、『営業便覧』に「熊倉伊三郎」の名がみえ、関係性が示唆される。木札は当時の火消や火消用設備の管理当番札のようなものであろうか。

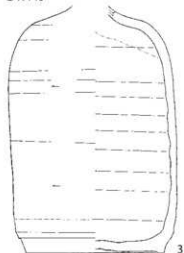
SK137



SK139



SK140



第300図 区画AF土壇出土遺物(1)

第321図5は鉄製の鍵である。環状の把手に、先端は突起が付く。回転鍵型錠の鍵である。

**第263号土壇** (第298・309・310・314・316・320・321・324・325図)

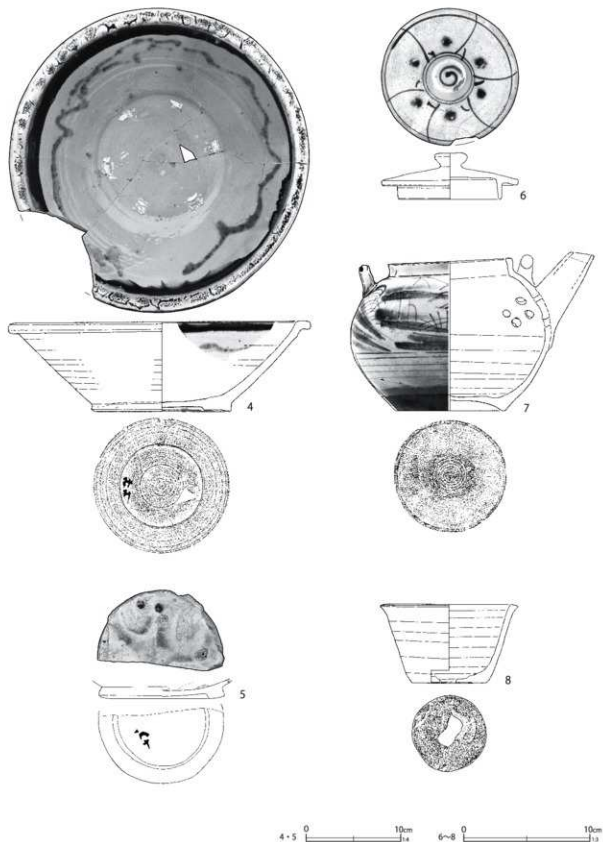
F7-E9、F8・9グリッドに位置し、第224～227号土壇より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸3.7m、短軸2.5m、深さ0.5mを測る大型の土壇である。長軸方位はN-15°-Wを指す。覆土の状況は確認できなかった。

遺物は多量に出土しており、陶磁器類は酸化コバルト染付磁器を主体とし、銅版転写染付丸碗が最新期である。銅版転写染付磁器段階の遺物は第224～227号土壇からの混入であろう。推定廃絶期は19世紀後葉である。

第309図78～88・第310図89～93に陶磁器類、

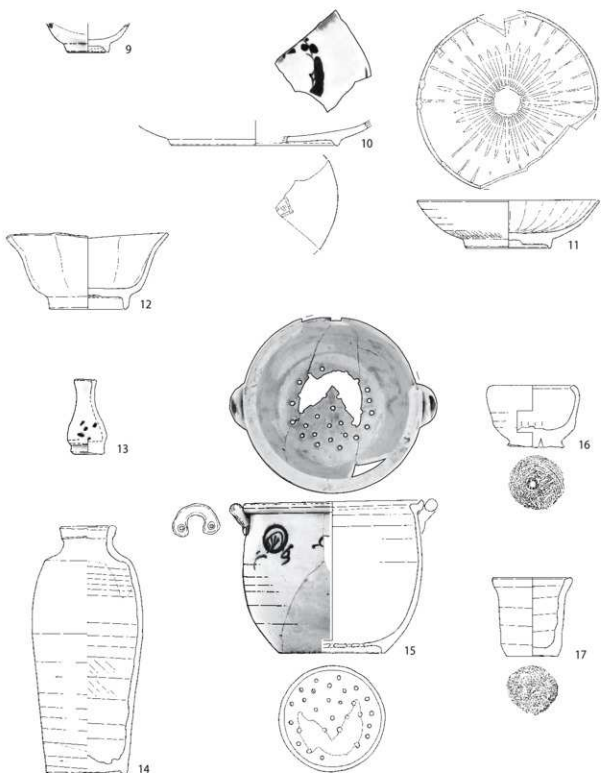
第314図8～11に土製品、第316図5に瓦、第320図に木製品、第321図20～22に金属製品、第324図21・22に石製品、第325図2に硝子製品を図示した。

第309図79は瀬戸美濃系磁器の平碗である。外面に発色が良好な群青色の染付が施される。80は内面に江戸絵付けが施された瀬戸美濃系磁器の坏である。腰部は角張り、高台皿付け内側に段が付く。外面は酸化コバルト染付が施され、内面に江戸絵付け文字「旅人宿/住吉丁十番地/荒井口□」がみえる。文字にみえる場所を特定することはできなかった。81は瀬戸美濃系磁器の卵殻手に類似する坏で、高台皿付け内側に段が付く。外面は酸化コバルト染付が施され、内面上絵付で「く利橋/稲荷屋」の銘がみえる。舟戸町にあつ



第301图 区画AF土坑出土遗物(2)

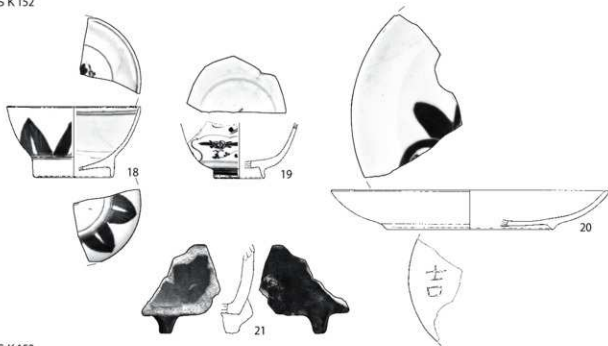
SK151



0 10cm  
1/3

第 302 图 区画 AF 土壙出土遗物 (3)

SK152



SK153



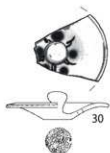
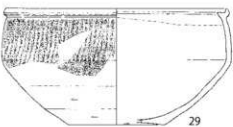
SK155



SK158

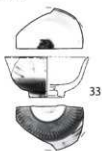


SK165

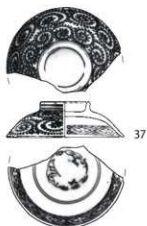
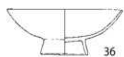
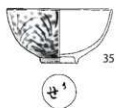
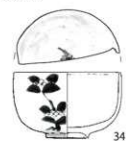


第303图 区画AF土壇出土遺物(4)

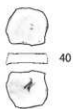
SK166



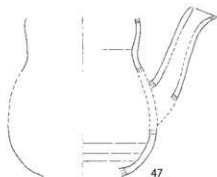
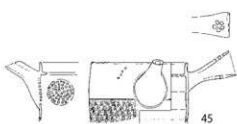
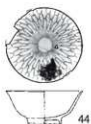
SK172



SK173



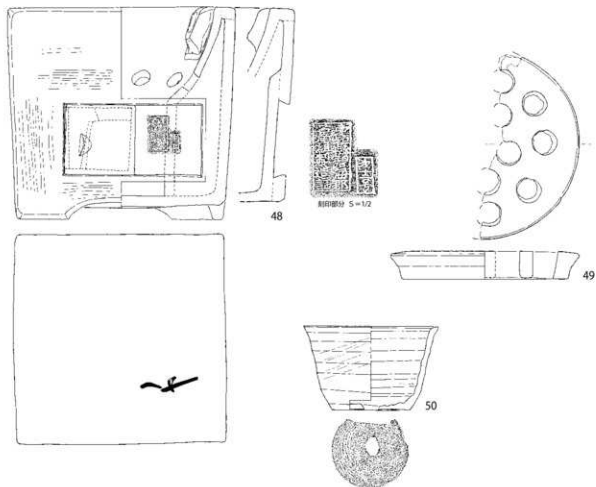
SK199



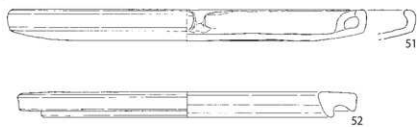
第304图 区面AF土壤出土遗物(5)



S K 199



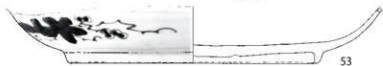
S K 216



0 10cm 0 10cm  
48・51・52 49・50

第 305 图 区画 AF 土坑出土遗物 (6)

SK224



SK225



0 10cm  
14

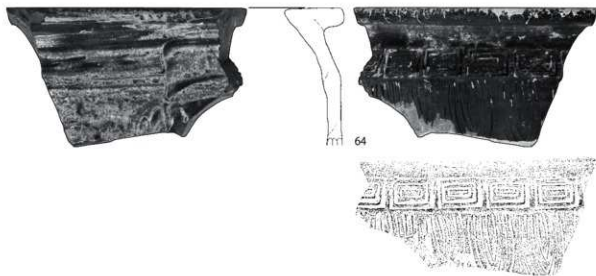
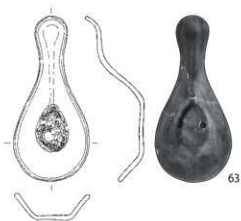
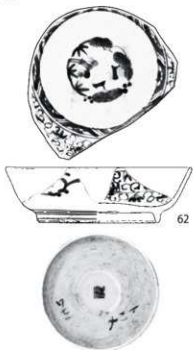
0 10cm  
13

第306图 区画AF土壙出土遗物(7)

S K 225



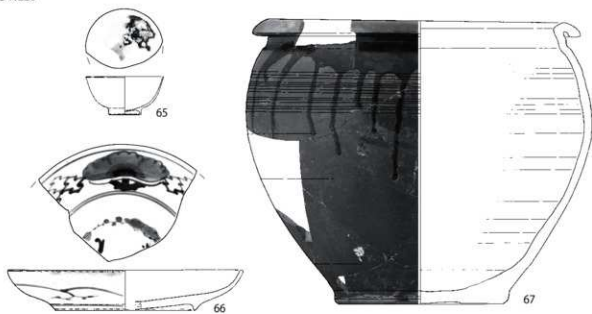
S K 226



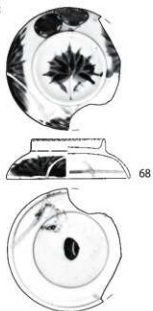
0 10cm 0 10cm  
61 1:4 60·62-64 1:3

第307图 区画AF土坑出土遗物(8)

S K 228



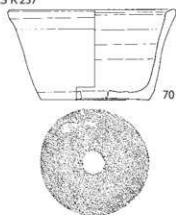
S K 233



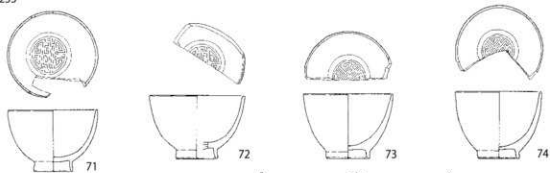
S K 235



S K 237



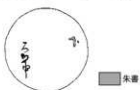
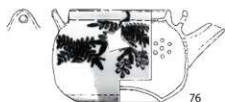
S K 255



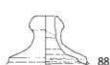
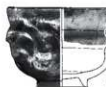
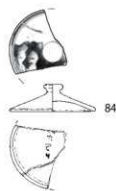
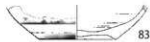
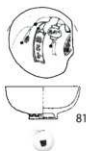
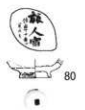
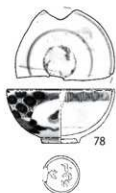
67 0 10cm 14 65·66·68~74 0 10cm 13

第 308 图 区画 AF 土壇出土遺物 (9)

S K 255

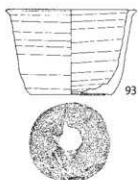
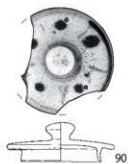
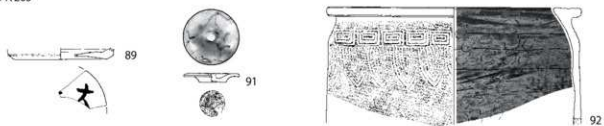


S K 263

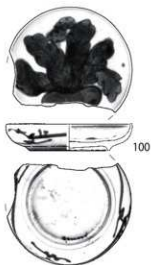
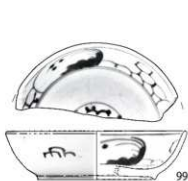
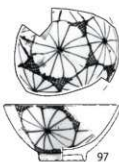


第 309 图 区画 AF 土坑出土遺物 (10)

SK263



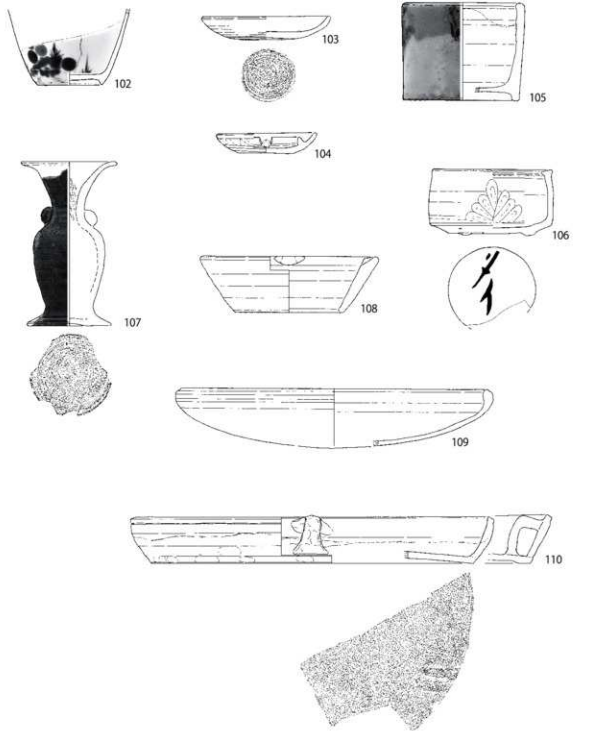
SK276



0 20cm 1/8 89~91·93~101 0 10cm 1/3

第310图 区画AF土壙出土遗物(11)

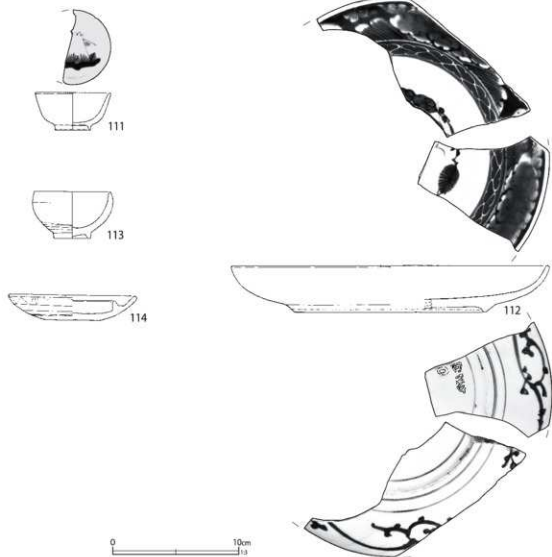
S K276



109・110 0 10cm 1/4 102~108 0 10cm 1/3

第311图 区画AF土坑出土遗物(12)

S K 285



第312図 区画AF土壇出土遺物(13)

た鯉料理店「稲荷屋」の坏である。

86は大堀相馬系陶器の碗である。胴縮め碗と呼ばれる器形であり、大堀相馬焼の窯跡である福島県浪江町の中平遺跡(福島県文化財センター1989)の灰原では非常に稀な器種と報告されている。内面に灰釉、外面から内面上位にかけて青緑釉が流し掛けられている。

87は備前系陶器の鉢である。拓器質な胎土で、底部に右回転の糸切状痕が遺存する。第226号土壇出土破片と接合関係にある。

88は産地不詳陶器の徳利である。頸部は短い

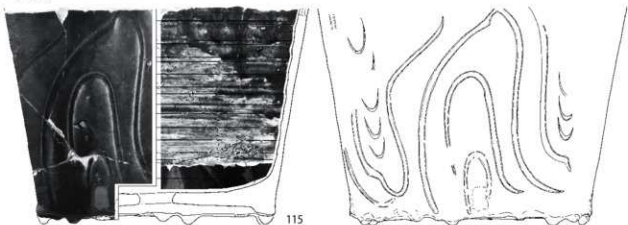
が、頸部別作りであり、破断面に接ぎ痕がみえる。「すず徳利」と同様の作りである。外面は黒釉で、内面は柿釉が施釉される。

第310図92は常滑系陶器の甕である。外面上位に雷文と蓮弁文のスタンプ文が施文される。リンズと呼ばれる回転施文具で装飾されており、19世紀中葉に近い年代が推測されている(椎村2018)。外面は鉄泥、内面には刷毛塗状の塗土がみられる。外面上位には白色物質が付着している。

第314図8は羽釜を模した江戸在地系のミニチュアである。比較的大型だが、煤などの使用痕



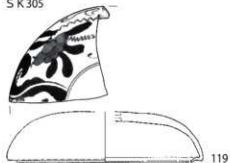
S K 285



S K 304



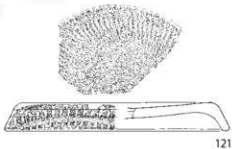
S K 305



S K 306



S K 312



S K 325



118・121 0 10cm 115～117・119・120・122 0 10cm

第 313 图 区画 AF 土坑出土遗物 (14)

第72表 区画AF土壌出土遺物観察表(1)(第300~313図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存状態	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	(24.2)	3.9	(14.4)	—	15 良好	白	SK137	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱	68-8
2	陶器	坏カカ	(6.8)	[3.4]	—	K	10 良好	浅黄橙	SK139	板作り成形 外面型押陰刻文・赤漆塗布	
3	陶器	德利	—	[19.5]	(11.0)	EIK	20 良好	灰白	SK140	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部下位・底部軸拭き取り SK138と接合	
4	陶器	鉢	30.2	9.6	14.4	EIK	95 普通	灰白	SK143	外面・口唇部・内面上位鉄釉 口唇部白釉流し掛け 内面灰釉・緑釉散らし・目跡6あり 高台内黒書	
5	陶器	椀鉢	—	[2.1]	10.2	EIK	5 普通	灰白	SK143	瀬戸美濃系 内面灰釉・緑釉散らし・軸拭き取り 4遺存・目跡2遺存 底部黒書	
6	陶器	蓋	—	3.7	8.0	IK	95 良好	灰白	SK143	上面白化粧後施釉・鉄絵・緑釉彩 最大径10.8cm	
7	陶器	土瓶	9.7	12.5	8.7	IK	80 良好	灰白	SK143	底部白化粧 外面白化粧後施釉・鉄絵・緑釉彩 底部煤付着	
8	瓦質土器	植木鉢	(9.8)	6.2	5.9	AK	50 普通	灰白	SK143	江戸在地系 底部糸切痕(左) 燻す	
9	磁器	碗	—	[2.3]	3.2	—	5 良好	白	SK151	清朝徳化窯系 型成形 内外面施釉 外面上絵付(青)	
10	磁器	皿	—	[2.0]	(13.0)	—	5 普通	白	SK151	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支脚1遺存・釘書	
11	磁器	皿	14.2	3.8	6.1	—	85 普通	白	SK151	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押施文 口紅 体部下位カンナケズリ状痕	
12	磁器	鉢	12.5	6.0	2.9	—	95 良好	白	SK151	瀬戸美濃系 内外面青磁釉 口紅	
13	磁器	德利	1.5	5.9	2.2	—	100 普通	白	SK151	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付	
14	陶器	德利	4.0	19.7	6.0	EIK	95 良好	灰	SK151	瀬戸美濃系 外面灰釉 口唇部重焼痕	
15	陶器	蒸し器	13.9	12.2	8.3	IK	60 良好	灰白	SK151	内外面灰釉 外面鉄絵	
16	陶器	燗燗	6.4	4.9	4.5	EI	90 良好	灰白	SK151	底部糸切痕(右) 内外面鉄釉 灯芯立欠失	
17	土師質土器	埴輪蓋	(6.1)	6.2	4.1	AMK	75 普通	橙	SK151	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	
18	磁器	碗	(10.5)	5.6	(6.2)	—	20 良好	白	SK152	肥前系 内外面施釉・染付	
19	磁器	碗	—	[4.4]	(3.9)	—	20 良好	白	SK152	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
20	磁器	皿	(21.7)	3.1	(13.2)	—	15 良好	白	SK152	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼継痕あり 高台内釘書「吉」	
21	瓦質土器	火鉢	—	[7.0]	—	CIK	5 普通	灰白	SK152	体部ミガキ状光沢 燻す	
22	磁器	坏	(7.1)	5.5	3.0	—	70 普通	白	SK153	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
23	磁器	段重	(14.0)	6.4	(9.6)	—	15 良好	白	SK155	肥前系 内外面施釉 外面染付	
24	陶器	土瓶	8.2	[8.9]	—	IK	70 良好	灰白	SK155	外面靑磁釉(鉄釉) 内面下位施釉	
25	磁器	坏	(6.0)	2.7	2.4	—	40 良好	白	SK158	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付(青・金)	
26	磁器	碗	(7.2)	5.2	(3.0)	—	40 良好	白	SK165	肥前系 内外面施釉 外面染付	
27	磁器	碗	(10.2)	[3.6]	—	—	5 良好	白	SK165	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
28	陶器	碗	9.0	5.6	3.5	IK	60 良好	灰白	SK165	大塚祖馬系 内面白釉・上位青緑釉流し掛け 外面陽刻施文・青緑釉 被熱(弱)	
29	陶器	行平鍋	(17.4)	9.2	(7.7)	IK	20 普通	灰白	SK165	外面上位トビガンナ状施文 内外面極細 露胎部煤付着	
30	陶器	蓋	—	2.2	2.1	I	20 良好	にぶい橙	SK165	底部糸切痕をナゾ消し 上面白化粧・絵付(緑釉・鉄絵)・施釉 最大径(8.2)cm	
31	陶器	蓋	—	2.0	(2.8)	IK	50 良好	灰白	SK165	底部糸切痕をナゾ消し 体部下位編 上面緑釉 最大径(6.9)cm	
32	陶器	蓋	5.3	1.6	4.3	K	50 良好	灰白	SK165	京都信楽系 胎土磁質 上面施釉 最大径(8.0)cm	
33	磁器	坏	(6.6)	3.2	(2.6)	—	30 良好	白	SK166	瀬戸美濃系 体部下位トビガンナ状施文 内面陰刻文 内外面施釉・染付 口紅	
34	磁器	碗	(8.4)	5.2	(3.3)	—	45 普通	白	SK172	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
35	磁器	碗	8.2	4.3	2.7	—	60 良好	白	SK172	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
36	磁器	坏	(9.0)	3.6	(3.6)	—	20 良好	白	SK172	瀬戸美濃系 内面施釉	
37	磁器	蓋	3.8	2.8	9.2	—	50 良好	白	SK172	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
38	磁器	皿	19.3	2.7	11.3	—	60 良好	白	SK172	肥前系 内外面施釉 内面染付	
39	陶器	瓶	8.8	5.2	3.0	K	70 良好	灰白	SK172	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面鉄絵	
40	磁器	碗	縦3.0 横3.4 高さ[1.0]	—	—	—	5 普通	白	SK173	肥前系 内外面施釉 高台内染付 円盤状製品転用(底部)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
41	磁器	坏	6.3	2.1	2.6	—	95	良好	白	SK173	肥前系 内外面施釉	
42	陶器	瓶類	—	[4.7]	(8.0)	IK	5	普通	淡橙	SK173	内外面施釉 底部黒染 被熱(弱)	
43	陶器	灯明皿	(10.2)	2.4	(4.3)	IK	25	普通	灰	SK173	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位・底部軸拭き取り 内面重焼痕	
44	磁器	坏	5.9	2.6	2.6	—	90	普通	白	SK199	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤)	
45	陶器	急須	(7.6)	[5.7]	—	I	30	普通	灰赤	SK199	萬古系 胎土拓器質 体部下位隠刻施文 口縁・注口・把手端部鉄軸 外面絵付(緑)	
46	陶器	蓋	—	[3.2]	5.9	K	95	普通	灰白	SK199	胎土磁質 上面瑠璃軸 下面施釉・刻印「永楽」最大径8.0cm	76-8
47	陶器	水注	—	(12.6)	—	K	5	普通	灰白	SK199	内面施釉 外面瑠璃軸 接点のない3片から復元46の身	
48	土師質土器	炭伊	23.6	22.4	21.6	AEHU	90	普通	にぶい橙	SK199	三河産 板作り成形 外面ミガキ 扉付 窓部刻印 底部黒染 上面煤付着	76-9
49	土師質土器	目皿	(12.2)	2.2	(12.8)	CHK	50	普通	にぶい黄橙	SK199	下面砂目 上面被熱(白色化・剥落)	
50	瓦質土器	榎木鉢	(10.6)	6.6	6.1	AIK	55	普通	にぶい黄橙	SK199	底部糸切痕(左) 煤す	
51	土師質土器	焙烙	(36.6)	3.3	(37.4)	CHK	40	普通	橙	SK216	底部シワ状痕 内底面円周状のナデ・中央ランダムなナデ	
52	瓦質土器	甕罎	(29.6)	2.7	(30.2)	OK	15	普通	灰	SK216	煤す 前面に酸化鉄付着	
53	磁器	皿	—	[4.5]	19.4	—	70	良好	白	SK224	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡5あり	
54	陶器	榎木鉢	(13.0)	[8.4]	—	IK	10	普通	灰	SK224	内面上位・外面鉄軸	
55	陶器	甕	(16.8)	[2.6]	—	EI	5	普通	にぶい橙	SK224	内外面鉄軸 被熱(強)	
56	磁器	坏	6.8	5.4	3.5	—	75	良好	白	SK225	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
57	磁器	香伊	—	[3.3]	—	—	5	良好	白	SK225	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 体部粘土貼付 口縁部敲打痕	
58	陶器	甗	—	[5.6]	(4.0)	IK	30	普通	灰白	SK225	瀬戸美濃系 内外面灰軸・上位鉄軸流し掛け	
59	陶器	灯明皿	(10.5)	1.9	3.6	EI	35	普通	淡黄	SK225	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 体部下位・底部軸拭き取り 体部下位輪状重焼痕(径4.8cm) 内面目跡2遺存	
60	陶器	榎木鉢	(12.2)	[6.8]	—	EIK	10	普通	灰白	SK225	瀬戸美濃系 内外面鉄軸	
61	土師質土器	焙烙	(32.6)	[5.5]	—	AHK	15	良好	にぶい橙	SK225	江戸在地区 底部シワ状痕 胎土粉質 体部下位・底部煤付着	
62	陶器	皿	(14.5)	4.4	9.3	—	45	普通	白	SK226	肥前系 内外面施釉・染付 焼縁痕あり 高台内焼縁印(赤)2あり 被熱(弱)	
63	磁器	蓮華	長さ13.1 幅6.0 高さ4.6	—	—	—	100	良好	灰白	SK226	淡路平床型 成形 内面隠刻文 内外面鉄軸 下面ピン痕3あり	
64	陶器	甕	—	[10.9]	—	EHIK	5	普通	にぶい赤黄	SK226	常滑系 外面スタンプ状施文・塗土 内面・口唇部刷毛塗状塗土	
65	磁器	坏	(6.2)	3.0	2.6	—	60	普通	白	SK228	瀬戸美濃系 内外面施釉	
66	磁器	皿	(18.8)	3.2	(11.2)	—	20	普通	白	SK228	肥前系 内外面施釉・染付	
67	陶器	甕	31.1	30.3	17.2	EIK	80	普通	にぶい橙	SK228	高台内ハリ支跡1遺存 益子・笠間系 内外面鉄軸 外面上位黒軸流し掛け 内面目跡5あり	
68	磁器	蓋	5.6	3.2	9.6	—	80	普通	白	SK233	肥前系 内外面施釉・染付 焼縁痕あり 高台内焼縁印(赤)2あり	
69	陶器	水漬	—	[5.8]	—	—	15	良好	白	SK235	肥前系 型成形 底部有目痕 外面施釉・上絵付(赤・緑)	
70	瓦質土器	榎木鉢	13.2	7.2	8.6	CIK	90	普通	黄灰	SK237	底部糸切痕ナゲ消し 煤す	
71	磁器	坏	7.0	4.9	3.0	—	85	普通	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
72	磁器	坏	(7.4)	5.0	(3.2)	—	20	普通	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
73	磁器	坏	(7.0)	5.1	3.4	—	50	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
74	磁器	坏	6.7	5.3	3.2	—	70	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
75	磁器	坏	6.6	2.2	1.9	—	50	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コハルト染付	
76	陶器	土瓶	7.6	7.3	6.6	—	80	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼縁痕あり 底部焼縁印(赤)・墨書	
77	陶器	德利	—	[12.5]	7.3	K	90	普通	灰白	SK255	瀬戸美濃系 外面鉄軸・緑軸流し掛け 被熱	
78	磁器	碗	(8.4)	4.3	2.8	—	40	良好	白	SK263	肥前系 内外面施釉・染付 焼縁痕あり 高台内焼縁印(透明)	
79	磁器	碗	(12.0)	4.5	—	—	10	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 高台内焼縁印(赤)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使用	色調	遺構	備考	図版
80	磁器	坏	—	[1.5]	2.4	—	45	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上位上給付(青)「旅人宿/住吉十番地/荒井口」	
81	磁器	坏	(5.9)	2.6	2.2	—	65	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上位上給付(青)「く利権/稲荷屋」	
82	磁器	鉢	(13.8)	[2.9]	—	—	10	普通	白	SK263	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり	
83	磁器	土瓶	—	[2.7]	(6.0)	—	10	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・墨書	
84	磁器	蓋	—	2.2	(6.6)	—	25	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 内面焼継印(赤)	
85	磁器	蓮華	長 [8.4] 幅 [4.1] 高さ [4.7]			—	50	普通	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
86	陶器	碗	8.5	6.3	4.0	K	85	普通	灰白	SK263	大塚相馬系 内面灰釉 内面上位青緑釉直し掛け 外面青緑釉 被熱	70-3
87	陶器	鉢	12.5	5.4	7.1	DEI	80	普通	灰赤	SK263	備前系 底部糸切痕(右) 胎土拓器質 内外面塗土 SK226と接合	70-4
88	陶器	徳利	1.7	[3.9]	—	K	15	良好	灰白	SK263	内外面上位鉄軸(黒)・下位柿軸	
89	陶器	體徳利	—	[0.9]	(7.2)	IK	5	普通	灰黄	SK263	内外面灰釉 底部墨書	
90	陶器	蓋	—	3.1	6.3	K	60	普通	灰白	SK263	上面白化粧・施釉・鉄軸・緑釉彩・ビン痕2遺存 最大径8.5cm	
91	陶器	蓋	—	[0.7]	2.1	K	95	良好	にぶい黄橙	SK263	底部離し糸切痕をナゲ消し 胎土拓器質 上面火牌 最大径4.5cm	
92	陶器	甕	(39.8)	[18.8]	—	EI	20	良好	灰赤	SK263	常滑系 外面塗土(鉄泥)・上位スタンブ施文 内面塗土刷毛塗状・指頭痕 外面上位白色物質付着	
93	瓦質土器	植木鉢	(10.2)	6.7	6.4	AIK	60	普通	灰白	SK263	底部糸切痕(左) 横す 胎土小硬含む・一部灰色	
94	磁器	碗	—	[6.4]	4.1	—	60	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉 外面染付	
95	磁器	碗	7.8	5.5	3.4	—	95	良好	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
96	磁器	碗	(11.2)	6.4	(6.8)	—	35	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
97	磁器	碗	(9.2)	4.5	3.6	—	35	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
98	磁器	碗	7.6	4.0	3.0	—	80	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
99	磁器	皿	(14.1)	4.8	(9.2)	—	40	良好	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
100	磁器	皿	9.8	2.1	6.2	—	75	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
101	磁器	蓋	5.7	3.0	10.0	—	70	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
102	磁器	猪口	—	[6.0]	5.1	—	30	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉 外面染付	
103	陶器	灯明皿	9.9	1.9	4.0	K	95	良好	灰白	SK276	瀬戸美濃系 底部糸切痕着于遺存 内外面柿軸 体部下位・底部軸抜き取り 内面重焼痕	
104	陶器	灯明皿	7.7	1.7	4.4	IK	100	良好	灰	SK276	瀬戸美濃系 内外面柿軸 体部下位・底部軸抜き取り	
105	陶器	香炉	9.0	7.7	8.8	EIK	75	良好	灰白	SK276	瀬戸美濃系 内面上位・外面施釉 口縁部白・鉄・指環輪流し掛け	
106	陶器	香炉	9.4	5.2	6.9	DEIK	70	良好	灰黄	SK276	瀬戸美濃系 外面鉄軸 鍋文 口縁部敲打痕 底部墨書	
107	陶器	花生	(7.8)	13.0	6.5	IK	75	良好	にぶい橙	SK276	瀬戸美濃系 底部糸切痕をナゲ消し 内外面呂色釉	
108	土師質土器	器台	(13.6)	[4.4]	(8.6)	AHIK	15	普通	にぶい橙	SK276	内面被熱(白色化)	
109	土師質土器	焙烙	(32.4)	[6.0]	(33.6)	CHIK	20	普通	浅黄橙	SK276	底部シウ状痕 底部・内面煤付着	
110	瓦質土器	焙烙	(37.2)	5.2	(34.0)	CIK	20	普通	灰白	SK276	砂目砂・圧痕 横す 底部周縁部煤付着	
111	磁器	坏	6.0	3.0	2.8	—	55	良好	白	SK285	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付	
112	磁器	皿	(25.0)	3.7	(15.2)	—	30	普通	白	SK285	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支脚1遺存 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)被熱	
113	陶器	坏	6.0	3.7	2.9	IK	100	良好	灰白	SK285	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須散る	
114	陶器	灯明皿	10.0	2.0	4.1	IK	55	良好	淡黄	SK285	瀬戸美濃系 内外面柿軸 体部下位・底部軸抜き取り 体部中位輪状重焼痕(径6.9cm)	
115	陶器	植木鉢	—	[17.1]	17.8	HI	40	良好	灰白	SK285	瀬戸美濃系 内面・高台内柿軸 外面緑釉流し掛け 内面・根付軸抜き取り 内底面・高台目跡各6ずつ 高台挟り4箇所	
116	磁器	猪口	(6.9)	[4.1]	—	—	10	良好	白	SK304	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 口紅	
117	土師質土器	焼塩壺	—	[3.0]	3.2	ACHIK	30	普通	橙	SK304	底部糸切痕(左)・摩耗 胎土粉質	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
118	土師質土器	焙烙	(31.0)	[6.4]	(32.2)	CHK	45	普通	浅黄	SK304	砂目底 内底面同心円状のナゲ	体部煤付着
119	磁器	蓋	—	[4.0]	(13.8)	—	25	良好	白	SK305	肥前系 内外面施釉 外面染付 燒痕あり 最大径 (15.5) cm	
120	陶器	德利	—	[9.2]	6.1	EIK	65	良好	淡黄	SK306	瀬戸美濃系 外面灰釉	
121	瓦質土器	蓋	—	[3.0]	(23.4)	CHK	20	普通	にぶい橙	SK312	外面ミガキ・トビガンナ状施文をナゲ消し 燒す	
122	磁器	坏	6.2	3.2	2.2	—	70	普通	白	SK325	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上位に染付(青)	

がみられないため、ミニチュアとして扱った。底部は左回転の糸切痕で、外面下位に白化粧、外面上位から内面にかけて透明釉が施軸される。

11は小判を模した土製のミニチュアである。一枚型成形で下面は開口し、表面中央に陽刻文「大吉」がみえる。縁起物の一種であろうか。

第316図5は転用瓦である。素材となった器種は不詳で、無数の線条痕がみえる。砥石上の形状からも研具としての利用が示唆される。

第320図32は獅子頭である。第8地点では出土量が目立つ。「四文」と思われる墨書がみえる。値段を示すものであろうか。

第321図20は銅製の火箸である。持ち方に小槌文が施文される。21は銅製煙管で、内部に木質の羅字が遺存する。22は鉄製の錠前である。遺存状態は不良だが、回転錠型と推定される。

第324図21は滑石と思われる白色の石筆、22は粘板岩製硯である。砥具に転用されている。

第325図2は硝子製筭である。黄色透明で、中実である。

#### 第276号土壙 (第298・310・311図)

F7-F8グリッドに位置する。第1号建物跡より古く、第5号溝跡と重複する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸2.7m、短軸1.35m、深さ0.55mを測る。長軸方位はN-21°-Wを指す。

一部攪乱を受けているが遺物の混在はない。下層は粘土質の木質主体層で、その上を炭化物を含む砂質土が覆っている。

出土遺物は多く、陶磁器が主体である。図示しなかったが他に瓦6962.8gと木製品1点が出土している。磁器は肥前系のみで、最新期の陶磁器

は瀬戸美濃系陶器の筒形香炉 (第311図105) と植木鉢である。推定廃絶期は18世紀末～19世紀初頭頃である。

第310図94～101・第311図に陶磁器類を図示した。第310図94は肥前系磁器の筒形碗である。長筒形を呈しする筒形碗の出土は栗橋宿では稀である。96は肥前系磁器の広東碗、101は広東碗の蓋である。

第311図103・104は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。103は油皿で、底部のケズリが甘く、糸切痕が若干遺存する。体部下位から底部にかけて釉が拭き取られ、内面には重ね焼き痕がみられる。104は小型の油受皿で、受け口の切込みは「U」字状を呈する。体部下位から底部にかけて釉が拭き取られる。

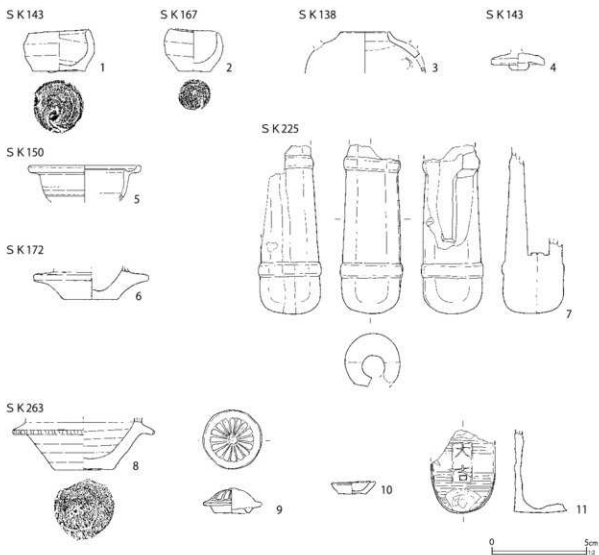
105は瀬戸美濃系陶器の筒形香炉である。胎土は石英質で光沢がある。外面上位に鉄釉、白釉、淡い瑠璃釉が流し掛けられている。

108は土師質土器の器台である。焔炉類の部品もしくはオプションであり、風口や焔炉と組み合わせて使用される。

109は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残し、底部の丸みは強く、器高が高い。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と考えられる。

110は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整の砂目底で、段状の圧痕が遺存する。外面下位はナゲ調整で、指頭状の凹みがみられる。口縁端部は角形で、内耳は逆「L」字状につく。

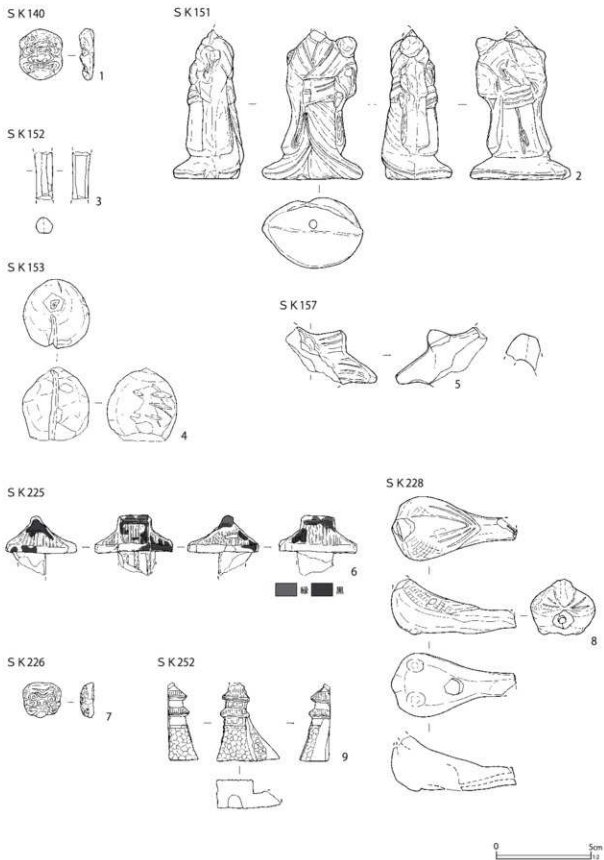
以上に取り上げた土壙の他にも特徴的な遺物が出土しており、以下に記述する。



第314図 区画AF土壇出土遺物(15)

第73表 区画AF土壇出土遺物観察表(2)(第314図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	3.1	2.2	2.8	14.2	AH1K	普通	にぶい橙	SK143	底部糸切痕(左)	121-14
2	土師質土器	小壺	2.5	2.2	1.6	10.6	AH1K	普通	にぶい橙	SK167	底部糸切痕(左) 胎土粉質 内面煤付着	121-14
3	土製品	ミニチュア	(2.4)	[2.2]	—	3.6	AH1K	普通	橙	SK138	江戸在地系 土瓶 型成形 内面上位白化粧 外面白土・筋軸・緑色給付	
4	土製品	ミニチュア	—	0.9	—	5.5	AH1K	普通	にぶい橙	SK143	江戸在地系 蓋 上面白化粧 黄色軸	118-13
5	陶器	ミニチュア	(5.7)	[1.9]	—	3.3	K	良好	灰白	SK150	鍋 内外面鉄軸	
6	土製品	ミニチュア	6.0	[1.8]	2.8	31.4	AH1K	普通	にぶい橙	SK172	江戸在地系 羽釜 胎土粉質 底部摩耗	
7	土製品	ミニチュア	[8.9]	3.3	1.1	78.7	AH1K	良好	橙	SK225	江戸在地系 胎土粉質 二枚型成形 中空 雲母付着 胎土中心還元焙焼成(灰白)	119-12
8	土製品	ミニチュア	—	[2.8]	3.2	24.8	IK	普通	橙	SK263	江戸在地系 釜形土製品 底部糸切痕(左) 外面下位白化粧 胎土粉質 外面黄色・緑軸	120-13
9	土製品	ミニチュア	—	1.3	1.7	8.0	AIK	良好	浅黄橙	SK263	京都系 蓋 型成形 上面黄色・緑軸	120-10
10	土製品	ミニチュア	2.3	0.7	1.4	2.1	IK	普通	にぶい橙	SK263	胎土粉質	120-11
11	土製品	ミニチュア	[4.4]	3.4	0.5	12.9	AIK	良好	暗灰黄	SK263	小判 一枚型成形 開口	120-12



第 315 图 区画 AF 土坑出土遗物 (16)

第74表 区画AF土城出土遺物観察表(3)(第315図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	芥子面	2.7	2.3	0.8	3.9	AK	良好	橙	SK140	江戸在地系 一枚型成形	122-13
2	土製品	人形	[8.0]	5.3	3.7	58.7	AEI	良好	浅黄橙	SK151	京都系 前後合二枚型成形 中実 彩色(青) わずかに遺存 被熱	118-14
3	土製品	箱庭道具	[2.5]	1.0	0.8	2.5	K	良好	橙	SK152	江戸在地系 二枚型成形 灯籠 中実 麻軸	
4	土製品	不明	3.9	3.5	3.7	42.1	ACIK	良好	黄灰	SK153	瓦質 手振り型成 刃物傷多数	118-15
5	土製品	人形	[4.8]	[2.9]	1.9	11.1	AMK	良好	橙	SK157	江戸在地系 魚 左右合二枚型成形 中空	
6	土製品	箱庭道具	[3.2]	4.1	3.8	21.9	AIK	良好	橙	SK225	江戸在地系 桐 屋根別造り 型成形 白化粧 麻軸 緑軸 彩色(黒)	119-11
7	土製品	芥子面	1.8	2.1	0.7	2.2	AK	良好	橙	SK226	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-13
8	土製品	埴苗	6.6	3.4	[2.9]	24.3	AIK	良好	橙	SK228	江戸在地系 上下合二枚型成形 中空 軸 わずかに遺存	119-13
9	陶器	箱庭道具	4.1	3.4	1.5	12.3	I	良好	黒褐	SK252	型成形 胎土拓器質 城郭	119-20

第300図2は産地不詳陶器で、坏台の可能性が疑われる。板作り成形で、外面は型押し陽刻文が施文され、平面形は六角形を呈する。赤漆が塗布されており、所謂「陶胎蒔絵」、「陶漆器」、「漆陶器」等と呼ばれる陶器と考えられる。代表的なものでは、江戸時代後期に軟質陶器を焼いた名古屋の「豊楽焼」や「慶楽焼」等がある(矢部ほか2002)。

第302図9は清朝徳化窯系磁器の端反形碗である。型成形で、外面に青色の上絵付が施される。清朝磁器の出土は栗橋宿では少ないが、徳化窯系磁器は19世紀第3四半期頃に多い傾向にある。

14は瀬戸美濃系陶器の二合平灰釉徳利である。所謂「貧乏徳利」で、江戸遺跡では極めて多量に出土するのに対し、栗橋宿での出土量はかなり少ない。江戸と地方の宿場における通い徳利文化の違いを示唆する資料である。

15は産地不詳陶器の蒸し器で、栗橋宿では稀である。灰軸が施軸され、外面は鉄絵である。把手は紐状で、削り込み高台である。対応する蓋はみられない。

第306図59は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。鉄軸が施軸され、外面下位から底部にかけて軸が拭き取られている。外面下位に輪状重ね焼き痕、内面には目跡が2箇所遺存する。

第307図63は兵庫県淡路島で焼かれた淡路珉平焼の蓮華である。型成形で、内底面に陰刻龍文

が施文される。底部には窯道具痕が3箇所みられ、全面に緑軸が施軸される。

第308図67は益子・笠間系陶器の甕である。鉄軸が施軸され、外面上位にはさらに黒軸が流し掛けられている。胎土は粗粒で硬質である。内面に目跡が5箇所みられる。

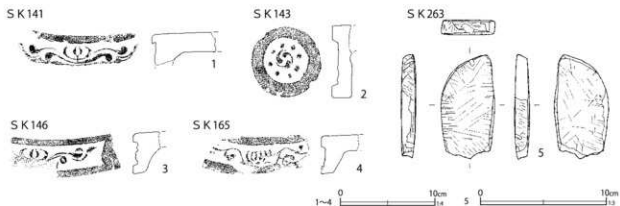
71～74は瀬戸美濃系磁器の坏である。木型打ち込み成形で、内面に陰刻文がみられる。2種類の作りがみられ、71・72は内面の陰刻文が深く、はっきりしており、貫入が顕著にみられる。また、色調がくすんでおり、質の悪い印象である。73・74は一般的な作りで、浅い陰刻文で貫入が認められない。色調は白色で良質な印象である。

第313図115は瀬戸美濃系陶器の植木鉢である。外面は陰刻の流水文に緑軸が厚く流し掛けられている。内面と高台内には柿軸が施軸され、内面と壺付けの軸は拭き取られている。高台に4箇所、内底面と高台に各6箇所ずつ目跡が遺存する。

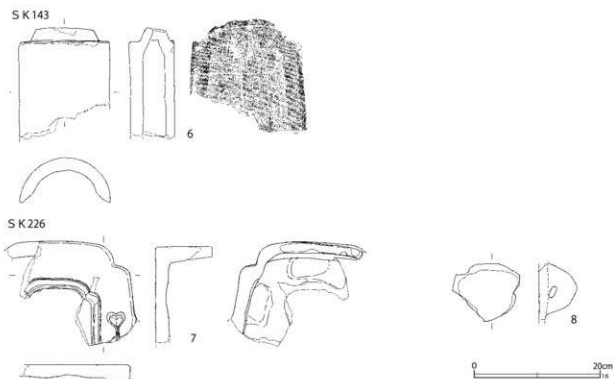
第314図1・2は京都系「つぼつぼ」に類似する土師質土器の小壺である。底部は左回転の糸切痕である。1・2の胎質は異なり、2は粉質である。7は江戸在地系のミニチュアと思われるが、モチーフは不明である。中空の二枚型成形で、胎土中心部は還元焼成である。胎土は粉質で、細粒な雲母を含む。

第315図2は京都系人形である。中実の前後





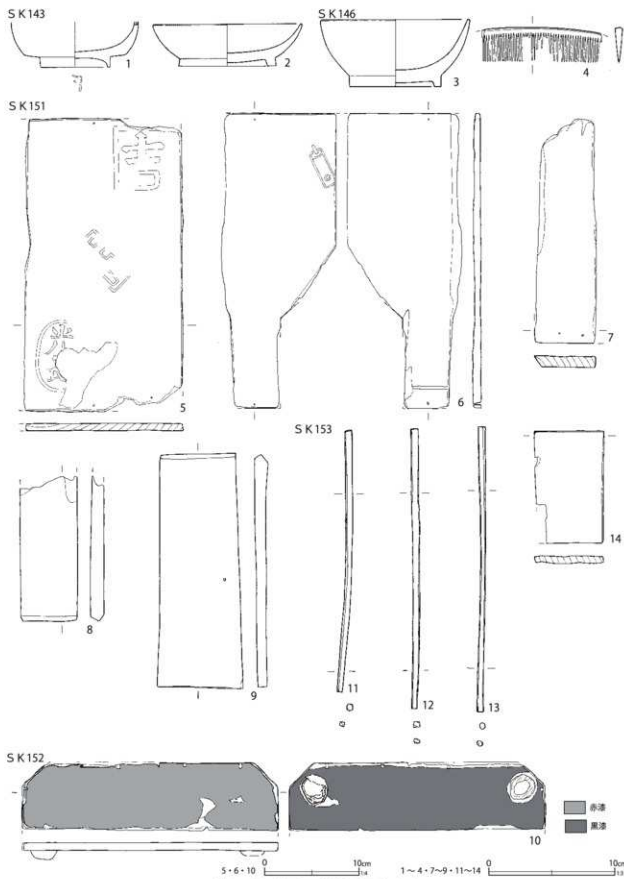
第316図 区画AF土壌出土遺物(17)



第317図 区画AF土壌出土遺物(18)

第75表 区画AF土壌出土遺物観察表(4)(第316・317図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[6.8]	13.2	2.1	4.2	—	A1K	良好	灰白	SK141	弱く銀化 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	[2.6]	[8.0]	2.1	—	7.4	A1K	良好	灰白	SK143	左巻八連珠三巴文 銀化 燻す	
3	瓦	軒棧瓦	[3.5]	[12.1]	2.3	[5.8]	—	A1K	良好	灰白	SK146	江戸式 銀化 燻す	
4	瓦	軒棧瓦	[4.4]	[11.7]	2.1	[4.6]	—	AH1K	普通	灰白	SK165	燻す 摩耗	
5	瓦	転用瓦	7.4	4.3	1.2	—	—	CIK	普通	灰白	SK263	磁具転用 線条痕あり 砥面5遺存	124-11
6	瓦	丸瓦	[17.9]	14.6	2.1	7.1	—	AK	普通	灰白	SK143	燻す 胎土中心部灰色	
7	瓦	鬼瓦	[16.6]	[20.8]	2.3	[9.1]	—	A1K	良好	灰白	SK226	銀化 燻す	124-2
8	瓦	鬼瓦	9.2	10.6	6.1	—	—	CIK	普通	灰白	SK226	弱く銀化 燻す	124-3



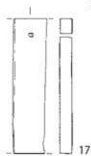
第 318 图 区画 AF 土壙出土遗物 (19)

SK165

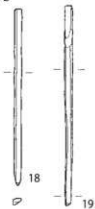


16

SK172



17

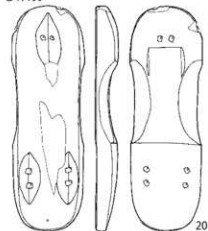


18



19

SK199



20

SK213



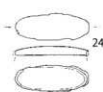
21

SK224

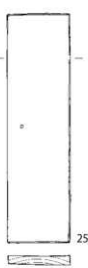


22

SK237



24

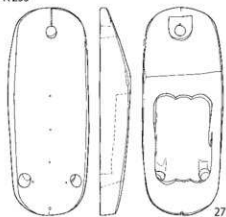


25

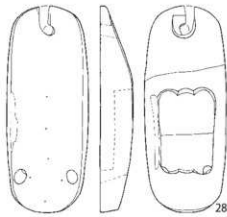


26

SK255



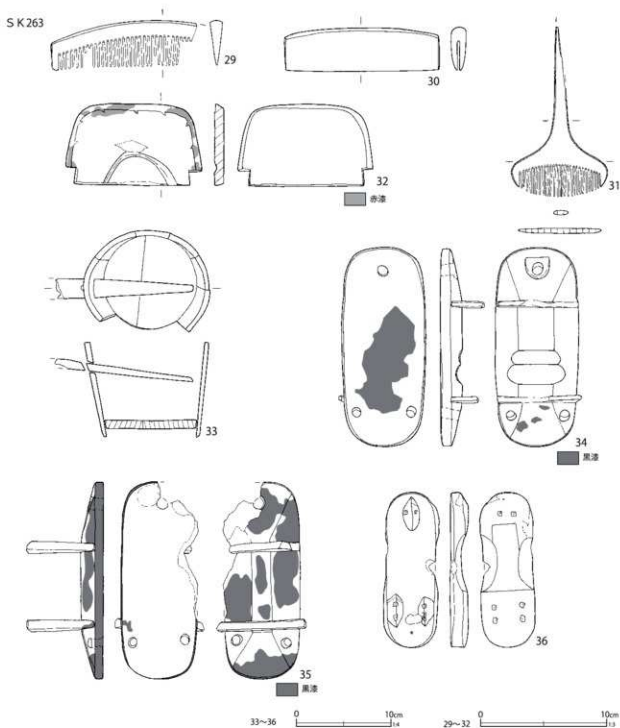
27



28

20-27-28 0 10cm 14 15-19-21-26 0 10cm 13

第319图 区画AF土坑出土遗物(20)



第320図 区画AF土壙出土遺物(21)

合わせ二枚型成形で、子供を背負う女性を模している。青い彩色がわずかに遺存する。

6は江戸在地系の箱庭道具である。祠を模しており、屋根は別作りである。透明釉が施釉され、白土、緑釉、黒色の彩色がみられる。

9は箱庭道具で、城郭を模している。胎土は備

前系や萬古系に類似した炆器質である。

第316図1・3は軒棧瓦である。江戸式に類似しており、中心弁は四枚である。

2は軒棧瓦である。左巻きの八連珠三巴文で、巴文が小さい。燻しによる銀化の光沢がみられる。

第318図9は木札である。表面に墨書「武州

第76表 区画AF土壌出土遺物観察表(5)(第318～320図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶	—	—	—	[3.6]	5.5	—	横木取り	SK143	内外面黒漆 高台内に金で「㊦」塗み有	
2	木製品	漆桶	—	—	—	11.6	3.3	7.7	横木取り	SK143	内面赤漆 外面黒漆	128-13
3	木製品	漆桶	—	—	—	11.6	5.3	7.3	横木取り	SK146	内面赤漆 外面黒漆	128-14
4	木製品	櫛	[9.4]	2.7	0.6	—	—	—	板目	SK146		
5	木製品	板	31.0	[16.7]	0.8	—	—	—	板目	SK151	表面墨書落書きか 焼印「㊦」(㊦)	145-8
6	木製品	不明品	31.2	[12.1]	0.9	—	—	—	板目	SK151	焼印	145-12
7	木製品	木札	17.7	4.8	0.9	—	—	—	板目	SK151	表裏面墨書	145-9
8	木製品	木札	[11.4]	4.5	1.1	—	—	—	板目	SK151	表面墨書 樽の側板転用	145-10
9	木製品	木札	18.6	6.8	1.1	—	—	—	板目	SK151	表面墨書 樽の側板転用	145-11
10	木製品	膳	[7.2]	27.0	—	—	1.7	—	板目	SK152	胡桃足膳 表赤漆 裏黒漆 外周木釘欠	
11	木製品	箸	20.6	0.5	0.6	—	—	—	削出し	SK153		
12	木製品	箸	22.1	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK153		
13	木製品	箸	22.5	0.5	0.6	—	—	—	削出し	SK153		
14	木製品	木札	8.8	5.5	0.6	—	—	—	板目	SK153	表面墨書「金一両」	145-16
15	木製品	曲物	—	—	—	6.3	0.9	—	板目	SK165	底板中央に孔	
16	木製品	櫛	[10.7]	3.3	0.9	—	—	—	板目	SK165		
17	木製品	木札	10.6	[2.6]	1.0	—	—	—	板目	SK165	表裏面墨書 孔1	145-18
18	木製品	箸	13.9	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK172	先端炭化	
19	木製品	箸	15.7	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK172	先端炭化	
20	木製品	下駄	23.8	6.8	—	—	2.4	—	板目	SK199	無眼下駄	
21	木製品	木札	18.0	4.9	1.1	—	—	—	板目	SK213	表面墨書 樽の側板の転用	146-6
22	木製品	木札	19.0	4.2	0.4	—	—	—	板目	SK224	表裏面墨書	146-11
23	木製品	木札	[8.1]	3.8	0.3	—	—	—	板目	SK224	表裏面墨書	146-12
24	木製品	蓋	[2.1]	(6.0)	—	[0.7]	—	—	不明	SK237	内外面赤漆 側板接着の痕跡	129-12
25	木製品	木札	18.0	5.0	0.8	—	—	—	板目	SK237	表裏面墨書 孔1	146-15
26	木製品	木札	17.8	4.6	1.2	—	—	—	板目	SK237	表面墨書 樽の側板転用 孔1	146-16
27	木製品	下駄	21.8	8.5	—	—	3.3	—	板目	SK255	刺り下駄 墨書「波」28と対	147-15
28	木製品	下駄	21.7	8.7	—	—	3.5	—	板目	SK255	刺り下駄 墨書「波」27と対	147-15
29	木製品	櫛	3.9	[11.5]	1.0	—	—	—	板目	SK263	赤漆	
30	木製品	櫛の鞘	12.2	3.4	1.2	—	—	—	板目	SK263		
31	木製品	櫛	7.6	[13.4]	0.4	—	—	—	板目	SK263		130-4
32	木製品	獅子頭	6.3	10.7	0.7	—	—	—	板目	SK263	表面赤漆 側面も赤漆残存 墨書	147-14
33	木製品	橋杓	[16.4]	[10.7]	—	—	10.1	—	板目	SK263	柄に穴がある	
34	木製品	下駄	21.0	8.8	—	—	4.6	—	板目	SK263	陰卯下駄 黒漆	
35	木製品	下駄	20.7	(8.0)	—	—	8.2	—	台板目 歯板目	SK263	陰卯下駄 全面黒漆	
36	木製品	下駄	16.4	5.7	—	—	1.8	—	板目	SK263	無眼下駄	

幸手口 / [栗] 橋 [町] / ㊦ / 舟方殿」がみえる。「栗橋町」は明治二十二年(1889)以降の栗橋宿の名称である。

第319図22は木札である。墨書「栗橋仲町」、「下口惣右衛門」がみえる。「惣右衛門」は本区画の『絵図』にみえる「旅籠屋 / 惣右衛門」を指す。

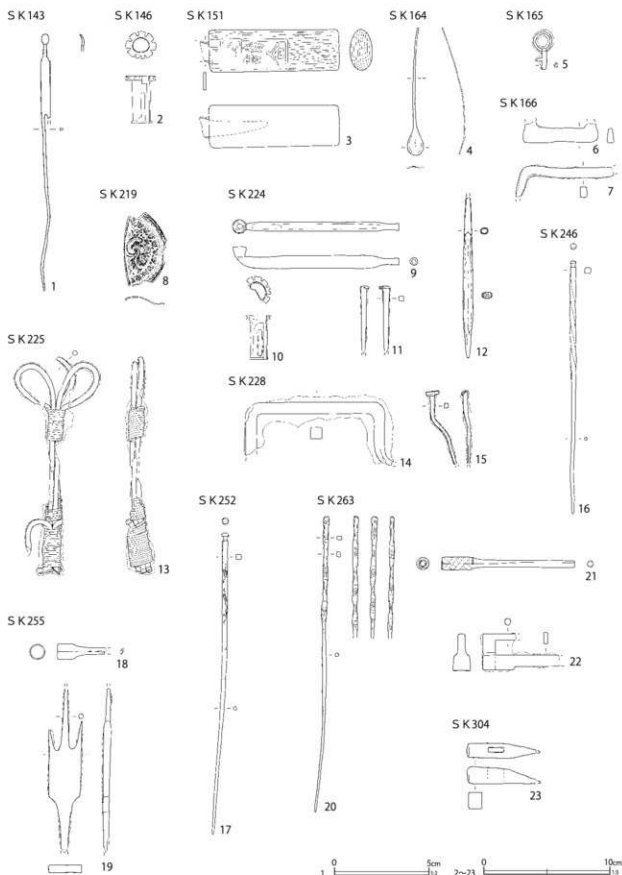
23は木札で、墨書「栗橋 / 柿沼豊 [ ]」がみえる。柿沼姓は「旅籠屋 / 惣右衛門」を指すが、『営業便覧』の時期には「柿沼清九郎」となっており、

「豊」の字はみえない。

第321図9は銅製の煙管である。雁首から吸口まで一体となって作られており、栗橋宿では稀な作りである。19は鉄製の三叉鉋である。

第322図6は銅製の文久永寶である。初鋳年は1863年である。

8は銅製煙管の火皿をつぶして作られた所謂雁首銭である。緒に混ぜたり、緒縄の固定に用いられたものとも言われている(江戸遺跡研究会



第321图 区画AF土壙出土遗物(22)

第77表 区画AF土壌出土遺物観察表(6)(第321図)

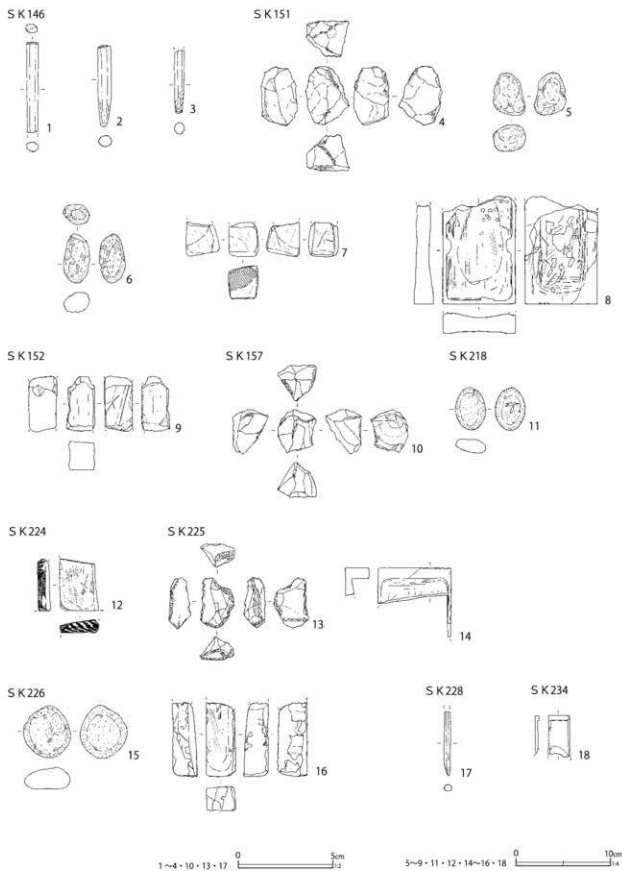
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	簪	長さ13.6 幅0.2 厚さ0.2 重さ2.9	SK143		
2	銅製品	不明	径2.4×2.2 高さ3.8 厚さ0.1 重さ9.4	SK146		
3	鉄製品	包丁	長さ[11.1] 幅1.4 厚さ0.2 重さ26.1	SK151	木柄付「金請合」桃印	
4	銅製品	匙	長さ10.1 幅1.3 厚さ0.05 重さ1.1	SK164		
5	鉄製品	鍵	長さ3.0 重さ2.3	SK165		
6	鉄製品	火打金	長さ[1.6] 幅6.0 厚さ0.5 重さ14.0	SK166		
7	鉄製品	錠	長さ[7.8] 幅0.8 厚さ0.5 重さ17.1	SK166		
8	銅製品	飾金具	縦[5.9] 横[3.4] 厚さ0.1 重さ16.0	SK219	唐草文	
9	銅製品	煙管	長さ13.2 火皿径1.1 口付径0.6 重さ23.2	SK224		
10	銅製品	不明	径2.4 高さ3.5 厚さ0.1 重さ6.1	SK224		
11	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.5	SK224		
12	銅製品	不明	全長[12.8] 長さ[2.9] 幅0.6 厚さ0.03 重さ3.8	SK224	木柄付 キャップ状	
13	鉄製品	不明	縦[17.2] 横6.7 厚さ0.4 重さ83.7	SK225	3本の鉄線の端部を輪にして合わせ針金を巻いて固定	
14	鉄製品	錠	長さ[11.8] 幅0.9 厚さ0.9 重さ116.6	SK228		
15	鉄製品	釘	長さ[5.8] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.1	SK228		
16	銅製品	火箸	長さ20.1 幅0.5 厚さ0.5 重さ17.5	SK246	箸頭宝珠形 持ち代握り	
17	銅製品	火箸	長さ23.9 幅0.4 厚さ0.4 重さ21.4	SK252	箸頭宝珠形 持ち代方形 波状文	
18	銅製品	煙管	長さ[3.9] 小口径1.2 重さ5.0	SK255	吸口 口付欠失	
19	鉄製品	鉢	長さ[13.0] 幅2.6 厚さ0.6 重さ48.6	SK255	三叉結	
20	銅製品	火箸	長さ23.5 幅0.4 厚さ0.3 重さ14.3	SK263	持ち方に小楕文	
21	銅製品	煙管	長さ10.5 小口径1.0 口付径0.5 重さ13.7	SK263	吸口 内部に羅字残存	
22	鉄製品	錠前	縦2.9 横[6.1] 幅1.4 重さ28.4	SK263		
23	鉄製品	金鎖	頭長[5.6] 頭幅1.3 重さ30.0	SK304		



第322図 区画AF土壌出土遺物(23)

第78表 区画AF土壌出土遺物観察表(7)(第322図)

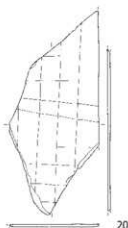
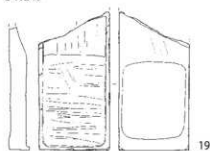
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	銭貨	径28.5 厚さ1.4 重さ5.0	SK151	寛永通寶(新) 11波	
2	銅製品	銭貨	径22.3 厚さ1.1 重さ1.8	SK151	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径25.4 厚さ1.2 重さ3.0	SK152	寛永通寶(古)	
4	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ0.9 重さ2.0	SK152	寛永通寶(新)	
5	銅製品	銭貨	径24.8 厚さ1.2 重さ2.2	SK216	寛永通寶(新)	
6	銅製品	銭貨	径27.0 厚さ1.0 重さ3.3	SK228	文久永寶	
7	銅製品	銭貨	径25.4 厚さ1.5 重さ3.1	SK233	寛永通寶(新)	
8	銅製品	雁首銭	径17.1×16.5 厚さ1.2 重さ0.6	SK246		



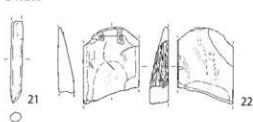
第 323 图 区画 AF 土壤出土遗物 (24)



SK246



SK263



第324図 区画AF土壌出土遺物(25)

第79表 区画AF土壌出土遺物観察表(8)(第323・324図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	石筆	[4.8]	0.6	0.5	3.2	滑石(灰)	SK146	下部切断痕	
2	石製品	石筆	4.3	0.7	0.6	3.2	滑石(白)	SK146	下部部使用	
3	石製品	石筆	[3.3]	0.5	0.6	1.9	滑石(白)	SK146	下部部使用・刃物傷	
4	石製品	火打石	3.1	2.3	1.9	15.7	石英	SK151	量の潰れ著しい	
5	石製品	磨石	4.5	3.4	2.9	17.0	角閃石安山岩	SK151	多孔質 自然面遺存 使用面1	
6	石製品	磨石	5.2	2.8	2.1	18.9	角閃石安山岩	SK151	多孔質 自然面遺存 使用面2	
7	石製品	砥石	[3.6]	3.1	3.5	58.5	流紋岩	SK151	側面ノコギリ痕 裏面刃物痕 砥面5	
8	石製品	硯	[11.5]	7.7	—	366.6	粘板岩	SK151	器高[2.1]cm 刃物痕多数 裏面凹みを二次作出	141-2
9	石製品	砥石	[5.8]	[3.0]	[3.0]	83.1	流紋岩	SK152	側面幅広工具痕・刃物傷 砥面2	
10	石製品	火打石	2.3	2.0	1.9	7.9	玉髓	SK157	稜の潰れ著しい 主要剥離面・打面遺存	
11	石製品	磨石	4.5	3.2	1.5	9.4	角閃石安山岩	SK218	多孔質 自然面遺存 使用面1(一部)	
12	石製品	砥石	[5.5]	[4.1]	1.3	46.7	粘板岩	SK224	側面ノコギリ痕 砥面1遺存 刃物痕あり	
13	石製品	火打石	2.7	1.8	1.1	5.3	玉髓	SK225	稜の潰れ著しい	
14	石製品	硯	[7.3]	7.7	—	83.8	粘板岩	SK225	器高2.5cm 全面黒色塗布物 SK263と接合	
15	石製品	磨石	5.6	5.1	2.3	28.3	角閃石安山岩	SK226	多孔質 自然面遺存 使用面1	
16	石製品	砥石	[7.9]	3.1	2.6	94.8	流紋岩	SK226	側・裏面幅広工具痕 砥面3遺存 被熱(剥落)	
17	石製品	石筆	3.4	0.35	0.3	0.7	滑石(灰色)	SK228	下部部使用	
18	石製品	硯	[4.4]	2.3	—	7.6	粘板岩	SK234	器高0.4cm 側面ノコギリ痕か 内面朱墨付着	
19	石製品	硯	[14.7]	7.5	—	330.5	凝灰岩(中粒)	SK246	器高2.2cm 内面刃物痕多数	141-2
20	石製品	石板	[21.6]	[9.5]	0.25	82.3	粘板岩	SK246	側面工具痕 縦線あり	
21	石製品	石筆	[4.3]	0.6	0.5	2.3	滑石(白色)	SK263	下部部使用	
22	石製品	硯	[8.1]	5.9	—	143.2	粘板岩	SK263	器高[2.0]cm 黒色塗布物付着 砥具転用 表面削痕あり 刃物傷多数	

2001)。

第323図8は粘板岩製の硯である。刃物傷が多数みられ、二次利用が示唆される。裏面は凹面を二次的に作出している。

10は玉髓製の火打石である。使用痕はみられるが、それほど使い込まれていない状態で廃棄さ

れている。打ち割り痕が明瞭で、厚手の剥片を利用している。

12は粘板岩製の砥石である。側面に濃密なノコギリ状工具痕が遺存する。16は白色の流紋岩製砥石である。側面、裏面には刃幅の広い工具痕がみられる。被熱により著しく剥落している。